平成２５年

消　防　年　報

滝川地区広域消防事務組合

消防広域化について

滝川地区広域消防事務組合は、国と地方における財政の危機的状況の一層の深刻化、少子高齢化の急速な進展等消防を取り巻く社会環境が大きく変化している中で、住民の安全･安心を守るという責務を十分に果たしていくためには、今まで以上の効率的な消防体制の確立が必要であると判断し、平成２３年５月より芦別市及び赤平市を含んだ３市２町で消防広域化について協議を重ねてきました。

このことから、消防における円滑な運営を確保するため、組織法、市町村の消防の広域化に関する基本方針並びに北海道消防広域化推進計画を踏まえ、３市２町の総意のもとに運営計画が策定され、平成２５年１０月１０日に消防広域化協定調印式を執り行い、平成２６年４月１日から、滝川地区広域消防事務組合に芦別市消防本部並びに赤平市消防本部が加わった、新滝川地区広域消防事務組合が発足しました。

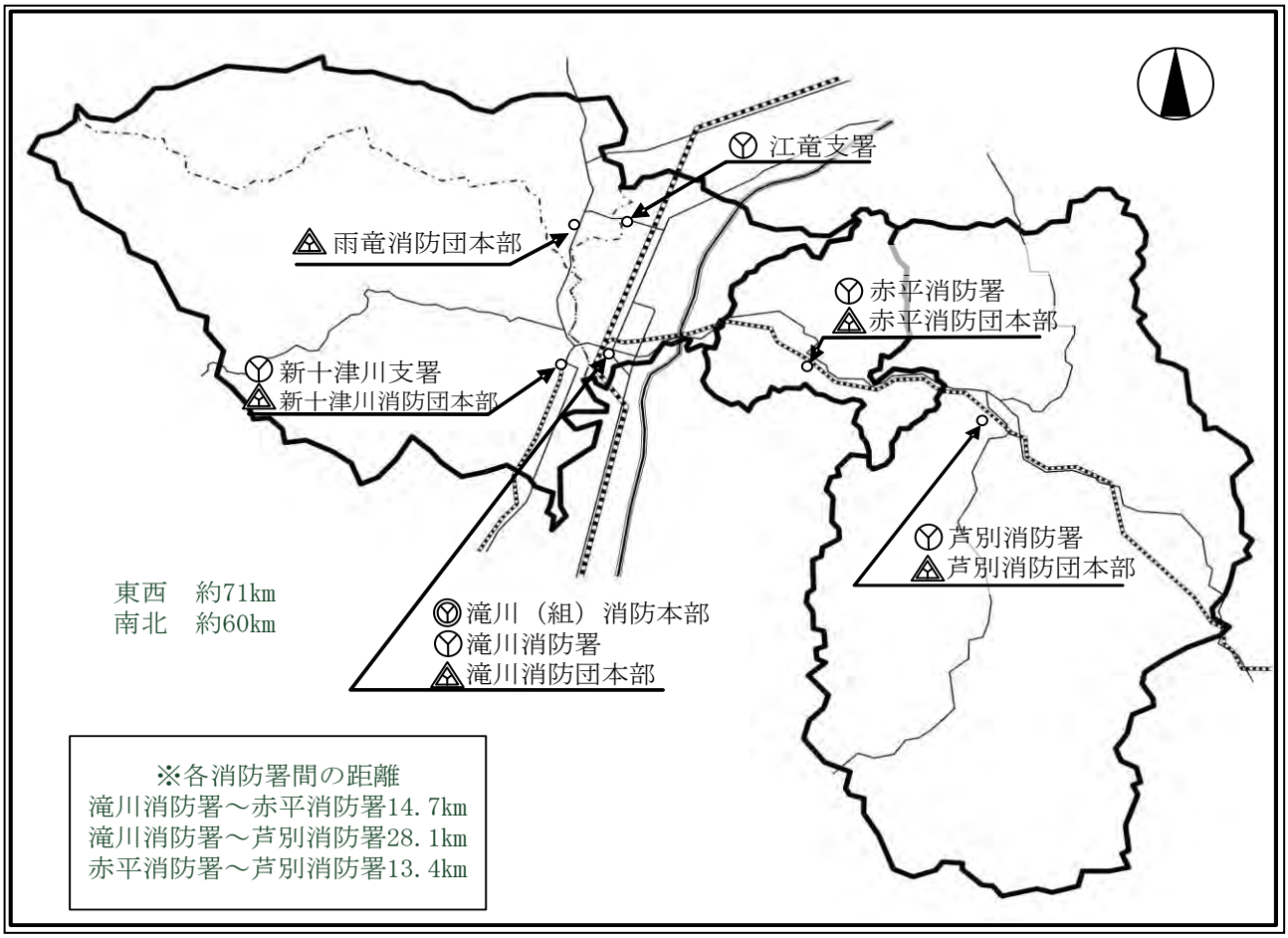
この消防年報は平成２５年版のため、組合発足前の滝川地区広域消防事務組合、芦別市消防本部並びに赤平市消防本部の各年報を編纂したものになっています。

滝川市　　芦別市　　赤平市

新十津川町　　雨竜町

消防広域における管内図

組合構成市町村　滝川市、芦別市、赤平市、新十津川町、雨竜町



人口、世帯数、面積

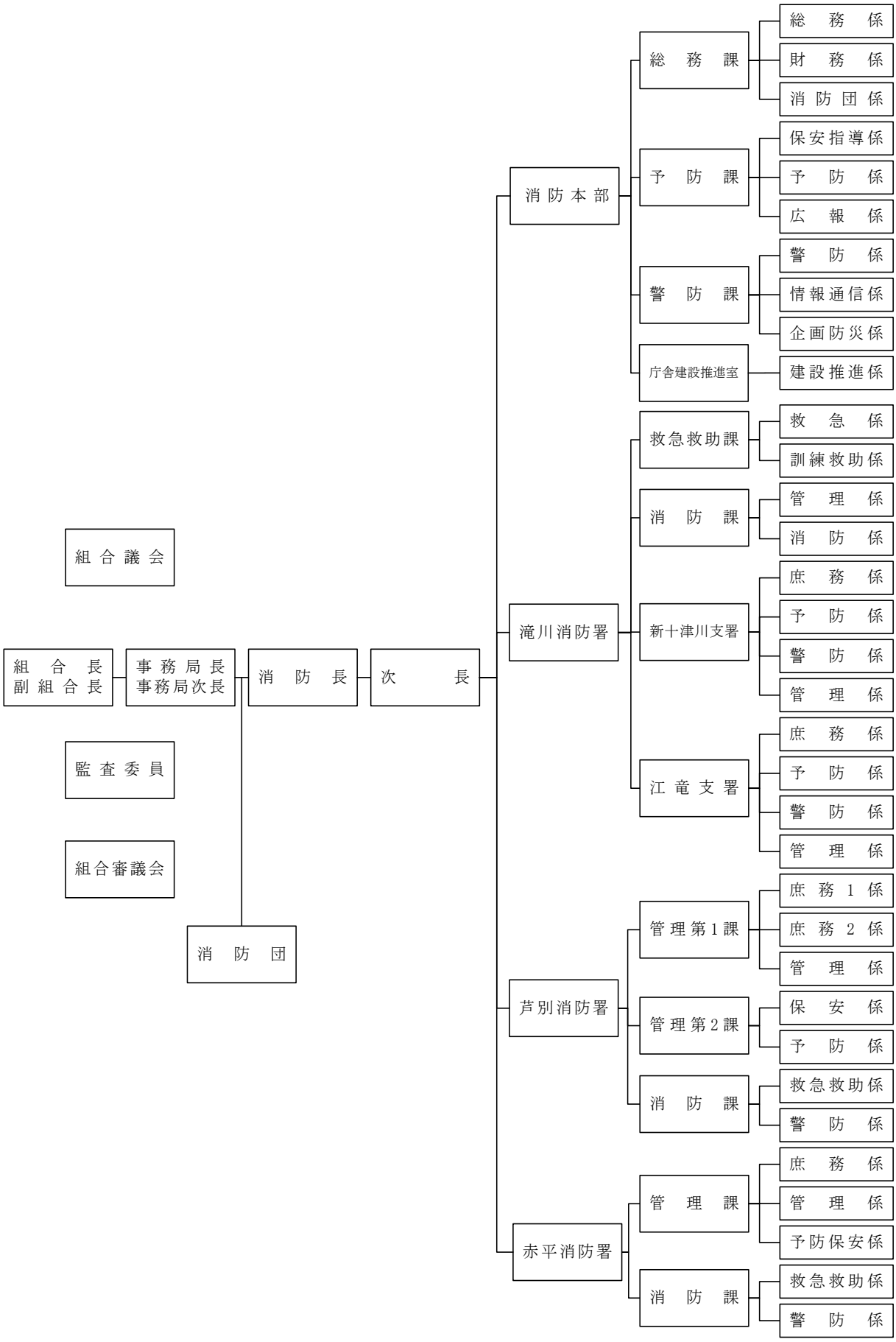
区　分	人口数			世帯数	総面積
	男(人)	女(人)	計(人)	(世帯)	(km²)
滝　川　市	19,771	22,217	41,988	21,298	115.82
芦　別　市	7,152	8,516	15,668	8,344	865.02
赤　平　市	5,285	6,265	11,550	6,365	129.88
新十津川町	3,216	3,734	6,950	2,964	495.62
雨　竜　町	1,305	1,446	2,751	1,229	190.91
総　数	36,729	42,178	78,907	40,200	1,797.25

位　　置

区　分	広　ぼ　う		位　置 (世界測地系WGS84)			
	東西(km)	南北(km)	東端	西端	南端	北端
滝　川　市	16.90	15.80	142°05’	141°52’	43°31’	43°40’
芦　別　市	24.96	48.65	142°22’	142°02’	43°12’	43°39’
赤　平　市	14.090	18.501	142°09’	141°58’	43°28’	43°38’
新十津川町	35.00	30.00	141°54’	141°29’	43°26’	43°42’
雨　竜　町	31.80	15.95	141°55’	141°31’	43°36’	43°44’

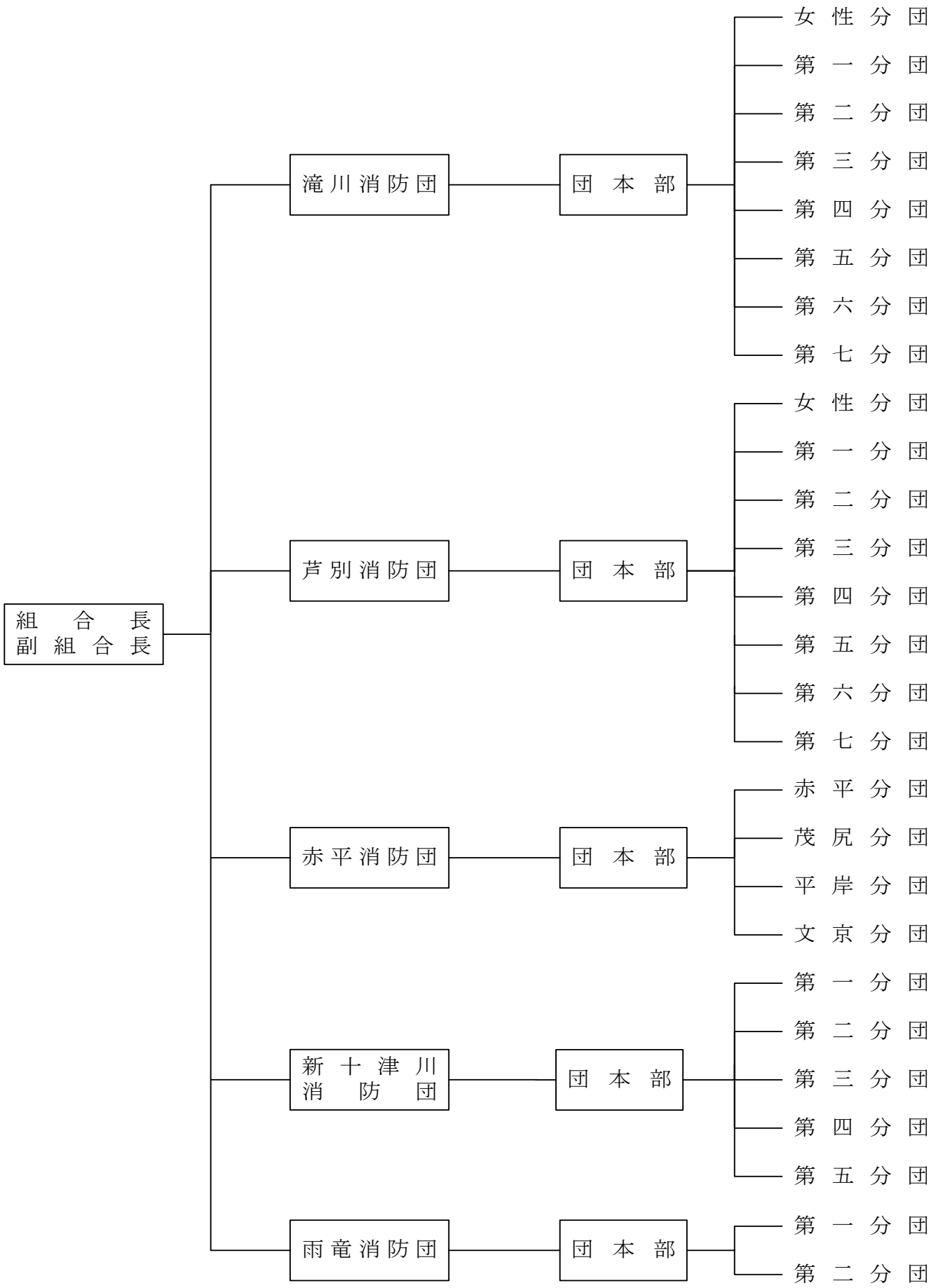
消防広域化における消防組織図

（平成26年4月1日現在）



消防広域化における消防団組織図

（平成26年4月1日現在）



消防広域化における職員数・消防団員数及び車両台数

（平成26年4月1日現在）

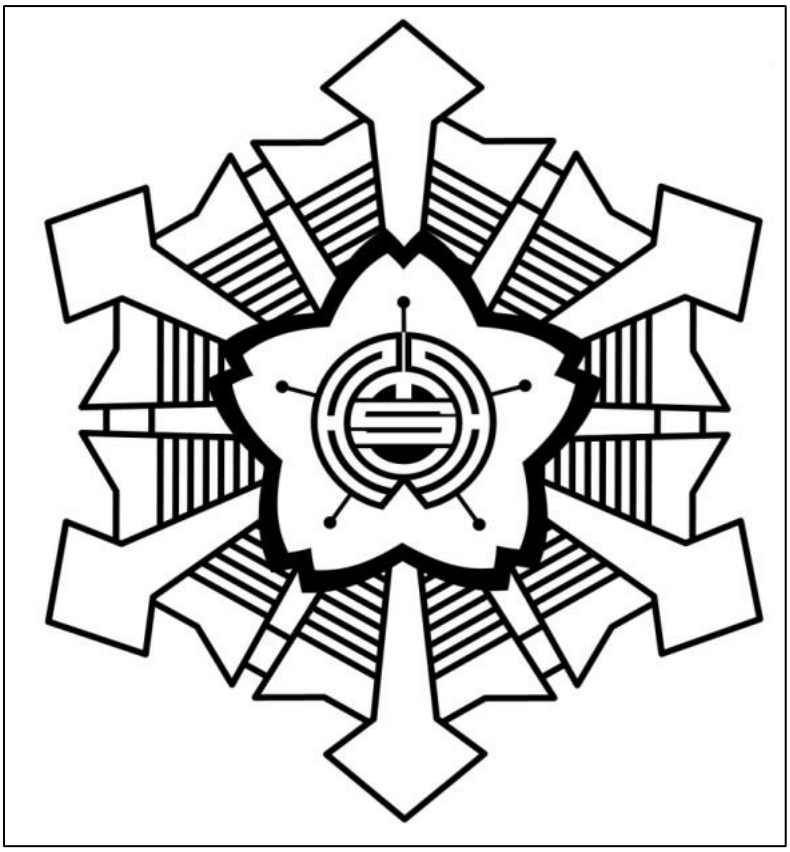
消防本部・支署	職員数	車両台数	消防団	団員数	団車両台数
消防本部	12 人	2 台			
滝川消防署	47 人	11 台	滝川消防団	115 人	7 台
芦別消防署	46 人	7 台	芦別消防団	191 人	10 台
赤平消防署	34 人	10 台	赤平消防団	98 人	4 台
新十津川支署	14 人	4 台	新十津川消防団	99 人	6 台
江竜支署	19 人	5 台	雨竜消防団	50 人	2 台
合　　計	172 人	39 台	合　　計	553 人	29 台

滝川地区広域消防事務組合　新紋章

デザインの趣旨

今までのシンボルマークに新たに加わった赤平・芦別の頭文字Aを左右対称にしてT.S.Uを囲み側面からの強化、輪をもっての融和・協調性・団結を表しました。

また、AとAの下部を末広がりにカットし飛躍・発展を表現しました。



消防広域化における各役職者

滝川地区広域消防事務組合議会　議員名簿

職名	氏名	備考
議長	長名　實	新十津川町議会
副議長	沖田　浩一	雨竜町議会
議員	三上　裕久	滝川市議会
議員	山口　清悦	滝川市議会
議員	荒木　文一	滝川市議会
議員	池田　勝利	芦別市議会
議員	松田　保	芦別市議会
議員	日沼　昇光	芦別市議会
議員	獅畑　輝明	赤平市議会
議員	太田　常美	赤平市議会
議員	五十嵐　美知	赤平市議会
議員	安中　経人	新十津川町議会
議員	青田　良一	新十津川町議会
議員	吉本　周治	雨竜町議会
議員	野村　耕次郎	雨竜町議会

組合名簿

職名	氏名	備考
組合長	前田　康吉	滝川市長
副組合長	清澤　茂宏	芦別市長
副組合長	高尾　弘明	赤平市長
副組合長	植田　満	新十津川町長
副組合長	藤本　悟	雨竜町長
事務局長	吉井　裕視	滝川市副市長
事務局次長	荻原　貢	芦別市副市長
事務局次長	浅水　忠男	赤平市副市長
事務局次長	佐川　純	新十津川町副町長
事務局次長	山口　博	雨竜町副町長
監査委員	宮崎　英彰	滝川市監査委員
消防長	芝　雅春	
消防本部次長	久保　博司	

各消防団長

職名	氏名	備考
滝川消防団長	坂口　純一	
芦別消防団長	髙砂　裕司	
赤平消防団長	吉成　茂明	
新十津川消防団長	宮井　忠士	
雨竜消防団長	松浦　伸治	

平成２５年

消　防　年　報

第４２号

滝川地区広域消防事務組合

は　し　が　き

１　この年報は、平成２５年中の滝川地区広域消防事務組合の現状並びに予防、警防、救急・救助をはじめとする各業務の統計と消防施設の整備状況を集録したものであり、本組合の消防現況を紹介するとともに火災予防等の資料として活用するため編集したものです。

２　この年報の火災統計、救急業務、気象状況については、平成２５年１２月３１日現在ですがその他は平成２５年末及び２６年度当初で集録したものです。

平成２６年８月

滝川地区広域消防事務組合消防本部

目　　次

１．沿　革

滝川地区広域消防事務組合沿革・・・・・・・・・・　1

平成２５年の動き・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

叙位・叙勲・褒章受章者・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12

歴代組合長・副組合長・消防長・消防団長・・・　15

平成２５年度消防職員・消防団員表彰・・・・・　17

２．概　要

⑴　管　内　図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18

⑵　位　置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18

⑶　面　積・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18

⑷　１０年間の人口及び世帯数の推移・・・・　19

⑸　国勢調査人口推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19

⑹　消防組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20

⑺　消防職員配置状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21

⑻　消防職員の年齢構成・・・・・・・・・・・・・・・・・　22

⑼　消防職員の勤続年数・・・・・・・・・・・・・・・・・　22

⑽　消防団組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23

⑾　消防団員の階級別配置状況・・・・・・・・・・　24

⑿　消防団員の年齢構成・・・・・・・・・・・・・・・・・　25

⒀　消防団員の勤続年数・・・・・・・・・・・・・・・・・　25

⒁　消防学校等入校状況・・・・・・・・・・・・・・・・・　26

⒂　消防職員特殊技能資格・・・・・・・・・・・・・・・　27

⒃　平成２５年度一般会計予算・・・・・・・・・・　29

３．警　防

⑴　消防機関の出動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・　30

⑵　消防庁舎施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　31

⑶　消防署車両現勢一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・　33

⑷　消防団車両現勢一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・　35

⑸　無線・通信機器・主な消防機器・器具の状況・・・・・・　37

⑹　救急資機材保有状況・・・・・・・・・・・・・・・・・　38

⑺　救助資機材保有状況・・・・・・・・・・・・・・・・・　39

⑻　水防・山林火災用資機材保有状況・・・・・　41

⑼　現有消防水利・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　42

⑽　地区別消防水利設置状況・・・・・・・・・・・・　42

⑾　気象状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　43

４．予　防

⑴　平成２５年組合管内火災一覧表・・・・・・　44

⑵　原因別火災状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　45

⑶　対象物別火災状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・　45

⑷　時刻・曜日・月・四季別火災統計・・・・・・・　46

⑸　火災発生状況（過去５年間）・・・・・・・・・・　47

⑹　原因別火災件数（過去５年間）・・・・・・・・　48

⑺　月別・時刻・曜日別火災件数（過去５年間）・・・・・・　49

⑻　所在地別事務処理件数・・・・・・・・・・・・・・・　50

⑼　予防査察実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・　51

⑽　地区別危険物許可施設・・・・・・・・・・・・・・・　52

⑾　危険物施設立入検査実施状況・・・・・・・・　52

⑿　地区別中高層建築物・・・・・・・・・・・・・・・・・　52

⒀　火災予防団体設立状況・・・・・・・・・・・・・・・　53

５．救急・救助

⑴　月別救急出動件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・　54

⑵　地区別救急出動件数・・・・・・・・・・・・・・・・・　55

⑶　過去５年間の救急出動件数・・・・・・・・・・　56

⑷　組合発足以来救急出動件数推移・・・・・・　57

⑸　時刻別救急出動件数・・・・・・・・・・・・・・・・・　58

⑹　曜日別救急出動件数・・・・・・・・・・・・・・・・・　57

⑺　事故種別年齢区分別搬送人員・・・・・・・・　59

⑻　事故種別傷病程度別搬送人員・・・・・・・・　59

⑼　年齢区分別傷病程度別搬送人員・・・・・・　60

⑽　救急隊員の行った応急処置件数・・・・・・　60

⑾　月・発生場所別救助出動状況・・・・・・・・・　61

沿　革

滝川地区広域消防事務組合沿革

昭和47年

3月28日　滝川地区広域消防事務組合（滝川市、新十津川町、雨竜町）設立について、北海道知事許可（地方第４８号指令）

4月 1日　滝川地区広域消防事務組合消防本部、滝川消防署、各支署開庁式実施、消防職員６４名、滝川消防団員７０名、江部乙消防団員４８名、新十津川消防団員１１３名、雨竜消防団員５３名

4月 2日　新十津川支署及び雨竜支署と消防本部間に専用電話を設置

5月22日　滝川地区広域消防事務組合審議会を開催

11月17日　雨竜消防団が北海道知事の竿頭綬表彰を受賞

11月20日　滝川消防団第一分団詰所を栄町１丁目９番３１号に新築移転

11月23日　雨竜支署職員待機宿舎１棟２戸新築

昭和48年

1月 1日　江部乙消防団を３部制から３分団制に改組

1月17日　新十津川支署に消防無線局を開設（基地１、移動２、携帯４）

1月17日　雨竜支署に消防無線局を開設(基地1、移動7、携帯3)

3月 5日　水槽付消防ポンプ自動車１両（暑寒号）を雨竜支署に配置

4月 1日　江部乙分遣所が支署に昇格（職員９名を配置、消防職員定員７２名）

6月12日　雨竜支署庁舎落成式を挙行

6月24日　第１９回北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合消防演習を雨竜町で開催

8月27日　江部乙支署に消防無線局を開設（基地１、移動３、携帯３）

10月 9日　新十津川消防団第三分団部長大島美喜男氏が火災出動途上に殉職

10月24日　雨竜支署職員待機宿舎１棟２戸新築

11月14日　新十津川支署に救急車１両配置

11月16日　日本損害保険協会より、水槽付消防ポンプ自動車（火災保険号）１両を受納し滝川消防署に配置

昭和49年

2月12日　普通消防ポンプ自動車１両を江部乙消防団第三分団に配置

4月 1日　消防本部機構を２課制から３課制に改組

4月26日　札幌市藤井義勝氏より広報車１両を受納し雨竜支署に配置

6月30日　第２０回北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合消防演習を滝川市で開催

7月12日　江部乙支署庁舎竣工式

7月31日　北海道消防操法訓練大会（ポンプ車の部）に新十津川消防団が出場

10月 1日　滝川地区広域消防事務組合消防団正副団長連絡協議会を設立

10月30日　江部乙消防団が北海道知事の竿頭綬表彰を受賞

10月31日　滝川消防団第二分団詰所を大町４丁目３番１３号に新築移転

昭和50年

3月23日　水槽付消防ポンプ自動車１両（瑞竜２号）を滝川消防署に配置

6月26日　江部乙消防団が北海道消防協会表彰旗を受賞

8月21日　北海道共済農業協同組合連合会より救急車１両受納し雨竜支署に配置

12月 5日　新十津川支署職員待機宿舎１棟４戸新築

12月30日　普通消防ポンプ自動車１両を江部乙消防団第一分団に配置

昭和51年

3月20日　滝川消防団第三分団詰所を本町２丁目４番１３号に新築移転

6月10日　雨竜消防団が北海道消防協会より竿頭綬表彰を受賞

10月28日　水槽付消防ポンプ自動車１両（菊水号）を新十津川支署に配置

11月24日　新十津川消防団第三分団詰所を新十津川町字中央に新築

12月10日　滝川消防団第四分団詰所を東滝川町３丁目１番に新築移転

12月15日　滝川消防署職員待機宿舎１棟６戸新築

12月20日　滝川消防団第五分団詰所を泉町２丁目１番３号に新築

昭和52年

3月 2日　救急車１両（白竜２号）を滝川消防署に配置

4月 1日　滝川消防団第五分団を泉町地区に新設。団員１５名、水槽付消防ポンプ自動車１両配置

7月13日　滝川消防創立８０周年、江部乙消防設立６５周年記念式典を挙行

9月12日　新十津川消防団第五分団を新十津川町字吉野に新築し組合に移管

11月 4日　小型動力ポンプ付水槽車（新水号）を新十津川支署に、水槽付消防ポンプ自動車を滝川消防団第五分団に、水槽付消防ポンプ自動車を雨竜消防団第一分団に各１両配置

12月10日　滝川消防署北分遣所（朝日町）閉庁式並びに開庁式（滝の川）実施

昭和53年

3月 7日　新十津川消防団が日本消防協会より竿頭綬表彰を受賞

7月26日　北海道消防操法訓練大会（ポンプ車の部）に滝川消防団が出場

10月27日　雨竜消防団が北海道知事表彰旗を受賞

11月 1日　小型動力ポンプ付水槽車１両（清滝号）を江部乙支署に配置

昭和54年

4月 5日　消防庁舎落成式を挙行
消防救急指令装置一式、サイレン・広報拡声装置一式を設置

8月27日　滝川地区広域消防事務組合内に初の少年消防クラブを結成

10月12日　小型動力ポンプ付水槽車１両（雨竜号）を雨竜支署に配置

10月20日　普通消防ポンプ自動車１両を新十津川消防団第三分団に配置

11月14日　水槽付消防ポンプ自動車１両を滝川消防団第三分団に配置

昭和55年

1月20日　江部乙消防団旗を更新

3月21日　日本損害保険協会より救急車（白竜１号）１両を受納し滝川消防署に配置

4月21日　新十津川町婦人防火クラブを結成（７４名）

6月 1日　新十津川支署職員定員１２名に増員

8月22日　北海道消防操法大会（小型ポンプの部）に雨竜消防団が出場し優勝

8月31日　第２６回北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合消防演習を新十津川町で開催

10月12日　全国消防操法大会（小型ポンプの部）北海道代表として雨竜消防団が出場し優良賞を受賞

10月30日　雨竜消防団第二分団詰所を新築竣工

11月15日　水槽付消防ポンプ自動車１両を滝川消防団第四分団に配置

11月25日　滝川市婦人防火クラブを結成（会員９０名）

昭和56年

1月 7日　滝川地区消防出初式において登梯の儀復活

3月30日　指揮広報車１両を滝川消防署に配置

4月 6日　救急隊員の資格取得講習を滝川医師会の協力により実施し、４５名に修了証を交付（４月６日～７月６日）

6月16日　雨竜町婦人防火クラブを結成（会員２０８名）

7月17日　全道消防救助技術訓練指導会（ほふく救出の部）に滝川消防署が出場し優勝

8月19日　全国消防救助技術大会（ほふく救出の部）に北海道代表として滝川消防署が出場し入賞

9月 7日　普通消防ポンプ自動車１両を新十津川消防団第五分団に配置

9月29日　日本消防協会より指揮広報車１両を受納し雨竜消防団に配置

11月 4日　水槽付消防ポンプ自動車１両（蒼竜号）を滝川消防署に配置

11月12日　普通消防ポンプ自動車１両を雨竜消防団第二分団に配置

昭和57年

3月 9日　水槽付消防ポンプ自動車１両（北辰号）を江部乙支署に配置

3月10日　雨竜消防団が日本消防協会表彰旗を受賞

5月 1日　滝川地区広域消防事務組合章を制定

5月18日　指揮広報車１両を江部乙支署に配置

6月 3日　滝川地区広域消防事務組合設立１０周年記念式典並びに消防演習を実施

10月21日　普通消防ポンプ自動車１両を雨竜消防団第三分団に配置

12月17日　新十津川消防団第二分団詰所を新十津川町字花月に新築移転

昭和58年

1月 8日　新十津川消防団旗を更新

3月24日　救急自動車１両（白竜２号）を滝川消防署に配置

6月21日　第３５回北海道消防大会を滝川市スポーツセンターで開催

7月10日　第２９回北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合消防演習を雨竜町で開催

8月12日　空知支庁管内の水防工法訓練が空知川河川敷地で開催され組合内４消防団から１５０名が参加

12月24日　滝川市コミュニティ防災センター竣工式

昭和59年

3月 9日　雨竜消防団が消防庁長官の竿頭綬表彰を受賞

6月 2日　新十津川町少年消防クラブを結成

7月12月　第３０回北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合消防演習を滝川市で開催

7月26日　全道消防救助技術訓練指導会（ロープブリッジ救出の部）に滝川消防署が出場し優勝

8月24日　全国消防救助技術大会（ロープブリッジ救出の部）に北海道代表として滝川消防署が出場し入賞

9月26日　日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車１両（火災保険号）を受納し滝川消防署に配置

11月24日　滝川消防署に救助訓練塔を新築

昭和60年

4月 5日　救急自動車１両を新十津川支署に配置

7月18日　全道消防救助技術訓練指導会（ほふく救出の部）に滝川消防署が出場し優勝

8月23日　全国消防救助技術大会（ほふく救出の部）に北海道代表として滝川消防署が出場し入賞

昭和61年

5月10日　滝川消防署北分遣所を滝の川町西３丁目１番４３号に新築移転

9月13日　水槽付消防ポンプ自動車１両を新十津川消防団第一分団に配置

9月19日　普通消防ポンプ自動車１両を滝川消防団第一分団に配置

昭和62年

6月19日　滝川市で石狩川水防演習を開催、５市９町の水防隊６７３名が参加

7月10日　全道消防救助技術訓練指導会（ロープブリッジ救出の部）に滝川消防署が出場し優勝

7月17日　滝川市幼年消防クラブを結成（滝川市立保育所６６０名）

7月31日　北海道消防操法訓練大会（小型ポンプの部）に江部乙消防団が出場し準優勝

8月21日　全国消防救助技術大会（ロープブリッジ救出の部）に北海道代表として滝川消防署が出場し入賞

9月14日　滝川地区広域消防事務組合設立１５周年記念式典を実施

10月20日　普通消防ポンプ自動車１両を新十津川消防団第二分団に配置

11月28日　新十津川消防団第四分団詰所を新築

昭和63年

7月14日　全道消防救助技術訓練指導会（ロープブリッジ救出の部）に滝川消防署が出場し優勝

7月29日　北海道消防操法訓練大会（小型ポンプの部）に新十津川消防団が出場

8月19日　全国消防救助技術大会（ロープブリッジ救出の部）に北海道代表として滝川消防署が出場し入賞

8月29日　道央自動車道ホットライン設置

10月 1日　救急医療情報システムの運用開始

道央自動車道の消防相互応援協定を砂川地区広域消防組合と締結

12月12日　消防無線電話全道共通波を設置（基地局１、移動局１）

平成元年

3月 6日　消防本部、滝川消防団が消防庁長官表彰旗を受賞

6月20日　雨竜消防団旗を更新

9月 9日　救急自動車１両（白竜号）を滝川消防署に配置（第１９回赤十字北海道大会記念号）

9月27日　３０ｍ級はしご付消防自動車（蛟竜２号）を滝川消防署に配置

10月 1日　道央自動車道の消防相互応援協定を深川地区消防組合と締結

11月 6日　普通消防ポンプ自動車１両を新十津川消防団第四分団に配置

平成２年

3月 8日　雨竜消防団が消防庁長官表彰旗を受賞

6月16日　滝川消防団旗を更新

6月24日　第３６回北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合消防演習を新十津川町で開催

6月24日　新十津川消防団設立７０周年記念式典を実施

8月 2日　全道消防救助技術訓練指導会（ロープブリッジ救出の部）に滝川消防署が出場し準優勝

8月24日　全国消防救助技術大会（ロープブリッジ救出の部）に北海道代表として滝川消防署が出場し入賞

11月 1日　初の女性消防団員を登用し入団式を実施（滝川消防団７名、江部乙消防団３名）

12月20日　水槽付消防ポンプ自動車１両（瑞竜３号）を滝川消防署に配置

平成３年

2月 8日　水槽付消防ポンプ自動車１両を新十津川消防団第一分団に配置

2月13日　雨竜消防団が日本消防協会特別表彰「まとい」を受賞

2月27日　雨竜消防団設立８０周年記念式典を実施

4月 1日　新十津川支署職員を１４名に増員

北海道広域消防相互応援協定施行（７２消防本部）

4月 5日　滝川地区広域消防事務組合設立２０周年記念式典及び観閲式を実施

9月29日　指揮広報車１両を雨竜支署に配置

平成４年

1月17日　救急自動車（白竜号）に自動車電話１台を設置

3月13日　日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車（火災保険号）１両を受納し雨竜支署に配置

4月 1日　消防職員１名増員し、職員定数８９名に改正

7月19日　第３８回北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合消防演習を雨竜町で開催

9月 3日　江部乙消防団設立８０周年記念式典を実施

10月19日　水槽付消防ポンプ自動車１両を江部乙消防団第二分団に配置

10月22日　普通消防ポンプ自動車１両を新十津川支署に配置

平成５年

2月26日　消防緊急通信指令施設一式を滝川消防署に配置（指令装置、順次指令装置、無停電電源装置、電子式電話交換機、基地局無線設備）

4月 1日　消防職員５名増員し、職員定数９４名に改正（雨竜支署職員を１１名に増員）

5月 1日　滝川消防団と江部乙消防団が統合し、新しく滝川地区広域消防事務組合滝川消防団（１団８分団）とした（定数１３８名）

10月18日　普通ポンプ自動車１両を滝川消防団江部乙第三分団に配置

滝川消防団旧江部乙第三分団車を「新羊２号」と命名し滝川消防署に配置替え

平成６年

3月10日　消防緊急通信指令装置一式を滝川消防署に配置（支援情報検索装置、気象観測装置）

4月 1日　組合規約を改正し、助役制を廃止し副組合長制とした

消防職員５名増員し職員定数９９名に改正、滝川消防署機構を一部改正し８係を９係とした

7月17日　第４０回北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合消防演習を滝川市で開催

10月27日　第３６回全国消防長会危険物委員会を滝川市で開催

12月 2日　指揮広報車１両を滝川消防署に配置

12月28日　滝川消防団第一分団、第四分団、第五分団及び江部乙支署（江部乙地区分団用）に無線サイレン吹鳴装置を設置

12月30日　普通消防ポンプ自動車１両を滝川消防団江部乙第一分団に配置

平成７年

3月15日　消防緊急通報指令装置（地図検索装置）を設置

7月20日　全道消防救助技術訓練指導会（ほふく救出の部）に新十津川支署が出場し優勝

8月25日　全国消防救助技術大会（ほふく救出の部）に北海道代表として新十津川支署出場し入賞

10月18日　普通消防ポンプ自動車１両を新十津川消防団第三分団に配置

平成８年

3月28日　水槽付消防ポンプ自動車１両（瑞竜号）を滝川消防署に配置

4月 1日　消防職員定数１０１名に改正

4月18日　組合に初の救急救命士が誕生

4月26日　雨竜町幼年消防クラブを結成

6月25日　北海道消防防災ヘリコプター応援協定を北海道と締結

7月18日　全道消防救助技術訓練指導会（ロープブリッジ渡過の部）に滝川消防署１名が出場し第４位に入賞

8月23日　全国消防救助技術大会（ロープブリッジ渡過の部）に北海道代表として滝川消防署１名が出場し入賞

10月 4日　救急自動車１両を北海道共済農業協同組合連合会から寄贈を受け雨竜支署に配置

平成９年

1月 1日　滝川消防団江部乙第一分団・江部乙第二分団・江部乙第三分団を滝川消防団第六分団・第七分団・第八分団にそれぞれ名称を改正

携帯電話からの１１９番通報の分散受信方式での運用を開始

9月 9日　滝川消防公設１００年並びに常備消防６５年記念式典を実施

10月 7日　救急自動車１両を北海道共済農業協同組合連合会から寄贈を受け新十津川支署に配置

平成10年

10月 1日　滝川消防団定数を１２８名に改正

平成11年

2月10日　高規格救急自動車１両を滝川消防署に配置

2月26日　小型動力ポンプ付水槽車１両を新十津川支署に配置

4月 1日　高規格救急自動車の運用を開始

7月22日　北海道消防操法訓練大会（小型ポンプの部）に雨竜消防団が出場し優勝

8月23日　新十津川消防公設８０周年記念式典を実施

9月 8日　指揮広報車（トヨタランドクルーザー）１両を江部乙支署に配置

10月26日　水槽付消防ポンプ自動車１両を新十津川消防団第五分団に配置

12月 3日　雨竜消防団を３分団制から２分団制に改組し、定数を４６名に改正

平成12年

6月25日　第４６回北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合消防演習を新十津川町で開催

11月17日　水槽付消防ポンプ自動車１両を滝川消防団第五分団に配置

11月21日　水槽付消防ポンプ自動車１両を雨竜消防団第一分団に配置

平成13年

7月 5日　雨竜消防創立９０周年記念消防演習を実施

9月 9日　台風１５号・秋雨前線に伴う大雨による水防活動を実施～１２日
（出動職団員２２２名　車両３４台）

平成14年

3月 7日　社団法人日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車１両を受納し滝川消防団第三分団に配置

4月 1日　高齢者緊急通報システムの受信回線の統合を図った
（滝川市１２０戸・新十津川町５８戸・雨竜町３５戸）

4月24日　滝川地区防火安全協会の設立総会が行われた
（滝川地区危険物安全協会と滝川地区防火管理者連絡協議会とが統合）

6月30日　第４８回北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合消防演習を雨竜町で開催

9月 8日　消防組合設立３０周年記念・第３１回滝川地区広域消防事務組合連合消防演習を実施した（参加職団員２４６名、車両１４台、文化センター）

9月17日　雨竜地区の１１９番回線及びサイレン吹鳴装置の一元化

12月 1日　滝川消防団の再編に伴う分団の統合を行った（８分団制から７分団制に移行）

平成15年

1月 7日　新十津川消防団に初の女性消防団員３名が入団

3月27日　高規格救急車１両の寄贈があった（山之内製薬株式会社）

5月 1日　北海道ドクターヘリ運航調整研究会と運航に係る協定を締結

7月11日　滝川消防団・江部乙消防団統合１０周年記念、平成１５年度滝川消防演習を実施

9月 1日　新十津川地区の１１９番回線、サイレン吹鳴装置の一元化

平成16年

2月13日　新十津川消防団が日本消防協会より表彰旗を受賞

4月 1日　滝川市立病院と病院研修及び救急現場での医師からの指示等を受けるための協定を締結

6月27日　第５０回北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合消防演習を滝川市で開催

7月 1日　滝川市立病院と救急事後検証に係わる契約を結び、メディカルコントロール体制を構築

7月22日　滝川消防団が北海道消防操法大会（小型ポンプ操法の部）に出場

9月 8日　台風１８号の本道上陸により組合管内で１２９件の災害に職・団員が出動

9月16日　メディカルコントロール体制の一環として中空知救急連絡協議会を発足させ、救急活動の連携強化を図る

12月 1日　救急救命士が行う包括的指示下での除細動の運用を開始

12月 6日　災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車１両（滝川タンク１）を滝川消防署に配置

平成17年

2月15日　滝川消防署配置の救急救命士１名が滝川市立病院での気管挿管病院実習を修了し運用を開始

4月 1日　構成市町より派遣されていた職員（３１名）を当組合に身分替え

ドクターヘリの本格運航を開始（基地病院　医療法人渓仁会　手稲渓仁会病院）

7月 1日　江部乙地区に、江部乙・雨竜統合支署建設用地売買契約を締結

7月21日　北海道消防操法訓練大会に新十津川消防団がポンプ車操法の部に出場し優勝

9月 5日　携帯電話からの１１９通報の直接受信を開始

10月13日　職員のＡＥＤ講習を修了し、運用を開始（８０名）

10月31日　小型動力ポンプ付水槽車（１０トン）１両（雨竜水槽）を雨竜支署に配置

平成18年

1月27日　雨竜町無火災１０００日達成により組合長表彰

4月1日　雨竜消防団の定数を４８名に改正

4月23日　雨竜地区無火災記録３年を達成

6月1日　新築住宅への火災警報器、設置義務の消防法改正施行日（組合条例により既存住宅への適用時期は平成２３年６月１日）

救急救命士が行う薬剤投与の運用を開始

6月9日　雨竜消防団が第５８回北海道消防大会（北見市開催）において無火災３年に伴う竿頭綬を受賞

6月14日　消防組織法の一部が改正され、市町村の消防広域化について規定

8月24日　全国消防救助技術大会に（ロープブリッジ渡過の部）に北海道代表として新十津川支署１名が出場（札幌市）

11月16日　新十津川消防団が北海道知事より竿頭綬を受賞

平成19年

1月27日　江竜支署消防庁舎が竣工

3月30日　滝川消防署雨竜支署の閉署式を実施

4月 1日　雨竜消防団の定数を５０名に改正

滝川消防署江竜支署開庁式並びに滝川消防団第六・第七分団詰所開所式を実施

6月 1日　社団法人滝川スカイスポーツ振興協会と「災害時の航空機運航協力に関する協定書」を締結

11月20日　水槽付消防ポンプ自動車１両を滝川消防団第四分団に配置

12月 1日　災害指令メールシステムの本格運用

平成20年

3月 7日　自治体消防制度６０周年記念式典（東京都：日本武道館）に参加

3月30日　北海道消防広域化推進計画が策定

4月 1日　滝川消防団に女性分団が結成され７分団制から８分団制とした

7月22日　北海道消防救急無線広域化、共同化及び消防指令業務の共同運用に係る整備計画が策定

8月24日　全国消防救助技術大会（ほふく救出の部）に北海道代表として江竜支署隊が出場し入賞（北九州市）

平成21年

1月28日　救急救命士２名が北海道ＭＣよりそれぞれ気管挿管、薬剤投与可能な救命士として認定（滝川消防署１名、江竜支署１名）

2月26日　消防本部庁舎耐震診断の委託業務が完了

3月 1日　更新通信指令装置の運用を開始

8月21日　高規格救急自動車１両を新十津川支署に配置

平成22年

1月20日　高規格救急自動車１両を滝川消防署に配置

4月20日　消防団協力事業所表示証の交付

6月27日　第５６回北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合消防演習を新十津川町で開催

8月22日　滝川消防団第四分団設立８０周年記念式典及び祝賀会を実施

9月 5日　滝川市総合防災訓練に参加

11月 9日　新十津川町婦人防火クラブ設立３０周年記念誌を発行

12月 9日　滝川市婦人防火クラブ設立３０周年記念誌「防火の集い」を実施

平成23年

2月 8日　滝川消防団第一・二・三分団合同詰所が竣工

2月15日　水槽付消防ポンプ自動車（ＣＡＦＳ）１両を雨竜消防団第二分団に配置

3月11日　東日本大震災発生

3月19日～24日　緊急消防援助隊北海道第３次派遣隊として消防隊３名を派遣（宮城県石巻市）

4月 1日　北海道防災航空室に職員派遣（滝川消防署１名）
（派遣期間　平成２３年４月１日～平成２６年３月３１日まで３年間）

4月15日　滝川消防団第一・二・三分団合同詰所開所式

4月17日～23日　緊急消防援助隊北海道第１１次派遣隊として救急隊２名を派遣（宮城県石巻市）

9月 5日　雨竜消防団創立１００周年記念演習並びに記念式典開催

9月16日　滝川救命ボランティア２万人宣言「救命の集い」に参加し、救命講習市民２万人達成の宣言

11月 9日　総務大臣表彰受賞（東日本大震災により緊急消防援助隊出動）

平成24年

6月24日　第５８回北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合消防演習並びに第４１回滝川地区広域消防事務組合消防演習を雨竜町で開催

9月11日　水槽付消防ポンプ自動車１両を新十津川消防団第一分団に配置

10月28日　滝川消防団第一分団創立１００周年記念式典及び祝賀会を開催

平成25年の動き

1月 6日～7日　滝川消防出初式（ベルロード、参加職団員１３２名）、新十津川消防出初式（新十津川町役場前、参加職団員１１１名）、雨竜消防出初式（雨竜第一分団詰所前、参加職団員６８名）を開催した。

1月20日　雨竜消防団による単身高齢者宅除雪ボランティアを実施した。（１３戸）

1月25日　滝川消防署に「圧縮空気泡消火装置」を搭載した最新鋭の水槽付消防ポンプ自動車を配置し、配置式を行った。

1月28日　単身高齢者宅防火査察を実施した。（１５１戸）

2月10日　滝川消防団による単身高齢者宅除雪ボランティアを実施した。（５０戸）

2月13日～15日　組合管内の自力避難困難者を入所対象とする社会福祉施設の特別査察を実施した。（１９対象物）

2月13日～15日　北海道消防学校「消防団員幹部教育」に団員を入校させた。（滝川消防団２名）

2月19日～20日　北海道消防学校「気管挿管再認定講習」に職員を入校させた。（新十津川支署１名）

2月20日～21日　北海道消防学校「気管挿管再認定講習」に職員を入校させた。（滝川消防署２名）

2月27日～3月 1日　北海道消防学校「消防団員幹部教育」に団員を入校させた。（新十津川消防団１名）

3月 1日　第１回組合議会定例会を招集した。

3月 6日　平成24年度総務省消防庁長官永年勤続功労章を受賞した。
（消防本部1名、滝川消防団1名）

3月10日　組合定期普通救命講習を開催した。（受講者２２名）

4月10日　消防救急デジタル無線システムの運用を開始した。

4月10日～8月29日　北海道消防学校「第１３２期初任教育」に職員を入校させた。（滝川消防署２名、新十津川支署１名）

4月15日　防火モデル地区に１年間指定し、火災予防思想の普及を図った。
（滝川市東町第４町内会２６５世帯）
（滝川市江部乙町北２の２町内会１７世帯）
（新十津川町橋本区３４０世帯）
（雨竜町第９町内会１７０世帯）

4月20日～30日　春の火災予防運動に伴い、白樺幼稚園幼年消防クラブ員５７名による防火行進を「アクロスプラザ」前にて実施し、火災予防のＰＲを行った。また、期間中、各消防団が火災予防車両巡回広報を、新十津川町婦人防火クラブ及び江部乙地区婦人防火クラブが街頭広報を実施した。

4月26日　北海道消防学校「気管挿管再認定講習」に職員を入校させた。（新十津川支署１名）

4月29日　平成２５年春の叙勲に瑞宝単光章を受章した。（前滝川消防団１名）
第２０回危険業務従事車叙勲に瑞宝単光章を受章した。（前消防本部１名）

5月 8日　第１回組合議会臨時会を招集した。

5月11日　滝川市教育委員会・一般財団法人滝川市体育委員会と「救助用ボート使用に関する協定」を締結した。

5月19日～20日　甲種防火管理者新規講習会を実施し、防火管理者の資格を附与した。（受講者７１名）

6月15日　組合定期普通救命講習を開催した。（受講者２０名）

6月16日　滝川消防演習を開催した。（参加職団員１４０名）

6月24日　第２回組合議会臨時会を招集した。

6月30日　芦別市で開催された第５９回中空知分会連合消防演習に参加した。
（参加職団員８５名）

7月 2日　救急救命士が行うビデオ硬性挿管用喉頭鏡による気管挿管の運用を開始した。

7月 4日　平成２５年度雨竜消防演習を開催した。（参加職団員６５名）

7月20日　第４２回全道消防救助技術訓練指導会のほふく救出の部及びロープブリッジ救出の部に出場した。（滝川消防署２隊７名、新十津川支署１隊３名、江竜支署１隊３名）

8月 1日　総務省消防庁消防・救急課長補佐を講師に招聘し「消防広域化の現状と課題」についての消防広域化講演会を開催した。

8月 1日　札幌開発局建設部滝川河川事務所と「滝川地区広域防災施設の使用に関する覚書」を締結した。

8月12日　消防広域化に伴う３市２町長会議を開催し、「滝川地区広域消防事務組合広域消防運営計画」を決定した。

8月12日　ＮＰＯ法人まち・川づくりサポートセンターと「資材借用及び使用に関する協定」を締結した。

8月21日～10月 9日　北海道消防学校「専科教育救急科」に職員を入校させた。（滝川消防署１名、江竜支署２名）

8月23日～24日　倶知安町で開催された第６５回北海道消防大会に参加した。（参加職団員４０名）

8月26日　滝川市消防協会主催の第６５回消防顕彰祭に参列した。（参加職団員６２名）

9月 1日　新十津川町で第４２回滝川地区広域消防事務組合消防演習を開催した。（参加職団員１９１名）

9月 4日～10月23日　消防大学校「総合教育幹部科第３４期」に職員を入校させた。（江竜支署１名）

9月 6日　叙位・死亡叙勲「正七位」「瑞宝単光章」の受章伝達を行った。（前新十津川支署１名）

9月20日　組合定期普通救命講習を開催した。（受講者２２名）

9月24日　北海道消防防災ヘリコプターとの合同訓練を実施した。（参加人員４１名）

10月10日　消防広域化協定調印式を執り行った。

10月15日～17日　１０月１１日、福岡市博多区において発生した診療所火災（死傷者１０名、負傷者５名）を受け、組合管内の病院・診療所の緊急特別査察を実施した。（３０対象物）

10月15日～31日　秋の火災予防運動に伴い、各消防団が車両巡回広報を実施した。また、期間中、単身高齢者宅防火査察を実施した。（滝川地区１１３世帯、江部乙地区３４世帯、雨竜地区３６世帯）

10月16日　北海道消防学校「第１３３期初任教育」に職員を入校させた。（滝川消防署２名、江竜支署１名）

10月16日　新十津川消防団第二分団に「水槽付消防ポンプ自動車」を配置し、配置式を行った。

10月20日　秋の火災予防運動に伴い、少年消防クラブ員、婦人防火クラブ員、職団員による防火フェスティバルを「アクロスプラザ」駐車場で実施した。（ＷＦＣ７名、ＢＦＣ１７名、職団員７１名）

10月20日　平成２６年度消防職員採用候補者登録試験を実施した。（応募者数５７名）

10月24日　北海道消防学校「気管挿管再認定講習」に職員を入校させた。（滝川消防署１名）

10月24日～25日　北海道消防学校「消防団指導員研修」に団員を入校させた。（新十津川消防団１名）

10月25日　消防広域化に伴う組合規約の変更が北海道知事より許可された。

10月25日　北海道消防学校「気管挿管再認定講習」に職員を入校させた。（滝川消防署２名）

10月28日　甲種防火管理者再講習を実施した。（受講者１８名）

10月29日　北海道「防火・防災」作品コンクール、火災予防作文の部の受賞伝達を行った。

10月30日～12月17日　北海道消防学校「専科教育救急科」に職員を入校させた。（滝川消防署１名、江竜支署１名）

11月 1日　危険物取扱者保安講習を開催した。（受講者１７５名）

11月 3日　平成２５年秋の叙勲に瑞宝単光章を受章した。（前滝川消防団１名）
第２１回危険業務従事車叙勲に瑞宝単光章を受章した。（前消防本部１名）

11月10日　江部乙地区消防１００年記念式典に参加した。

11月21日　北海道知事より功労章、永年勤労章を受章した。

11月24日　東京都で開催された消防団１２０年、自治体消防６５周年記念大会に参加した。
（参加職団員１１名）

11月26日　叙位・死亡叙勲「正七位」「瑞宝単光章」の受章伝達を行った。
（元滝川消防署１名）

11月29日　第２回組合議会定例会を招集した。

12月 3日　飲食店防火査察を実施した。（組合管内１３９店舗）

12月 4日　滝川消防団第二分団に「可搬式小型動力ポンプ付消防ポンプ自動車」を配置し、配置式を行った。

12月14日　組合定期普通救命講習を開催した。（受講者１３名）

12月18日　雨竜第一分団に「水槽付消防ポンプ自動車」を配置し、配置式を行った。

12月20日　年末年始火災予防運動の実施に伴い、防火イルミネーションツリー、火災予防運動看板等の作成、展示し、火災予防思想の高揚を図った。

12月22日　滝川消防団第四分団詰所の開所式を行った。

12月25日～30日　各消防団による歳末警戒を実施した。（消防団員３１７名）

叙位・叙勲・褒章受章者一覧

叙位・叙勲

氏　　名	所　　属	区　　分	受章年
寒河江　功	滝川消防組組頭	勲五等双光旭日章	昭和43年
大島美喜男	新十津川消防団分団長	勲七等瑞宝章	昭和48年
舟津　幸作	消防本部消防監	勲五等双光旭日章	
赤坂　　忍	滝川消防団団長	勲六等瑞宝章	昭和52年
佐々木市郎	雨竜消防団団長	勲六等単光旭日章	
岸本　一吉	滝川消防団分団長	勲七等青色桐葉章	昭和55年
舟津　幸作	消防本部消防監	従五位	昭和57年
庄司　當雄	滝川消防団分団長	勲七等青色桐葉章	
佐藤　幸作	滝川消防団副分団長	勲六等瑞宝章	昭和62年
柿﨑　　力	消防本部消防司令	勲五等瑞宝章	平成元年
柿﨑　　力	消防本部消防司令	正七位	平成２年
坂口　末一	江部乙消防団団長	勲五等瑞宝章	平成３年
奥野　義雄	滝川消防団団長	従六位・勲五等瑞宝章	平成５年
小林　弘繁	雨竜消防団副団長	勲六等単光旭日章	
石黒　貞一	滝川消防団団長	従六位・勲五等瑞宝章	平成７年
斉藤　権一	新十津川消防団団長	勲五等瑞宝章	
横山　善男	消防本部消防司令長	従七位・勲六等瑞宝章	
田湯　孝男	雨竜支署消防司令	従七位・勲六等単光旭日章	
奥村　　保	滝川消防団分団長	勲六等瑞宝章	平成８年
田中　　肇	滝川消防団分団長	勲六等瑞宝章	平成９年
柴田　賛三	滝川消防団団長	勲六等単光旭日章	平成10年
伊藤　和男	消防本部消防司令	従七位・勲六等単光旭日章	平成13年
宮﨑　信治	江部乙消防団団長	勲六等瑞宝章	平成14年
平野　明徳	新十津川消防団団長	勲五等瑞宝章	
松葉　　弘	雨竜消防団団長	勲五等瑞宝章	平成15年
加藤與三松	滝川消防団分団長	勲六等瑞宝章	
嵯峨山朋廣	消防本部消防司令	従七位・瑞宝単光章	
鈴木　武美	消防本部消防司令	従七位・瑞宝単光章	平成16年
天間　光義	滝川消防団副団長	瑞宝単光章	平成17年
奥井　一雄	消防本部消防司令	瑞宝単光章	
浮穴　孝良	滝川消防団団長	瑞宝双光章	
柿﨑　富保	消防本部消防司令	瑞宝単光章	
佐武　敏夫	滝川消防団分団長	瑞宝単光章	平成18年

高橋　正行	消防本部消防司令	瑞宝単光章	平成18年
高橋　正行	消防本部消防司令	正七位	
土田　健次	新十津川消防団分団長	瑞宝単光章	
舟津　博顕	消防本部消防監	瑞宝双光章	
松原　秀雄	江部乙消防団団長	瑞宝単光章	平成19年
宮西　　誼	消防本部消防司令	瑞宝単光章	
篠原　秀雄	滝川消防団副分団長	瑞宝単光章	
宮西　　務	消防本部消防司令長	瑞宝単光章	
井尾　昌夫	滝川消防団団長	瑞宝双光章	平成20年
東小野　忍	消防本部消防司令	瑞宝単光章	
中西　東洋	滝川消防団分団長	瑞宝単光章	
中川　　稔	新十津川消防団副団長	瑞宝単光章	
宮西　　務	消防本部消防司令長	正七位	平成21年
伊藤　　保	江部乙消防団団長	瑞宝双光章	
山香　靖時	新十津川消防団団長	瑞宝双光章	
和泉　撤也	消防本部消防司令長	瑞宝単光章	平成22年
小山　　進	消防本部消防監	瑞宝双光章	
木村　茂隆	滝川消防団分団長	瑞宝単光章	
宮西　　誼	消防本部消防司令	正七位	平成23年
市川　利吉	滝川消防団分団長	瑞宝単光章	
山内　茂男	消防本部消防司令長	正七位・瑞宝単光章	
河内山房雄	滝川消防団分団長	瑞宝単光章	
林　　和彦	滝川消防団副分団長	瑞宝単光章	平成24年
佐々木京一	消防本部消防司令	正七位・瑞宝単光章	
髙木　富義	新十津川消防団分団長	瑞宝単光章	
奥井　一雄	消防本部消防司令	正七位	
中川　博靖	滝川消防団分団長	瑞宝単光章	平成25年
神原　育夫	消防本部司令長	瑞宝単光章	
北條　康一	消防本部消防監	瑞宝双光章	
島宗　昌弘	消防本部消防司令	正七位・瑞宝単光章	
岩上　雅彦	消防本部消防司令	正七位・瑞宝単光章	
中西　準一	雨竜消防団分団長	瑞宝単光章	

褒　　章

氏　名	所　　属	区　　分	受章年
奥野　義雄	滝川消防団団長	藍綬褒章	昭和63年
松葉　　弘	雨竜消防団団長	藍綬褒章	平成３年
赤羽　由晴	滝川消防団団長	藍綬褒章	平成19年
中西　準一	雨竜消防団分団長	藍綬褒章	
坂口　純一	滝川消防団副団長	藍綬褒章	平成21年

歴代組合長・副組合長・消防長・消防団長

組合長

歴　　代	氏　　名	期　　間	備　　考
初　　代	吉岡　清栄	昭和47年 3月30日～平成 3年 4月26日	
2　　代	林　　芳男	平成 3年 4月27日～平成14年 4月26日	
3　　代	田村　　弘	平成14年 4月30日～平成23年 4月26日	
4　　代	前田　康吉	平成23年 5月 2日～現　　在	

副組合長

	氏　　名	期　　間	備　　考
	安藤　君明	平成 6年 4月 1日～平成14年 4月27日	
	小畑　荘一	平成14年 4月28日～平成19年 4月26日	
	植田　　満	平成19年 5月 1日～現　　在	
	外山　輝雄	平成 6年 4月 1日～平成11年 4月25日	
	藤本　　悟	平成11年 4月27日～現　　在	

消防長

歴　　代	氏　　名	就任年月日	退職年月日	勤続年数	備　　考
初　　代	秋山　義雄	S47. 4. 1	S52. 3.31	5年	
2　　代	今井　定利	S52. 4. 1	S55. 3.31	3年	
3　　代	荒島　　保	S55. 4. 1	S57. 3.31	2年	滝川市助役 消防長事務取扱
4　　代	河野　通雄	S57. 4. 1	S60. 3.31	3年	
5　　代	舟津　博顕	S60. 4. 1	S63. 1.30	2年10ヶ月	
6　　代	青木　良蔵	S63. 2. 1	H 9. 3.31	9年 1ヶ月	
7　　代	河内　政文	H 9. 4. 1	H12. 3.31	3年	
8　　代	香川　弘光	H12. 4. 1	H14. 3.31	2年	
9　　代	小山　　進	H14. 4. 1	H16. 3.31	2年	
10　　代	北條　康一	H16. 4. 1	H18. 3.31	2年	
11　　代	小林　　惠	H18. 4. 1	H23. 3.31	5年	
12　　代	道下　義夫	H23. 4. 1	H25. 3.31	2年	
13　　代	森　富士彦	H25. 4. 1	H26. 3.31	1年	

滝川消防団長

歴　　代	氏　　名	就任年月日	退職年月日	勤続年数	備　　考
初　　代	赤坂　　忍	S47. 4. 1	S50. 9.30	7年 3ヶ月	
2　　代	奥野　義雄	S50.10. 1	H 5. 4.22	18年 7ヶ月	
3　　代	柴田　賛三	H 5. 5. 1	H 7. 4.30	2年	
4　　代	浮穴　孝良	H 7. 5. 1	H15. 3.31	7年11ヶ月	
5　　代	井尾　昌夫	H15. 4. 1	H19. 3.31	4年	
6　　代	赤羽　由晴	H19. 4. 1	H24. 3.31	5年	
7　　代	坂口　純一	H24. 4. 1	現　　在		

新十津川消防団長

歴　　代	氏　　名	就任年月日	退職年月日	勤続年数	備　　考
初　　代	斉藤　権一	S47. 4. 1	S54. 7.12	7年 3ヶ月	
2　　代	宮崎　博彰	S54. 7.13	S57. 1.31	2年 7ヶ月	
3　　代	平野　明徳	S57. 2. 1	H 9. 4.30	15年 3ヶ月	
4　　代	山香　靖時	H 9. 5. 1	H16. 3.31	7年11ヶ月	
5　　代	杉本　正人	H16. 4. 1	H21. 3.31	6年	
6　　代	宮井　忠士	H21. 4. 1	現　　在		

雨竜消防団長

歴　　代	氏　　名	就任年月日	退職年月日	勤続年数	備　　考
初　　代	佐々木市郎	S47. 4. 1	S50. 5.31	3年 2ヶ月	
2　　代	松葉　　弘	S50. 6. 1	H15. 3.31	27年10ヶ月	
3　　代	松浦　伸治	H15. 4. 1	現　　在		

江部乙消防団長

歴　　代	氏　　名	就任年月日	退職年月日	勤続年数	備　　考
初　　代	坂口　末一	S47. 4. 1	S50. 5.12	3年 1ヶ月	
2　　代	伊藤　　保	S50. 5.13	S62. 3.31	11年11ヶ月	
3　　代	宮崎　信治	S62. 4. 1	H 3. 4.25	4年 1ヶ月	
4　　代	松原　秀雄	H 3. 4.26	H 5. 4.30	2年	

※平成５年５月１日、滝川消防団と統合

平成25年度消防職員・消防団員表彰

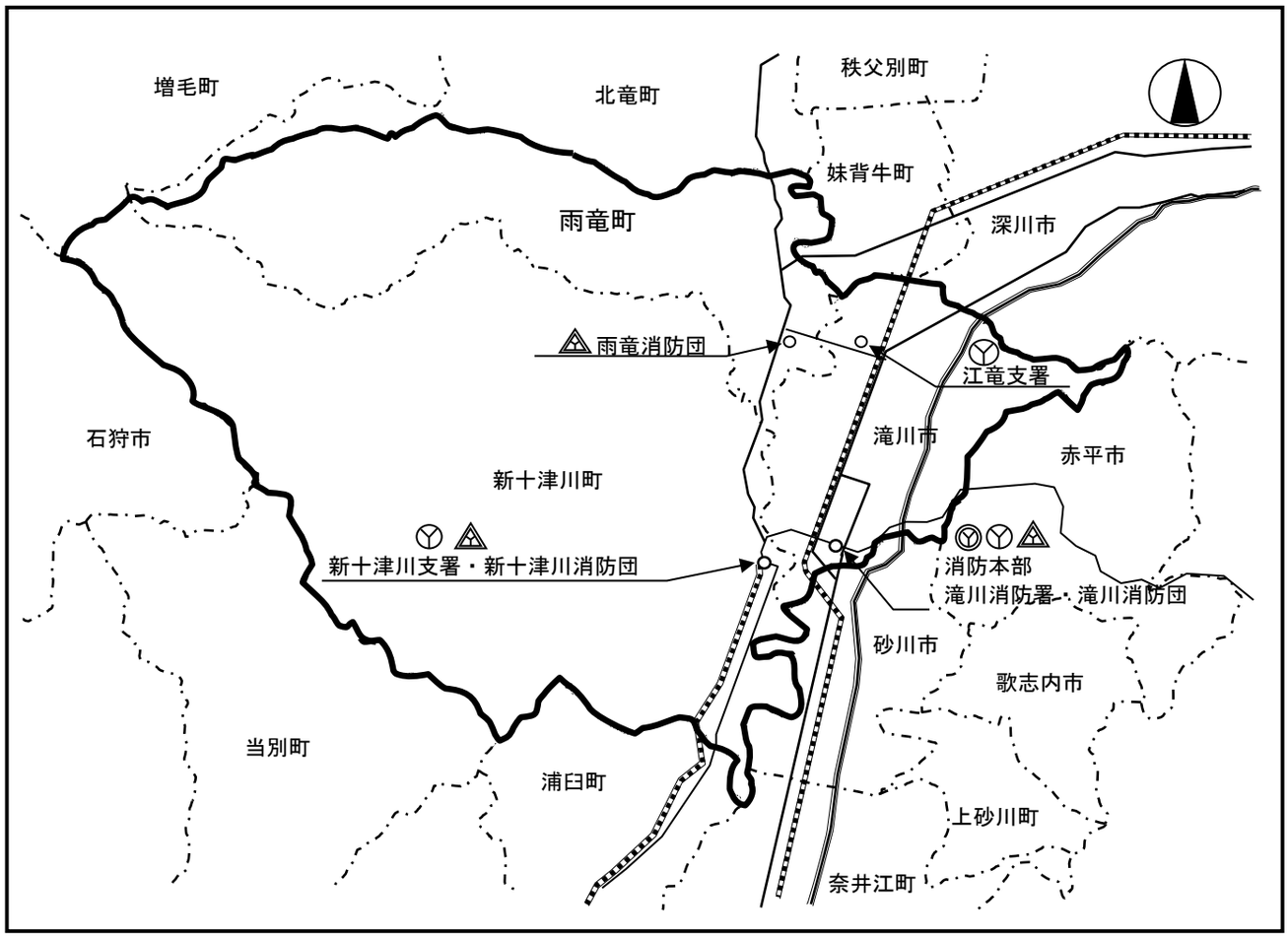
区分	消防本部消防署	滝川消防団	新十津川消防団	雨竜消防団	合計
叙位・叙勲・褒章	4	1		1	6
消防庁長官	1		1	1	3
日本消防協会長	2	2	1	2	7
北海道知事	6	10	6	3	25
全国消防長会	3				3
北海道消防協会長	14	8	4	2	28
北海道消防協会長空知地方支部長	5	8	10	9	32
北海道消防協会空知地方支部中空知分会		4	6	2	12
滝川地区広域消防事務組合長	5	2		1	8
滝川地区広域消防事務組合消防団長		4	4	1	9
合計	40	39	32	22	133

概　要

（1）管　内　図

組合構成市町

滝川市・新十津川町・雨竜町



（2）位　　置

区　分	広　ぼ　う		位　置 (世界測地系WGS84)			
	東西（km）	南北（km）	東端	西端	南端	北端
滝　川　市	16.90	15.80	142°　05’	141°　52’	43°　31’	43°　40’
新　十　津　川　町	35.00	30.00	141°　54’	141°　29’	43°　26’	43°　42’
雨　竜　町	31.80	15.95	141°　55’	141°　31’	43°　36’	43°　44’

（3）面　　積

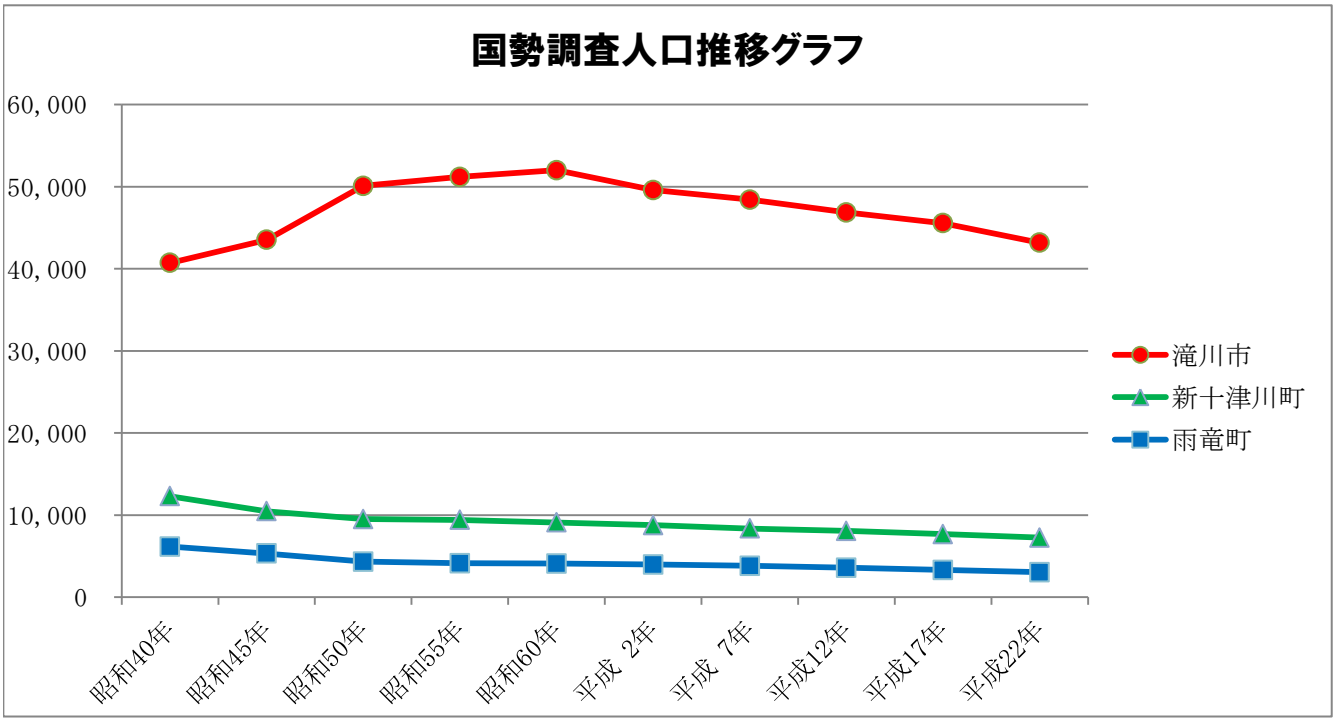
区　分	総　面　積（k㎡）	市街地面積（k㎡）	山　林　面　積（k㎡）	その他の面積（k㎡）
滝　川　市	115.82	16.18	12.43	87.21
新　十　津　川　町	495.62	2.52	385.35	107.75
雨　竜　町	190.91	1.39	130.82	58.70
総　数	802.35	20.09	528.60	253.66

（4）10年間人口及び世帯数の推移（各年3月末現在）

区　分	内訳						組合管内	
	滝川市		新十津川町		雨竜町			
	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口
平成17年	20,855	45,685	2,983	7,759	1,298	3,267	25,136	56,711
平成18年	20,915	45,226	2,997	7,652	1,302	3,186	25,214	56,064
平成19年	20,968	44,831	2,994	7,543	1,267	3,099	25,229	55,473
平成20年	21,047	44,394	2,990	7,470	1,270	3,054	25,307	54,918
平成21年	21,155	44,005	2,996	7,360	1,281	3,019	25,432	54,384
平成22年	21,189	43,594	2,994	7,297	1,283	2,970	25,466	53,861
平成23年	21,245	43,281	2,986	7,189	1,239	2,874	25,470	53,344
平成24年	21,269	42,815	2,963	7,088	1,237	2,835	25,469	52,738
平成25年	21,250	42,292	2,947	7,023	1,237	2,803	25,434	52,118
平成26年	21,298	41,988	2,964	6,950	1,229	2,751	25,491	51,689

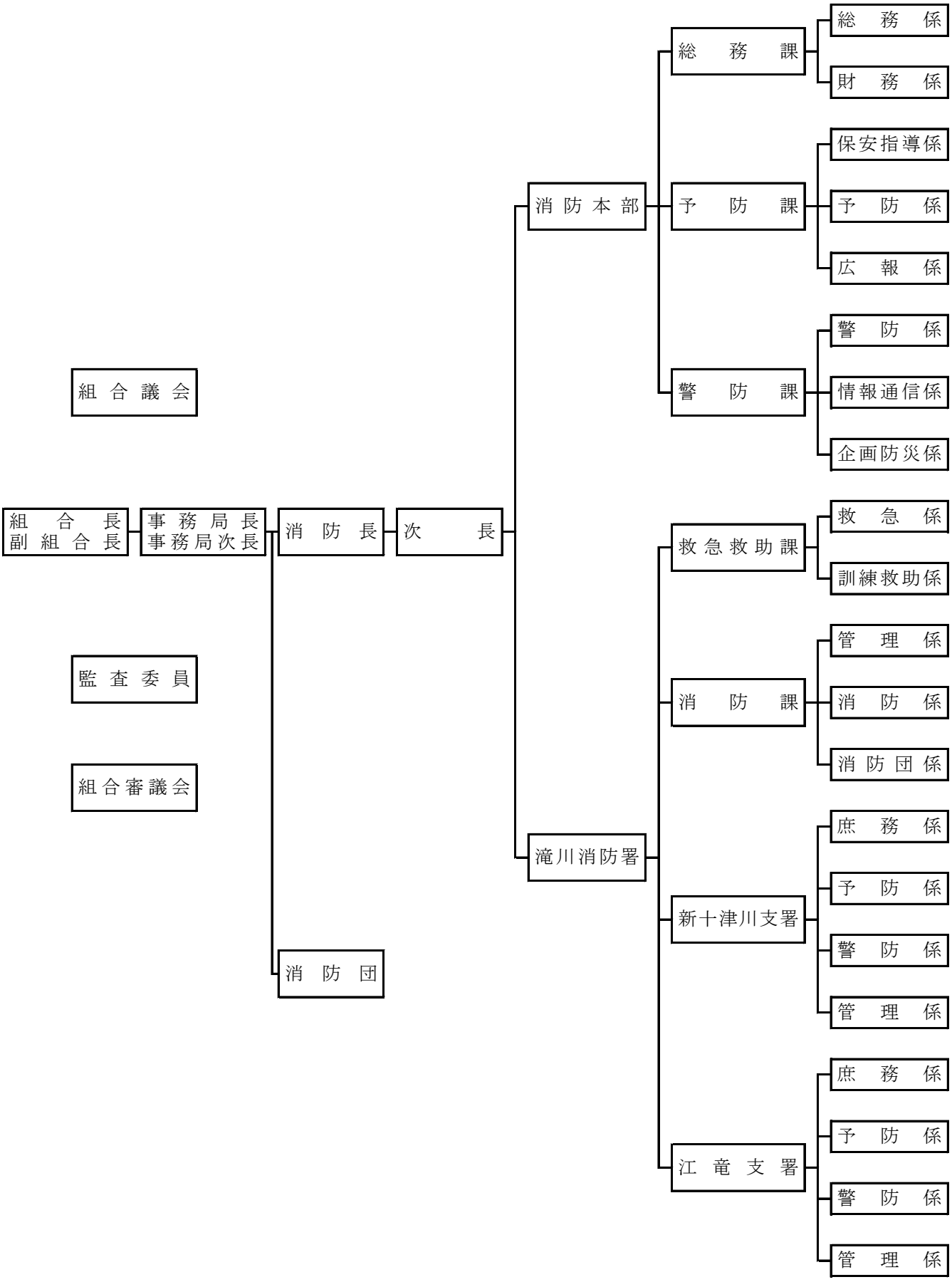
（5）国勢調査人口推移

区　分	内訳						組合管内	
	滝川市		新十津川町		雨竜町			
	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口
昭和40年	9,986	40,719	2,495	12,311	1,218	6,173	13,699	59,203
昭和45年	12,185	43,535	2,376	10,483	1,137	5,328	15,698	59,346
昭和50年	14,999	50,090	2,395	9,527	1,024	4,332	18,418	63,949
昭和55年	16,528	51,192	2,498	9,429	1,014	4,147	20,040	64,768
昭和60年	17,734	52,004	2,485	9,111	1,067	4,105	21,286	65,220
平成 2年	17,774	49,591	2,574	8,787	1,109	3,981	21,457	62,359
平成 7年	18,483	48,425	2,645	8,363	1,147	3,825	22,275	60,613
平成12年	18,733	46,861	2,710	8,067	1,144	3,601	22,587	58,529
平成17年	19,314	45,562	2,789	7,684	1,121	3,316	23,224	56,562
平成22年	18,947	43,170	2,694	7,249	1,067	3,049	22,708	53,468



（6）消 防 組 織 図

（平成２６年３月３１日現在）



（7）消 防 職 員 配 置 状 況

（平成26年3月31日現在）

区分		消防司令長		消防司令		消防司令補		消防士長		消防士		合計	
消防本部	消防長	1										1	
	次長			1								1	
	総務課			1	(1)	2	(2)		(1)		(2)	3	(6)
	予防課			1	(1)	1	(4)		(2)		(1)	2	(8)
	警防課			1	(1)		(5)		(1)		(3)	1	(10)
	庁舎建設準備室				(3)								(3)
	北海道派遣							1				1	
	計	1		4	(6)	3	(11)	1	(4)		(6)	9	(27)
消防署	滝川消防署			5		11		4		6		26	
	救急救助課			2		3		3		1		9	
	消防課			3		4		2		2		11	
	江竜支署			5		7		2		5		19	
	新十津川支署			5		4		2		3		14	
	計			20		29		13		17		79	
合計		1		24	(6)	32	(11)	14	(4)	17	(6)	88	(27)
定数												101	
構成比		1.14%		27.27%		36.36%		15.91%		19.32%			

（ ）は、兼務者数

（8）消防職員の年齢構成

（平成26年3月31日現在）

区分	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防士	合計	構成比
20歳未満					2	2	2.3%
20～25歳未満					12	12	13.6%
25～30歳未満				4	3	7	8.0%
30～35歳未満			2	10		12	13.6%
35～40歳未満			14			14	15.9%
40～45歳未満			8			8	9.1%
45～50歳未満			4			4	4.5%
50～55歳未満		12	3			15	17.1%
55歳以上	1	12	1			14	15.9%
合計	1	24	32	14	17	88	100%
年齢平均	60.0	54.9	41.1	30.0	22.1	39.6	

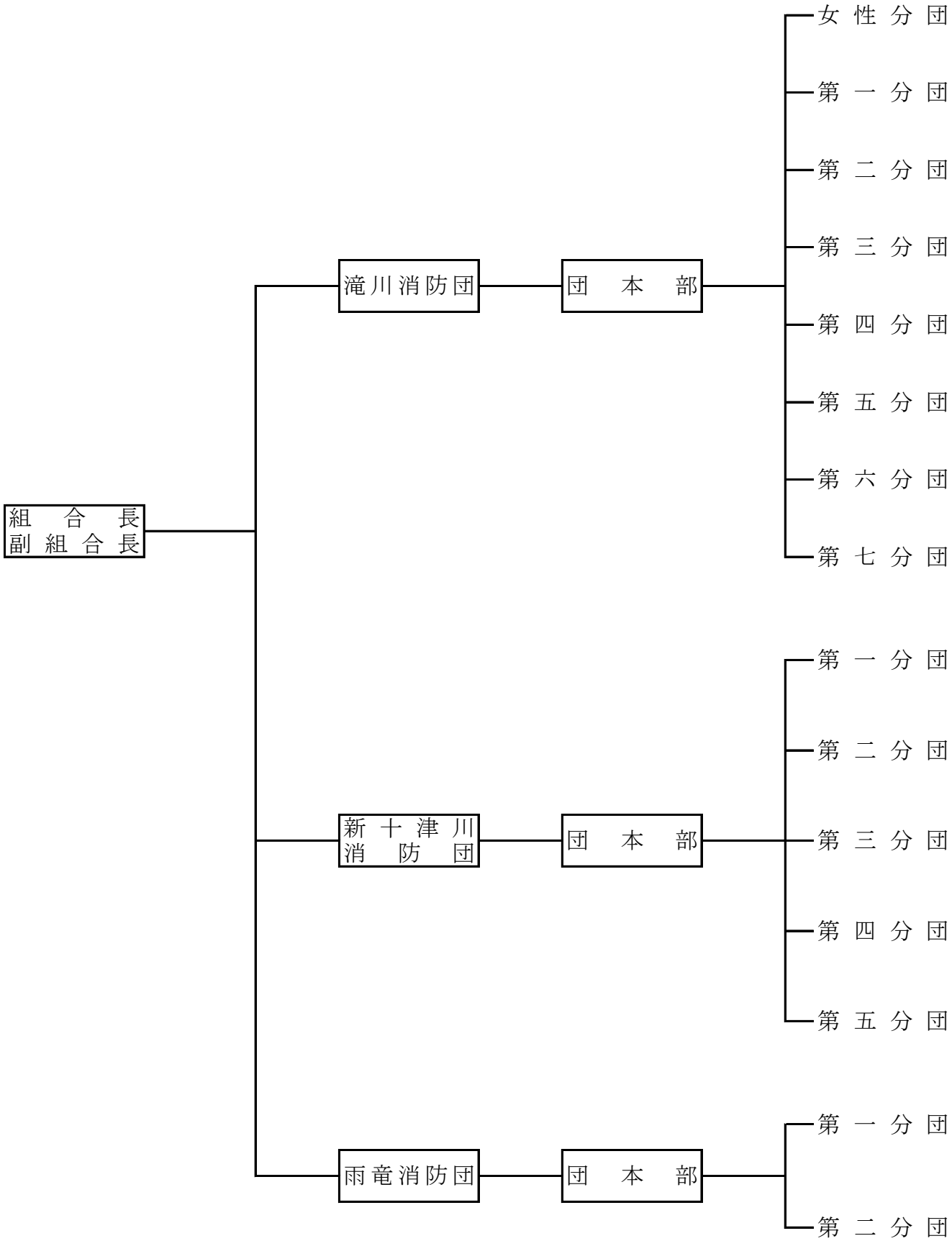
（9）消防職員の勤続年数

（平成26年3月31日現在）

区分	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防士	合計	構成比
1年未満					5	5	5.8%
1～5年未満				2	12	14	15.9%
5～10年未満				8		8	9.1%
10～15年未満				4		4	4.5%
15～20年未満			12			12	13.6%
20～25年未満			12			12	13.6%
25～30年未満		3	5			8	9.1%
30～35年未満		11	3			14	15.9%
35年以上	1	10				11	12.5%
合計	1	24	32	14	17	88	100%

（10）消 防 団 組 織 図

（平成26年3月31日現在）



（11）消防団員の階級別配置状況

（平成26年3月31日現在）

区分		団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	総数
滝川消防団	団本部	1	2	2	1				6
	女性分団			1	1	1	2	5	10
	第一分団			1	1	1	2	10	15
	第二分団			1	1	1	2	9	14
	第三分団			1	1	1	2	12	17
	第四分団			1	1	1	2	8	13
	第五分団			1	1	1	2	8	13
	第六分団			1	1	1	2	9	14
	第七分団			1	1	1	2	10	15
	小計	1	2	10	9	8	16	71	117
	（定数）	1	2	10	9	8	16	82	128
新十津川消防団	団本部	1	1	1		1	1	3	8
	第一分団			1	1	1	3	17	23
	第二分団			1	1	1	2	12	17
	第三分団			1	1	1	2	12	17
	第四分団			1	1	1	2	12	17
	第五分団			1	1	1	2	12	17
	小計	1	1	6	5	6	12	68	99
	（定数）	1	1	6	5	5	11	74	103
雨竜消防団	団本部	1	1	1					3
	第一分団			1	1	2	4	17	25
	第二分団			1	1	2	4	14	22
	小計	1	1	3	2	4	8	31	50
	（定数）	1	1	3	2	4	8	31	50
実員合計		3	4	19	16	18	36	170	266
（定数合計）		3	4	19	16	17	35	187	281

（12）消防団員の年齢構成

（平成26年3月31日現在）

区　　分	団　　長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部　　長	班　　長	団　　員	合　　計	構　成　比
20歳未満									
20～25歳未満							8	8	3.0%
25～30歳未満						1	10	11	4.1%
30～35歳未満							25	25	9.4%
35～40歳未満					1	4	41	46	17.3%
40～45歳未満					1	7	33	41	15.4%
45～50歳未満			2	3	6	12	26	49	18.5%
50～55歳未満			3	6	1	8	18	36	13.5%
55～60歳未満			3	4	7	4	8	26	9.8%
60～65歳未満		1	6	3	1			11	4.1%
65歳以上	3	3	5		1		1	13	4.9%
合　　計	3	4	19	16	18	36	170	266	100%
年 齢 平 均	73.7	66.8	59.3	54.8	52.2	46.6	40.3	44.9	

（13）消防団員の勤続年数

（平成26年3月31日現在）

区　　分	団　　長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部　　長	班　　長	団　　員	合　　計	構　成　比
1年未満							9	9	3.4%
1～5年未満				1			48	49	18.4%
5～10年未満			1		1	4	44	50	18.8%
10～15年未満				1	2	6	41	50	18.8%
15～20年未満			1	3	3	12	23	42	15.8%
20～25年未満			3	4	6	8	3	24	9.0%
25～30年未満		2	3	3	6	6	2	22	8.3%
30～35年未満		1	6	4				11	4.1%
35年以上	3	1	5					9	3.4%
合　　計	3	4	19	16	18	36	170	266	100%

（14）消防学校等入校状況

（平成26年3月31日現在）

区分		教育科課程		滝川	江竜	新十津川	合計
消防大学校		総合教育	幹部科		1		1
			上級幹部科				
			新任消防長・学校長科				
			消防団長科				
		専科教育	警防科				
			救助科				
			予防科				
			危険物科				
			火災調査科				
			新任教官科				
北海道消防学校	消防職員教育	初任教育		4	1	1	6
		専科教育	警防科				
			予防査察科				
			危険物科				
			火災調査科				
			救急科	2	3		5
			救助科				
		幹部教育	幹部科				
		特別教育	ポンプ操法指導員課程				
			はしご自動車運用課程				
			薬剤投与講習				
			気管挿管講習	3		1	4
			ビデオ硬性挿管用喉頭鏡気管挿管講習	2			2
	消防団員教育	課程別		滝川団	新十津川団	雨竜団	合計
		基礎教育					
		女性教育		2			2
		幹部教育		2	1	1	4

（15）消防職員特殊技能資格

（平成26年3月31日現在）

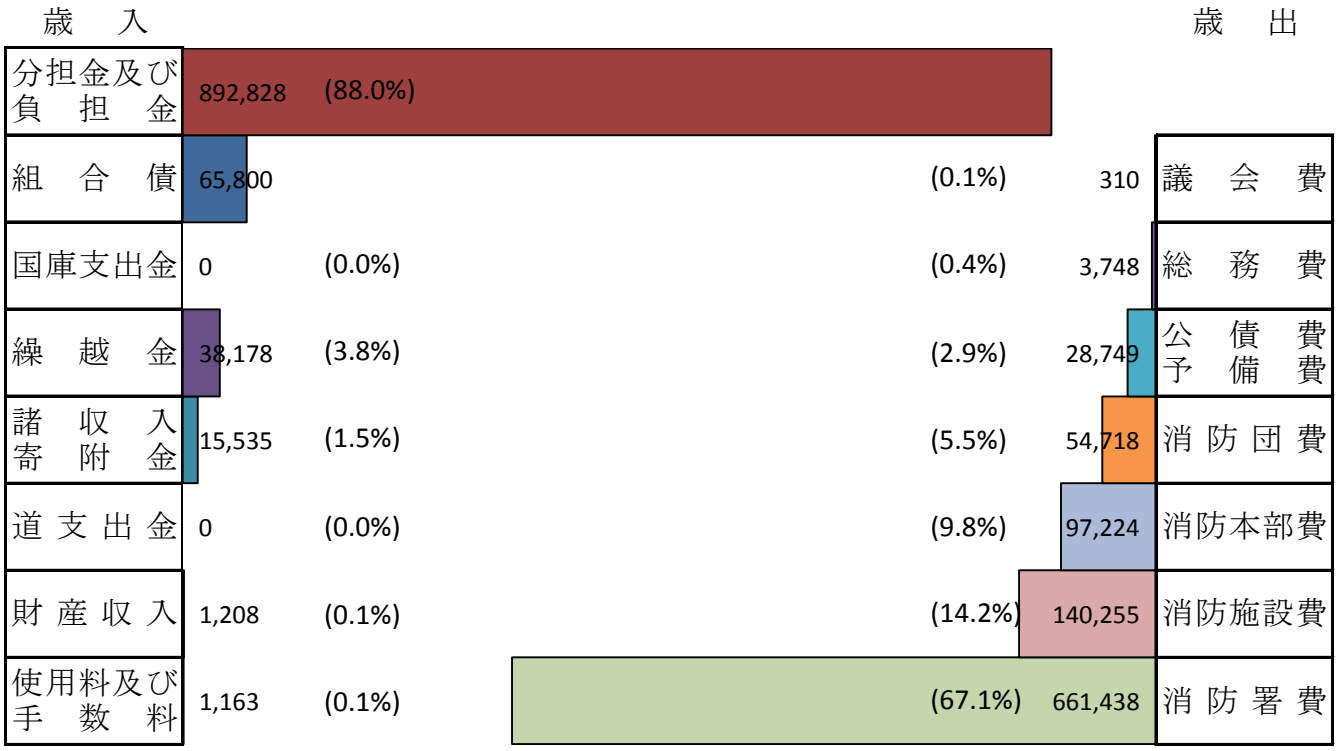
区分			本部	滝川消防署	江竜支署	新十津川支署	合計
警防関係	大型自動車免許	一種	8	41	17	13	79
	中型自動車免許	一種	8	41	17	13	79
	普通自動車免許	一種	8	47	19	14	88
		二種		1			1
	大型特殊自動車免許		4	8	2	3	17
	自動二輪	大型	2	7	2	2	13
		中型	1	4	3	1	9
		小型	1	1	1		3
	自動車整備士２級			1			1
	特殊無線技士	二級		3	2		5
		三級	1	2	1	1	5
		乙種		4	1	1	6
	小型船舶操縦免許	一級小船			1		1
		二級小船	4	14	1	3	22
	車両建設機械運転技能講習修了証		1	1	1	1	4
	特定自主検査者能力向上教育修了証			1			1
救急関係	救急隊員有資格者	Ⅰ課程	5	17	8	7	37
		Ⅱ課程	4	17	8	7	36
		標準課程	3	15	7	2	27
		救命士		16	4	6	26
		挿管		15	2	3	20
		薬剤		13	4	3	20
	応急手当指導員		6	33	10	11	60

区分			本部	滝川消防署	江竜支署	新十津川支署	合計
予防関係	消防設備士	甲種	3				3
		乙種	4	4	1		9
	危険物取扱者	甲種	1				1
		乙種	5	17	4	6	32
		丙種		1	1		2
	乙種火薬類取扱保安責任者		1				1
	ガス溶接技能講習修了者		1	5	2	2	10
	予防技術	査察	6	20	6	7	39
		消設備	4	2	2		8
		危険物	3	4	2		9
その他	衛生管理者	一種		1			1
		二種	2	1			3
	防災士		1		1		2
	安全運転管理者			1	1	1	3
	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者		1	2		1	4
	有機溶剤作業主任者			1			1
	ボイラー技士		2	1			3
	クレーン運転技能講習修了証		2	3	2		7
	玉掛技能講習修了証		1	1	2		4
	フォークリフト技能講習修了証				1		1
	高所作業車技能講習修了証				1		1

（16）平成25年度一般会計予算

（単位：千円）

予算総額　1,014,713　（ ）内は構成比



組合債の現在高と償還額

（単位：円）

区分		２４年度末現在高	２５年度起債額	平成２５年度中元利償還額			未償還額
				元金	利子	計	
消防施設整備事業債		206,047,000	0	13,079,420	4,004,804	17,084,224	192,967,580
防災基盤整備事業債		43,535,520	0	6,317,520	773,607	7,091,127	37,218,000
施設整備事業債		85,550,000	0	2,661,000	773,607	7,091,127	82,889,000
石綿対策事業債		34,400,000	0	0	344,000	344,000	34,400,000
緊急防災・減災事業債		199,700,000	65,800,000	0	788,951	788,951	265,500,000
合計		569,232,690	65,800,000	22,057,940	6,691,247	28,749,187	612,974,750
内訳	共通	206,250,000	0	4,078,000	819,690	4,897,690	202,172,000
	滝川市	215,185,520	65,800,000	6,264,520	2,237,872	8,502,392	274,721,000
	雨竜町	15,100,000	0	1,886,000	117,028	2,003,028	13,214,000
	滝川市・雨竜町	132,697,170	0	9,829,420	3,616,657	13,346,077	122,867,750

組合財産

（単位：㎡）

区分	数量	構成市町別内訳			
		滝川市・雨竜町	滝川市	新十津川町	雨竜町
土地	2,952.33	2,660.13	292.20	－	－
建物	5,047.62	881.08	3,112.24	545.80	508.50

警　防

（1）消防機関の出動状況

（平成25年）

区分	消防本部・署所		消防団	
	出動回数	出動延人数	出動回数	出動延人数
火災	16	260	7	178
風水害等の災害	2	6		
演習・訓練等	53	502	60	2,010
救急	1,919	5,895		
救助活動	56	466		
広報・指導	99	199	38	465
警防調査	94	310		
火災調査	28	106		
特別警戒			11	305
捜索	2	14		
予防査察	349	704	2	34
誤報等	21	141		
危険排除	73	427		
合計	2,712	9,030	118	2,992

（2）消防庁舎施設

名称	所在地	土地		建物		
		地積(㎡)	取得年月日	構造	延面積(㎡)	取得年月日
消防本部 滝川消防署	滝川市緑町 2-2-31	1,241.61	S53. 8. 1 滝川市 借用	鉄筋コンクリート造 3階建	1,563.75	S54. 3.25
滝川消防署 北分遣所	滝川市滝の川町 西3-1-43	467.06	S60.11. 1 滝川市 借用	鉄骨造 平屋建	191.70	S61. 3.25
江竜支署	滝川市江部乙町 514-11	2,799.97	H17. 7. 1	鉄筋コンクリート造 2階建	881.08	H19. 2. 7
新十津川 支署	新十津川町字 中央301-1	町役場 合同庁舎		鉄筋コンクリート造 2階建	366.40	S47. 4. 1 新十津川町 借用
滝川消防署 訓練塔	滝川市緑町 2-2-31	429.00	S62. 4. 1 滝川市 借用	鉄筋コンクリート造 5階建	193.63	S59.11.20
訓練用地	〃	212.54	S62. 4. 1 滝川市 借用	鉄骨造	27.50	S59.11.20
消防職員 待機宿舎	滝川市大町 3-3-4	652.67	S58. 4. 1 滝川市 借用	鉄筋コンクリート造 3階建 6戸	362.67	S51.12.10
	新十津川町字 中央6-100	307.23	S50.12. 1 新十津川 町借用	補強コンクリートプレハブ造 2階建 4戸	222.06	S50.11.30

（平成26年3月31日現在）

名　　称	所　在　地	土　地		建　　物		
		地積(㎡)	取得年月日	構　　造	延面積(㎡)	取得年月日
《滝　川》						
第一分団 第二分団 第三分団 (滝川消防団第一・二・三分団合同詰所)	滝川市本町 5-3-3	766.28	H22. 8.26 滝川市 借　用	鉄筋コンクリート造 2階建	328.28	H23. 2. 8
第四分団	滝川市東滝川町 3-1-26	東滝川地域体育館合築		補強コンクリート ブロック造	134.09	H25.12.22
第五分団	滝川市泉町 2-1-3	292.20	S52. 1.10	補強コンクリート ブロック造	148.62	S51.12.20
第六分団 第七分団	滝川市江部乙町 西12-3	316.29	H17. 7.15 滝川市 借　用	鉄筋コンクリート造 2階建	189.50	H18.12.21
《新十津川》						
第一分団	新十津川町 字中央301-1		S59. 5. 8 新十津川 町借用	（新十津川役場車庫に併設）		S47. 4. 1
第二分団	新十津川町 字花月201-46	649.29	S57. 9. 1 新十津川 町借用	補強コンクリート ブロック造平屋建	80.19	S57.12.10
第三分団	新十津川町 字中央71-97	136.07	S51.12. 1 新十津川 町借用	補強コンクリート ブロック造平屋建	81.68	S51.11.20
第四分団	新十津川町 字大和116-1	245.82	S62.11.28 新十津川 町借用	木造サイディング 張り平屋建	80.19	S62.11.28
第五分団	新十津川町 字吉野105-6	330.74	S52. 9.22 新十津川 町借用	補強コンクリート ブロック造平屋建	81.68	S52. 9.13
《雨　竜》						
第一分団	雨竜町字 尾白利加88-27	1,868.00	S47.12.25 雨竜町 借　用	鉄骨造 2階建	400.54	S47.12.25
第二分団	雨竜町字 尾白利加96-35	1,320.00	S47. 4. 6 雨竜町 借　用	補強コンクリート ブロック造平屋建	108.00	S55.10.27

（3）消防署車両現勢一覧

所属	配置及び呼称	車体	型別	年式	経過年数	登録番号	総排気量（L）	全長(cm)	全巾(cm)	全高(cm)
本部	連絡車	トヨタ		H 9. 5	16	札幌77 た4147	1.49	426	168	146
	広報車	トヨタ		H 8. 9	17	札幌800 せ5814	2.98	524	169	253
滝川消防署	滝川タンク1	日野	水Ⅱ型	H16. 11	9	札幌800 は1805	6.40	697	230	307
	滝川タンク2	日野	水Ⅱ型	H25. 1	1	札幌830 さ3174	8.86	963	249	328
	瑞竜号	日野	水Ⅱ型	H 8. 3	18	札幌88 た3239	7.96	672	230	283
	蛟竜2号	日産	30m級	H 1. 9	24	札幌88 た746	11.67	995	249	357
	ポンプ1	いすゞ	CD-Ⅰ型	H 5. 10	20	札幌88 て7377	3.63	556	188	294
	滝川救急1	トヨタ	高規格	H22. 1	4	札幌831 ま119	2.69	562	189	259
	滝川救急2	トヨタ	高規格	H11. 1	15	札幌800 さ1934	3.37	574	180	251
	指揮車	日産		H 6. 11	19	札幌88 て9336	4.16	499	180	226
	ボートトレーラ	ミッドウエスト		H19. 3	7	札幌800 る2444		532	181	111
	ホイールローダ	三菱		H19. 8	6	滝川市 う1065	1.50	425	164	194
	4トンダンプ	三菱		H 2. 4	23	札幌11 ぬ2809	7.54	580	220	276
江竜支署	江竜タンク	日野	水Ⅱ型	H12. 11	13	札幌800 は2364	7.96	744	249	325
	江竜水槽	日野	水槽Ⅱ型	H17. 10	8	札幌800 は2365	12.91	900	249	319
	広報車	トヨタ		H11. 7	14	札幌800 さ3783	2.98	470	173	215
	江竜救急	トヨタ	高規格	H15. 3	11	札幌800 す6780	3.37	562	180	250
	ホイールローダ	TCM		H19. 11	6	滝川市 う1023	1.50	442	169	254
新十津川支署	新十津川タンク	日野	水Ⅱ型	H 3. 2	23	札幌88 た1292	13.26	765	249	300
	新十津川水槽	日野	水槽Ⅱ型	H11. 2	15	札幌800 は229	20.78	813	249	300
	広報車	トヨタ		H 5. 12	20	札幌88 て7684	2.98	461	169	208
	新十津川救急	トヨタ	高規格	H21. 8	4	札幌800 せ9112	2.69	562	189	258

（平成26年3月31日現在）

定員（名）	総重量（kg）	ポンプ形式	級別	無線識別信号	所属初年度登録日	自動車種別	備考
5	1,355				H14.12.19	普通	
8	2,760			たきかわこうほう	H 8. 9.26	普通	2B救急車改造
7	10,485	2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	たきかわたんく1	H16.11.29	中型	水量2,000ℓ
6	21,560	高圧2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	たきかわたんく2	H25. 1.22	大型	水量6,000ℓ 圧縮空気泡消火装置（CAFS）搭載
7	9,485	2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	たきかわたんく3	H 8. 3.19	中型	水量2,000ℓ
5	18,595			たきかわはしご	H 1. 9.22	大型	はしご30m
10	5,300	2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	たきかわぽんぷ	H 6.12.27	中型8t限定	
8	3,180			たきかわきゅうきゅう1	H22. 1.13	普通	
7	2,895			たきかわきゅうきゅう2	H11. 1.14	普通	
7	2,625			たきかわしき	H 6.11.28	普通	
	680				H19. 4.23	普通	
1	3,170				H19. 8. 7	小型特	
3	7,985				H18. 6. 6	中型8t限定	市役所より譲渡
6	11,860	3段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	こうりゅうたんく	H12.11.13	大型	水量2,000ℓ
3	21,815	可搬消防ﾎﾟﾝﾌﾟ	B-2	こうりゅうすいそう	H17.10.27	大型	水量10,000ℓ、セルプラ付
8	2,480			こうりゅうこうほう	H11. 7.30	普通	
7	2,905			こうりゅうきゅうきゅう	H15. 3.24	普通	山之内製薬より寄贈
1	3,200				H19.11. 2	小型特	
7	13,315	2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	しんとつかわたんく	H 3. 1.31	大型	水量3,000ℓ
2	19,930	可搬消防ﾎﾟﾝﾌﾟ	B-2	しんとつかわすいそう	H11. 2.18	大型	水量10,000ℓ
8	2,490			しんとつかわこうほう	H 5.12.21	普通	
7	3,135			しんとつかわきゅうきゅう	H21. 8. 3	普通	

（4）消防団車両現勢一覧

所属	配置及び呼称	車体	型別	年式	経過年数	登録番号	総排気量（L）	全長(cm)	全巾(cm)	全高(cm)
滝川消防団	第一分団車(ﾎﾟﾝﾌﾟ車)	いすゞ	CD-Ⅰ型	S61. 9	27	札88 せ9654	3.63	512	188	255
	第二分団車(ﾎﾟﾝﾌﾟ車)	いすゞ	CD-Ⅰ型	H25.12	0	札幌830 す2119	2.99	566	188	266
	第三分団車(ﾀﾝｸ車)	日野	水Ⅰ-A型	H14. 2	12	札幌800 す3433	7.96	677	226	258
	第四分団車(ﾀﾝｸ車)	日野	水Ⅰ-A型	H19.11	6	札幌830 さ4119	6.40	639	228	277
	第五分団車(ﾀﾝｸ車)	日野	水Ⅰ-A型	H12.11	13	札幌800 さ9371	7.96	635	229	281
	第六分団車(ﾎﾟﾝﾌﾟ車)	三菱	CD-Ⅰ型	H 6.12	19	札幌88 て9476	4.56	566	188	278
	第七分団車(ﾀﾝｸ車)	日野	水 Ⅱ 型	H 4. 9	21	札幌88 て5896	7.41	667	227	268
新十津川消防団	第一分団車(ﾀﾝｸ車)	日野	水Ⅰ-A型	H24. 9	1	札幌800 そ3018	6.40	640	229	270
	第一分団車(ﾎﾟﾝﾌﾟ車)	日野	CD-Ⅱ型	H 4.10	21	札幌88 た2019	7.41	769	225	308
	第二分団車(ﾀﾝｸ車)	日野	水Ⅰ-A型	H25.10	0	札幌800 そ4429	6.40	638	228	257
	第三分団車(ﾎﾟﾝﾌﾟ車)	三菱	CD-Ⅰ型	H 7.10	18	札幌88 と1289	4.56	582	188	258
	第四分団車(ﾎﾟﾝﾌﾟ車)	三菱	CD-Ⅰ型	H 1.10	24	札幌88 て1939	3.56	556	188	270
	第五分団車(ﾀﾝｸ車)	日野	水Ⅰ-A型	H11.10	14	札幌800 さ4694	7.96	631	227	257
雨竜消防団	第一分団車(ﾀﾝｸ車)	日野	水Ⅱ型	H25.12	0	旭川802 ひ1	6.40	692	226	270
	第二分団車(ﾎﾟﾝﾌﾟ車)	日野	CD-Ⅰ型	H23. 1	3	旭川832 は119	4.01	576	196	290

（平成26年3月31日現在）

定員(名)	総重量(kg)	ポンプ形式	級別	無線識別信号	所属初年度登録日	自動車種別	備考
10	4,050	2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	たきかわ1ぶんだん	S61. 9. 6	普通	
6	4,840	高圧2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	たきかわ2ぶんだん	H25.11.26	普通	
7	7,535	2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-1	たきかわ3ぶんだん	H14. 2.20	中型8t限定	損保より寄贈 水量1,500ℓ
7	7,585	3段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	たきかわ4ぶんだん	H19.11.20	中型8t限定	水量1,500ℓ
7	7,515	2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	たきかわ5ぶんだん	H12.11. 9	中型8t限定	水量1,500ℓ
6	5,510	2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	たきかわ6ぶんだん	H 6.12.27	中型8t限定	
7	7,905	2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	たきかわ7ぶんだん	H 4. 9.30	中型8t限定	水量2,000ℓ
7	7,935	2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	しんとつかわ1ぶんだん	H24. 9. 6	中型8t限定	水量1,500ℓ
7	9,195	2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	しんとつかわぽんぷ	H 4.10.16	中型	
7	7,965	2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	しんとつかわ2ぶんだん	H25.10.16	中型8t限定	水量1,500ℓ
10	5,410	2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	しんとつかわ3ぶんだん	H 7.10.16	中型8t限定	
10	4,690	2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	しんとつかわ4ぶんだん	H 1.10.30	普通	
7	7,585	2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	しんとつかわ5ぶんだん	H11.10.18	中型8t限定	水量1,500ℓ
6	7,960	高圧2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	うりゅう1ぶんだん	H25.12.13	中型8t限定	水量2,000ℓ
6	6,890	高圧2段ﾊﾞﾗﾝｽﾀｰﾋﾞﾝ	A-2	うりゅう2ぶんだん	H23. 1.24	中型8t限定	水量600ℓ 圧縮空気泡消火装置(CAFS)搭載

（5）無線・通信機器・主な消防機器・器具の状況

（平成26年3月31日現在）

区分		消防本部	滝川消防署	江竜支署	新十津川支署	合計	滝川消防団	雨竜消防団	新十津川消防団	合計
無線	基地局（デジタル・アナログ）	1				1				
	基地局（アナログ）			1	1	2		1	1	2
	固定局（アナログ）	1		1	1	3		1	1	
	陸上移動局（車載デュアル）	1	8	4	4	17	7	2	6	15
	陸上移動局（可搬デュアル）	1		1	1	3				
	陸上移動局（卓上固定デュアル）	1		1	1	3				
	陸上移動局（アナログ携帯）	2	14	10	11	37				
	陸上移動局（デジタル携帯）	3	7	4	4	18				
	陸上移動局（署活系）	3	16	7	7	33				
移動電話	衛星携帯電話	1				1				
	スマートフォン	2				2				
通信指令装置	消防救急指令装置	1				1				
	サイレン吹鳴装置	1			1	2	4	3	4	11
	無線サイレン遠隔制御装置(メール親機)	1				1				
	無線サイレン遠隔制御装置(メール子機)				1	1	4	3	4	11
	広報拡声装置	1				1				
主な消防機器・器具	小型動力ポンプ			1	1	2	1	2	5	8
	発電機（車両据付型）		4	1	1	6			1	1
	発電機（移動型）		2	2	1	5	7	2	5	14
	管そう（無反動）・フォグガン		10	5	9	24	8	4	1	13
	泡ノズル（ピックアップ式）		4	2	1	7	3		2	5
	泡ノズル（フォームジェット）		2			2				
	ラインプロポーショナー		1	1	1	3				
	東消式発泡器		2	1		3				
	送排風機		2			2				
	可燃性ガス検知器		1			1				

（6）救急資機材保有状況

（平成26年3月31日現在）

区　　分	滝川消防署	江竜支署	新十津川支署	合計
除細動器	5	2	1	8
血圧モニター付心電計	2	1	1	4
携帯用心電計	1		1	2
携帯用パルスオキシメーター	2	1	2	5
血圧計	7	2	3	12
鼓膜体温計	3	1	2	6
自動式心マッサージ器	1			1
ショックパンツ（大人用）	2	1	1	4
ショックパンツ（小児用）	2	1	1	4
携帯用蘇生器（BVM）	4	1	1	6
電動式吸引器	4	1	1	6
心電図電送装置	1			1
自動ファクシミリ	1			1
輸液ポンプ	1			1
全脊柱固定具（バックボード）	3	2	2	7
全脊柱固定具（ショートボード）	3	1	1	5
ギブス	2	1	1	4
喉頭鏡一式	2	2	1	5
リングカッター	3	1	1	5
AEDトレーナー	8	1	1	10
蘇生用教育ダミー	7	1	1	9
滅菌器（高圧蒸気、ガス）	1	1	1	3
殺菌装置（紫外線・オゾン発生器）	1	3	1	5
ステリーキャビネット		1		1
ナビゲーション	2	1	1	4

（7）救助資機材保有状況

区分		滝川消防署	江竜支署	新十津川支署	合計
一般救助器具	かぎ付きはしご	1			1
	安全マット	6			6
	救命策発射銃	2		1	3
	サバイバースリング又は救助用縛帯	4	3	3	10
重量物排除用器具	油圧ジャッキ	2		1	3
	油圧スプレッダー	1	1	1	3
	可搬式ウインチ	2	1	1	4
	油圧ラムシリンダー	1	1	1	3
	マット型空気ジャッキ一式	1			1
	救助用ブロック	1	1		2
切断用器具	油圧カッター	1	1	1	3
	エンジンカッター	4	1	1	6
	チェンソー	2	2	1	5
	コードレスソー	1			1
破壊用器具	万能斧	6	6	4	16
	大ハンマー	2	2	1	5
隊員保護用器具	空気呼吸器	14	7	8	29
	空気ボンベ	42	20	20	82
	酸素呼吸器	2			2
	酸素ボンベ（呼吸器用）	4			4
	レスクマスク	4	3		7

（平成26年3月31日現在）

区分		滝川消防署	江竜支署	新十津川支署	合計
隊員保護用器具	耐電衣・ズボン	2		9	11
	耐電長靴	2		1	3
	耐電手袋	7	4	9	20
	耐熱服	2			2
	防塵マスク	53	19	14	86
水難・山岳救助用器具	救命ボート	1		1	2
	船外機	1		1	2
	救命胴衣	22	8	6	36
	救命浮環	7	8	2	17
	登山器具一式		1		1
	バスケット担架	1	1	1	3
	携帯型GPS	2	3	2	7
その他の救助器具	投光器	6	2	1	9
	携帯拡声器	5	2	2	9
	滑車	9	3	1	13
	牽引ワイヤー	4	5	6	15
	救助用張力計	1			1
救護用資機材	エアーテント	1			1

（８）水防・山林火災用資機材保有状況

（平成26年3月31日現在）

区分			滝川消防署	江竜支署	新十津川支署	合計
水防用資機材	麻袋（土のう袋）	袋	400	150	360	910
	縄類	巻	1		6	7
	丸太材杭	杭	69			69
	板材杭	枚	16			16
	鉄杭	杭	127		15	142
	鉄線	kg	2			2
	スコップ（剣先）	丁	25	6	28	59
	スコップ（角）	丁	9	7	11	27
	ツルハシ	丁	3	3	13	19
	カケヤ	丁	7	2	4	13
	たこづち	個	2			2
	一輪車	台	4			4
	ナタ	丁	2	1	2	5
	バン線切り（クリッパー）	丁	4	2		6
	シート張り工セット	枚	4			4
	ブルーシート	枚	6	3	3	12
山林火災用資機材	簡易防火用組立水槽	基	1	2		3
	携帯用防火セット	個	1			1
	可搬式消防ポンプ（動力）	台	2		1	3
	水のう付手動ポンプ	台	20	13	8	41
	小型背負ポンプ（動力）	台	1	1	1	3
	放水ホース	本	3	3		6
	刈払機	台	2	1	3	6

※新十津川支署保有分は、新十津川町役場（新十津川防災センター）で保有している資機材を掲載しています。

（9）現有消防水利

（平成26年3月31日現在）

区　分	25年度末総数	地区内訳			24年度末総数
		滝川地区	新十津川地区	雨竜地区	
公設消火栓	433	318	84	32	433
私設消火栓	40	35	4		40
公設防火水槽	100	68	16	16	100
私設防火水槽	16	16			16
公設打込消火栓	35	14	21		35
私設打込消火栓	2	2			2
公設貯水池・井戸等	1		1		1
私設貯水池・井戸等	3	3			3
総数	630	456	126	48	630

（10）地区別消防水利設置状況

（平成26年3月31日現在）

区　分	消火栓							防火水槽				その他					合計
	公設			私設			小計	公設		私設	小計	公設		私設		小計	
	単口	双口	計	単口	双口	計		コンクリート造40m³級	コンクリート造20m³級	コンクリート造40m³以上級		打込消火栓	井戸等	打込消火栓	貯水池等		
滝川市	305	13	318	27	8	35	353	68		16	84	14		2	3	19	456
新十津川町	84		84	4		4	88	13	3		16	21	1			22	126
雨竜町	32		32				32	13	3		16						48
合　計	421	13	434	31	8	39	473	94	6	16	116	35	1	2	3	41	630

（11）気 象 状 況

	平均風速	最大風速	最大風向	最高気温	最低気温	平均気温	降水量（合計）	最深積雪	積雪量（合計）
単位	m/s	m/s	16方位	℃	℃	℃	mm	cm	cm
1月	2.3	15.7	南西	3.7	-20.8	-8.8	36.0	93	154
2月	2.7	12.2	西	4.0	-23.0	-7.1	46.5	126	166
3月	3.6	13.6	南南西	7.8	-17.4	-2.3	49.5	141	178
4月	3.4	12.4	南南西	15.6	-7.0	3.9	77.0	103	24
5月	3.3	11.8	北	27.4	-0.5	9.5	54.0	-	-
6月	3.0	9.9	南西	29.4	7.2	17.1	30.5	-	-
7月	2.6	8.5	南西	31.8	13.5	21.4	50.0	-	-
8月	2.3	9.0	西北西	31.2	11.1	21.6	191.0	-	-
9月	2.3	9.9	西	27.2	2.2	16.4	213.5	-	-
10月	2.5	10.5	西南西	23.5	-0.4	10.4	110.0	-	-
11月	2.7	12.0	西	15.6	-8.2	3.3	118.5	31	85
12月	2.7	10.3	西南西	6.1	-17.6	-2.6	114.0	93	253

予　防

（1）平成25年組合管内火災一覧表

火災番号	火災区分	月日	発生場所	使途	焼損程度	焼損面積（㎡）	焼損棟数	り災世帯	り災人員	死者	傷者	見積損害額（千円）
1	建物	1/8	東滝川町2丁目	住宅	部分焼	3	1	1	1			58
2	建物	2/15	南滝の川	専用住宅	全焼	127	3	2	3			6,890
3	建物	3/4	二の坂町東1丁目	専用住宅	部分焼	3	1	1	2		1	329
4	建物	3/26	江部乙町東12丁目	専用住宅	ぼや	1	1	1	4			42
5	建物	4/29	新十津川町字大和	倉庫	全焼	72	1					1,094
6	建物	5/2	栄町1丁目	長屋	ぼや		1	1	1			16
7	建物	5/5	新十津川町字中央	専用住宅	半焼	28	1	1	3			1,796
8	建物	6/8	江部乙町	納屋	ぼや							3
9	建物	7/22	江部乙町	納屋	全焼	213	1				1	1,463
10	車両	8/2	新十津川町字弥生	車両								20
11	建物	9/3	西町8丁目	専用住宅(空家)	全焼	69	1	1	3			1,066
12	建物	9/15	江部乙町西11丁目	店舗	部分焼	10	1					2,843
13	建物	9/18	東町7丁目	物置	ぼや	1	1					3
14	車両	11/11	江部乙町	車両								78
15	建物	11/13	新十津川町字弥生	工場	ぼや		1					786
16	建物	11/14	黄金町東2丁目	作業場	全焼	78	1					2,347
合計						605	15	8	17		2	18,834

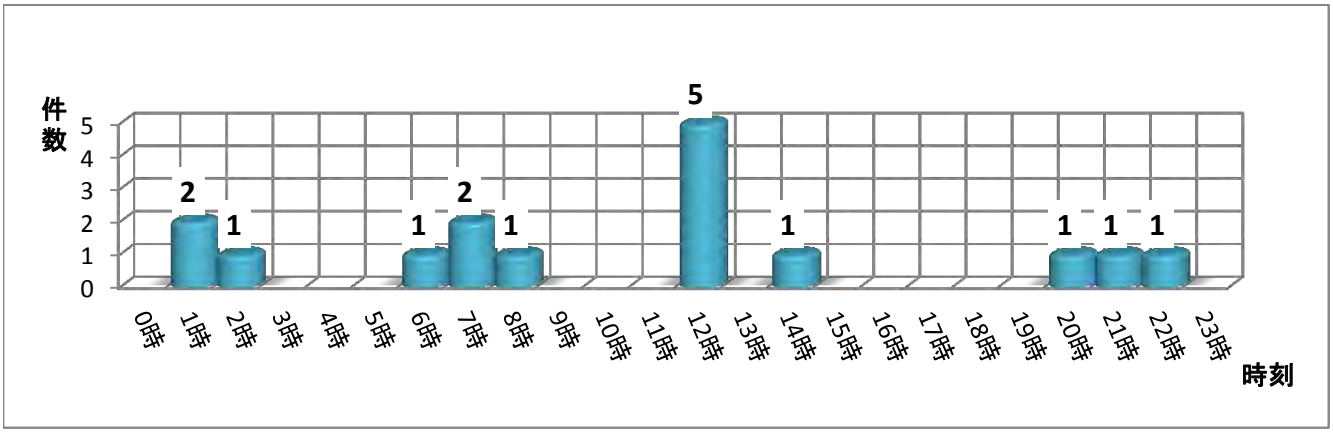
（2）原因別火災状況

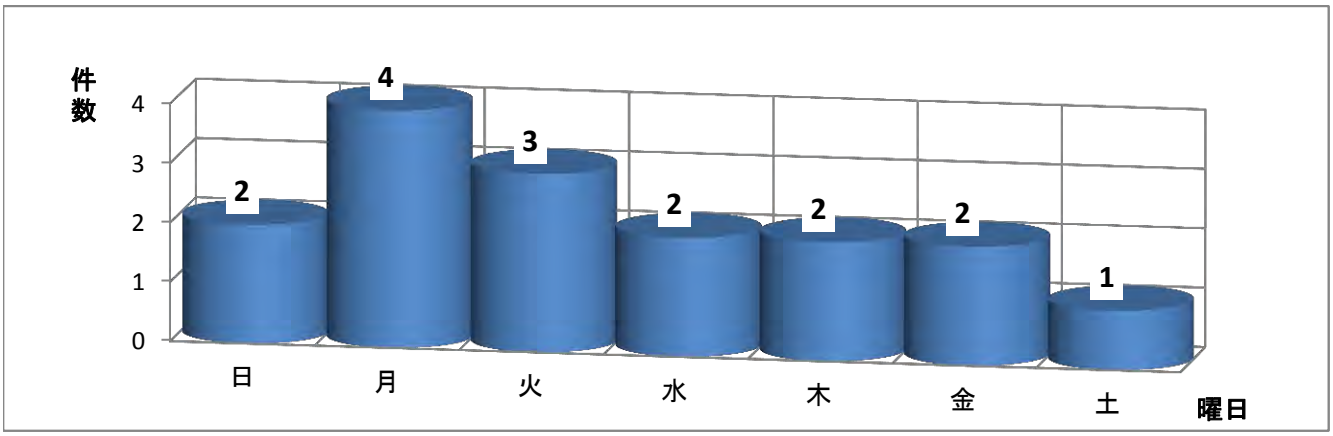
区分	建物火災				車両火災	林野火災	その他の火災	合計
	全焼	半焼	部分	ぼや				
たばこ								
こんろ								
ストーブ			1					1
煙突・煙道	1			1				2
電気機器								
焼却炉								
溶接機・溶断機								
灯火・灯明								
籾乾燥機								
ごみ焼・枯草焼		1						1
放火								
放火の疑い								
ガス爆発								
不明・調査中	3			3				6
上記以外	1		2	1	2			6
合計	5	1	3	5	2			16

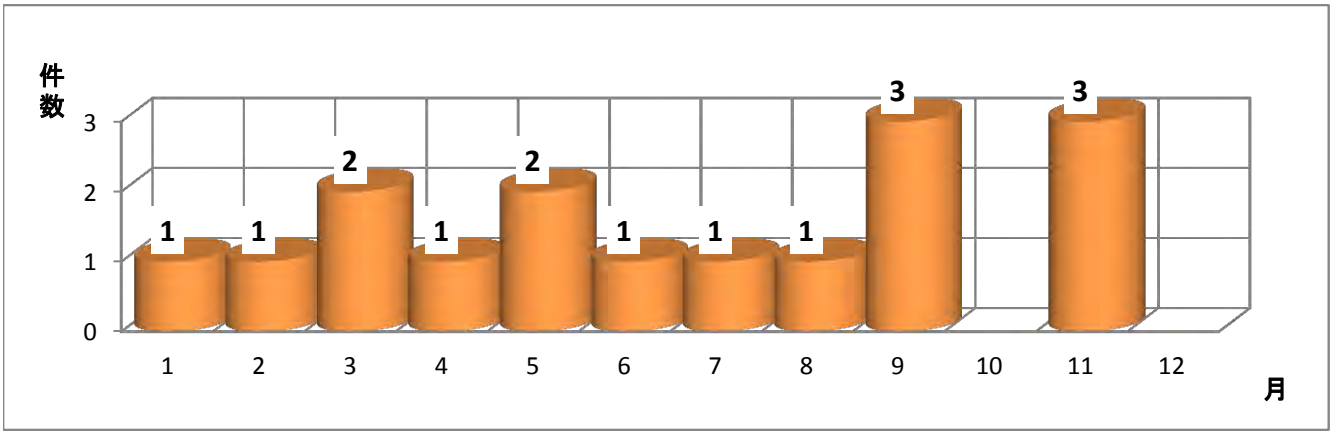
（3）対象物別火災状況

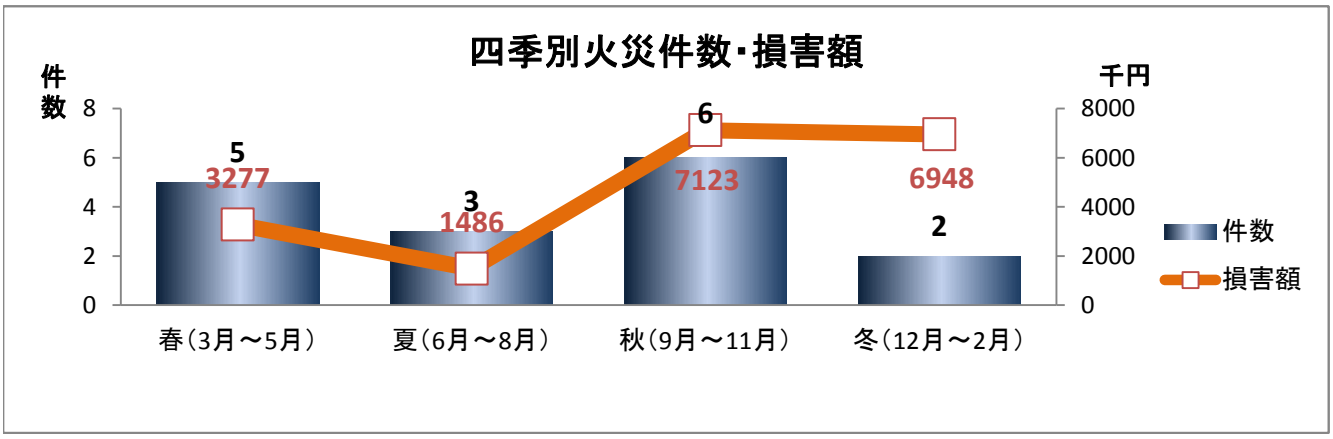
区分		発生件数	発生比率（%）	焼損面積（㎡）	損害見積額（千円）
令別表防火対象物	寄宿舎・共同住宅				
	複合用途（特定）	1	6.25%	78	2,347
	複合用途（非特定）				
	小計	1	6.25%	78	2,347
その他	車両	2	12.50%		98
	住宅	7	43.75%	238	12,982
	その他の建築物	6	37.50%	289	3,407
	その他				
	小計	15	93.75%	527	16,487
合計		16	100%	605	18,834

（4）時刻・曜日・月・四季別火災統計







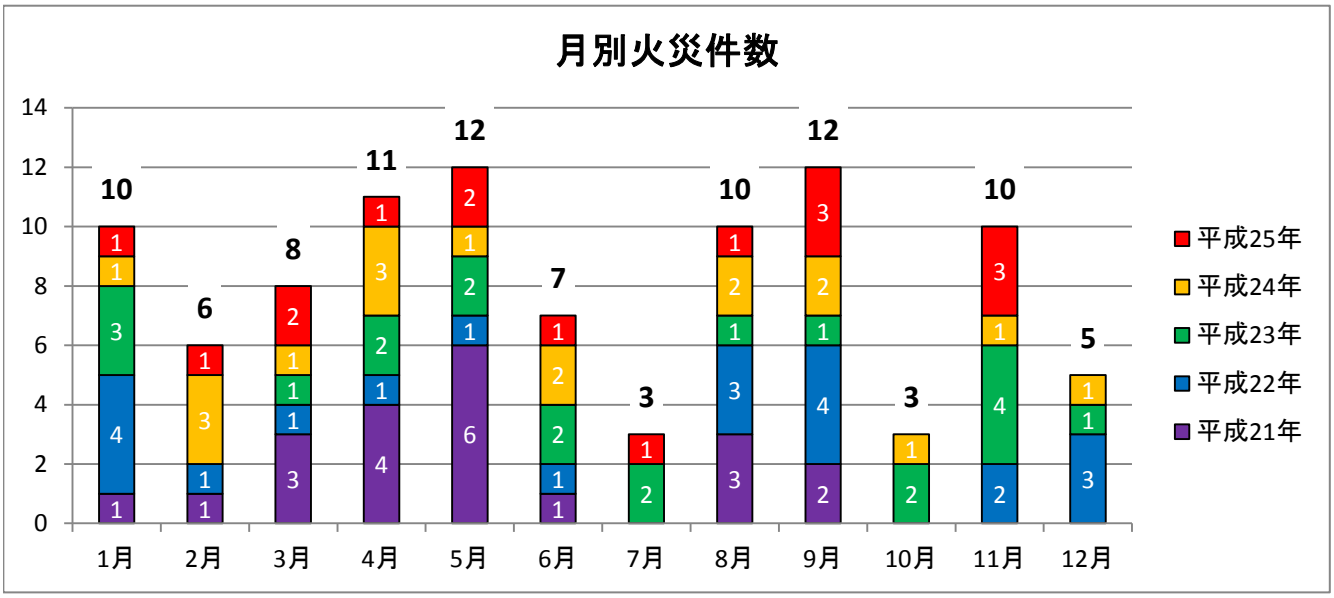


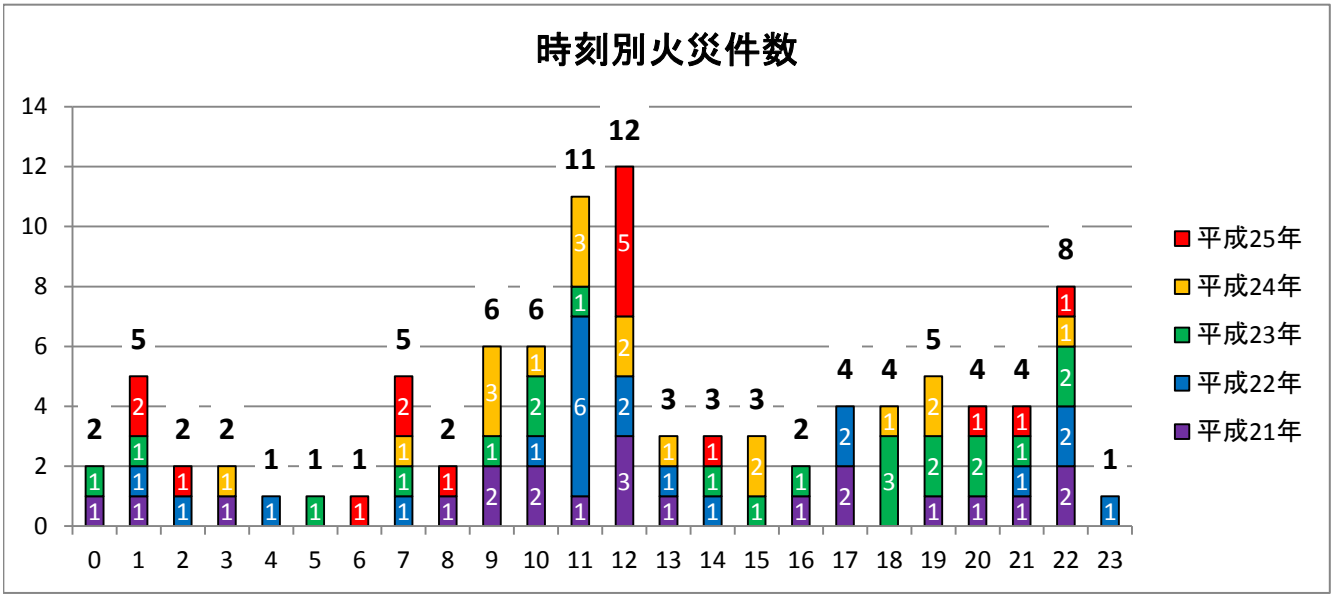
（５）火災発生状況（過去5年間）

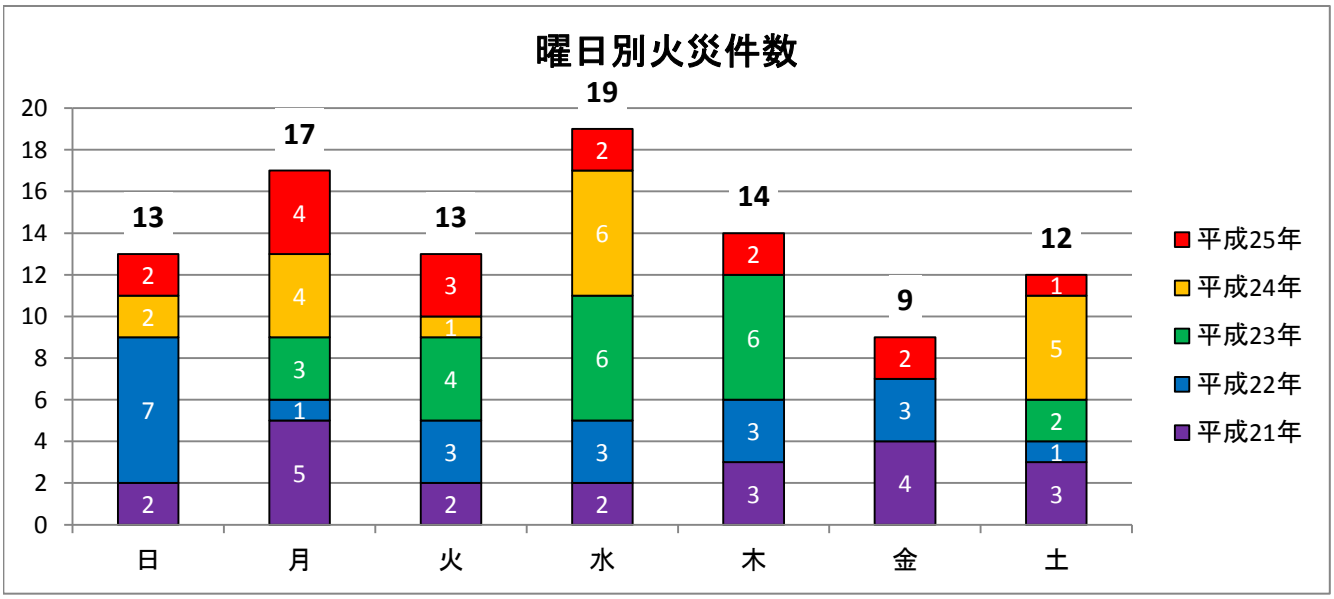
区分		平成２５年	平成２４年	平成23年	平成２２年	平成２１年
火災件数		16	18	21	21	21
火災種別	建物	14	14	14	13	18
	車両	2	3	7	7	2
	林野					
	その他		1		1	1
爆発						
焼損棟数	全焼	5	6	5	2	9
	半焼	1		2	2	6
	部分焼	3	3	3	3	3
	ぼや	5	5	4	6	4
り災世帯		7	9	8	5	6
り災人員		15	18	19	15	16
焼損面積	建物床面積（㎡）	600	1,124	1,893	599	1,394
	建物表面積（㎡）	5	3	3	11	18
	林野（ａ）					
損害額（千円）	建物	14,155	16,813	34,095	7,704	56,621
	収容物	4,581	3,847	22,883	3,377	14,873
	林野					
	車両	98	1,039	3,141	2,141	394
	その他				83	
	合計	18,834	21,699	60,119	13,305	71,888
	火災１件あたり	1,177	1,206	2,863	634	3,423
死傷者	死者		2	1	2	1
	負傷者	2	2	3	1	2
出火率（１万人当たり）		3.1	3.5	4.0	3.9	3.9

（6）原因別火災件数(過去5年間)

区分	平成25年	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年	合計
たばこ		1		1	1	3
こんろ		4	3	2	1	10
ボイラー	1					1
ストーブ	1	2	1	2	3	9
煙突・煙道	2				1	3
排気管					1	1
電気機器					1	1
電気装置						
電灯・電話等の配線			2			2
内燃機関	1		2	3		6
配線器具	1	2	1	1	1	6
火遊び					1	1
マッチ・ライター				1		1
溶接機・切断機				1		1
灯火・灯明		1				1
火入れ	1	3			3	7
放火		1	3	2	2	8
放火の疑い			2			2
ガスバーナー						
ガス爆発						
焼却炉				1	2	3
その他	3	3	3	2	1	12
乾燥機						
不明・調査中	6	1	4	5	3	19
合計	16	18	21	21	21	97


月別火災件数
14
12
10
8
6
4
2
0
10
6
8
11
12
7
3
10
12
3
10
5
1月
2月
3月
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
平成25年
平成24年
平成23年
平成22年
平成21年


時刻別火災件数
14
12
10
8
6
4
2
0
2
5
2
2
1
1
1
5
2
6
6
11
12
3
3
3
2
4
4
5
4
4
8
1
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
平成25年
平成24年
平成23年
平成22年
平成21年


曜日別火災件数
20
18
16
14
12
10
8
6
4
2
0
13
17
13
19
14
9
12
日
月
火
水
木
金
土
平成25年
平成24年
平成23年
平成22年
平成21年

（8）所在地別事務処理件数

（平成26年3月31日現在）

事務の種別			所在地				合計
			滝川市（江部乙町除く）	江部乙町	新十津川町	雨竜町	
関係法令による事務	危険物製造所等	設置許可	3	1	3		7
		変更許可	14	5	4	1	24
		設置完成検査	5	1	4		10
		変更完成検査	13	4	4	1	22
	危険物製造所等完成検査前検査申請		7				7
	危険物仮貯蔵・仮取扱承認						
	危険物・品名・数量・倍数変更届		1				1
	危険物製造所等廃止届		9	1	6		16
	危険物保安監督者選解任届		16		1	2	19
	防火管理者選解任届		76	1	7	10	94
	消防計画届		65	1	14	5	85
	消防用設備等着工届		21			5	26
	消防用設備等設置届		53	2	1	6	62
	消防用設備等点検結果報告書		461	39	254	100	854
	消防法令適合通知書		2	1			3
	圧縮アセチレンガス等の貯蔵取扱届		2			1	3
	建築確認申請		52	10	8	4	74
	建築物計画通知				1		1
条例による事務	禁止行為解除申請		2		1		3
	防火対象物使用開始届		28	10	3	2	43
	防火対象物休止届		1				1
	ボイラー等設置届		2	2	1		5
	発電・変電・蓄電池設備設置届		10	3	1	5	19
	火災とまぎらわしい煙又は火炎を発するおそれのある行為の届				1	1	2
	煙火打ち上げ届			5	12	3	20
	催物開始届						
	露店開設届					1	1
	ネオン管灯設備設置届						
	道路工事（道路占用同意事務含む）			6	30	11	47
	少量危険物指定可燃物貯蔵取扱届		16	1		3	20
	少量危険物指定可燃物貯蔵取扱廃止届		4				4
	少量危険物タンク検査申請						
	り災証明申請		6	7	7		20
	その他の証明申請		8				8
合計			877	100	363	161	1,501

（9）予防査察実施状況

（平成25年4月1日～平成26年3月31日 ）

防火対象物			地区別実施数				合計数	
項	区　　分	総計	滝川	江部乙	新十津川	雨竜	合計	割合
1項イ	劇場・映画館等	4			1		1	25.0%
1項ロ	公会堂・集会場	112	3		2		5	4.5%
2項イ	キャバレー・ナイトクラブ等							
2項ロ	遊技場・ダンスホール	5	4				4	80.0%
2項ハ	風俗営業店舗							
2項ニ	カラオケボックス	4						
3項イ	待合・料理店等							
3項ロ	飲食店	93	4	5	1	4	14	15.1%
4項	百貨店・店舗等	142	7		5	1	13	9.2%
5項イ	旅館・ホテル等	31	2	1	2	1	6	19.4%
5項ロ	寄宿舎・共同住宅等	929						
6項イ	病院・診療所等	40		2	3	2	7	17.5%
6項ロ	老人福祉施設等（入所施設）	35			4		4	11.4%
6項ハ	老人福祉施設等（通所施設）	45	2	2	5		9	20.0%
6項ニ	幼稚園・養盲聾学校	8			1	1	2	25.0%
7項	学校等	65						
8項	図書館・美術館等	9	1				1	11.1%
9項イ	蒸気浴場・熱気浴場							
9項ロ	公衆浴場	4						
10項	車両停車場	2						
11項	神社・寺院	61						
12項イ	工場・作業場	206						
12項ロ	映画・テレビスタジオ							
13項イ	自動車車庫	66						
13項ロ	飛行機・回転翼機格納庫	1						
14項	倉庫	243						
15項	事務所・事業所	383			1		1	0.3%
16項イ	複合用途（特定）	261	8	6	9	4	27	10.3%
16項ロ	その他の複合用途	105	1				1	1.0%
対象物総計		2,854	32	16	34	13	95	3.3%

不明対象物	69						
高齢者・独居	487	211	9	36	40	296	

（10）地区別危険物許可施設

（平成26年3月31日現在）

区別 / 地区別	貯蔵所							取扱所		合計
	屋内	屋外	屋内タンク	屋外タンク	簡易タンク	移動タンク	地下タンク	給油	一般	
滝川市	11	1	6	11	1	37	64	33	30	194
新十津川町			2	2		17	20	7	3	51
雨竜町			1	7		4	8	5	4	29
合計	11	1	9	20	1	58	92	45	37	274

（11）危険物施設立入検査実施状況

（平成26年3月31日現在）

区別 / 地区別	貯蔵所							取扱所		合計
	屋内	屋外	屋内タンク	屋外タンク	簡易タンク	移動タンク	地下タンク	給油	一般	
対象施設	11	1	9	20	1	58	92	45	37	274
実施施設	1	1		2	1	54	24	16	2	101
指摘施設		1				5	9	8		23
改善施設		1				5	9	8		23
改善率		100%				100%	100%	100%		

（12）地区別中高層建築物

（平成26年3月31日現在）

区分	4階（棟）	5階（棟）	6階（棟）	7階（棟）	8階（棟）	9階（棟）	10階（棟）	11階（棟）	合計
滝川市	72	42	8	5	1	4		2	134
新十津川町	4		1						5
雨竜町									
合計	76	42	9	5	1	4		2	139

（13）火災予防団体設立状況

（平成26年3月31日現在）

区分		会員数(人)	設立年月日
幼年消防クラブ	中央保育所	81	昭和 62 . 7 . 17
	東栄保育所	7	〃 62 . 7 . 17
	二の坂保育所	79	〃 62 . 7 . 17
	江部乙保育所	39	〃 62 . 7 . 17
	花月保育所	116	〃 62 . 7 . 17
	滝川幼稚園	260	〃 63 . 11 . 21
	白樺幼稚園	150	〃 63 . 12 . 12
	一の坂保育所	104	平成 13 . 2 . 10
	雨竜町保育園	40	〃 8 . 4 . 26
	計	876	
少年消防クラブ	滝川市立東小学校支部	21	昭和 54 . 8 . 27
	滝川市立江部乙小学校支部	5	〃 54 . 8 . 27
	滝川市立滝川第三小学校支部	4	〃 55 . 10 . 25
	滝川市立西小学校支部	2	〃 55 . 10 . 25
	滝川市立滝川第二小学校支部		〃 56 . 11 . 30
	滝川市立滝川第一小学校支部		〃 57 . 10 . 16
	新十津川町少年消防クラブ	17	〃 59 . 5 . 1
	計	49	
婦人防火クラブ	滝川市婦人防火クラブ	845	昭和 55 . 11 25
	新十津川町婦人防火クラブ	34	〃 55 . 4 21
	計	879	
滝川地区少年婦人防火委員会		1,866	昭和 57 . 6 . 25
滝川地区防火安全協会		168	平成 14 . 4 . 24
滝川市消防協会		6支部制全市民	昭和 40 . 4 . 1
新十津川消防団後援会連合会		5分会制全町民	昭和 57 . 2 . 15
雨竜消防団後援会		11町内全町民	昭和 48 . 4 . 1

急助

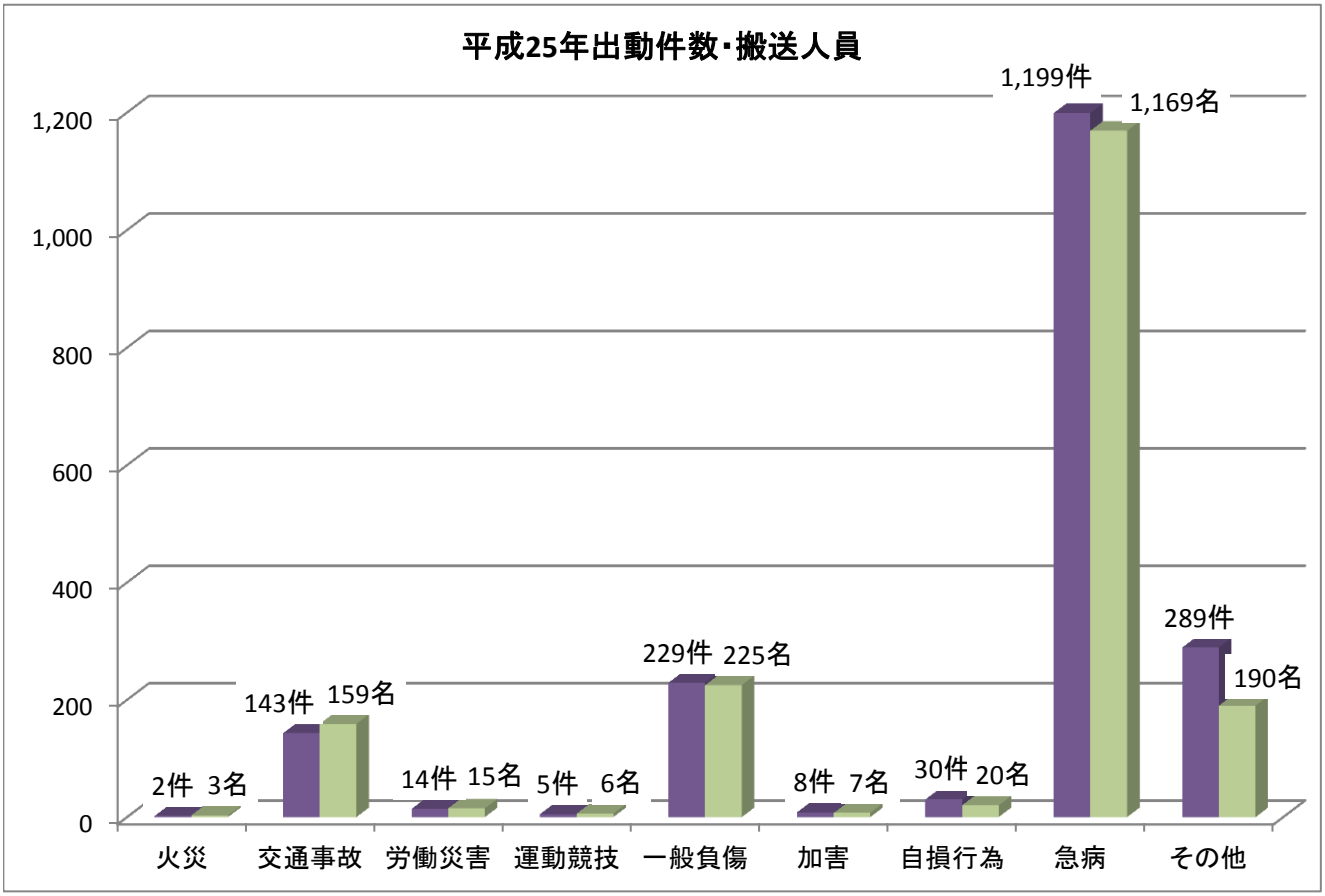
救救

（1）月別救急出動件数

区分 ＼ 事故種別		火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計	不搬送
1月	出動件数				7	1		21		1	141	25	196	17
	搬送人員				8	1		21			136	14	180	
2月	出動件数				9	3		20		1	87	19	139	7
	搬送人員				13	4		20		1	86	13	137	
3月	出動件数	1			11	3		13		4	93	28	153	18
	搬送人員	2			10	3		13		4	88	16	136	
4月	出動件数				9			21	2	5	97	20	154	15
	搬送人員				11			20	2	3	93	12	141	
5月	出動件数				9		1	20	1	3	102	29	165	18
	搬送人員				9		1	21	1	2	97	17	148	
6月	出動件数				18	1	1	12	1	5	104	12	154	10
	搬送人員				20	1	1	12		2	103	8	147	
7月	出動件数	1			14	1		22		2	94	27	161	10
	搬送人員	1			15	1		20		2	94	19	152	
8月	出動件数				14	2		28	2	3	96	30	175	14
	搬送人員				16	2		27	2	1	95	20	163	
9月	出動件数				11	2	2	21		1	95	20	152	9
	搬送人員				9	2	3	20			95	15	144	
10月	出動件数				11			12		1	78	28	130	12
	搬送人員				15			12		1	75	19	122	
11月	出動件数				13		1	11	2	1	104	23	155	11
	搬送人員				13		1	11	2	1	102	15	145	
12月	出動件数				17	1		28		3	108	28	185	11
	搬送人員				20	1		28		3	105	22	179	
総計	出動件数	2			143	14	5	229	8	30	1,199	289	1,919	152
	搬送人員	3			159	15	6	225	7	20	1,169	190	1,794	

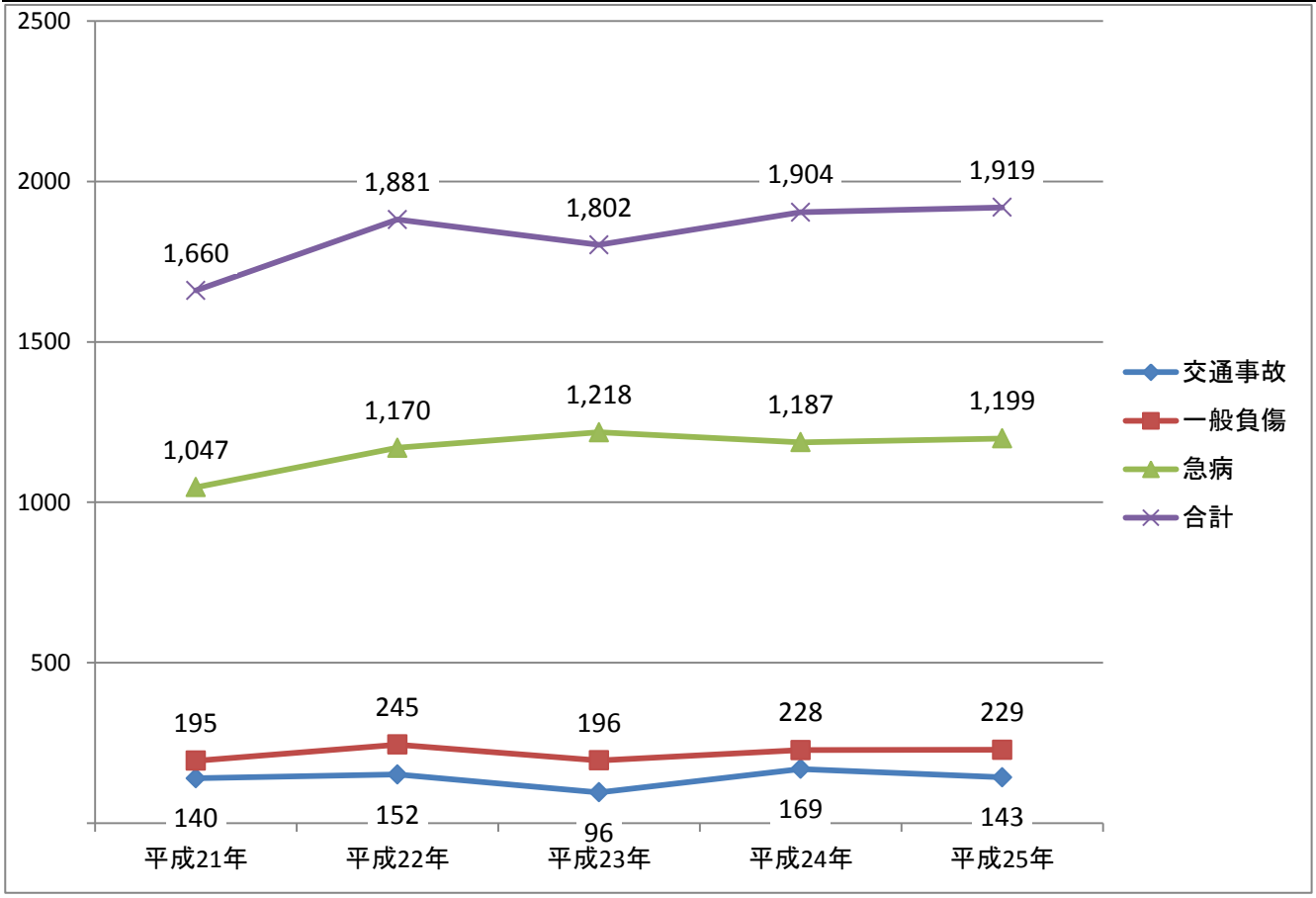
（2）地区別救急出動件数

区分		事故種別	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	総計	不搬送
滝川		出動件数	1			98	9	5	171	8	22	849	247	1,410	124
		搬送人員	2			108	10	6	167	7	14	826	165	1,305	
新十津川		出動件数				26	1		26		7	155	22	237	15
		搬送人員				30	1		27		5	150	15	228	
江竜	江部乙	出動件数	1			11	4		20		1	144	11	192	7
		搬送人員	1			11	4		20		1	143	5	185	
	雨竜	出動件数				8			12			51	9	80	6
		搬送人員				10			11			50	5	76	
	小計	出動件数	1			19	4		32		1	195	20	272	13
		搬送人員	1			21	4		31		1	193	10	261	
総計	総計	出動件数	2			143	14	5	229	8	30	1,199	289	1,919	152
		搬送人員	3			159	15	6	225	7	20	1,169	190	1,794	



（3）過去5年間の救急出動件数

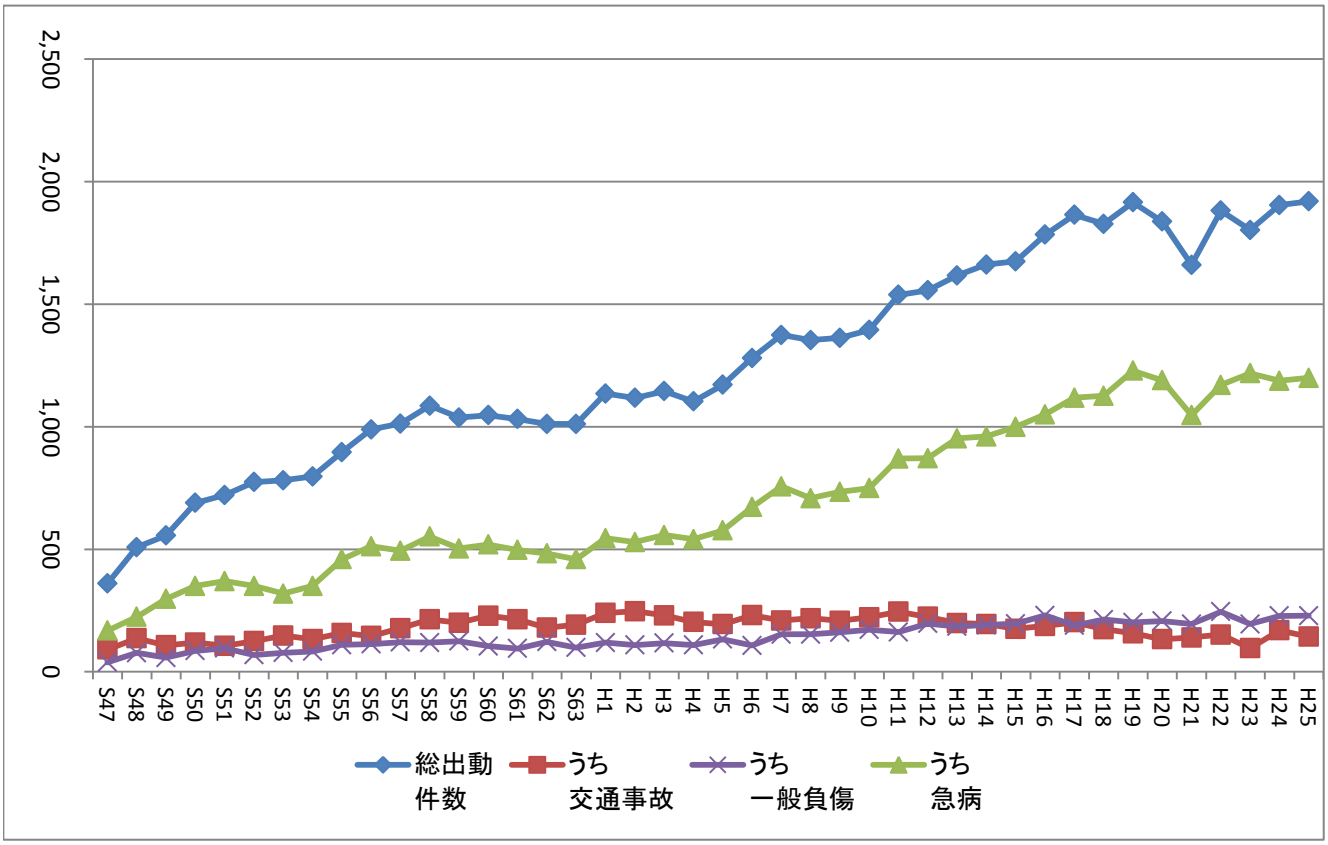
区分 ＼ 事故種別		火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計	不搬送
出動件数	平成25年	2			143	14	5	229	8	30	1,199	289	1,919	152
	平成24年	5			169	16	14	228	6	23	1,187	256	1,904	137
	平成23年	3			96	8	5	196	3	33	1,218	240	1,802	113
	平成22年	2			152	16	5	245	5	23	1,170	263	1,881	136
	平成21年	4			140	15	8	195	3	31	1,047	217	1,660	107
	合計	16			700	69	37	1,093	25	140	5,821	1,265	9,166	645
	平均	3			140	14	7	219	5	28	1,164	253	1,833	129
搬送人員	平成25年	3			159	15	6	225	7	20	1,169	190	1,794	
	平成24年	2			203	14	14	225	5	19	1,163	167	1,812	
	平成23年	2			118	8	5	190	3	22	1,188	182	1,718	
	平成22年	2			171	16	5	237	5	16	1,141	188	1,781	
	平成21年	2			168	15	8	190	2	18	1,022	170	1,595	
	合計	11			819	68	38	1,067	22	95	5,683	897	8,700	
	平均	2			164	14	8	213	4	19	1,137	179	1,740	



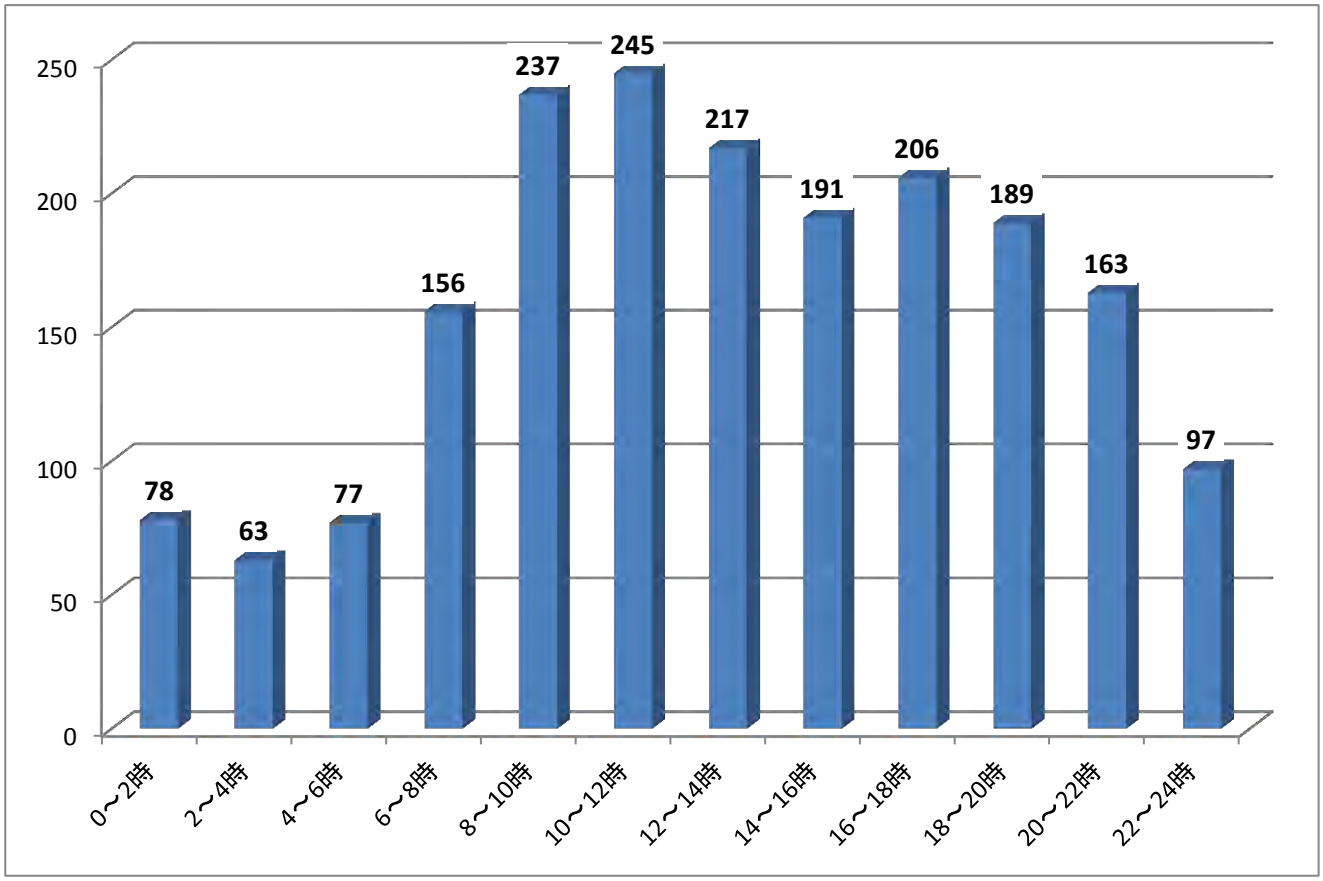
（4）組合発足以来救急出動件数推移

年	総出動件数	うち交通事故	うち一般負傷	うち急病
S47	360	91	39	168
S48	508	137	77	224
S49	556	108	58	297
S50	689	119	86	350
S51	721	106	96	370
S52	774	143	69	389
S53	781	162	78	350
S54	797	145	83	383
S55	896	158	110	459
S56	989	146	113	512
S57	1,012	178	121	494
S58	1,085	214	119	552
S59	1,037	200	125	503
S60	1,047	229	105	519
S61	1,031	214	95	497
S62	1,011	180	122	483
S63	1,011	210	99	484
H1	1,135	240	119	545
H2	1,117	247	109	529
H3	1,145	230	117	558
H4	1,103	203	109	541

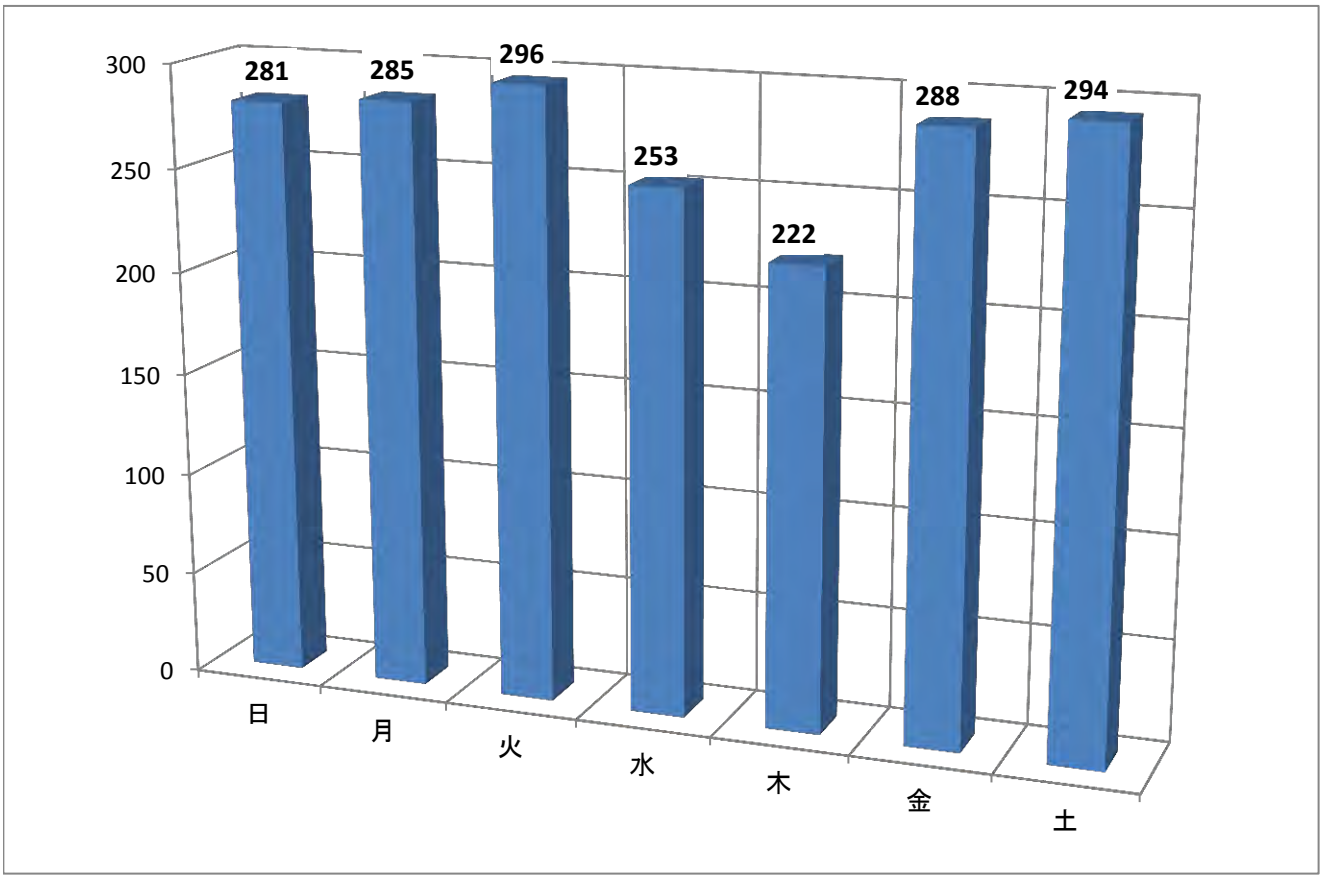
年	総出動件数	うち交通事故	うち一般負傷	うち急病
H5	1,171	194	133	577
H6	1,280	231	107	672
H7	1,374	209	153	756
H8	1,353	218	153	708
H9	1,362	208	161	734
H10	1,394	222	172	749
H11	1,538	245	162	870
H12	1,556	224	197	871
H13	1,617	199	185	952
H14	1,661	195	191	960
H15	1,674	175	196	999
H16	1,783	187	230	1,050
H17	1,864	202	189	1,118
H18	1,827	174	213	1,126
H19	1,915	157	201	1,228
H20	1,837	133	207	1,189
H21	1,660	140	195	1,047
H22	1,881	152	245	1,170
H23	1,802	96	195	1,218
H24	1,904	169	228	1,187
H25	1,919	143	229	1,199



（5）時刻別救急出動件数



（6）曜日別救急出動件数



（7）事故種別年齢区分別搬送人員

事故種別 / 年齢区分	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
新生児												
乳幼児				4			11			31	4	50
少年				8		2	5		2	21	3	41
成年	1			99	9	4	73	5	17	341	57	606
老人	2			48	6		136	2	1	776	126	1,097
合計	3			159	15	6	225	7	20	1,169	190	1,794

注1： 新生児とは、生後28日以内の者

注2： 乳幼児とは、生後29日以上満7歳未満の者

注3： 少年とは、満7歳以上満18歳未満の者

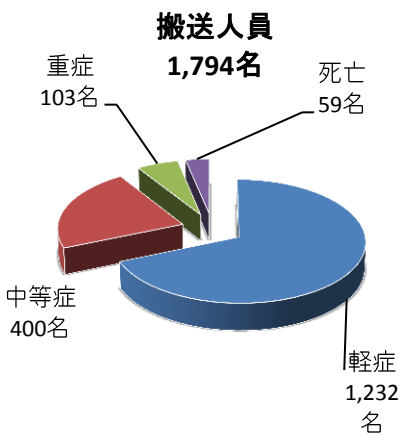
注4： 成人とは、満18歳以上満65歳未満の者

注5： 老人とは、満65歳以上の者

（8） 事故種別傷病程度別搬送人員

事故種別 / 傷病程度	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
軽症	3			139	9	6	163	4	10	812	80	1,226
中等症	1			14	4		48	3	4	268	66	408
重症				5	1		8		2	49	36	101
死亡				1	1		6		4	40	7	59
合計	4			159	15	6	225	7	20	1,169	189	1,794

（9）年齢区分別傷病程度別搬送人員



区　分	新生児	乳幼児	少　年	成　年	老　人	合　計
軽　症		46	33	456	697	1,232
中等症		4	2	102	292	400
重　症			1	31	71	103
死　亡			1	14	44	59
合　計		50	37	603	1,104	1,794
比　率		2.8%	2.1%	33.6%	61.5%	100.0%

注1：軽症～障害の程度が入院を必要としないもの。

注2：中等症～障害の程度が重症又は軽症以外のもの。

注3：重症～障害の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの。

注4：死亡～診療時及びその後において死亡が確認されたもの。

（10）救急隊員の行った応急処置件数

応急処置＼事故種別	急　病	交　通	一般負傷	その他	合　計
応急処置対象人員	1,188	183	226	89	1,686
止血	4	13	25	3	45
固定	6	57	23	5	91
人工呼吸	8		1		9
心臓マッサージ	1				1
心肺蘇生	38	1	6	2	47
除細動	3				3
酸素吸入	227	22	20	11	280
気道確保	40	1	5	2	48
保温	67	9	11	1	88
被覆	1	10	12		23
血圧測定	1,133	153	206	49	1,541
聴診器による心音・呼吸音等の聴取	76	10	9	5	100
血中酸素飽和度の測定	1,133	151	211	44	1,539
心電図	314	8	12	31	365
在宅療法継続	5				5
ショックパンツ					
静脈路確保	8	1	1		10
その他	851	28	91	41	1,011
気管挿管	2		3		5
薬剤投与	6	1	1		8
合計	5,111	648	863	283	6,905

（11） 月・発生場所別救助出動状況

区分＼事故種別		救助出動件数	事故種別 火災 建物	火災 建物以外	交通事故	水難事故	風水害等自然災害	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	破裂事故	その他の事故	救助活動件数	救助出動車両数	救助出動隊員数	救助人員
1月		7				2						5	4	22	84	1
2月		2			1							1	1	5	17	2
3月		7										7	3	17	56	1
4月		3			1							2	1	10	36	
5月		1			1								1	3	11	1
6月		7			3	1						3	4	16	52	4
7月		5			4	1							1	10	33	2
8月		5			3							2	3	11	35	4
9月		3			3									6	21	
10月		6			5							1	1	13	45	1
11月		3			2							1		8	19	
12月		7			5	1						1	3	17	57	3
滝川市		38			15	4						19	16	96	325	12
新十津川町		12			7	1						4	4	29	100	4
雨竜町		4			4								2	9	27	3
組合管外		2			2									4	14	
合計		56			28	5						23	22	138	466	19
屋内	住居	1										1	1	2	7	1
屋内	その他の屋内															
屋外	道路 高速道路	2			2									4	14	
屋外	道路 その他の道路	33			25							8	14	82	276	14
屋外	水面 内水面	4				4							2	12	42	1
屋外	水面 外水面	1				1								2	7	
屋外	山岳	1										1		3	9	
屋外	その他の屋外	14			1							13	5	33	111	3
地下																
その他																
合計		56			28	5						23	22	138	466	19

消　防　年　報

第42号（平成25年版）

平成26年8月発行

滝川地区広域消防事務組合消防本部
〒073-0023　警防課　企画防災係
住　　所　滝川市緑町2丁目2番31号
電　　話　（0125）23－0119

平成２５年版

消防年報

第　５　８　号

芦　別　市　消　防　本　部

（「芦別市紋章」　昭和２３年７月３日制定）

芦　別　市　民　憲　章

明治の代、今の常磐町に第一のくわ音が立ちました。芦別誕生のうぶ声でした。それから代々の人たちが努力を重ね、美しい郷土をつくりました。

それをたたえ感謝するとともに、さらに立派にして次代へ渡したいものです。私たちは、この憲章をかかげて、日常生活の心がまえといたしましょう。

明るい家庭をつくり　こどもに夢と誇りを持たせましょう
人間の尊さを知り　社会のきまりを守りましょう
郷土の自然を愛し　豊かなまちをきずきましょう
思いやりと親切で　住みよいまちにいたしましょう
教養を深め　体力を養い　文化の輝くまちをつくりましょう

（「芦別市民憲章」　昭和４３年９月２０日制定）

はしがき

この年報は、平成２５年中における芦別市消防行政の実績と現勢を収録し、将来の消防体制強化と火災予防上の資料として有効に活用するため編集したものであります。

この年報を通じて市民各位の防災上の指針となり、また消防行政の検討資料として活用されるならば幸いであり、それを期待してやみません。

平成２６年　３月

芦別市消防本部

目　　次

あゆみ

消防の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
平成２５年の動き・・・・・・・・・・・・・・・ 9

消防機構・消防予算・消防職、団員

芦別市消防機関配置図・・・・・・・・・・・・ 11
芦別市の位置並びに面積・人口世帯・・・・・ 12
人口の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
市勢に対する消防現勢との比較・・・・・・・ 13
市一般会計と消防費・・・・・・・・・・・・・ 13
市民と消防費並びに火災損害額・・・・・・・ 13
芦別市消防機構図・・・・・・・・・・・・・・ 14
消防職員数・職員配置状況・・・・・・・・・ 15
職員年齢状況・職員勤続年数・・・・・・・・ 15
歴代消防長・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
歴代消防本部次長・・・・・・・・・・・・・・ 17
歴代消防署長・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
職員の学校及び自治研修所派遣状況・・・・・ 18
職員技能者数・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
消防団員定員並びに階級別実員数・・・・・・ 18
春秋・危険業務従事者叙勲受章者名簿・・・・ 19
叙位受章者名簿・褒章受章者名簿・・・・・・ 19
消防庁長官表彰（永年勤続功労者）名簿・・・ 20
表彰状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
消防団幹部名・消防団員勤続年数・・・・・・ 21
消防団員年齢状況・任免状況・・・・・・・・ 22

消防施設

消防施設（建物）一覧・・・・・・・・・・・・ 23
消防緊急通信指令装置
回線構成・無線局・・・・・ 24
消防無線電話の配置及び呼出し名称・・・・・ 25
消防緊急通信指令装置系統図・・・・・・・・ 26
車両現勢一覧表・・・・・・・・・・・・・・・ 27
年間車両使用状況・・・・・・・・・・・・・・ 28
小型動力ポンプ現勢一覧表・・・・・・・・・ 29
ホース配置状況・・・・・・・・・・・・・・・ 29
過去５年間に整備した主要消防施設・・・・・ 29
全市水利状況・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

火災統計・気象

火災の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
過去５年間の出火原因調べ・・・・・・・・・ 31
月別火災発生状況・・・・・・・・・・・・・・ 32
時間別火災発生状況・・・・・・・・・・・・・ 33
管轄区域別火災発生状況・・・・・・・・・・ 34
昭和３０年以降の火災発生状況・・・・・・・ 35
月別火災等出動状況・・・・・・・・・・・・・ 37
風向の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
過去１０年間における気象の極値・・・・・・ 38
月別気象状況・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

救急・救助

救急活動総括表・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
月別出場件数・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
時間別出場件数・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
町内別出場件数・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
管外搬送（転院・転送・直接搬送）出場件数・ 42
年齢区分別搬送人員数調・・・・・・・・・・ 42
傷病程度別搬送人員・・・・・・・・・・・・・ 43
搬送人員のうち救急隊員の
行った応急処置・・・・・ 43
収容所要時間・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
過去５年間の出場件数及び
搬送人員の推移・・・・・ 44
救助出動及び活動状況・・・・・・・・・・・・ 45
救急講習実施状況・・・・・・・・・・・・・・ 45

予防・危険物

関係法令による処理件数・・・・・・・・・・ 46
構造別、工事別、建築同意状況・・・・・・・ 47
防火対象物地区別及び項別調・・・・・・・・ 48
防火対象物査察実施状況・・・・・・・・・・ 49
防火対象物定期点検報告実施状況・・・・・・ 50
予防査察実施指導状況（一般対象物）・・・・ 51
危険物製造所等別貯蔵取扱数量・・・・・・・ 52
地区別危険物製造所等設置状況・・・・・・・ 52
危険物製造所等倍数調・・・・・・・・・・・ 53
防火講習等実施状況・・・・・・・・・・・・・ 54
消防協力団体・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
消防協力団体状況・・・・・・・・・・・・・・ 55
婦人防火クラブ及び
幼年消防クラブ状況・・・・・ 55
危険物安全協会・防火管理者協会
活動状況・・・・・ 55

あゆみ

消　防　の　沿　革

大正　３年　７月　私立下班渓（常磐）火災予防組合発足　組合長　大道栄蔵氏
　　６年　２月　私立芦別消防組発足　組頭　大西六三郎氏
　　７年　５月　公立芦別消防組発足　組頭　大西六三郎氏
　　８年　６月　私立野花南消防組発足　組頭　明田小四郎氏
　１０年１２月　公立芦別消防組成績優秀にて金馬廉１条使用認許
　１２年　５月　公立芦別消防組２部制を採用
昭和　３年　４月　私立新城消防組発足　組頭　森　清一氏
　　４月　芦別大火、本町市街中央部付近より出火、１５８棟焼失
　　４年　９月　公立芦別消防組成績優秀にて、金馬廉２条使用認許
　　８年　４月　公立芦別消防組組頭　大西六三郎氏死亡に伴い、後任に寺崎隆氏就任
　１０年　４月　公立班渓消防組発足　組頭　谷口与作氏
　１１年　１月　公立芦別消防組組頭　寺崎隆氏退任に伴い、後任に関塚清蔵氏就任
　１４年　４月　芦別消防組を芦別警防団と改組第１分団（芦別警防団）第２分団（常磐警防団）第３分団（新城警防団）第４分団（野花南警防団）とし、警防団長　豊島亀三郎氏就任
　１８年　１月　芦別警防団長、豊島亀三郎氏退任に伴い、後任に大西駒太郎氏就任
　　２月　芦別警防団第１分団に常備部設置
　１９年　４月　三井芦別警防団設置
　　４月　芦別警防団第５分団設置（上芦別市街）
　２２年　９月　芦別警防団を芦別消防団と、三井芦別警防団を三井芦別消防団と改組
　２３年　４月　明治芦別消防団設置
　　４月　三菱芦別消防団、高根炭鉱消防団設置
　２５年　１月　高根炭鉱消防団を芦別消防団第６分団へ編入
　　４月　油谷芦別消防団設置
　２７年　６月　芦別消防団創立３５周年記念式典
　２８年　６月　芦別消防団常備員増員　定員２２名
　２９年　４月　市制施行に伴い、北海道消防協会芦別地方支部設立
　　１２月　芦別消防団第１分団に望楼設置
　３０年　４月　芦別消防団常備員　定員３２名
　　１２月　芦別市消防本部･署設置　消防職員定員３２名　消防長大西駒太郎氏　消防署長小山田敬次郎氏　就任
　３２年１２月　芦別市消防本部・署に消防用短波無線電話装置設置
　３３年　４月　消防職員増員　定員３６名
　　１２月　芦別消防団長、大西駒太郎氏退任に伴い、服部富一氏就任
　３４年　４月　芦別消防団、日本消防協会より成績優秀にて竿頭綬を受賞
　　１２月　消防長、大西駒太郎氏退任に伴い、後任に市助役、沢内精治氏事務取扱
　３５年１０月　消防署長、小山田敬次郎氏退任に伴い、後任に島田好男氏就任
　３８年　４月　消防職員増員　定員４０名
　　７月　油谷、明治、三菱各消防団、芦別消防団に編入、第７分団（油谷）第８分団（明治）第９分団（三菱）となる
　　７月　同上３ヶ分団に消防署機関員出張所設置
　　７月　芦別消防団第４分団滝里支部設置
　　１２月　芦別消防団長、服部富一氏退任に伴い、大林唯一氏就任
　３９年　５月　日本損害保険組合協会より消防ポンプ自動車１台寄贈

昭和３９年　７月　芦別消防団第８分団（明治）第９分団（三菱）を第５分団に、三井芦別消防団を芦別消防団に統合し、第８分団（西芦別）第９分団（頼城）第１０分団（三井黄金）とし、消防署西芦別分遣所並びに頼城機関員出張所を設置
７月　消防職員増員　定員４９名
４０年　６月　芦別市危険物安全協会設立
１１月　芦別消防団第７分団消防庁舎落成
１２月　芦別市消防署上芦別分遣所並びに芦別消防団第５分団消防庁舎新築落成
４１年　４月　芦別市人事異動により消防署長、島田好男氏市役所に出向（市総務課長に発令）後任に菅田英太郎氏就任
５月　芦別消防団第６分団（高根）に消防署機関員出張所設置
９月　消防長事務取扱、沢内精治氏退任
９月　消防長職務代理者として署長、菅田英太郎氏発令
１２月　芦別市消防署常磐機関員出張所並びに芦別消防団第２分団消防庁舎新築落成
４２年　５月　消防職員増員　定員５０名
８月　芦別消防後援会連合会設立
１１月　芦別市防火管理者研究会設立
１１月　芦別消防団第６分団高根炭鉱閉山に伴い、同地域を芦別消防団第１分団管轄区域に編入
１２月　芦別消防団第１０分団（三井黄金）に消防署機関員出張所設置、消防ポンプ自動車配置
１２月　消防用無線電話装置ＳＳＢ方式に変更し、あわせて移動局３基増設
１２月　芦別消防団長、大林唯一氏辞任に伴い、大西武一氏就任
４３年　４月　芦別消防団第４分団滝里支部を芦別消防団第６分団と改組
４月　芦別消防団定員３７０名から３１０名に改組
１２月　消防本部に救急車購入配置、救急業務開始
４４年　８月　芦別市総合庁舎新築落成に伴い、消防庁舎併設、消防本部・署並びに芦別消防団第１分団新庁舎へ移転
８月　芦別市消防設立５０周年記念式典並びに合同消防演習実施
１２月　水槽付消防ポンプ自動車購入、消防署に配置
４５年　６月　元消防長、大西駒太郎氏春の叙勲、勲五等瑞宝章受章
１０月　芦別市人事異動により消防長職務代理者、菅田英太郎氏が消防長兼消防署長に発令
１１月　元芦別消防団分団長、川島千代作氏秋の叙勲、勲七等単光旭日章受章
１２月　水槽付消防ポンプ自動車購入、芦別消防団第５分団に配置
４６年　５月　芦別消防団成績優秀により北海道消防協会から表彰旗授与
６月　北海道消防協会空知地方支部中空知支部発足に伴い、芦別地方支部を解消、中空知支部に加入
８月　広報車購入、消防本部・署に配置
１０月　市行政機構改革に伴い、消防本部次長に　原田　最氏就任
１０月　消防署上芦別分遣所及び西芦別分遣所を上芦別出張所及び西芦別出張所と改組
１２月　化学消防ポンプ自動車購入、消防署西芦別出張所に配置
１２月　芦別消防団第６分団に消防ポンプ自動車配置
４７年　７月　三井芦別鉱業所黄金鉱閉山に伴い芦別消防団第１０分団解団、同地域を芦別消防団第２・第３分団管轄区域に編入
８月　北海道消防操法訓練大会に芦別消防団第１分団出場（ポンプ車の部）
９月　北海道消防協会空知地方支部中空知支部連合消防演習実施
４７年１１月　消防ポンプ自動車購入、消防署に配置

昭和４８年　３月　消防無線同報装置（非番職員招集用）３０基設置
４月　芦別消防団定員３１０名から３００名に改正
６月　北海道消防協会中空知支部より無火災表彰を受賞
７月　芦別市人事異動により消防長兼署長　菅田英太郎氏市立芦別病院に出向（事務長に発令）消防長後任に　高島勇太郎氏就任
７月　芦別市消防本部・署人事異動により本部次長　原田　最氏消防署長を兼ねて発令
９月　消防用無線電話装置をＳＳＢ方式からＶＨＦ方式に変更し、あわせて移動局９基増設
１２月　芦別市消防署新城機関員出張所並びに芦別消防団第３分団消防庁舎新築落成
１２月　消防ポンプ自動車購入、芦別消防団第１分団に配置
４９年　４月　芦別消防団条例一部改正により、第７分団（油谷）を解団、同地域を第１分団管轄区域に編入
４月　芦別消防団定員３００名から２８５名に改正
４月　第７分団解団に伴い消防署油谷機関員出張所閉鎖
４月　消防無線同報装置（非番職員招集用）２０基設置
６月　消防職員増員　定員５５名
８月　芦別市人事異動により消防本部次長兼消防署長　原田　最氏出向（学校給食センター事務長）、消防署長に柳原次郎氏就任
８月　芦別市消防本部、消防署組織規則一部改正により、総務係、予防係、調査係警防係、施設係の５係に改組
１０月　芦別市消防署長　柳原次郎氏消防本部次長を兼ねて発令
１２月　消防無線同報装置（非番職員招集用）５基設置、全職員住宅に配置完了
５０年　６月　芦別市消防本部・署開庁２０周年記念式典
１０月　水槽付消防ポンプ自動車購入、消防署頼城機関員出張所に配置
１１月　芦別市消防署野花南機関員出張所並びに芦別消防団第４分団、消防庁舎新築落成
５１年　１月　消防救急指令装置Ｃ型１台購入、消防本部・署に配置
３月　消防ポンプ自動車購入、消防署上芦別出張所に配置
４月　消防長　高島勇太郎氏退任、後任に芦別市助役　島田好男氏消防長事務取扱
４月　社団法人東日本自動車工業会より救急車２Ｂ型１台寄贈を受け、消防署に配置
８月　消防ポンプ自動車購入、消防署常磐機関員出張所に配置
５２年　４月　芦別市人事異動により、芦別市助役　島田好男氏消防長事務取扱を解き、消防長後任に　熊谷文一氏就任
６月　北海道消防協会中空知支部より無火災表彰を受賞
８月　社団法人日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車１台寄贈を受け、消防署に配置
８月　消防ポンプ自動車購入、消防署新城機関員出張所に配置
９月　芦別市消防署組織規程の一部改正により、頼城機関員出張所を頼城出張所に名称変更
１１月　芦別市消防署西芦別出張所並びに芦別消防団第８分団消防庁舎新築落成
５３年　６月　北海道消防協会中空知支部より無火災表彰を受賞
８月　芦別市消防署長兼本部次長　柳原次郎氏辞任
９月　芦別市消防本部・署人事異動により、大関富雄氏消防署長兼本部次長に就任

昭和５３年　９月　消防ポンプ自動車購入、消防署野花南機関員出張所に配置
１１月　芦別市消防署ホース乾燥塔設置
１２月　芦別市消防署頼城出張所並びに芦別消防団第９分団消防庁舎新築落成
５４年　７月　芦別市人事異動により、消防長　熊谷文一氏市役所に出向（市経済部長に発令）消防長後任に　石川　孚氏就任
１０月　消防ポンプ自動車購入、消防署頼城機関員出張所に配置
１０月　富良野信用金庫芦別支店から消防用携帯無線機（ゼネラルＣＰ－５１型出力１Ｗ）６台（１００万円）の寄贈
１２月　芦別市消防署上芦別出張所並びに芦別消防団第５分団消防庁舎新築落成
５５年　９月　消防ポンプ自動車購入、芦別消防団第１分団に配置
５６年　８月　消防ポンプ自動車購入、消防署西芦別出張所に配置
８月　北海道消防協会空知地方支部中空知支部連合消防演習
１１月　元消防団副団長　古田松雄氏秋の叙勲　勲六等単光旭日章受章
１２月　芦別市消防署長兼本部次長　大関富雄氏退任
１２月　芦別市消防本部・署人事異動により、武田榮治氏消防署長兼本部次長に就任
５７年　３月　芦別市消防長　石川　孚氏退任
４月　芦別市人事異動により、消防長　松浦威雄氏（市民部長）就任
５月　指令車兼広報車（トヨタクラウン）購入、消防署に配置
５月　元芦別消防団分団長　川村千代吉氏春の叙勲　勲七等単光旭日章受章
８月　小型動力ポンプ付水槽車（Ⅱ型）購入、消防署に配置
５８年　５月　消防団長　大西武一氏春の褒章　藍綬褒章受章
７月　芦別市消防本部・署組織規則一部改正により、消防本部は総務係、予防係保安係の３係、消防署は警防係、施設係、救急救助係の３係に改組。上芦別西芦別、頼城出張所をそれぞれ分遣所に名称変更
７月　芦別市消防本部・署人事異動に伴い、消防署長兼本部次長武田榮治氏の消防署長を解き、消防署長後任に　日下　勲氏就任
８月　水槽付消防ポンプ自動車（Ⅱ型）購入、消防署西芦別分遣所に配置
９月　救急自動車（２Ｂ型）購入、消防署に配置
５９年　３月　元消防団長　大林唯一氏より消防団旗の寄贈
４月　三笠市と消防相互応援協定を締結
４月　消防互助年金制度施行
５月　三井芦別鉱業所より救急自動車（２Ｂ型）の寄贈を受け、消防署に配置
６月　消防団長　大西武一氏海外消防事情視察旅行
６月　北海道消防協会中空知支部より無火災表彰を受賞
８月　水槽付消防ポンプ自動車購入、消防署上芦別分遣所に配置
６０年　１月　芦別市消防長　松浦威雄氏退任
１月　芦別市人事異動により　茶木光義氏（福祉事務所保護課長）消防長に就任
１月　芦別消防団長　大西武一氏退任
２月　芦別消防団人事異動により団長　小西修身氏（副団長）就任
６月　第２分団公設消防設立５０周年記念式典実施
６月　芦別消防団定員２８５名から２５０名に改正
７月　新城地区婦人防火クラブ結成
７月　北海道消防操法訓練大会に芦別消防団第１分団出場（小型ポンプの部）
８月　消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅱ型）購入、芦別消防団第１分団に配置
９月　芦別市危険物安全協会創立２０周年記念式典実施

昭和６０年１１月　新城地区無火災２，０００日達成式
６１年　８月　芦別市滝里ダム建設に伴い、芦別消防団第６分団解団、同地域を芦別消防団第４分団管轄区域に編入
９月　芦別消防団定員２５０名から２３５名に改正
１０月　芦別消防団第６分団（滝里）解団に伴い、第８分団（西芦別）を第６分団に、第９分団（頼城）を第７分団に改組
６２年　３月　芦別市消防署長　日下　勲氏、芦別消防団　分団長　中村　清氏消防庁長官永年勤続功労章受章
３月　芦別市消防長　茶木光義氏退任
３月　芦別市人事異動により、本部次長　武田榮治氏消防長に就任（本部次長事務取扱）
５月　芦別市防火管理者協会創立２０周年記念式典
６月　石狩川水防演習参加（滝川市）
６３年　３月　芦別消防団副分団長　伊藤　研氏消防庁長官永年勤続功労章受章
５月　元芦別消防団副団長　今野正信氏春の叙勲　勲五等瑞宝章受章
５月　日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車の寄贈を受け、消防署に配置
平成　元年　１月　芦別市面積、８６９、１３㎢から８６５、０７㎢に改訂
３月　芦別消防団分団長　野寺雄治氏　副分団長　帰山和雄氏消防庁長官永年勤続功労章受章
３月　芦別市消防署長　日下　勲氏退任
４月　芦別市人事異動により、本部次長　清澤英雄氏（福祉事務所保護課長）就任
４月　芦別市消防本部・署人事異動により、佐々木久氏消防署長に就任
４月　芦別消防団を芦別市消防団に名称を改名
８月　芦別市連合消防演習を芦別市消防演習に名称を改名
９月　救助工作車（１型）購入、消防署に配置
９月　芦別市消防団第５分団設立５０周年式典
２年　２月　日本消防協会平成元年度定例表彰に芦別市消防団が優良消防団として表彰旗授与
１０月　水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）購入、芦別市消防団第４分団に配置
１１月　北海道共済農業協同組合連合会より救急自動車（ハイエース２Ｂ）の寄贈を受け、消防署に配置
１２月　広報車（ハイエースバン）購入、消防署に配置
３年　２月　北海道広域消防相互応援協定に係る調印
６月　芦別市消防長　武田榮治氏　芦別市消防団分団長　森田迪男氏消防庁長官永年勤続功労章受章
７月　芦別市消防本部・署組織規則一部改正により消防本部は総務課・予防課の２課、消防署は警防第１課・警防第２課の２課に改組
８月　消防ポンプ自動車購入、芦別市消防団第３分団に配置
１１月　みどり幼稚園幼年消防クラブ発会式
４年　１月　芦別市消防団女性消防団員入団式
３月　芦別市消防長　武田榮治氏退任
４月　芦別市人事異動により本部次長　清澤英雄氏消防長に、石川正義氏（財政課財政係長）本部次長に就任
６月　芦別連合消防後援会２５周年記念式典
８月　水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）購入、消防署に配置
５年　３月　福住婦人防火クラブ結成式

平成　５年　３月　常磐婦人防火クラブ結成式
　　６月　消防指令車（トヨタクラウンスーパーＤＸ）購入
　　６月　北海道消防協会空知地方支部中空知連合消防演習実施
　　１０月　開基１００周年市制施行４０周年記念式典実施
　　１１月　小型動力ポンプ付積載車購入、芦別市消防団第２分団に配置
　６年　４月　芦別市人事異動により、本部次長　石川正義氏　市選挙管理委員会に出向（事務局長）、消防署長　佐々木久氏　本部次長兼務発令
　　５月　元芦別消防団長　大西武一氏春の叙勲　勲五等瑞宝章受章
　７年　３月　芦別市消防団副団長　小野寺徳雄氏　消防庁長官永年勤続功労章受章
　　３月　芦別市消防長　清沢英雄氏退任
　　４月　芦別市人事異動により　酒谷孝一氏（水道課長）消防長に就任
　　４月　元芦別市消防団副団長　中村清氏春の叙勲　勲六等単光旭日章受章
　８年　３月　高規格救急自動車購入、消防署に配置
　　７月　野花南婦人防火クラブ結成式
　　１０月　芦別市消防本部消防職員委員会設立
　　１１月　消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）購入、上芦別分遣所に配置
　９年　３月　芦別市消防団長　小西修身氏　消防庁長官永年勤続功労章受章
　　３月　芦別市消防長　酒谷孝一氏退任
　　４月　芦別市人事異動により、千葉昭夫氏（財政課長）消防長に就任
　　１０月　芦別市防火管理者協会創立３０周年記念式典
　　１２月　前芦別市消防団本部部長　帰山和雄氏秋の叙勲　勲六等瑞宝章受章
１０年　３月　自治体消防５０周年記念式典（東京都）
　　３月　芦別市消防本部次長　佐々木久氏　芦別市消防団副団長　松本豊氏　消防庁長官永年勤続功労章受章
　　４月　芦別市消防本部・署組織規則一部改正により、消防本部は総務課・予防課の２課３係、消防署は警防第１課・警防第２課の２課４係に改組
　　５月　道道美唄・富良野線富芦トンネル合同防災訓練（５月２０日開通）
　　７月　自治体消防制度５０周年記念・平成１０年度芦別市消防演習
１１年　３月　芦別市消防本部次長兼署長　佐々木久氏退任
　　４月　芦別市消防本部・署人事異動により、戸梶宣孝氏本部次長兼消防署長に就任
　　５月　消防団長　小西修身氏春の褒章　藍綬褒章受章
　　７月　芦別市人事異動により、消防長　千葉昭夫氏　市役所に出向（総務部付）消防長後任に　小塚芳治氏就任
１２年　１月　消防緊急通信指令施設Ⅰ型購入、消防本部・署に設置
　　３月　芦別市消防長　小塚芳治氏退任
　　４月　芦別市人事異動により、佐々木正昭氏（保健福祉部保健施設課長）消防長に就任
　　１１月　北海道消防表彰で芦別市消防団が優良消防団として竿頭綬を受賞
　　１１月　元芦別市消防団分団長　野寺雄治氏秋の叙勲　勲六等瑞宝章受章
　　１１月　小型動力ポンプ付水槽車購入、消防署に配置
　　１１月　財団法人日本損害保険協会より消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）１台寄贈を受け、消防署に配置
１３年　３月　芦別市消防本部次長兼署長　戸梶宣孝氏退任
　　４月　芦別市消防本部・署人事異動により、熊谷憲康氏本部次長兼消防署長に就任
１３年　５月　元芦別市消防団副団長　森田迪男氏春の叙勲　勲六等単光旭日章受章

平成１３年　７月　北海道消防操法訓練大会に芦別市消防団出場（ポンプ車の部）
１４年　４月　芦別市消防団長　小西修身氏　北海道消防協会副会長に就任
５月　芦別市消防団副団長　古田克志氏　消防庁長官永年勤続功労章受章
７月　芦別市人事異動により、消防長佐々木正昭氏市役所に出向（保健福祉部長に発令）消防長後任に　森貞雄氏就任
１５年　３月　高規格救急自動車購入、消防署に配置
４月　芦別市消防本部・署組織規則一部改正により消防本部は予防課を２係に改組、消防署は西芦別分遣所閉鎖
５月　北海道道ドクターヘリ運航調整研究会協定書調印
７月　北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合消防演習実施
１１月　元芦別市消防団分団長　伊藤研氏秋の叙勲　瑞宝単光章受章
１６年　３月　芦別市消防団分団長　野原彬氏　消防庁長官永年勤続功労章受章
３月　芦別市消防団長　小西修身氏退任
４月　芦別市消防団人事異動により団長　古田克志氏（副団長）就任
５月　元芦別市消防本部次長　佐々木久氏危険業務従事者叙勲　瑞宝単光章受章
８月　折りたたみ式アルミボート購入、署に配置
１０月　芦別市消防団定員２３５名から２１５名に改正
１７年　３月　芦別市消防団副団長中内紘治氏消防庁長官永年勤続功労章受章
３月　消防庁長官より芦別市消防本部・芦別市消防団に竿頭綬を受章
４月　芦別市人事異動により、消防長　森貞雄氏市立芦別病院に出向（病院事務長に発令）消防長後任に　熊谷憲康氏就任
４月　芦別市消防本部・署人事異動により、市川豊氏本部次長兼消防署長に就任
４月　芦別市消防本部・署組織規則一部改正により消防本部総務課庶務係と団係を総務係に改組
４月　消防庁長官に緊急消防援助隊登録
４月　元芦別市消防署警防第１課長　伊藤貢氏　危険業務従事者叙勲瑞宝単光章受章
１２月　元芦別市消防本部次長兼署長　故　佐々木久氏　叙位正七位受章
１２月　水槽付消防ポンプ自動車（１－A型）購入、上芦別分遣所に配置
１２月　芦別市消防本部・署設立５０周年記念撮影
１８年　２月　パラグアイへの消防車寄贈式（旧上芦別１号車）
３月　芦別市消防長熊谷憲康氏消防庁長官永年勤続功労章受章
芦別市消防団第１分団長斎藤勉氏消防庁長官永年勤続功労章受章
４月　元芦別市消防団長　小西修身氏春の叙勲　瑞宝双光章受章
４月　芦別市消防本部・署組織規則一部改正により消防本部総務課と予防課を総務予防課に改組
４月　芦別市消防団定員２１５名から２０５名に改正
１１月　元芦別市消防本部総務課庶務係長　後藤富衛氏　危険業務従事者叙勲瑞宝単光章受章
１１月　元芦別市消防団副団長　小野寺徳雄氏　秋の叙勲　瑞宝単光章受章
１９年　３月　芦別市消防団第５分団長　岡本秀夫氏消防庁長官永年勤続功労章受章
３月　芦別市消防長　熊谷憲康氏退任
４月　芦別市消防本部・署人事異動により、消防長　市川豊氏就任
４月　元芦別市消防本部次長　　戸梶宣孝氏危険業務従事者叙勲瑞宝単光章受章
元芦別市消防本部予防課長　西　英昭氏危険業務従事者叙勲瑞宝単光章受章
１１月　元芦別市消防長　武田榮治氏　危険業務従事者叙勲瑞宝双光章受章
２０年　３月　元芦別市消防団分団長　須貝一徳氏　消防庁長官永年勤続功労章受章

平成２０年　３月　救助工作車Ⅱ型購入、署に配置
４月　元芦別市消防署警防第１課長　永田守男氏　危険業務従事者叙勲瑞宝単光章受章
１０月　全国消防長会道央地区協議会総会・全道消防職員意見発表会（芦別市）
１１月　芦別市消防団副団長　中内紘治氏　秋の褒章　藍綬褒章受章
１１月　北海道消防表彰で芦別市消防団が優良消防団として表彰旗を受賞
２１年　３月　芦別市消防長　市川豊氏　芦別市消防団分団長　甲斐勝博氏消防庁長官表彰受章
１１月　芦別市消防団分団長　岡本秀夫氏　秋の褒章　藍綬褒章受章
１２月　道北ドクターヘリとの協定書締結
２２年　３月　芦別市消防団副団長　髙砂裕司氏　消防庁長官表彰受章
３月　芦別市消防団団長　古田克志氏退任
４月　芦別市消防団人事異動により団長　髙砂裕司氏（副団長）就任
６月　芦別市消防団分団長　甲斐勝博氏　春の褒章　藍綬褒章受章
１１月　高規格救急車購入、署に配置
１１月　消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）購入、芦別市消防団第６分団に配置
１１月　芦別市消防団団長　髙砂裕司氏　秋の褒章　藍綬褒章受章
１１月　元芦別市消防長　熊谷憲康氏　危険業務従事者叙勲瑞宝双光章受章
２３年　３月　芦別市消防団分団長　伊藤吾輝夫氏　消防庁長官表彰受章
３月　応援派遣隊用各種物品整備、購入　署に配置
３月　東北大震災（石巻市）へ緊急消防援助隊北海道部隊救助隊として救助工作車並びに職員５名を派遣
３月　芦別市消防長　市川豊氏退任
４月　芦別市消防本部・署人事異動により、消防長　水尾誠二氏就任
４月　元芦別市消防団長　古田克志氏　春の叙勲　瑞宝双光章受章
５月　消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）購入、芦別市消防団第１分団に配置
８月　防災用エアーテント購入　市に配置
２４年　３月　芦別市消防団副団長　土山孝一氏　消防庁長官表彰受章
３月　芦別市消防長　水尾誠二氏退任
４月　芦別市消防本部・署人事異動により、消防長　早松久志氏就任
７月　署２号車（ＣＡＦＳ）購入、署に配置
１２月　指令車（寄贈：小林英一氏）購入、署に配置
２５年　３月　芦別市消防団分団長　小野英開氏　消防庁長官表彰受章
４月　芦別市消防団女性分団結団式
６月　指揮広報車購入、署に配置
６月　芦別市消防団副団長　土山孝一氏　春の褒章　藍綬褒章受章

平成２５年の動き

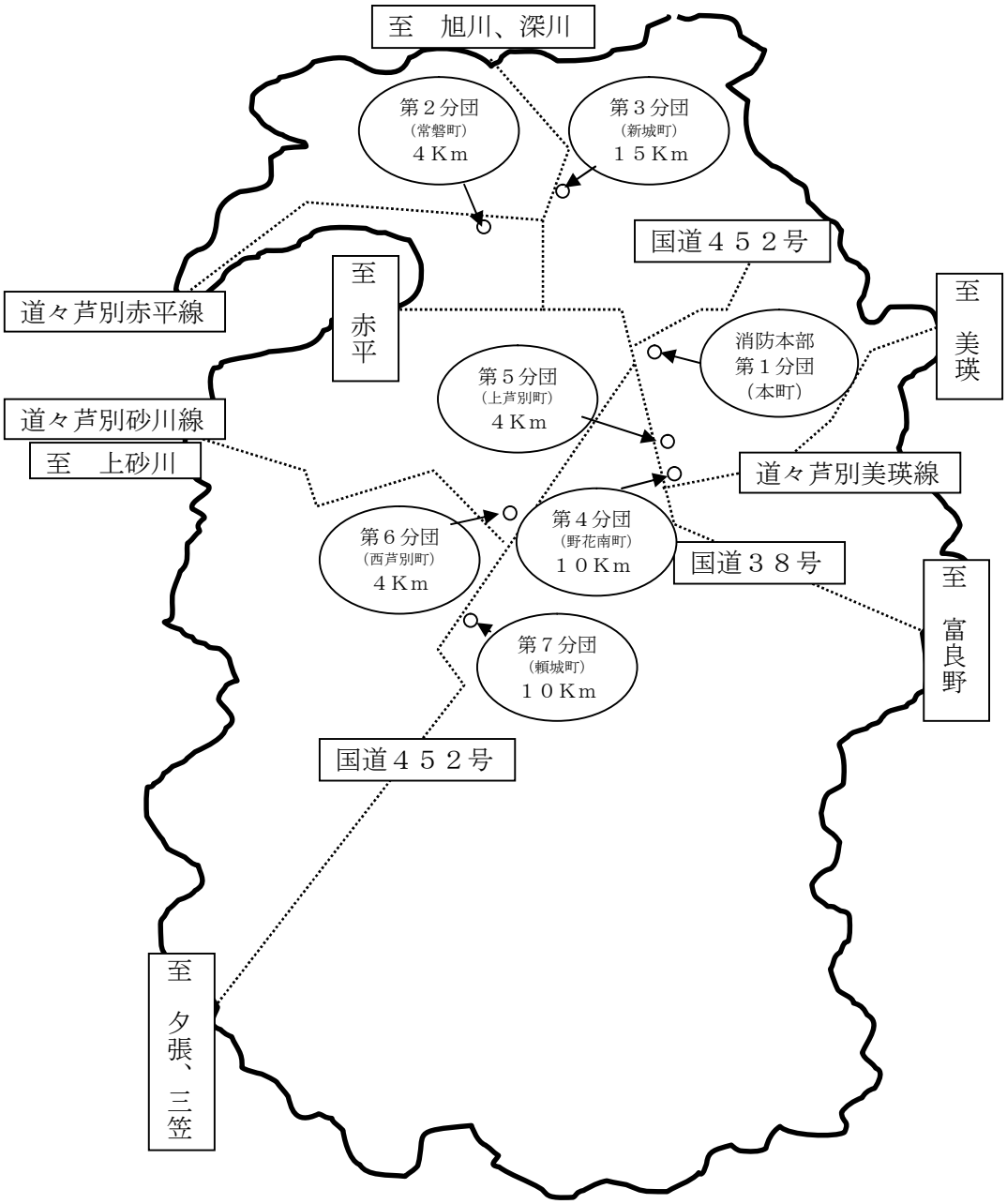
１月　６日　平成２５年消防出初式並びに防火祈願祭
　　７日　新年交礼会（福祉センター）
　　７日　仕事始め
　１５日　北海道消防学校専科教育予防査察課程入校（江別市）
　２１日　芦別市消防三役会議、第１回消防分団長会議、消防関係者新年交礼会
２月　６日　芦別市危険物安全協会新年交礼会
　２１日　芦別市防火管理者協会法令研修会
　２２日　芦別市消防団実務研修会（消防本部講堂）
３月　４日　消防職・団員健康診断
　２６日　芦別市消防団分団長　小野英開氏　消防庁長官表彰伝達式
　３１日　芦別市消防署　永井雅己署長、田中敏夫警防第２課長退職
　３１日　分団長退団辞令交付（川上義啓第３分団長）
４月　１日　人事異動並びに辞令交付
　　９日　女性分団結団式、芦別市消防三役会議、第２回消防分団長会議（福祉センター）
　１１日　芦別市鎮火祭・防火車両パレード
　１１日　北海道消防学校初任教育入校式（江別市）
　２０日　春の火災予防運動（～３０日）
　２４日　芦別市危険物安全協会総会
　２６日　芦別市防火管理者協会定期総会
　２６日　北海道消防学校気管挿管再認定講習入校（江別市）
５月２０日　奈井江町消防演習（奈井江町）
　２８日　芦別市消防三役会議、第３回消防分団長会議（福祉センター）
　２９日　芦別連合消防後援会総会
　３１日　副団長退団辞令交付（土山孝一団本部副団長）
６月　２日　砂川広域消防組合消防演習（砂川市）
　　２日　歌志内市消防演習（歌志内市）
　１１日　元芦別市消防団副団長　土山孝一氏　春の褒章　藍綬褒章受章
　１６日　滝川市消防演習（滝川市）
　２１日　指揮広報車入魂式
　３０日　北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合消防演習（芦別市）
７月　７日　赤平市消防演習（赤平市）
　１４日　上砂川消防演習（上砂川町）
　１９日　北海道消防操法訓練大会（江別市）
８月　２日　北海道消防協会中空知分会スポーツ交流会（砂川町）
　１９日　芦別市防火管理者協会・芦別市危険物安全協会合同視察研修（石狩市）

２２日　北海道消防大会（倶知安町）
２６日　深川地区消防組合演習（深川市）
２９日　北海道消防学校初任教育卒業式（江別市）
３０日　第１８回北中空知地区消防職員スポーツ交流会（深川市）
９月　１日　富良野市消防演習（富良野市）
１日　滝川地区消防演習（新十津川町）
９日　北海道消防学校救助科入校（江別市）
１０月　１日　芦別市消防三役会議、第４回消防分団長会議（福祉センター）
４日　芦別市防災総合訓練
６日　消防団パークゴルフ大会
１０日　消防広域化調印式（滝川市）
１５日　秋の火災予防運動（～３１日）
１７日　北海道消防学校初任教育入校式（江別市）
２４日　北海道消防学校気管挿管再認定講習入校（江別市）
３０日　北海道消防学校救急科入校（江別市）
１１月　３日　市政功労者表彰式（福祉センター）
１１日　１日特別職職務体験
１２日　芦別市危険物安全協会法令研修会（福祉センター）
２４日　消防団１２０年・自治体消防６５周年記念大会（～２６日）東京都
２９日　芦別市消防団活性化研修会（消防本部講堂）
１２月　５日　芦別市消防三役会議、第５回分団長会議（福祉センター）
２０日　歳末警戒（～３１日）
３０日　仕事納め

消防機構
消防予算
消防職・団員

芦別市消防機関配置図

分団別	配置人員		人　口	世　帯	職・団員 1人当人口	職・団員 1人当世帯
	職　員	団　員				
本部・署	50	5	10,068	5,368	102	54
女性分団		13				
第１分団		31				
第２分団		25	460	204	18	8
第３分団		25	385	161	15	6
第４分団		24	469	232	20	10
第５分団		35	3,623	1,925	104	55
第６分団		20	595	378	30	19
第７分団		16	270	159	17	10
合　　計	50	194	15,870	8,427	65	35



芦別市の位置並びに面積

位　　置		面　積
東　経	北　緯	
142°11′35″	43°30′56″	865.02㎢
広　ぼ　う		
東　西	南　北	周　囲
24.96km	48.65km	169.40㎞

人口世帯

平成25年12月31日

地区名	世帯数	人　口		合　計
		男	女	
本　　町	5,149	4,405	5,308	9,713
旭　　町	207	159	179	338
旭町油谷	9	5	7	12
高根町	3	2	3	5
福住町	25	22	33	55
常磐町	179	193	212	405
黄金町	47	47	58	105
豊岡町	3	3	2	5
新城町	111	128	147	275
西芦別町	344	238	301	539
中の丘町	6	5	3	8
緑泉町	11	6	10	16
頼城町	128	110	104	214
東頼城町	28	25	23	48
川　　岸	14	15	14	29
青木沢	6	5	6	11
上芦別町	1,925	1,656	1,967	3,623
野花南町	227	225	236	461
滝里町	0	0	0	0
泉	5	4	4	8
合　　計	8,427	7,253	8,617	15,870

人口の推移

区分 年別	人口	世帯数
平成１４年	20，500	9，594
平成１５年	20，151	9，566
平成１６年	19，766	9，484
平成１７年国調	18，899	8，222
平成１８年	18，766	9，236
平成１９年	18，307	9，129
平成２０年	17，768	8，984
平成２１年	17，369	8，821
平成２２年国調	16，628	7，526
平成２３年	16，604	8，627
平成２４年	16，347	8，602
平成25年12月31日現在	15，870	8，427

市勢に対する消防現勢との比較

区分 市勢	消防職員1人当り	消防団員1人当り	消防車1台当り
人口	317．4	81．8	1，220．8
世帯	168．5	43．4	648．2
面積	17．30㎢	4．46㎢	66．54㎢

市一般会計と消防費

（単位　円）

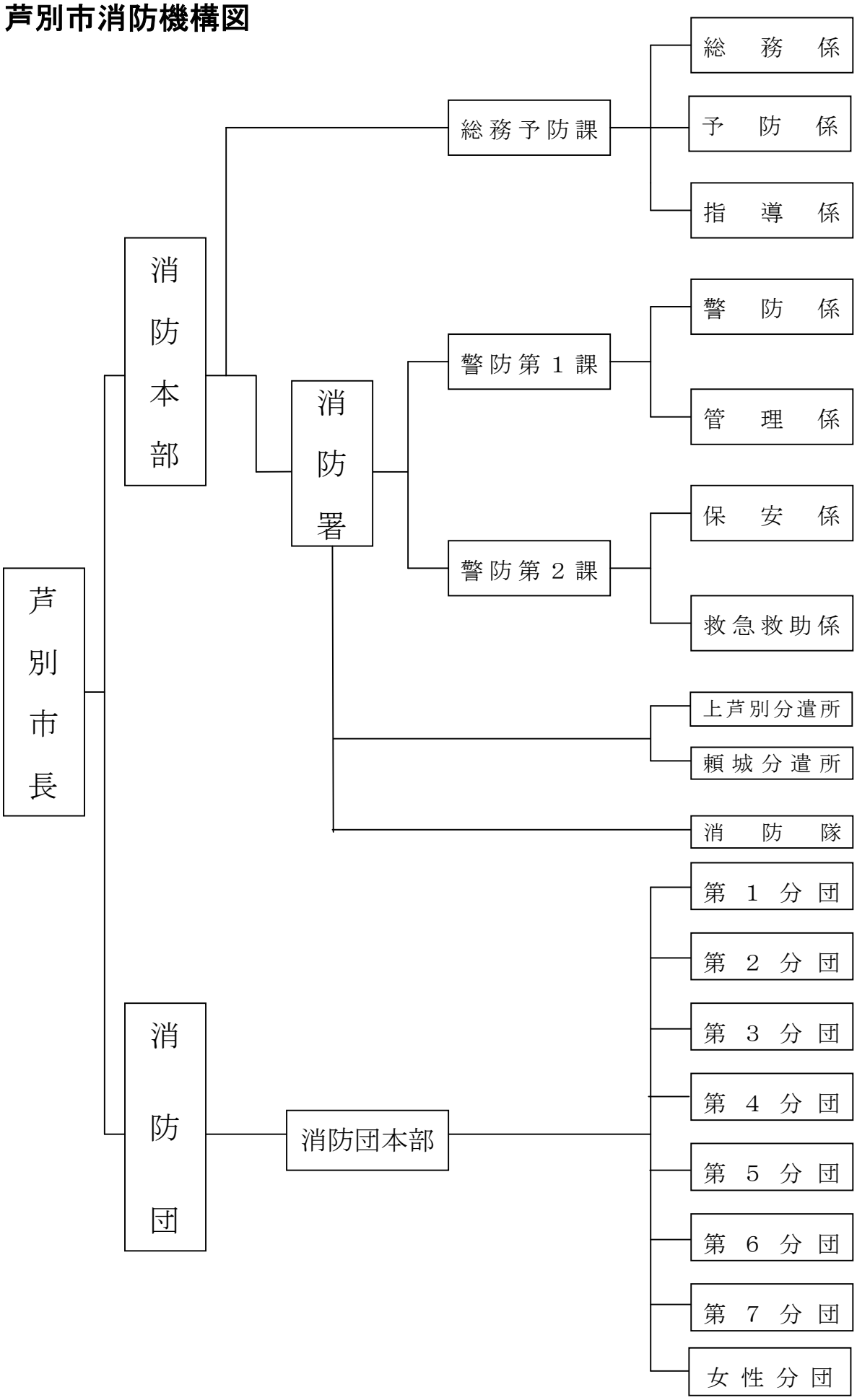
区分 年度別	一般会計（A）	消防費（B）	比率（B／A）%
平成25年度予算額	10，452，000，000	380，696，000	3．64
平成24年度決算額	10，428，690，000	405，376，000	3．89
平成23年度決算額	10，940，026，000	373，113，000	3．41
平成22年度決算額	11，327，508，000	380，323，000	3．36
平成21年度決算額	11，287，328，000	332，872，000	2．95

市民と消防費並びに火災損害額

（単位　円）

区分 年度別	消防費 （予算見込み）	火災 損害額	１人当り		１世帯当り	
			消防費	火災 損害額	消防費	火災 損害額
平成24年	400,738,000	8,531,000	24,514	521	46,587	992
平成23年	374,277,000	3,965,000	22,541	239	43,384	460
平成22年	380,323,000	4,326,000	22,872	260	50,535	575
平成21年	332,872,000	14,363,000	19,165	827	37,736	1,628
平成20年	307,439,000	13,058,000	17,303	735	34,221	1,453

芦別市消防機構図


芦別市長
消防本部
総務予防課
総務係
予防係
指導係
消防署
警防第１課
警防係
管理係
警防第２課
保安係
救急救助係
上芦別分遣所
頼城分遣所
消防隊
消防団
消防団本部
第１分団
第２分団
第３分団
第４分団
第５分団
第６分団
第７分団
女性分団

消防職員数

区分＼階級別	司令長 消防長	司　令	司令補	士　長	副士長	消防士	合　計
定　　員	階　級　別　定員　なし						55
実　　員	1	8	25	8	2	6	50

職員配置状況

職課名＼階級別		司令長 消防長	司　令	司令補	士　長	副士長	消防士	合　計
本部	消　防　長	1						1
	次　　長		1					1
	総務予防課		2	12	4	1	1	20
署・分遣所	署　　長		1					1
	警防第1課		2	7	1		4	14
	警防第2課		2	6	3	1	1	13
	上芦別分遣所	本部･署職員毎日派遣						0
	頼城分遣所	本部･署職員毎日派遣						0
合　　計		1	8	25	8	2	6	50

職員年齢状況

年齢＼階級別	司令長 消防長	司　令	司令補	士　長	副士長	消防士	合　計
20歳未満							
20歳以上～25歳未満						5	5
25歳以上～30歳未満				1	2	1	4
30歳以上～35歳未満			1	7			8
35歳以上～40歳未満			11				11
40歳以上～45歳未満			8				8
45歳以上～50歳未満		1	4				5
50歳以上～55歳未満		3					3
55歳以上	1	4	1				6
合　　計	1	8	25	8	2	6	50

職員勤続年数

勤続年数＼階級別	司令長 消防長	司　令	司令補	士　長	副士長	消防士	合　計
5年未満					1	6	7
5年以上～10年未満				3	1		4
10年以上～15年未満			2	5			7
15年以上～20年未満			10				10
20年以上～25年未満			8				8
25年以上～30年未満		1	3				4
30年以上～35年未満		1	1				2
35年以上	1	6	1				8
合　　計	1	8	25	8	2	6	50

歴代消防長

区分 代別	氏　名	就任年月日	退職年月日	勤続年数	備　考
初　代	大西駒太郎	昭和30. 12.　1	昭和34. 12.　1	4.　1	
二　代	沢内精治	昭和34. 12. 31	昭和41.　9.　5	6. 10	事務取扱
三　代	菅田英太郎	昭和41.　9.　6 昭和45. 10.　1	昭和48.　7.　1	4.　1 2.　9	職務代理者
四　代	高島勇太郎	昭和48.　7.　1	昭和51.　4. 16	2.　9	
五　代	島田好男	昭和51.　4. 16	昭和52.　4.　1	0. 11	事務取扱
六　代	熊谷文一	昭和52.　4.　1	昭和54.　7.　5	2.　3	
七　代	石川　孚	昭和54.　7.　5	昭和57.　3. 31	2.　8	
八　代	松浦威雄	昭和57.　4.　1	昭和60.　1. 16	2.　9	
九　代	茶木光義	昭和60.　1. 16	昭和62.　3. 17	2.　2	
十　代	武田榮治	昭和62.　3. 17	平成 4.　3. 31	5.　1	
十一代	清澤英雄	平成 4.　4.　1	平成 7.　3. 31	3.　0	
十二代	酒谷孝一	平成 7.　4.　1	平成 9.　3. 31	2.　0	
十三代	千葉昭夫	平成 9.　4.　1	平成11.　6. 30	2.　3	
十四代	小塚芳治	平成11.　7.　1	平成12.　3. 31	0.　9	
十五代	佐々木正昭	平成12.　4.　1	平成14.　6. 30	2.　3	
十六代	森　貞雄	平成14.　7.　1	平成17.　3. 31	2.　9	
十七代	熊谷憲康	平成17.　4.　1	平成19.　3. 31	2.　0	
十八代	市川　豊	平成19.　4.　1	平成23.　3. 31	4.　0	
十九代	水尾誠二	平成23.　4.　1	平成24.　3. 31	1.　0	
二十代	早松久志	平成24.　4.　1			

歴代消防本部次長

区分 代別	氏　名	就任年月日	退職年月日	勤続年数	備　考
初　代	原田　　最	昭和46．10．11	昭和49．　8．　1	2．10	昭和49．7．1署長兼務
二　代	柳原次郎	昭和49．10．　1	昭和53．　8．17	3．11	
三　代	大関富雄	昭和53．　9．　1	昭和56．12．16	3．　4	署長兼務
四　代	武田榮治	昭和56．12．16 昭和62．　3．17	平成　元．　3．31	5．　3 2．　1	事務取扱
五　代	清澤英雄	平成 元．　4．　1	平成　4．　3．31	3．　0	
六　代	石川正義	平成　4．　4．　1	平成　6．　3．31	2．　0	
七　代	佐々木　　久	平成　6．　4．　1	平成11．　3．31	5．　0	
八　代	戸梶宣孝	平成11．　4．　1	平成13．　3．31	2．　0	
九　代	熊谷憲康	平成13．　4．　1	平成17．　3．31	4．　0	
十　代	市川　　豊	平成17．　4．　1	平成19．　3．31	2．　0	
十一代	早松久志	平成19．　4．　1	平成22．　3．31	3．　0	
十二代	水尾誠二	平成22．　4．　1	平成23．3．31	1．　0	
十三代	早松久志	平成23．4．1	平成24．3．31	1．　0	
十四代	中川富士夫	平成24．4．1			

歴代消防署長

区分 代別	氏　名	就任年月日	退職年月日	勤続年数	備　考
初　代	小山田敬次郎	昭和30．12．　1	昭和35．　8．31	4．　9	
二　代	島田好男	昭和35．10．　1	昭和41．　4．20	5．　7	
三　代	菅田英太郎	昭和41．　4．20	昭和48．　7．　1	7．　3	
四　代	原田　　最	昭和48．　7．　1	昭和49．　8．　1	1．　1	
五　代	柳原次郎	昭和49．　8．　1	昭和53．　9．　1	4．　0	昭和49．10．1本部次長兼務
六　代	大関富雄	昭和53．　9．　1	昭和56．12．16	3．　9	
七　代	武田榮治	昭和56．12．16	昭和58．　7．　1	1．　7	本部次長兼務
八　代	日下　　勲	昭和58．　7．　1	平成 元．　3．31	5．　9	
九　代	佐々木　　久	平成 元．　4．　1	平成11．　3．31	10．　0	
十　代	戸梶宣孝	平成11．　4．　1	平成13．　3．31	2．　0	本部次長兼務
十一代	熊谷憲康	平成13．　4．　1	平成17．　3．31	4．　0	本部次長兼務
十二代	市川　　豊	平成17．　4．　1	平成19．　3．31	2．　0	本部次長兼務
十三代	早松久志	平成19．　4．　1	平成23．3．31	4．　0	H19~H21まで本部次長兼務
十四代	福士　　悟	平成23．4．1	平成24．3．31	1．　0	
十五代	永井雅己	平成24．4．1	平成25．3．31	1．　0	
十六代	富樫誠一	平成25．4．1			

職員の学校及び自治研修所派遣状況

学校・研修所別 ＼ 年別		昭和30年 平成20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	合計
消防大学校	上級幹部科	4						4
	研究科	1						1
北海道消防学校	幹部教育	22						22
	初任教育	80		1	2	3	2	88
	専科教育	133	2	4	4	3	7	153
北海道自治研修所	法政事務研修	6						6
	監督者研修	5						5
	上級職研修	3						3
	その他	2						2
合計		256	2	5	6	6	9	284

職員技能者数

技術区分 ＼ 階級別	司令長 消防長	司令	司令補	士長	副士長	消防士	合計
大型免許	1	8	26	8	1	0	44
普通免許	0	0	0	0	0	6	6
特殊無線技士資格者	1	3	6	4	0	1	15
危険物取扱資格者	0	3	12	4	1	1	21
消防設備士	0	1	0	1	0	0	2
衛生管理者資格者	0	1	3	0	0	0	4
足場組立作業主任者	0	6	9	1	0	0	16
酸素欠乏危険作業主任者	0	2	3	1	0	1	7
小型船舶操縦士	0	4	8	0	0	0	12
小型移動式クレーン	0	3	12	0	0	0	15
玉掛け	0	3	12	0	0	0	15
救急救命士	0	1	5	4	1	4	15
救急標準課程修了者	0	0	10	4	0	1	15
救急Ⅱ課程修了者	1	4	11	0	0	0	16
救急Ⅰ課程修了者	0	3	0	0	0	0	3

消防団員定員並びに階級別実員数

分団名 ＼ 実員	定員	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計
本部	5	1	3	1					5
女性分団	15			1	1	2	2	7	13
第1分団	35			1	1	2	7	20	31
第2分団	25			1	1	3	5	15	25
第3分団	25			1	1	3	5	15	25
第4分団	25			1	1	3	5	14	24
第5分団	35			1	1	3	6	24	35
第6分団	20			1	1	3	5	10	20
第7分団	20			1	1	3	5	6	16
合計	205	1	3	9	8	22	40	111	194

春秋･危険業務従事者叙勲受章者名簿

消防本部

受章年度	氏　　名	受章名	役　職
昭和４５年（春）	大西駒太郎	勲五等瑞宝章	元消防長
平成１６年春（危）	佐々木　久	瑞宝単光章	元司令長
平成１７年春（危）	伊藤　　貢	瑞宝単光章	元司令
平成１８年秋（危）	後藤　富衛	瑞宝単光章	元司令補
平成１９年春（危）	戸梶　宣孝	瑞宝単光章	元司令長
平成１９年春（危）	西　　英昭	瑞宝単光章	元司令
平成１９年秋（危）	武田　榮治	瑞宝双光章	元消防監
平成２０年春（危）	永田　守男	瑞宝単光章	元司令
平成２２年秋（危）	熊谷　憲康	瑞宝双光章	元消防監

消防団

受章年度	氏　　名	受章名	役　職
昭和４５年（秋）	川島千代作	勲七等単光旭日章	元分団長
昭和５６年（秋）	古田　松雄	勲六等瑞宝章	元副団長
昭和５７年（春）	川村千代吉	勲七等単光旭日章	元分団長
昭和６３年（春）	今野　正信	勲五等瑞宝章	元副団長
平成　６年（春）	大西　武一	勲五等瑞宝章	元団長
平成　７年（春）	中村　　清	勲六等単光旭日章	元副団長
平成　９年（秋）	帰山　和雄	勲六等瑞宝章	元分団長
平成１２年（秋）	野寺　雄治	勲六等瑞宝章	元分団長
平成１３年（春）	森田　迪夫	勲六等単光旭日章	元副団長
平成１５年（秋）	伊藤　　研	瑞宝単光章	元分団長
平成１８年（春）	小西　修身	瑞宝双光章	元団長
平成１８年（秋）	小野寺徳雄	瑞宝単光章	元副団長
平成２３年（春）	古田　克志	瑞宝双光章	元団長

叙位受章者名簿

消防本部

受章年度	氏　　名	受章名	役　職
平成１４年	日下　　勲	従七位	元司令
平成１７年	佐々木　久	正七位	元司令長

褒章受章者名簿

消防団

受章年度	氏　　名	受章名	役　職
昭和５８年	大西　武一	藍綬褒章	元団長
平成１１年	小西　修身	藍綬褒章	元団長
平成２０年	中内　紘治	藍綬褒章	副団長
平成２１年	岡本　秀夫	藍綬褒章	分団長
平成２２年	甲斐　勝博	藍綬褒章	分団長
平成２２年	髙砂　裕司	藍綬褒章	団長
平成２５年	土山　孝一	藍綬褒章	副団長

消防庁長官表彰（永年勤続功労章）

消防本部

受章年度	氏　　名	役　職
昭和６１年	日下　　勲	司　令
平成　２年	武田　榮治	消防監
平成　９年	佐々木　久	司令長
平成１７年	熊谷　憲康	消防監
平成２０年	市川　　豊	司令長

消防団

受章年度	氏　　名	役　職
昭和６１年	中村　　清	分団長
昭和６２年	伊藤　　研	副分団長
昭和６３年	野寺　雄治	分団長
昭和６３年	帰山　和雄	副分団長
平成　２年	森田　迪夫	分団長
平成　６年	小野寺徳雄	副団長
平成　８年	小西　修身	団　長
平成　９年	松本　　豊	副団長
平成１３年	古田　克志	副団長
平成１５年	野原　　彬	分団長
平成１６年	中内　紘治	副団長
平成１７年	斎藤　　勉	分団長
平成１８年	岡本　秀夫	分団長
平成１９年	須貝　一徳	分団長
平成２０年	甲斐　勝博	分団長
平成２１年	髙砂　裕司	副団長
平成２２年	伊藤吾輝夫	分団長
平成２３年	土山　孝一	副団長
平成２５年	小野　英開	分団長

表彰状況

区分	種別	該当区分	消防庁長官		北海道知事		市長	全国消防長会会長	日本消防協会会長		北海道消防協会会長		空知地方支部支部長		中空知分会会長	団長表彰	合計	
			職	団	職	団	団	職	職	団	職	団	職	団	団	団	職	団
被表彰者数			0	5	2	17	11	2	2	1	2	18	3	10	5	6	11	73
表彰区分	特別功績章																0	0
	永年勤続退団者			5													0	5
	功績章											3	2	1	5		2	9
	永年勤続功労章																0	0
	功労章						11									6	0	17
	精績章																0	0
	善行者																0	0
	勤続章																0	0
	勤続章内訳	5年以上												5			0	5
		10年以上				11						5					0	16
		15年以上											1	3			1	3
		20年以上			2	6		2			2	6					6	12
		25年以上												1			0	1
		30年以上							2	1		4					2	5
		35年以上															0	0
		40年以上															0	0

消防団幹部名

階級別 / 所属	団　　長	副 団 長	分 団 長	副分団長
団本部	髙 砂 裕 司	中 内 紘 治 斎 藤 　 勉 小 野 殖 基	田 川 吉 栄	
第 1 分 団			橋 浦 正 広	松 井 秀 世
第 2 分 団			小 林 英 二	寺 島 和 博
第 3 分 団			西 澤 栄 次	矢 口 宏 之
第 4 分 団			脇 島 真 一	水 島 康 夫
第 5 分 団			小 野 英 開	西 村 敏 夫
第 6 分 団			押 切 英 俊	石 田 敏 昭
第 7 分 団			川 村 正 洋	泉 田 英 利
女 性 分 団			結 城 静 枝	大 高 和 枝

消防団員勤続年数

階級別 / 勤続年数	団　長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部　長	班　長	団　員	合　計
1年未満							8	8
1年以上 5年未満							42	42
5年 〃 10年 〃					1	3	25	29
10年〃 15年 〃					2	11	24	37
15年〃 20年 〃			1		2	11	6	20
20年〃 25年 〃			2	3	6	12	3	26
25年〃 30年 〃			1		4	1	1	7
30年〃 35年 〃			1	1	6	1	1	10
35年〃 40年 〃	1	1	2	2	1	1	1	9
40年以上		2	2	2				6
合　　計	1	3	9	8	22	40	111	194

消防団員年齢状況

階級別 / 年齢別	団　長	副団長	分団長	副分団長	部　長	班　長	団　員	合　計
20歳未満								0
20歳以上25歳未満							3	3
25歳 〃 30歳 〃							15	15
30歳 〃 35歳 〃						2	14	16
35歳 〃 40歳 〃					1	4	37	42
40歳 〃 45歳 〃					1	5	11	17
45歳 〃 50歳 〃					6	9	13	28
50歳 〃 55歳 〃			1	2	3	7	5	18
55歳 〃 60歳 〃				2	4	6	5	17
60歳 〃 65歳 〃	1	1	7	3	6	5	7	30
65歳以上		2	1	1	1	2	1	8
合　　計	1	3	9	8	22	40	111	194

任免状況

区分 / 所属		採　用	退　職	市異動 増	市異動 減	昇任等
消防本部・署		2	2			5
消防団	団本部		1			
	第1分団		4			3
	第2分団	2	1			4
	第3分団	2	2			5
	第4分団		1			
	第5分団	3	3			
	第6分団	2				
	第7分団		1			2
	女性分団	1	2			2
合　　計		12	17	0	0	21

消防施設

消防施設（建物）一覧

区分 所管	所　在　地	構　造	竣　工　年	延　面　積	敷地面積
本部・署 第１分団	芦別市北１条 東１丁目３番地	鉄筋 ｺﾝｸﾘｰﾄ	Ｓ４４年	８２０．２５	6.528.00
第２分団	芦別市常磐町 ３３１番地４	木造 モルタル	Ｓ４１年	２２７．１８	403.15
第３分団	芦別市新城町 １８６番地１	木造 モルタル	Ｓ４８年	１３９．７３	326.44
第４分団	芦別市野花南町 ９７７番地１８	木造 モルタル	Ｓ５０年	１４３．６４	390.11
上芦別分遣所 第５分団	芦別市上芦別町 ５１８番地１４	木造 モルタル	Ｓ５４年	１９７．６４	632.73
第６分団	芦別市西芦別町 ８１番地１	木造 モルタル	Ｓ５２年	１９７．６４	1,001.76
頼城分遣所 第７分団	芦別市頼城町 ４番地３６	木造 モルタル	Ｓ５３年	１９７．６４	696.50

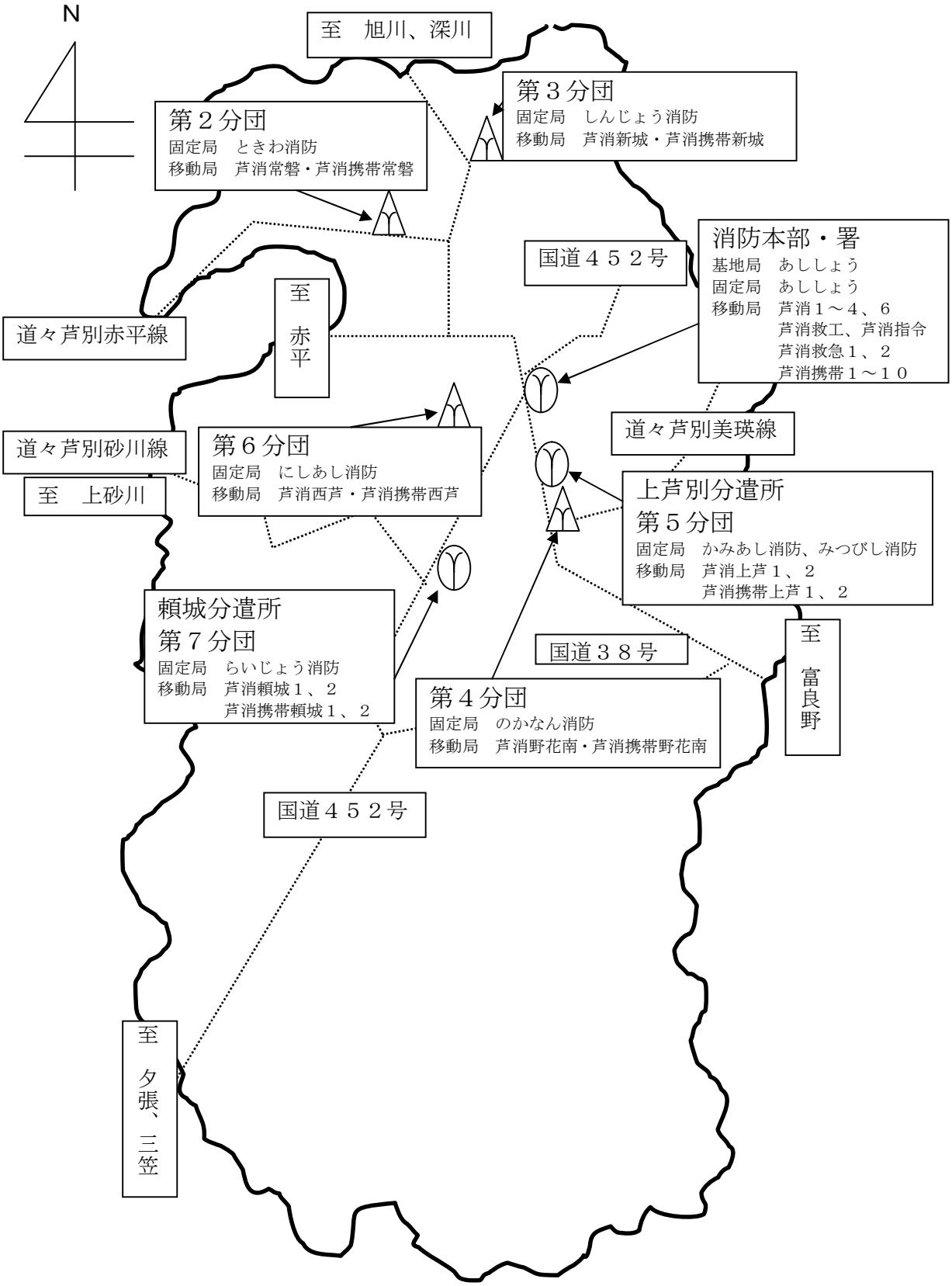
消防緊急通信指令装置回線構成

名　　称	容　量	実　装	単　位	記　　事
１　１　９　番　受　付	６	４	回　線	
携　帯１１９番　受　付	４	４	回　線	携帯会社４社、ひかり電話
ソフトバンクテレコム １１９番受付	２	２	回　線	
KDDI（IP電話） １１９番受付	２	２	回　線	企業向けIP電話
指　令　回　線	３	２	回　線	
局　　線	４	２	回　線	
内　　線	２	２	回　線	
録　音　回　路	２	２	回　線	１１７番時報同時録音
放　送　回　路	１	１	回　線	
テレオート・サービス回路	１	１	回　線	３回線
時　計　表　示	１	１	回　線	
消防車両表示回線	４０	４０	回　線	
Ｆ　Ａ　Ｘ　回　線	１	１	回　線	

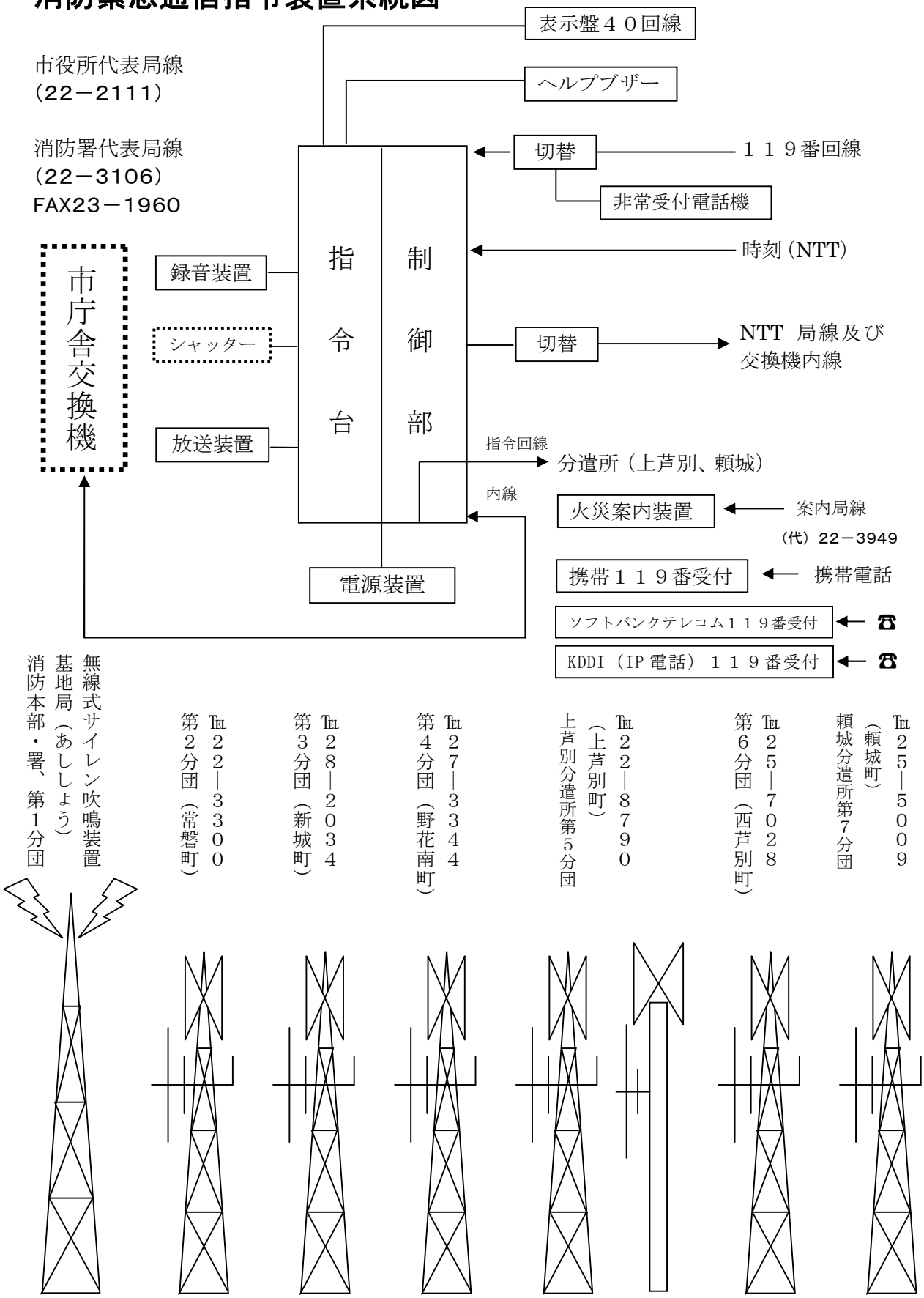
無線局

名　　称	無　線　通　信　施　設	
呼　出　名　称	基地局　あししょう	
	固定局　あししょう　ときわしょうぼう　しんじょうしょうぼう かみあししょうぼう　にしあししょうぼう　みつびししょうぼう　のかなんしょうぼう　らいじょうしょうぼう	
周波数（ＭＨｚ）	消防波　　１４９．６３	
	救急波　　１４３．７６　　１４７．７６	
	共通波　　１５０．７３	
通　信　方　式	消防波・共通波　　単信方式	
	救急波　　複信方式	
無　線　局　数	基地局　１	固定局　８
	陸上移動局　　３５（車載１７　　携帯１８）	
電　波　方　式	ＶＨＦ　　Ｆ３Ｅ　　１６ＫＯＦ２Ｄ	
空中線電力	基地局　　１０Ｗ　　陸上移動局（車載１０Ｗ・携帯５Ｗ、１Ｗ）	
	固定局　　０、０２Ｗ、２Ｗ、５Ｗ、１０Ｗ	
受　令　機　数	５８　　（職員非常招集用）	

消防無線電話の配置及び呼出し名称



消防緊急通信指令装置系統図



車両現勢一覧表

区分 所属	車　名	型　式	種　別	年　式	車令	ポンプ		備考
						艤装会社	級別	
消防署	日　野	KL-FQ 1KRHA	小型動力ポンプ 付水槽車	平成 １２年	１３	北海道 モリタ	B-3	Ⅱ型 10，000㍑
	日　野	LDG- FE7JGAA	水槽付 ポンプ車	平成 ２４年	1	北海道 モリタ	A-2	水槽 2，500㍑ CAFS 装置付
	日　野	BDG-GX 7JGWA	救助工作車	平成 ２０年	５			小型動力ポンプ クレーン積載
	トヨタ	CBF-TRH 226S	救急車	平成 ２２年	３			高規格車
	トヨタ	TC-VCH 38S	救急車	平成 １５年	１０			高規格車
	トヨタ	CBA-GRJ 150W	指令車	平成 ２４年	1			小林英一氏寄贈
	トヨタ	CBF-TRH 226K	指揮広報車	平成 ２５年	０			
第１分団	トヨタ	BDG-XZU 378	ポンプ車	平成 ２３年	２	日本機械	A-2	小型動力 ポンプ積載
	三　菱	KK-FG 53ED	ポンプ車	平成 １２年	１３	日本機械	A-1	小型動力 ポンプ積載 日本損害保険協 会寄贈
第２分団	三　菱	U-FG 337E	小型動力ポンプ 付積載車	平成 ５年	２０	北海道 モリタ	B-2	小型動力 ポンプ積載
第３分団	三　菱	U-FG 337C	ポンプ車	平成 ３年	２２	北海道 モリタ	A-2	小型動力 ポンプ積載
第４分団	いすゞ	U-FRR 32F	水槽付ポンプ車	平成 ２年	２３	北海道 モリタ	A-2	水槽 2，000㍑ 小型動力 ポンプ積載
第５分団	いすゞ	P-FRS 35G3J	災害対応特殊 水槽付ポンプ車	平成 １７年	８	日本機械	A-2	水槽 1，500㍑
	三　菱	KC-FG 538D	ポンプ車	平成 ８年	１７	北海道 モリタ	A-2	小型動力 ポンプ積載
第６分団	トヨタ	BDG-XZU 378	ポンプ車	平成 ２２年	３	日本機械	A-2	小型動力 ポンプ積載
第７分団	いすゞ	P-FRR 12FAV	水槽付ポンプ車	昭和 ６３年	２５	日本機械	A-2	水槽 2，000㍑ 日本損害保険協 会寄贈
	いすゞ	K-TLD 44	ポンプ車	昭和 ５５年	３３	北海道 モリタ	B-1	小型動力 ポンプ積載

年間車両使用状況

区分 / 車名	火災出動	救急出動	救助出動	風水害等の災害	演習訓練	訓練指導	警防調査	火災調査	特別警戒	遭難	予防査察	誤報	その他	延回数	消費燃料	走行粁数
署１号車	6				17		1					2	32	58	435	475
署２号車	6		1		4							2	32	45	325	171
署救助工作車	5		18	3	12			1				1	19	59	622	961
署救急１号車		712											33	745	2,901	14,700
署救急２号車		62			2								11	75	445	1,999
署指令車	5		3	2	2	9	4		23		59	1	283	391	1,187	7,595
署広報車	3		1	2	4	4	13	6	3		18	1	226	281	579	5,438
署指揮広報車	2		2		5	5	21	2	9		21		265	332	1,073	6,184
第１分団１号車	2			1	10		6		13		1		16	49	160	416
第１分団２号車	2			1	7		16		11				8	45	257	628
第２分団車				1	11		4		17				3	36	168	652
第３分団車					8				22				3	33	114	779
第４分団車	1			1	3				37				1	43	245	921
第５分団１号車	3			1	19		60		39				11	133	582	2,921
第５分団２号車	3			1	4				29				4	41	320	618
第６分団車	1				5		37		24				1	68	227	821
第７分団１号車	1		1		3		60		41				14	120	293	1,819
第７分団２号車	1				5				21				9	36	148	690
計	41	774	26	13	121	18	222	9	289		99	7	971	2,590	10,081	47,788

※　救急出動として市立芦別病院救急車で４件出動している。

小型動力ポンプ現勢一覧表

区分 所属	名　　称	型式	馬力	購　入　年　月	経過年数	級　　別
消 防 署	トーハツ	V20ES	１５	Ｈ　１５．　８	１０	C-１
第１分団	トーハツ	V20ES	１５	Ｈ　２３．　５	２	C-１
第１分団	トーハツ	V20DS	１５	Ｈ　１２．１１	１３	C-１
第２分団	トーハツ	V20BS	１５	Ｈ　　５．１１	２０	C-１
第３分団	ラビット	P381SV	１５	Ｈ　１２．　５	１３	C-１
第４分団	トーハツ	V20ES	１５	Ｈ　１４．　６	１１	C-１
第５分団	トーハツ	V20CS	１５	Ｈ　　８．１１	１７	C-１
第６分団	トーハツ	V20ES	１５	Ｈ　２２．１０	３	C-１
第７分団	ラビット	P303B	１３	Ｓ　５４．１０	３４	C-１

ホース配置状況

種別 所属	５０㎜ホース	６５㎜ホース	計
消　防　署 第　１　分　団	５７	１１９	１７６
第　２　分　団		４０	４０
第　３　分　団		４０	４０
第　４　分　団		４０	４０
第　５　分　団	８	７２	８０
第　６　分　団		４０	４０
第　７　分　団	３	７７	８０
計	６８	４２８	４９６

過去５年間に整備した主要消防施設

施設名 年度別	消防自動車	小型動力ポンプ	消防用無線機 通信施設	消防水利
21年度				消火栓　　1基
22年度	高規格救急車 第6分団ポンプ車	トーハツ V20ES１台		消火栓　　1基
23年度	第1分団ポンプ車	トーハツ V20ES１台	携帯用無線機　3台	消火栓　　2基
24年度	署2号車 署指令車			
25年度	署指揮広報車			消火栓　　1基
計	６　台	２　台	３　台	消火栓　　5基

全 市 水 利 状 況

区分 / 地区別	消火栓		小計	防火水槽		小計	合計
	双口	単口		４０㎥以上	４０㎥未満		
本町地区 第１分団	５	１１１	１１６	５０	６	５６	１７２
常磐町地区 第２分団		２	２	３	２	５	７
新城町地区 第３分団		６	６	２		２	８
野花南町地区 第４分団		７	７	１	１	２	９
上芦別町地区 第５分団		６６	６６	２２	４	２６	９２
西芦別町地区 第６分団		２１	２１	７	５	１２	３３
頼城町地区 第７分団		１７	１７	７	２	９	２６
合計	５	２３０	２３５	９２	２０	１１２	３４７

火災統計・気象

火災の概況

区分 / 年別	件数	火災種別								焼損棟数	り災		死傷者		焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）
		建物					林野	車両	その他		世帯数	人員	死者数	負傷者数			
		全焼	半焼	部分焼	ぼや	計											
25年	6	3		2		5			1	7	5	10			348	3	6,433
24年	5	2	1	1		4			1	5	3	8		2	325	40	8,531
比較	1	1	△ 1	1	0	1	0	0	0	2	2	2	0	△ 2	23	△ 37	△ 2,098

※ △は前年度比較の減。

過去5年間の出火原因調べ

原因別 / 年別	たばこ	こんろ	ストーブ、煙突	電気、配線	火入れ、たき火	風呂、かまど	炉・焼却炉	火遊び・マッチライター	溶接機	穀物乾燥機	灯火	排気管	放火、放火の疑い	その他	不明・調査中	合計	出火率
25年				1				1						2	2	6	3.7
24年			1											2	2	5	3
23年	2	1		1									3	2	1	10	6
22年		1	1	1										3	2	8	4.7
21年					1	1					1		1	4	2	10	5.7

※ 出火率とは、人口1万人あたりの出火件数をいう。

月別火災発生状況

区分 / 月別	件数	火災種別								焼損棟数	り災		死傷者		焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）
		建物					林野	車両	その他		世帯数	人員	死者数	負傷者数			
		全焼	半焼	部分焼	ぼや	計											
1																	
2	1	1				1				3	1	4			87		1,668
3	2	1		1		2				2	2	3			157		3,305
4																	
5																	
6	1								1								0
7																	
8																	
9																	
10																	
11																	
12	2	1		1		2				2	2	3			104	3	1,460
合計	6	3	0	2	0	5	0	0	1	7	5	10	0	0	348	3	6,433

時間別火災発生状況

区分 / 時間別	件数	火災種別								焼損棟数	り災		死傷者		焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）
		建物					林野	車両	その他		世帯数	人員	死者数	負傷者数			
		全焼	半焼	部分焼	ぼや	計											
0～1																	
1～2																	
2～3																	
3～4																	
4～5																	
5～6																	
6～7																	
7～8																	
8～9																	
9～10																	
10～11																	
11～12	1	1				1				3	1	4			87		1,668
12～13																	
13～14																	
14～15																	
15～16																	
16～17	1			1		1				1	1	2				3	50
17～18	2	1		1		2				2	2	3			157		3,305
18～19	1								1						0		0
19～20																	
20～21																	
21～22	1	1				1				1	1	1			104		1,410
22～23																	
23～24																	
不　明																	
合　計	6	3	0	2	0	5	0	0	1	7	5	10	0	0	348	3	6,433

管轄区域別火災発生状況

地区別 ＼ 年別		平成25年（A）		平成24年（B）		増減（A）－（B）	
		件数	損害額(千円)	件数	損害額(千円)	件数	損害額(千円)
第1分団	本町	2	3,305	1	1,180	1	2,125
	旭町			1	2,455	△ 1	△ 2,455
	高根町						
	旭町油谷						
第2分団	常磐町			1	2,835	△ 1	△ 2,835
	福住町						
第3分団	新城町			1	0	△ 1	0
	豊岡町						
	黄金町						
第4分団	野花南町						
	滝里町	1	0			1	0
第5分団	上芦別町	2	3,078	1	2,061	1	1,017
第6分団	西芦別町					0	0
	上芦別町(啓南街)	1	50			1	50
	東頼城町						
第7分団	頼城町						
	緑泉町						
	川岸 奥芦別						
合計		6	6,433	5	8,531	1	△ 2,098

昭和３０年以降の火災発生状況

区分 年別	火災件数	焼損床面積（ａ）㎡	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）	市民１人当たり損害額（円）	１世帯当たり損害額（円）	火事騒件数	死者
30	28	3,047		36,346	501	2,686	3	
31	50	4,441		146,879	2,157	10,983	9	
32	32	1,318		13,579	182	986	17	2
33	22	1,345		7,422	98	528	25	
34	28	2,636		22,126	295	1,584	23	
35	43	3,111		34,219	466	2,468	17	2
36	35	3,845		55,938	783	4,147	24	2
37	21	3,324		17,367	248	1,276	36	1
38	36	2,165		17,019	255	1,271	42	
39	22	5,909		105,709	1,765	8,509	41	
40	22	3,500		40,720	781	3,164	43	4
41	19	4,502		56,203	991	4,533	32	
42	22	3,638		34,072	622	2,783	30	1
43	22	2,457		22,142	423	1,864	37	
44	24	3,923		87,877	1,924	6,840	23	2
45	28	4,164		51,877	1,188	4,103	26	
46	28	4,165		39,932	931	3,159	26	1
47	11	232		63,980	1,578	5,233	28	
48	16	1,608		111,381	2,856	9,275	27	
49	20	(15)3,065		85,352	2,245	7,199	13	2
50	11	1,269		57,965	1,560	4,948	9	1
51	9	(526)1,166		37,597	1,029	3,213	6	
52	8	1,025		31,048	862	2,666	12	
53	14	(144) 881		31,828	903	2,756	7	1
54	6	706		24,226	708	2,103	11	1
55	13	2,739		84,275	2,528	7,395	14	2
56	8	596		14,485	443	1,282	4	1
57	9	707		23,592	738	2,098	23	1
58	8	(117) 378		17,123	548	1,539	30	
59	17	(422)1,159		72,991	2,365	6,556	30	2
60	12	582		33,073	1,084	2,967	24	1
61	12	1,088		56,216	1,864	5,034	10	6
62	10	823		26,473	929	2,469	15	2
63	8	642		43,225	1,582	4,129	13	
平成元	16	(920)2,451		45,964	1,748	4,490	13	
2	10	(36) 186		4,601	179	451	7	
3	12	2,085		181,793	7,238	17,960	13	1
4	14	351		12,328	501	1,225	3	

区分 年別	火災件数	焼損床面積（ａ）㎡	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）	市民１人当たり損害額（円）	１世帯当たり損害額（円）	火事騒件数	死者
5	12	(87)1,416		115,758	4,825	11,550	4	
6	8	(4) 23		8,010	339	802	4	
7	21	444	23	24,579	1,059	2,470		
8	16	528	5	40,645	1,782	4,122		2
9	13	148		8,416	376	857		
10	21	(97) 300	30	37,955	1,722	3,869		2
11	12	453		28,990	1,334	2,970		
12	12	(16) 218	44	18,521	869	1,906		
13	19	(7) 210	7	23,472	1,120	2,424		
14	17	(7) 62	29	9,308	454	970		1
15	14	(4) 174	8	21,051	1,045	2201		2
16	10	487	35	26,538	1,343	2,798		
17	10	74	9	2,735	142	291		
18	18	(9) 108	4	3,170	169	343		1
19	12	879	16	30,685	1,649	3,338		2
20	19	(26) 338	86	13,058	722	1,442		2
21	10	201	42	14,363	810	1,612		
22	8	147		4,326	255	495		1
23	10	30		3,965	239	460		
24	5	325	40	8,531	521	992		
25	6	348	3	6,433	405	763		

※　焼損表面積は、平成７年１月１日改正による新区分。（　）内は林野火災の焼損面積。

月別火災等出動状況

種別 / 月別	火災件数	その他件数	出動回数		出動台数		出動人員		放水台数		使用水利				
			署	団	署	団	署	団	署	団	タンク	消火栓	防火水槽	河川・その他	中継
1															
2	1		1	1	5	2	23	29	2	1	3	2			1
3	2		2	2	12	6	49	73	4	4	3	4	2		2
4		4	4	1	6	10	46	48							
5															
6	1		1	1	3	1	10	12	1		1				1
7		1	1		1		2								
8		1	1		2		7								
9		2	2		2		10								
10		3	3		5		12								
11															
12	2	1	3	2	10	5	47	40	5	3	5	4			1
計	6	12	18	7	46	24	206	202	12	8	12	10	2		5

※　火災件数については事後聞知含む

風向の状況（最大風速時）

（単位　日）

北	１１	南　東	５６	西	１４
北　北　東	３	南　南　東	３６	西　北　西	５０
北　東	１	南	３３	北　西	７４
東　北　東	０	南　南　西	１５	北　北　西	３１
東	３	南　西	１１	無　風	０
東　南　東	２３	西　南　西	４	計	３６５

過去１０年間における気象の極値

	最高気温（℃）	最低気温（℃）	日最大降水量（mm）	日最大降雪量（cm）
16 年	34.4　(7 月 30 日)	−18.9　(1 月 25 日)	49　(6 月 10 日)	22　(12 月 5 日)
17 年	32.2　(6 月 23 日) (8 月 11 日)	−20.5　(1 月 26 日)	65　(9 月 7 日)	36　(1 月 30 日)
18 年	33.5　(8 月 9 日)	−17.8　(1 月 23 日)	79　(8 月 18 日)	30　(1 月 30 日)
19 年	35.7　(8 月 13 日)	−16　(2 月 10 日)	46　(9 月 7 日)	23　(11 月 21 日)
20 年	34.0　(7 月 6 日)	−22.4　(2 月 25 日)	33　(8 月 3 日)	40　(11 月 20 日)
21 年	33.1　(8 月 11 日)	−16.9　(12 月 17 日)	58.5　(7 月 19 日)	26　(12 月 14 日)
22 年	34.3　(6 月 28 日)	−17.2　(12 月 4 日)	52　(8 月 24 日)	27　(11 月 29 日)
23 年	33.5　(8 月 8 日)	-18　(1 月 28 日)	95　(7 月 14 日)	41　(12 月 25 日)
24 年	33.8　(8 月 21 日)	-20.2　(1 月 28 日)	61.5　(7 月 31 日)	26　(12 月 18 日)
25 年	32.8　(7 月 8 日)	-19.5　(2 月 12 日)	61.5　(7 月 31 日)	40　(1 月 3 日)

月別気象状況

上半期

種別	月別	1	2	3	4	5	6
天気	晴れの日数	9	11	7	5	10	17
	曇りの日数	12	11	13	18	15	10
	雨の日数	0	1	2	7	6	3
	雪の日数	10	5	9	0	0	0
日照時間		85.6	87.5	96.4	113	140	213
風速	最大(m/秒)	8.4	8.6	11.6	12	9	6.9
	最大風速の日(日)	3	7	1	7	11	1
	平均風速５ｍ以上の日数	0	0	1	1	0	0
	平均風速(m/秒)	1.6	1.9	2.6	2.6	2.4	2.3
最多風向		南東	西北西	北西	南風	北西	北西
降水量		49.0	52.5	42.0	70.0	45.0	73.5
雪	新積雪	138	105	84	19	0	0
	最大積雪値	40	22	15.5	9	0	0
気温	最高	2.7	5.7	12.0	17.6	28.3	30.4
	最高気温の日	25	2	28	24	27	10
	最低	-19.4	-19.5	-14.6	-6.7	-0.6	8.2
	最低気温の日	17	12	11	1	8	4
	９時の平均気温	-8.5	-6.7	-2.1	4.3	11.0	18.6
湿度	最小湿度	29	41	22	6	14	11
	最小湿度の日	30	13	25	24	18	1
	湿度の平均	69.1	71.8	67.3	65.3	60.1	58.1
	実効湿度の平均	73.1	71.7	68.3	63.5	63.5	56.6

下半期

種別	月別	7	8	9	10	11	12	合計(平均)
天気	晴れの日数	16	14	10	13	8	2	122
	曇りの日数	15	13	12	12	13	17	161
	雨の日数	0	4	8	6	5	2	44
	雪の日数	0	0	0	0	4	10	38
日照時間		203	140	125	112	70	54.9	1440.4
風速	最大(m/秒)	8.4	9.9	7.4	11.4	9.3	7.6	110.5
	最大風速の日(日)	25	30	17	25	25	20	
	平均風速５ｍ以上の日数	1	0	0	1	1	0	
	平均風速(m/秒)	2.5	2.0	1.8	2.2	1.9	1.6	2.1
最多風向		北西	北西	南東 南南東	北西	南風	南東	
降水量		95.0	163.0	205.0	111.0	124.0	158.0	1188.0
雪	新積雪	0	0	0	0	67	191	604
	最大積雪値	0	0	0	0	17	26	
気温	最高	32.8	32.2	26.8	24.0	17.0	8.0	
	最高気温の日	8	7	11	2	7	5	
	最低	13.5	11.1	1.7	-0.3	-6.6	-14.1	
	最低気温の日	1	29	27	17	13	24	
	９時の平均気温	22.1	22.0	16.4	10.7	3.3	-2.5	7.4
湿度	最小湿度	15	26	24	23	27	57	
	最小湿度の日	20	2	13,28	3,22	18	29	
	湿度の平均	63.7	68.6	69.9	62.4	68.6	80.3	67.1
	実効湿度の平均	64.1	67.7	71.2	66.4	70.3	71.3	67.3

９：００観測

救急・救助

救急活動総括表

種　　別	総　　計	月　平　均	一　日　平　均	一　回　平　均
出　動　件　数	778　件	64.8　件	2.1　件	
不搬送件数	68　件	5.7　件		
搬　送　人　員	719　人	59.9　人	2.0　人	
出　動　人　員	2,435　人			
走　行　粁　数	16,541ｋｍ			21.3km
現場到着時間	最短 0　分	最長 67　分		6分47秒
収容所要時間	最短10　分	最長 155　分		36分12秒

月別出動件数

月別 / 事故種別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
火　　災			1										1
自　然　災　害													
水　難　事　故													
交　通　事　故	6				1	3	5	2	4	7	9	2	39
労　働　災　害	1	1			2						1	1	6
運　動　競　技	1	2			1	1			1	1			7
一　般　負　傷	13	8	6	14	8	6	6	12	5	6	13	18	115
加　　害			1		1		3						5
自　損　行　為		2	3		2	1					2		10
急　　病	55	36	41	54	51	29	33	32	39	36	33	45	484
そ　の　他	4	6	9	7	14	12	10	9	10	10	5	15	111
計	80	55	61	75	80	52	57	55	59	60	63	81	778

時間別出動件数

事故種別 / 時間	火災	自然災害	水難事故	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
０ ～ ２							1	1		22	4	28
２ ～ ４				1			2			17	3	23
４ ～ ６							4			15	2	21
６ ～ ８				2			7	1	2	48	4	64
８ ～ １０				8	2		17			69	15	111
１０ ～ １２				4	2	2	16	1	2	65	17	109
１２ ～ １４				7	1	4	16		2	41	20	91
１４ ～ １６				8	1	1	15		1	42	12	80
１６ ～ １８	1			2			11		1	48	12	75
１８ ～ ２０				2			11		2	38	3	56
２０ ～ ２２				3			9	1		44	11	68
２２ ～ ２４				2			6	1		35	8	52
計	1			39	6	7	115	5	10	484	111	778

町内別出動件数

町内別 / 事故種別	本町（高根）	上芦別（啓南）	西芦別（中の丘）（東頼城）	頼城（緑泉）	野花南（滝里）	新城（豊岡）（黄金）	常磐（福住）	旭（油谷）	管外	計
火災	1									1
自然災害										
水難事故										
交通事故	17	3		12	4		2		1	39
労働災害	2	2		2						6
運動競技	2	4						1		7
一般負傷	64	26	6	2	2	4	3	8		115
加害	4			1						5
自損行為	5	3			2					10
急病	273	117	20	11	18	7	14	24		484
その他	83	12	2		2			12		111
計	451	167	28	28	28	11	19	45	1	778

管外搬送　（転院・転送・直接搬送）　出動件数

病院所在地		転院	転送	直接搬送	計
1	滝川市	34	1	64	99
2	砂川市	30	1	40	71
3	旭川市	2	1	2	5
4	赤平市			11	11
5	富良野市	2		9	11
6	岩見沢市	1			1
計		69	3	126	198

年齢区分別搬送人員数調

年齢区分／事故種別	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	計
火災						
自然災害						
水難事故						
交通事故			2	19	18	39
労働災害				4	2	6
運動競技			6	1	1	8
一般負傷		2	5	22	83	112
加害				2	3	5
自損行為				1	1	2
急病		10	10	104	338	462
その他				23	62	85
計		12	23	176	508	719

新生児　生後２８日未満の者
乳幼児　生後２８日以上満７歳未満の者
少　年　満７歳以上満１８歳未満の者
成　人　満１８歳以上満６５歳未満の者
高齢者　満６５歳以上の者

傷病程度別搬送人員

傷病程度＼事故種別	火災	自然災害	水難事故	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
死亡				1			2			15		18
重症				1	2	1	17	2	1	80	33	137
中等症				10	2		40	1		162	46	261
軽症				27	2	7	52	2	1	206	6	303
その他												
計				39	6	8	111	5	2	463	85	719

搬送人員のうち救急隊員の行った応急処置

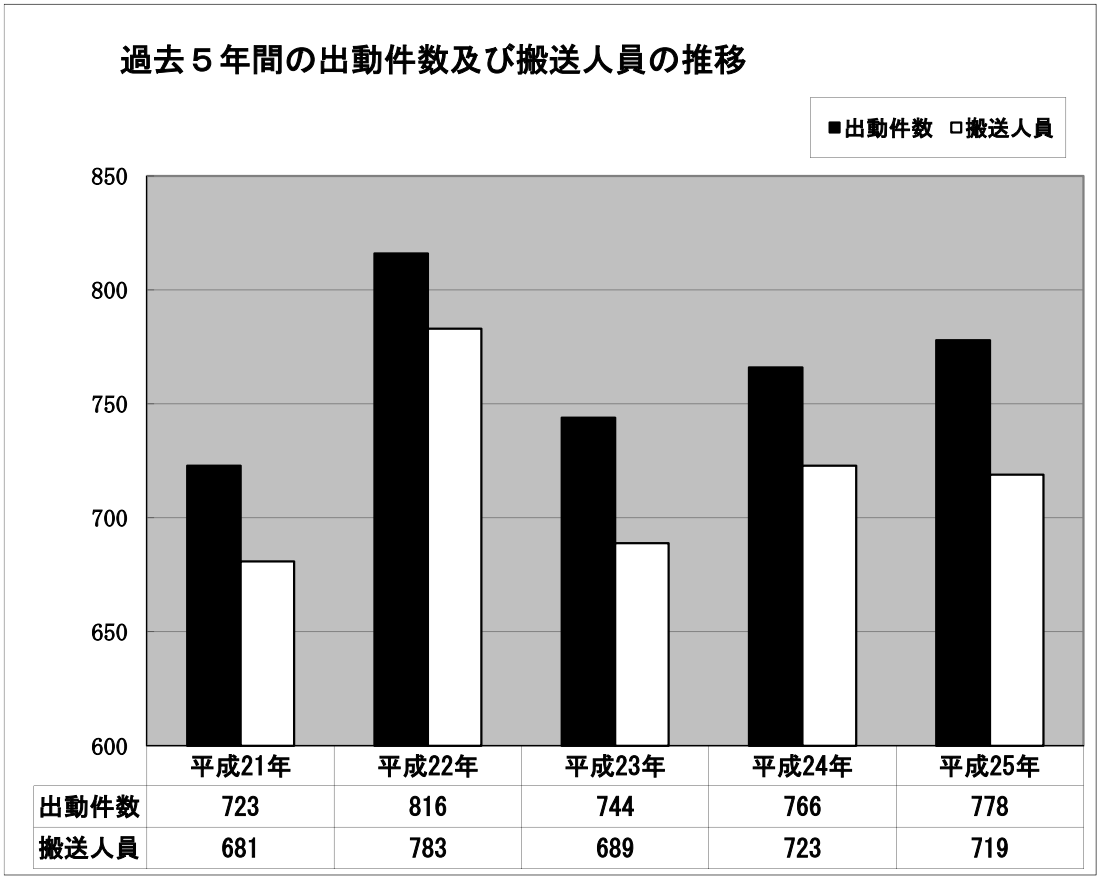
事故種別＼処置種別	搬送人員	搬送人員応急処置	止血	固定	人工呼吸	心肺蘇生	酸素吸入	除細動	気道確保	※特定行為			その他			計
										気道確保	静脈路確保	薬剤投与	保温	被覆	その他	
急病	463	462	6		16	19	106	3	17	(16)	12	6	5	1	1196	1387
交通事故	39	36	3	14	1	1	9		1	(1)			1	1	91	122
一般負傷	111	111	9	21	5	5	11	1	5	(4)	1		1	18	264	341
その他	106	104	4	13	1		26		1				2	5	259	311
計	719	713	22	48	23	25	152	4	24	(21)	13	6	9	25	1810	2161

※特定行為の気道確保件数21件は気道確保件数の24件に含む。

・救急救命士法に基づき重度傷病者に対して行う救急救命処置のうち
　気道確保 ～ラリンゲアルマスク等を使用しての気道確保
　除細動 ～半自動式除細動器による除細動
　静脈路確保 ～輸液及び薬剤を用いるために行う静脈路の確保
　薬剤投与 ～静脈路確保後に行うアドレナリンの投与

収容所要時間

時間別搬送人員 ＼ 事故種別	覚知から医療機関に収容するのに要した時間別搬送人員					
	１０分未満	１０分～２０分未満	２０分～３０分未満	３０分～６０分未満	６０分以上	計
急　　病	0	74	217	156	16	463
交 通 事 故	0	5	10	10	14	39
一 般 負 傷	0	16	32	48	15	111
そ　の　他	0	10	12	79	5	106
計	0	105	271	293	50	719



救助出動及び活動状況

事故種別 / 区分	火災	交通事故	水難事故	風水害等自然災害	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	破裂事故	その他の事故	計
出動件数		10							4	14
活動件数		3							3	6
救助人員		3							2	5
出動台数		28							10	38
活動台数		16							5	21
出動人員		102							56	158
活動人員		53							38	91

救急講習実施状況

講習種別	講習回数	延べ実施人数
一般講習	１５回	１７５人
普通救命講習	２０回	２６８人

予防・危険物

関係法令による処理件数

区分	種別	処理件数	
		受理件数	備考
法第7条	建築確認申請	２９	
	計	２９	
市火災予防条例	避難訓練実施報告	９０	消火、通報訓練含む
	劇場等の裸火使用危険物品持込申請		
	防火対象物使用開始届出	１３	
	ボイラー・厨房設備等の設置届出	２	
	変電・燃料電池発電・発電・蓄電池設置届出	８	
	火災とまぎらわしい煙等の届出	１００	
	煙火打上げ・仕掛け届出	１３	
	催物開催届出	５	
	道路工事届出	１２	
	少量危険物貯蔵取扱届出	１１	
	指定可燃物貯蔵取扱届出	１	
	計	２５５	
危険物関係	設置許可申請		
	変更許可申請	６	
	設置完成検査申請		
	変更完成検査申請	６	
	予防規程制定・変更許可申請		
	仮使用承認申請	４	
	地下貯蔵タンク等の在庫の管理及び危険物の漏えい時の措置に関する計画届出		
	廃止届出	２	
	保安監督者選任（解任）届出	３	
	品名、数量変更届出		
	施設譲渡引渡届出	２	
	使用休止・再開届出	８	
	軽微な変更工事届出	８	
	設置者住所等の変更届出	２	
	計	４１	
消防法関係	消防用設備等着工届出	６	
	消防用設備等設置届出	３０	
	消防用設備等点検結果報告	４０５	
	防火管理者選任（解任）届出	５１	
	消防計画作成（変更）届出	２９	
	圧縮アセチレンガス貯蔵・取扱い開始届出	１	
	計	５２２	
その他	り災証明交付申請	６	
	道路法第４６条に基づく通知	１８	
	集合煙突検査申請		
	集合煙突検査証明申請		
	計	２４	
	合計	８７１	

構造別、工事別、建築同意状況

構造別	耐火構造				1			1				2			4	1
	準耐火構造					1				1		1			3	
	その他			1		2	5	2	4	4	2			1	1	22	14
工事別	新築			1		2	5	1	3	4	3			1	1	21	13
	増築					1	1	1	2				2			7	1
	改築												1			1	1
	用途変更																
月別				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	通知
用途別	1	イ	劇場、映画館等														
		ロ	公会堂、集会場														
	2	イ	キャバレー等														
		ロ	遊技場等														
		ハ	性風俗店舗等														
		ニ	カラオケボックス等														
	3	イ	待合、料理店等														
		ロ	飲食店														
	4		百貨店、店舗等														
	5	イ	旅館、ホテル等														
		ロ	共同住宅等				1		2							3	
	6	イ	病院、診療所等														
		ロ	福祉施設等														
		ハ	幼稚園等														
	7		学校等														
	8		図書館、博物館等														
	9	イ	サウナ浴場等														
		ロ	イ以外の浴場														
	10		車両の停車場等														
	11		神社、寺院等														
	12	イ	工場、作業場						1		1		1			3	
		ロ	映画スタジオ等														
	13	イ	車庫、駐車場等	1												1	
		ロ	飛行機の格納庫等														
	14		倉庫					1					1			2	
	15		その他の事業所			1							1			2	1
	16	イ	複合用途				1									1	
		ロ	イ以外の複合用途							1						1	
	専用住宅					2	4	1	2	3	2			1	1	16	14
	その他																
計				1		3	6	2	5	4	3		3	1	1	29	15

防火対象物地区別及び項別調

項別 ＼ 町内別			本町	上芦別町	西芦別町	頼城町	常磐町	新城町	野花南町	旭・油谷	黄金町	滝里町	計
1	イ	劇場、映画館等		2									2
	ロ	公会堂、集会場	3	4	1	1	1	1	1		1		13
2	イ	キャバレー等	1										1
	ロ	遊技場等	3	1							1		5
	ハ	性風俗店舗等											
	ニ	カラオケボックス等	1										1
3	イ	待合、料理店等											
	ロ	飲食店	17	2						3	1		23
4		百貨店、店舗等	32	6									38
5	イ	旅館、ホテル等	4	1								1	6
	ロ	共同住宅等	187	39	36	18				2			282
6	イ	病院、診療所等	5	1						1			7
	ロ	福祉施設等	1							2			3
	ハ	老人デイサービスセンター等	6	1				1		2			10
	ニ	幼稚園等	1										1
7		学校等	3	3	1	1	1		1				10
8		図書館、博物館等	2					1			1	1	5
9	イ	サウナ浴場等											
	ロ	イ以外の浴場	1		1	1				1			4
10		車両の停車場等	1										1
11		神社、寺院等	11	7	2	2	1	2	1	1			27
12	イ	工場、作業場	29	26	4		2	1	2		2		66
	ロ	映画スタジオ等											
13	イ	車庫、駐車場等	12	7						2			21
	ロ	飛行機の格納庫等								1			1
14		倉庫	31	18	2		5	4	2	5	11		78
15		その他の事業所	28	7	1	4	3	3	1	3	19	1	70
16	イ	複合用途	52							3	1		56
	ロ	イ以外の複合用途	44	13	1	1	1			1			61
17		文化財					1						1
計			475	138	49	28	15	13	8	27	37	3	793

防火対象物査察実施状況

項別		区分	査察対象実施物施数	指導事項 防火管理	消防設備等	防炎物品	点検結果報告
1	イ	劇場、映画館等					
	ロ	公会堂、集会場					
2	イ	キャバレー等					
	ロ	遊技場等					
	ハ	性風俗店舗等					
	ニ	カラオケボックス等					
3	イ	待合、料理店等					
	ロ	飲食店	1	1	1		
4		百貨店、店舗等	5	4	4		4
5	イ	旅館、ホテル等	2	1	1	1	1
	ロ	寄宿舎、共同住宅	26		2		6
6	イ	病院、診療所等	4				
	ロ	老人短期入所施設等	4				
	ハ	老人デイサービスセンター等	5			1	
	ニ	幼稚園・特別支援学校	1				
7		学校等	6	2	2		
8		図書館、博物館等	1				
9	イ	サウナ浴場等					
	ロ	イ以外の浴場					
10		車両の停車場等					
11		神社、寺院等	2	2			2
12	イ	工場、作業場	9		3		5
	ロ	映画スタジオ等					
13	イ	車庫、駐車場等	1				
	ロ	飛行機の格納庫等					
14		倉庫	10		1		5
15		その他の事業所	7	1			2
16	イ	複合用途	6		1		
	ロ	イ以外の複合用途	15	3	8		14
17		文化財					
合計			105	14	23	2	39

防火対象物定期点検報告実施状況

項別		区分	該当防火対象物数	防火対象物数 点検報告済	防火対象物数 特例認定済	防火対象物数 特例認定済 一部点検済又は	防火対象物数 未実施
1	イ	劇場、映画館等					
	ロ	公会堂、集会場	１１	７	４		
2	イ	キャバレー等					
	ロ	遊技場等	２	１			１
	ハ	性風俗店舗等					
	ニ	カラオケボックス等					
3	イ	待合、料理店等					
	ロ	飲食店					
4		百貨店、店舗等	２	１			１
5	イ	旅館、ホテル等					
6	イ	病院、診療所等					
	ロ	老人短期入所施設等					
	ハ	老人デイサービスセンター等					
	ニ	幼稚園・特別支援学校					
9	イ	サウナ浴場等					
16	イ	複合用途	１１	４	４		３
16の2		地下街					
合計			２６	１３	８		５

予防査察実施指導状況（一般対象物）

査察区分			緊急通報システム設置世帯	個人住宅	合計
査察総件数（拒否含む）			６７	１，０９１	１，１５８
指導別 ＼ 指導件数			６	１５５	１６１
火を使用する設備・器具の位置・構造	移動式ストーブその他の器具	位置構造			
		取扱方法			
		可燃物接近			
	ストーブ関係	位置構造			
		底面通気			
		燃料容器配管等		３	３
		可燃物接近	３	３	６
		取灰処理			
	煙突関係	破損腐食等			
		取付支柱等			
		壁・天井接近			
		貫通部等		１	１
		可燃物接近		９	９
	調理用器具	位置構造			
		取扱方法			
		燃料容器配管等		１	１
		可燃物接近	１	１	２
	給湯設備ふろがま	位置構造			
		取扱方法			
		可燃物接近	１	１	２
	ＬＰＧ	取扱方法			
		その他		１	１
電気		配線			
		器具			
少量危険物		位置構造			
		貯蔵取扱			
その他		住宅用火災警報器未設置	１	１３５	１３６

危険物製造所等別貯蔵・取扱数量

種別 / 区分	設置数	貯蔵・取扱数量（kℓ）				
		第4類				
		第一石油類	第二石油類	第三石油類	第四石油類	計
屋内貯蔵所	8	2.98	19.712	12.53	35.14	70.362
屋外貯蔵所	2		8	24	4	36
屋内タンク貯蔵所	1		1.9			1.9
屋外タンク貯蔵所	10		163.8	20		183.8
地下タンク貯蔵所	56		780.126	272.4		1052.526
移動タンク貯蔵所	38		122.85	3.44		126.29
給油取扱所	17	285.25	397.35	3.87		686.47
一般取扱所	17		245.914	32.12		278.034
計	149	288.23	1739.652	368.36	39.14	2435.382

地区別危険物製造所等設置状況

地区別 / 区分	設置数	本町	上芦別町	西芦別町	常磐町	高根町	新城町	野花南町	滝里町	幌内	旭町	旭町油谷	芦別
屋内貯蔵所	8	1	5	1									1
屋外貯蔵所	2		2										
屋内タンク貯蔵所	1		1										
屋外タンク貯蔵所	10	1	8	1									
地下タンク貯蔵所	56	29	11	3	1		1	1	1		5	4	
移動タンク貯蔵所	40	31	5				3			1			
給油取扱所	15	8	7										
一般取扱所	17	10	6				1						
計	149	80	45	5	1	0	5	1	1	1	5	4	1

危険物製造所等倍数調

倍数 区分	5倍未満	5倍以上 10倍未満	10倍以上 50倍未満	50倍以上 100倍未満	100倍以上 150倍未満	150倍以上	計
屋内貯蔵所	６	１	１				８
屋外貯蔵所		１	１				２
屋内タンク貯蔵所	１						１
屋外タンク貯蔵所	１	２	６	１			１０
地下タンク貯蔵所	１５	２０	１７	３	１		５６
移動タンク貯蔵所	３９	１					４０
給油取扱所		１	５	２	２	５	１５
一般取扱所	４	５	８				１７
計	６６	３１	３８	６	３	５	１４９

防火講習等実施状況

月日	実施内容	対象者	参加人員
5月　24日	防火講習・ビデオ	上芦別保育園	24
5月　28日	防火講習・ビデオ	子どもセンター保育園	34
6月　　6日	消火訓練・避難訓練・ 防火講習・ビデオ	野花南婦人防火クラブ 野花南老人クラブ	35
7月　　3日	消火訓練・防災講座	芦別鉱業㈱	45
8月　22日	防火講習・ビデオ	すみれ児童会	12
8月　28日	防火講習・ビデオ	ひばり児童会	46
11月　　7日	消火訓練・防火講習・ビデオ	野花南老人クラブ	26

消防協力団体

芦別市危険物安全協会	芦別みどり幼稚園幼年消防クラブ
芦別市防火管理者協会	野花南婦人防火クラブ

各町内会防火部等

芦別連合消防後援会		第１分団消防後援会	第	1	分団
		第２分団消防後援会	第	2	分団
		新城町内会（消防後援会）	第	3	分団
		野花南消防後援委員会	第	4	分団
		上芦別町消防後援会	第	5	分団
		西芦別消防後援会	第	6	分団
		頼城消防後援会	第	7	分団

消防協力団体状況

団体名	設立年月日	会員数
芦別市危険物安全協会	S. ４０. ６. ３	４２名
芦別市防火管理者協会	S. ４２. １１. ２７	８３名

婦人防火クラブ及び幼年消防クラブ状況

団体名	設立年月日	会員数
芦別みどり幼稚園幼年消防クラブ	H. ３. ９. １	１５４名
野花南婦人防火クラブ	H. ８. ７. １	１００名

危険物安全協会・防火管理者協会活動状況

	会員及び予算	活動状況
危険物安全協会	事業所　３６名 個人　６名 合計　４２名 予算　６８万円	◎ 研修活動 ・視察、法令研修 ◎ 火災予防運動 ・消防写真新聞の購入、配布 ・防火広報ティッシュの配布 ◎ その他 ・会報発行
防火管理者協会	防管部　７７名 設備士部　６名 合計　８３名 予算　７５万円	◎ 研修活動 ・視察、法令研修 ◎ 火災予防運動 ・消防写真新聞の購入、配布 ・防火広報マグネットシート活用 ・防火広報ティッシュの配布 ◎ その他 ・会報発行

平成２５年版　　消防年報

平成２６年３月

芦別市消防本部・署

〒075－0011
北海道芦別市北１条東１丁目３番地

TEL　0124(22)3106
FAX　0124(23)1960

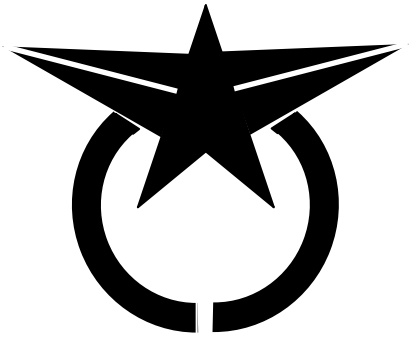
平成２５年度版

消防年報

赤平市消防本部

平成２６年刊行

■　市　　章



頭文字「赤」を図案化し、その左右に開く両端で将来飛躍発展の市勢を表し、外円は市民の和（輪）向上団結を示し、明日に躍動する赤平市を描いたもの。

（昭和４１年１２月　２日制定）

■　「虹の映えるまち・赤平」
シンボルマーク

青は赤平市のイニシャル「Ａ」と雄大な山を表し、下方の３本線は中央に流れる空知川で赤平の自然景観を表現しました。

左の円形「虹」は未来への希望の架け橋、心と心の希望の架け橋を表し、将来に向けて赤平市の活躍、発展を描いたものです。

（平成　２年　４月　１日制定）

■　市民憲章

わたくしたちは、空知川にはぐくまれ石炭によって発展した赤平の市民です。この郷土に誇りと責任をもち、より豊かなより美しいまちをきずくため、この憲章を定めます。

１．いたわりと笑顔をまちにひろめましょう。

１．よく学びつくり出す芽をそだてましょう。

１．きれいな花と緑でまちをつつみましょう。

１．たくましいはたらく力をのばしましょう。

１．みんなで語りみんなのまちをつくりましょう。

（昭和４９年　７月３１日制定）

はしがき

１　この年報は、平成２５年度当市の消防現況及び消防行政執行状況並びに火災、救急統計を収録したもので、今後の消防行政推進の参考に資するとともに、当市の消防事情を紹介するため編集したものであります。

２　この年報は、特記したものを除き、平成２６年３月３１日現在で編集したものであります。

赤平市消防本部

目　　次

市 勢・沿 革

市勢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
消防機関配置図・・・・・・・・・・・・・・・・１
沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
歴代消防長・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
歴代消防組頭・警防団長・消防団長・・・１５
叙位・叙勲受章者名簿・・・・・・・・・・１６
消防庁長官表彰受章者名簿・・・・・・・・１７

消防機構・職団員

消防本部（署）組織図・・・・・・・・・・１８
消防職員階級別配置・・・・・・・・・・・１８
年齢区分別階級別消防職員数・・・・・・１９
消防職員階級別勤続年数・・・・・・・・１９
消防職員教育状況・・・・・・・・・・・・１９
消防職員の特殊技能資格・・・・・・・・２０
救急隊員資格内訳・・・・・・・・・・・・２０
消防団組織図・・・・・・・・・・・・・・２１
消防団員階級別配置・・・・・・・・・・・２１
年齢区分別階級別消防団員数・・・・・・２１
消防団員階級別勤続年数・・・・・・・・２２
過去５年間の分団別出動率・・・・・・・２２
消防団員職業形態別団員数・・・・・・・２２

消防施設

消防庁舎の概要・・・・・・・・・・・・・２３
通信施設の状況・・・・・・・・・・・・・２３
消防車両現勢・・・・・・・・・・・・・・２４
消防水利の状況・・・・・・・・・・・・・２４
主な消防用資機材等保有状況・・・・・・２５

予 防・危険物

防火管理者の選任及び消防計画届出状況・２７
月別各種届出状況・・・・・・・・・・・・２８
用途及び工事別建築同意事務処理状況・・２９
危険物施設の現況・・・・・・・・・・・・２９
危険物製造所等倍数別設置状況・・・・・３０
防火・広報活動月別実施状況・・・・・・３１
防火協力団体・・・・・・・・・・・・・・３２

火災統計

火災の概要・・・・・・・・・・・・・・・３３
平成２５年火災記録・・・・・・・・・・・３４
月別及び曜日別火災件数・・・・・・・・３５
時間別及び季節別火災件数・・・・・・・３６
過去１０年間出火原因別火災件数・・・・３７
過去１０年間の火災状況・・・・・・・・３８
過去の主な火災・・・・・・・・・・・・・３９

消防活動

出動状況・・・・・・・・・・・・・・・・４０
月別出動状況・・・・・・・・・・・・・・４０
過去５年間の出動状況・・・・・・・・・４０
事故種別発生場所別救助出動状況・・・・４１
事故種別月別救助出動件数・・・・・・・４１
赤平市家庭用緊急通報システム及び
シルバーハウジング緊急通報概要図・・・４２
家庭用緊急通報システム受信状況・・・・４３
家庭用緊急通報システム出動状況・・・・４３
シルバーハウジング緊急通報受信状況・・４３
シルバーハウジング緊急通報出動状況・・４３

救急統計

事故種別月別救急出場件数・・・・・・・４４
管外搬送出場件数・・・・・・・・・・・・４４
時間別救急出場件数・・・・・・・・・・・４４
年齢区分別搬送人員数・・・・・・・・・４５
傷病程度別搬送人員数・・・・・・・・・４５
過去１０年間の救急出場件数・・・・・・４５

気象統計

平成２５年各別気象参考記録・・・・・・４６
過去１０年間の気象参考記録・・・・・・４７

市　　勢

沿　　革

市　　勢

地　勢

赤平市は、北海道のほぼ中央にあって、市域の南及び北の大部分は山岳地帯である。

市の中央部を東西に空知川、国道３８号線、ＪＲ北海道根室本線が走り、これを軸として帯状に長く市街地及び密集地を形成している。

面積と広ぼう

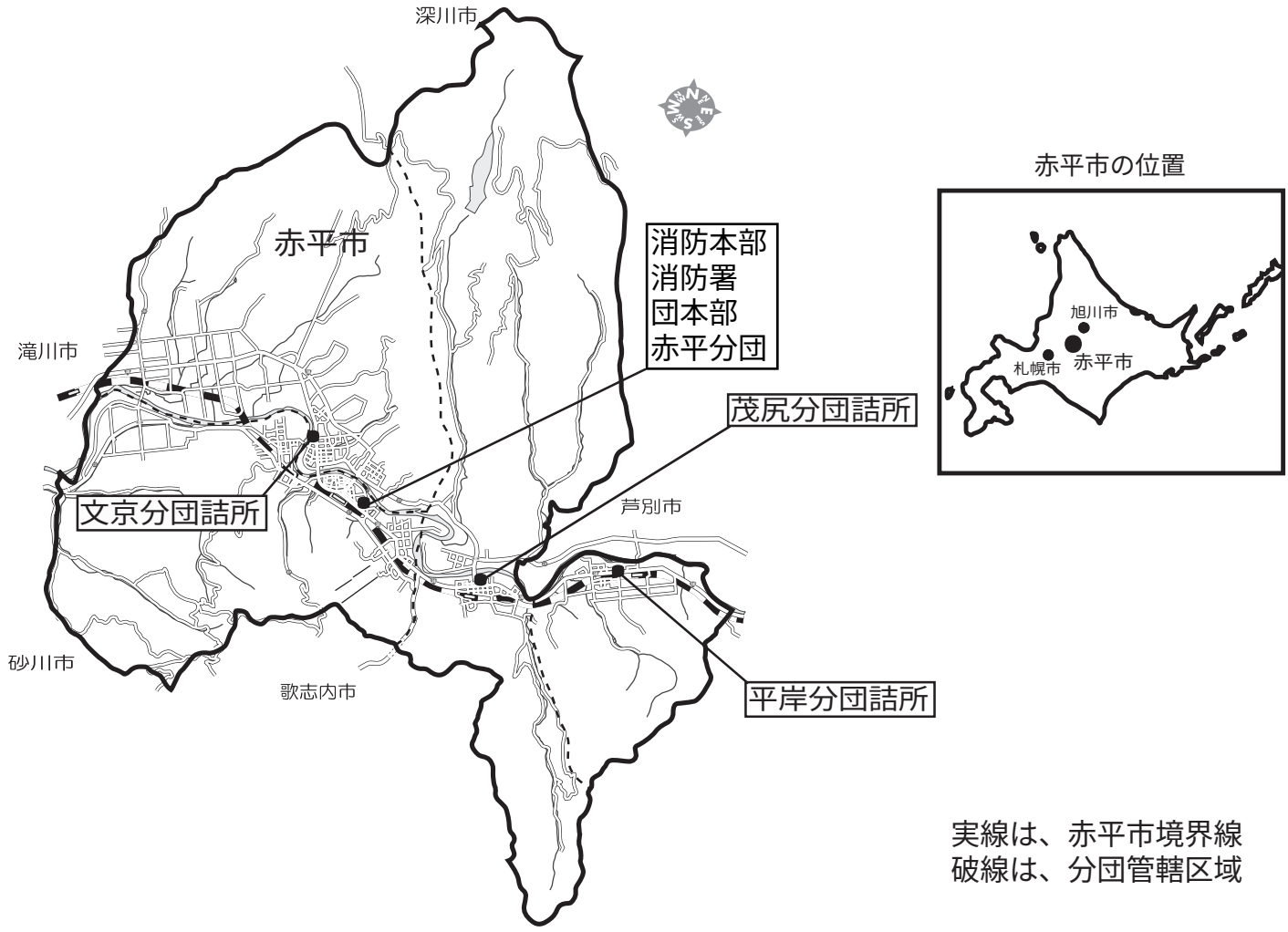
面　　積	広　　ぼ　　う	
	東　　西	南　　北
１２９.８８　ｋ㎡	１４.０９０　km	１８.５０１　km

人口及び世帯

人　　口			世　帯　数
計	男	女	
11,５５０　人	5,285　人	6,265　人	6,365　世帯

（人口、世帯数は、平成２６年３月３１日現在）

消防機関配置図



沿　　革

明治３５年　４月　　上赤平（現赤平地区）に火の見櫓建立、組員30名をもって上赤平消防組が創立される。
大正　５年１０月　　上平岸（現平岸地区）に上平岸私設消防組が創立され、組頭に今井時次郎氏就任
上平岸私設消防組に梅野炭鉱より、半天、股引、頭巾の寄贈を受ける。
６年　　上赤平に上赤平火災予防組合が創立され、火の見櫓に半鐘を取付ける。
下平岸（現茂尻市街地区）に下平岸私設消防組合が創立される。
７年　　上平岸私設消防組に梅野炭鉱より、ドイツ型1号腕用ポンプ1台の寄贈を受ける。
１０年　２月　　上赤平火災予防組合、ドイツ型2号腕用ポンプ1台を購入し、配備
６月　　上赤平に私設上赤平消防組が創立される。
１０月　　茂尻炭鉱に茂尻火防組合が創立され、ドイツ型2号腕用ポンプ1台を購入し、配備
１１年　４月　　歌志内村より分村、赤平村として独立
６月　　公認赤平村消防組が認許
９月　　消防組を上赤平（現赤平地区）を1部、下平岸（現茂尻地区）を2部、上平岸（現平岸地区）を3部の3部制とし、初代組頭に細野謙氏が就任。組織は組頭1名、部長3名、小頭6名、消防手96名の合計106名。装備はドイツ型1号腕用ポンプ各1台を配備
１２年　６月　　第１回赤平村消防組合連合消防演習挙行
１１月　　消防組1部で警鐘を購入し、火の見櫓に取付ける。
１４年　５月　　5月14日から6月3日まで下平岸（現茂尻地区）で山火事が発生し、消防組連日出動し消火に当る。
１２月　　赤平村公有林火災で消火に尽力した功績により、北海道庁拓殖部長より消防組が表彰状を受ける。
昭和　２年　　消防組2部、火の見櫓を建立し、警鐘を取付ける。
茂尻市街部落全員で千曲川より幅3尺の防火用水路を5条から元町まで設置
昭和　３年　５月　　北海道庁警察部長より各部に金馬簾1条の使用認許を受ける。6月24日に金馬簾伝達式挙行
４年　５月　　幌岡自警団創立される。
６年　　消防組2部（茂尻）で手引ガソリンポンプを購入し、配備
９年　　消防組2部（茂尻）に駒沢久太郎氏より手引ガソリンポンプ1台と2吋ホース20本の寄贈を受ける。
６月　　消防組1部、火の見櫓を建替える。
１０年　９月　　茂尻炭鉱に私設義勇消防隊が組織される。
１１年　　豊里昭和肥料ＫＫで自衛消防班を組織、その後防護団に組織変えを行う。
８月　　消防組3部、平岸169番地に機械器具置場と団員集会所を新築
９月　　天皇行幸のため消防組が警備に当る。
１２年　５月　　赤平村消防組後援会創立される。
１３年　８月　　赤間炭鉱に私設消防隊が創立され、2区世話所横に火の見櫓、機械器具置場を新築し、手引腕用ポンプを購入し、配備
１４年　４月　　警防団の発令により赤平村消防組を赤平村警防団と組織替え7分団制とする。住友炭鉱を第1分団、赤平市街を第2分団、東海豊里炭鉱を第3分団、茂尻市街を第4分団、雄別茂尻炭鉱を第5分団、平岸市街を第6分団、北炭赤間炭鉱を第7分団とする。
初代警防団長　河崎八郎氏　就任　団員319名
１５年　９月　　第2分団で泉町に木造2階建望楼付機械器具置場を新築
１６年　１月　　住友炭鉱に私設消防組（第1分団と併存）が創立され、腕用ポンプ1台、消火栓90基配備し、木造火の見櫓建立
４月　　1937年式消防車を1台購入し、第2分団に配備
５月　　5月26日、豊里炭鉱住宅より火災。49戸が焼失
１８年　２月　　町制施行により、赤平町警防団と改名する。
１９年１０月　　10月３日、豊里炭鉱住宅火災。14棟120戸が焼失。罹災者550人、焼失面積3,511

㎡、損害額120千円
２１年　３月　　第2分団に常備員（機関員）1名を配置
２１年　７月　　豊里炭鉱に私設消防組（第3分団と併存）が創立され、手引ガソリンポンプ1台、消火栓35基、貯水池2を配備
　　７月　　赤平町警防団後援会創立される。
　　８月　　雄別茂尻炭鉱に私設保安消防隊創立される。
　　１０月　　第2分団に常備員1名増員、常備員2名体制となる。
２２年　２月　　第4分団で茂尻元町に機械器具置場を新築。木造火の見櫓建立
　　１０月　　1947年式消防車を購入し、第4分団に配備。常備員1名を配置
２３年　３月　　消防組織法の施行により警防団が廃止。自治体消防として赤平町消防団を設置、1団、7分団とする。
　　初代消防団長　望月松雄氏　就任　団員344名
　　６月　　第1分団で団員詰所と鉄骨製火の見櫓を建設。消防車を購入し、配備
　　６月　　1948年式消防車1台を第2分団に増強。第6分団に第4分団よりガソリンポンプ1台を移管する。
２４年　２月　　1940年式トラックを購入しガソリンポンプを積載、第6分団に配備
　　４月　　4月25日、雄別茂尻炭鉱選炭機火災。焼失面積2,093㎡、損害額200,000千円
２５年　１月　　第3分団、機械器具置場を新築。1950年式消防車（水槽付）を購入し、配備
　　９月　　第2分団3名、第4分団3名、第6分団1名、合計7名の常備員を配置
　　９月　　9月14日、百戸渡舟場において転覆事故発生。第4分団が出動し遭難者11名、馬4頭を救出する。
　　１１月　　11月19日、赤平町役場庁舎議事堂より出火、1棟全焼、1棟半焼。焼失面積約200坪、損害額5,000千円
　　１２月　　12月9日、赤平市街（現本町）でマーケットから出火し、18棟31世帯を焼失。罹災者105名
２６年　４月　　共和自警団創立される。
　　１０月　　1947年式トラックを購入し、消防車に改造して第7分団に配備
２７年　９月　　第6分団、団員詰所に団員召集用モーターサイレンを設置
　　１０月　　開町30周年記念行事として、赤平町消防団創立30周年記念式典並びに記念連合演習挙行
　　１２月　　1945年式消防車を購入し、第1分団に配備
２８年　２月　　2月10日、平岸木工場から出火し、工場兼住宅1棟446㎡を焼失。損害額1,840千円
　　７月　　1954年式消防車を購入し、第2分団に配備。昭和16年購入の消防車を老朽のため廃車とする。
　　７月　　分団一斉指令電話を設置
２９年　４月　　第2分団3名、第4分団2名、第6分団1名、合計6名の常備員を配置
　　４月　　4月16日、赤平市街（現本町）で飲食店から出火し、17棟54世帯を焼失。焼失面積2,011㎡、損害額25,101千円
　　７月　　市制施行により、赤平市消防団となる。市制施行記念連合消防演習挙行
３０年　１月　　緊急電話「火事」「消防」となる。
　　７月　　水道給水開始、赤平地区に消火栓40基設置
　　７月　　北海道消防協会滝川地方支部連合消防演習挙行
３１年　　茂尻地区に消火栓20基設置
　　１月　　1月19日、平岸木工場から出火し、工場及び住宅3棟を焼失。焼失面積881㎡、損害額6,300千円
　　８月　　1956年式消防車を購入し、第6分団に配備。1940年式消防車を老朽のため廃車とする。
　　９月　　9月27日、赤平市街（現本町）でデパートから出火し、6棟26世帯が焼失。焼失面積1,327㎡、損害額37,284千円
３２年　３月　　赤平市消防団条例改正により団員定数300名となる。

	7月	1957年式消防車1台を第4分団に、1957年式消防車1台を第5分団に購入し、配備
３３年	4月	第2分団8名、第4分団2名、第6分団2名、合計12名の常備員を配置
	8月	1958年式消防車（水槽、放水塔付）を購入し、第2分団に配備
３４年	１０月	第2分団10名、第4分団2名、第6分団3名、合計15名の常備員を配置
３５年	9月	1960年式消防車を購入し、第3分団に配備。昭和25年購入の1950年式消防車（水槽付）を老朽のため廃車とする。
３６年	2月	消防専用無線電話購入、基地局を第2分団に設置、移動局2局を第2分団と第6分団の消防車に積載配備
	4月	赤平市消防団条例改正により団員定数250名となる。
	4月	赤平市職員定数条例改正により消防職員定数32名となる。
	5月	赤平市消防本部設置。初代消防長　望月松雄氏（前消防団長）　就任 事務職員1名、市役所より出向。15名の常備員と合わせ17名の職員配置
	5月	第2代消防団長　佐々木金太郎氏　就任
	6月	字赤平452番地（現大町1丁目5番地）に消防本部庁舎新築落成
	6月	消防職員13名増員し、30名体制となる。
	6月	消防本部庁舎落成式挙行
	7月	消防本部発足記念全市連合消防演習挙行
	7月	7月25日、26日、集中豪雨による被害発生。被害戸数506戸、損害額１９７,８６８千円。災害救助法適用となる。
	１２月	赤平市消防署設置。茂尻、平岸を分遣所とする。消防署長は消防長兼務、消防本部兼務職員22名、茂尻分遣所4名、平岸分遣所3名を配置
３７年	6月	住吉自警団創立される。
	8月	8月3日、4日、台風9号による被害発生。被害戸数881戸、損害額９１４,１９８千円。災害救助法適用となる。
３８年	3月	第7分団解団、消防車を市に移管し第2分団に配備。管轄区域を第2分団の管轄とする。
	7月	救助艇を購入し、消防署に配備
	8月	第5分団解団、消防車を市に移管し第4分団に配備。管轄区域を第4分団の管轄とする。
	8月	第5分団解団により、茂尻炭鉱自衛消防団が創立される。
	8月	8月25日、集中豪雨による被害発生。被害戸数709戸、損害額８４,８００千円
	9月	赤平市消防団条例改正により団員定数200名となる。
３９年	1月	第3代消防団長　中川精作氏　就任
	2月	1964年式消防ポンプ自動車（水槽付）を購入し、消防署に配備
	6月	豊里少年消防クラブ創立される。
	8月	赤平開基75周年及び市制施行10周年記念赤平市連合演習挙行。消防職員3名増員、37名体制となる。
	１０月	茂尻少年消防クラブ創立される。
４０年	3月	第2分団、昭和38年第7分団より移管の1947年型消防車を老朽のため廃車とする。
	4月	第2代消防長　松本秀男氏　就任
	6月	赤平市消防団を1団7分団制から1団5分団制とし、第1分団を住友分団、第2分団を赤平分団、第3分団を豊里分団、第4分団を茂尻分団、第6分団を平岸分団とする。
	6月	平岸少年消防クラブ創立される。
	7月	北海道消防協会滝川地方支部9ケ市町消防連合演習挙行
	8月	赤平少年消防クラブ創立される。
	１０月	日本損害保険協会より1965年式消防車の寄贈を受け、損保号と命名し、消防署に配備
	１１月	赤平市危険物安全協会創立される。
４１年	1月	赤平市火災出動区分を制定。出動区分を第1種、第2種とする。
	4月	1963年式ライトバンを購入し、指令車として消防本部に配備
	5月	消防本部発足5周年記念全市連合消防演習挙行
	7月	柾屋根解消融資制度を実施。申し込み30件、30棟が改修される。
	8月	北海道防災演習が滝川市において開催され、消防署、赤平分団が参加

9月　赤平市防火管理者協会創立される。
9月　赤平市消防団条例改正により団員定数160名となる。
9月　豊里炭鉱より1960年式消防車が市に移管される。
４２年　4月　赤平市職員定数条例改正により消防職員定数45名となる。
6月　豊里炭鉱閉山により豊里分団（炭鉱分団）解団
7月　豊里分団（市街分団）発足。職員1名増員、44名体制となる。昭和41年豊里炭鉱より移管の1960年式消防車を豊里分団に配備
４３年　2月　赤平市消防団が日本消防協会より竿頭綬を受賞する。
3月　自治体消防制度20周年記念式典において、消防本部、消防団が消防庁長官より竿頭綬を受賞する。
6月　字豊里（現西文京町4丁目1番地）に豊里分遣所庁舎新築落成。消防署豊里分遣所を発足し、職員1名を配置
6月　消防署の一部機構改革により茂尻分遣所を茂尻出張所とする。茂尻元町（現中央町北1丁目3番地）に茂尻出張所庁舎新築落成
6月　茂尻出張所落成記念全市連合演習挙行
9月　救急業務実施義務市の政令指定により、救急隊編成に伴う消防機構の一部改正を行う。
9月　天皇、皇后両陛下御臨席のもと開催された開道100年記念第20回全道消防大会（旭川市）に参加
１２月　1968年式救急車（国消Ａ級）を購入し、消防署に配備。12月10日より救急業務の運用を開始する。
４４年　6月　消防本部庁舎増築工事落成（車庫63㎡、仮眠室、分団室63㎡、計126㎡を増築）
１２月　1969年式消防ポンプ自動車（水槽付）を購入し、消防署に配備。昭和39年購入の1964年式消防ポンプ自動車（水槽付）を茂尻出張所に配備替
１２月　昭和38年第5分団から茂尻分団に移管の1957年式消防車を消防署に配備替
１２月　可搬動力ポンプを購入し、赤平分団に配備
４５年　2月　消防専用無線を超短波無線機に切替、基地局1基、移動局8基を設置
4月　赤平市職員定数条例改正により消防職員定数46名となる。職員数46名
7月　住友赤平砿消防団（住友分団併設）が解団し、住友分団（公設分団一本化）となる。
7月　市議会総務委員会が、消防行政事務調査のため施設の視察を実施
8月　住友炭鉱より消防車2台が市に移管され、住友分団に配置。消防署住友分遣所を発足し、職員1名を配置
8月　平岸少年消防クラブが、赤平市青少年問題協議会より青少年善行表彰を受ける。
１０月　昭和45年5月20日から昭和45年10月18日まで150日間無火災連続記録樹立
１０月　1970年式消防車を購入し、住友分団に配備。昭和45年7月に住友炭鉱より移管の消防車を老朽のため廃車とする。
１１月　1970年式無線指令車を購入し、消防本部に配備。昭和41年購入の1963年式指令車を老朽のため廃車とする。
１１月　北海道定例表彰式において、赤平市消防団が北海道知事より竿頭綬を受賞する。
４６年　2月　北文京町緑ヶ丘団地　渡辺富子、得能茂光の両氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
2月　赤平市消防団が優良消防団として日本消防協会より表彰旗を受賞する。
4月　赤平市職員定数条例改正により消防職員定数48名となる。職員数46名
１１月　消防署の一部機構改革として、茂尻出張所を強化し、茂尻、平岸、百戸地区を管轄する拠点とする。
１１月　平岸分遣所庁舎老朽により字平岸125番地（現新光町2丁目4番地）に庁舎を新築し移転する。
４７年　5月　赤平ライオンズクラブより1972年式広報車の寄贈を受け、消防本部に配備
7月　元消防司令長　望月松雄氏　正七位　勲五等瑞宝章を受章する。
8月　赤平分団、昭和28年購入の1954年式消防車を老朽のため廃車とする。
8月　赤平、茂尻、豊里、平岸少年消防クラブが赤平市消防長より感謝状の表彰を受ける。
１１月　赤平市消防団条例改正により団員定数130名となる。

１２月　　1972年式普通ポンプ自動車を購入し、赤平分団に配備
４８年　４月　　赤平市職員定数条例改正により消防職員定数51名となる。職員数46名
４月　　赤平石油燃焼機器整備業協会創立される。
８月　　昭和45年に住友炭鉱から移管の消防車を老朽のため廃車とする。
４９年　２月　　1974年式消防ポンプ自動車を購入し、赤平分団に配備。昭和47年購入の1972年式消防ポンプ自動車を平岸分団に配備替
２月　　平岸分団、昭和31年購入の1956年式消防車を老朽のため廃車とする。
４月　　元副団長　小林弘氏　勲六等単光旭日章を受章する。
７月　　消防署、昭和44年茂尻分団より移管の1957年式消防車を老朽のため廃車とする。
１２月　　1974年式消防ポンプ自動車を購入し、茂尻分団に配備
５０年　４月　　赤平市職員定数条例改正により消防職員定数52名となる。職員数52名
４月　　元班長　小倉吉蔵氏　勲七等瑞宝章を受章する。
６月　　第2代消防長　松本秀男氏　助役就任。消防長事務取扱となる。
７月　　北海道消防協会中空知支部連合消防演習挙行
８月　　日本損害保険協会より1975年式普通消防ポンプ自動車の寄贈を受け、消防署に配備
８月　　昭和40年日本損害保険協会より寄贈の1965年式消防車を予備車として茂尻出張所に配置替
８月　　8月23日、24日、台風6号による被害発生。被害戸数226戸、損害額２２０,４０６千円
９月　　昭和43年購入の1968年式救急車を福祉事務所に配置替
９月　　茂尻分団、昭和32年購入の1957年式消防車を老朽のため廃車とする。
９月　　９月６日から８日まで豪雨による水害発生。被害戸数７５戸、損害額３２,３１０千円
１１月　　北海道共済農業協同組合連合会より1975年式救急車の寄贈を受け、消防署に配備
１１月　　1975年式化学車を購入し、消防署に配備
１２月　　昭和44年購入の1969年式消防ポンプ自動車（水槽付）を消防署から赤平分団に配備替
１２月　　赤平分団、昭和33年購入の1958年式消防車（水槽、放水塔付）を老朽のため廃車とする。
５１年　４月　　元分団長　午角伝吉氏　勲七等瑞宝章を受章する。
６月　　泉町、西文京町に水防用排水ポンプを各1基設置
６月　　平岸、茂尻少年消防クラブが北海道消防協会より優良少年消防クラブの表彰を受ける。
９月　　平岸141番地　江村幸治氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
１１月　　1976年式指令車を購入し、消防本部に配備。昭和45年購入の1970年式指令車を老朽のため廃車とする。
５２年　１月　　字茂尻133番地　株式会社北斗石油に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
６月　　赤平、文京少年消防クラブが北海道消防協会より優良少年消防クラブの表彰を受ける。
８月　　字茂尻129番地　株式会社大賀クロージングに一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
１０月　　消防本部庁舎増築工事落成（待機室、浴室、トイレ、ボイラー室、分団室、事務室、仮眠室）
１１月　　第3代消防長　逢坂春政氏　就任
１１月　　機構改革により課制を導入、消防本部2課4係、消防署1署、1出張所、3分遣所となる。
１１月　　1977年式普通ポンプ自動車を購入し、豊里分団に配備。昭和41年豊里炭鉱より移管の1960年式消防車を老朽のため廃車とする。
１２月　　消防救急指令装置、救急医療情報収集装置を導入し、本部通信指令室に設置
５３年　３月　　山之内製薬より1978年式救急車の寄贈を受け、消防署に配備
４月　　急病テレホンセンターを開設し、医療情報照会業務を開始する。
４月　　元分団長　安原信治氏　勲七等青色桐葉章を受章する。

１２月　　総合気象観測装置を導入し、消防本部に設置
５４年　１月　　赤平市消防団条例改正により副部長制を廃止。部長2名体制とする。
１月　　若木町西1丁目　光生食品工業株式会社に一般市民消防協力者として消防長感謝状を贈呈する。
８月　　救助艇（トレーラー付）を購入。エルム号と命名し、消防署に配備。昭和38年購入の救助艇を老朽のため廃艇とする。
９月　　消防署一部機構改革により、1署2係、1出張所、3分遣所となる。
９月　　消防関係規程の整備を実施
１１月　　1979年式消防ポンプ自動車（水槽付）を購入し、茂尻出張所に配備。昭和44年消防署より移管の1964年式消防車（水槽付）を老朽のため廃車とする。
１１月　　昭和54年6月29日から昭和54年11月21日まで146日間無火災連続記録樹立
５５年　１月　　第4代消防団長　菊島節男氏　就任
１月　　平岸少年消防クラブが赤平市青少年問題協議会より青少年善行表彰を受ける。
８月　　昭和57年4月1日の消防法施行令一部改正に伴い、全職員対象に救急隊員資格付与講習会を12月18日まで実施
１２月　　消防無線整備（基地局1基、移動局20基、無線受令機4基）
５６年　４月　　赤平石油燃焼器具整備業協会を赤平燃焼機器整備業協会と名称変更する。
６月　　全国消防長会北海道支部予防事務研究会を開催
７月　　消防職員の階級に消防副士長を新設
８月　　滝川市緑町4丁目　矢元勇治氏に一般市民消防協力者（人命救助）として消防長感謝状を贈呈する。
８月　　字豊里165番地　菅原智恵子、幸子、深雪の三氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
８月　　8月3日から8月６日まで台風12号による被害発生。被害戸数３３８戸、損害額3,２８１,５６９千円
９月　　西文京町3丁目　猪爪政光、政徳、西文京町1丁目　斉藤幸二の三氏に一般市民消防協力者（水防協力）として消防長感謝状を贈呈する。
１０月　　全消防団員に新制服を貸与
５７年　４月　　豊里分団、豊里分遣所を文京分団、文京分遣所に名称変更する。
６月　　昭和56年11月18日から昭和57年6月25日まで220日間無火災連続記録樹立
７月　　第4代消防長　岩渕兼夫氏　就任
８月　　特殊消防対策車を購入し、消防署に配備
８月　　消防機械器具倉庫を文京分遣所裏に新築
８月　　北海道消防操法訓練大会に赤平分団がポンプ車操法の部に参加
９月　　赤平市消防創立60周年記念式典並びに記念連合演習挙行
１０月　　昭和40年日本消防協会より寄贈の1965年式消防車を老朽のため廃車とする。
５８年　１月　　赤平市消防団団旗を新規に制作し、入魂式を実施
２月　　赤平燃焼機器整備業協会10周年記念式典挙行
９月　　消防用特殊作業車を購入し、消防署茂尻出張所に配備
１０月　　第５代消防長　仁田力夫氏　就任
５９年　５月　　機構改革により課制を廃止し、係に主幹（消防司令）を配置
７月　　全国消防長会北海道支部道央地区協議会警防事務研究会を開催
９月　　日本消防協会より1984年式広報車の寄贈を受け、消防本部に配備。昭和47年ライオンズクラブより寄贈の1972年式広報車を老朽のため廃車とする。
１２月　　4週5休制、試行開始
１２月　　1984年式小型動力ポンプ付大型水槽車を購入し、消防署に配備
１２月　　昭和44年購入の1969年式消防車（水槽付）を老朽のためロータリークラブを通してフィリピンへ寄贈する。
６０年　４月　　消防団の定員区分改正により副団長2人制とする。
７月　　北海道消防協会中空知支部連合消防演習挙行
１１月　　赤平市危険物安全協会創立20周年記念式典挙行

１１月　東文京町に水防用排水機場を落成
６１年　４月　元団長　中川精作氏　勲五等瑞宝章を受章する。
５月　消防吏員の階級改正により消防長の階級が消防監となる。
８月　機構改革により主任（消防士長）を配置
９月　赤平市防火管理者協会創立20周年記念式典挙行
６２年　４月　機構改革により主任を廃止、主査（消防司令補）を配置
５月　日本損害保険協会より1987年式普通ポンプ自動車の寄贈を受け、消防署に配備
６月　滝川市において開催された石狩川水防演習に消防本部、消防団が参加
１０月　平岸桂町6番地　斎藤彦勝氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
１１月　消防科学総合センター「救急基金」より1987年式救急車の寄贈を受け、消防署に配備。昭和50年北海道共済農業協同組合連合会より寄贈の1975年式救急車を老朽のため廃車とする。
１１月　赤平、茂尻、文京、平岸少年消防クラブが赤平市長より善行表彰を受賞する。
６３年　３月　文京少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会会長より表彰盾を受賞する。
５月　1988年式無線指揮車を購入し、消防本部に配備。昭和51年購入の1976年式指令車を老朽のため廃車とする。
６月　自治体制度40周年記念赤平市消防演習挙行
７月　赤平市危険物安全協会会長　三浦　武氏　消防庁長官表彰「消防関係安全功労者表彰」を受賞する。
８月　8月26日、集中豪雨による被害発生。被害戸数８８戸、損害額303,157千円
９月　東日本柔道実業団対抗大会が開催され、消防職員が会場警備に当る。
１０月　赤平消防鳶の会が創立される。
１１月　赤平市消防団が北海道消防協会より竿頭綬を受賞する。
１１月　平岸分団、昭和49年茂尻分団より移管の1972年式消防車を老朽のため廃車とする。
平成　元年　３月　1989年式消防ポンプ自動車を購入し、平岸分団に配備
３月　茂尻少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会会長より表彰盾を受賞する。
３月　住友分団解団、解団式を挙行。団員の一部は赤平分団へ移籍。昭和45年購入の1970年式消防車を老朽のため廃車とする。
４月　第6代消防長　東幸男氏　就任
４月　住友分団解団により消防署一部機構改革。1署2係、1出張所、2分遣所となる。
９月　第44回国民体育大会柔道競技会が開催され、消防職員が会場警備に当る。
１０月　4週6休制、試行開始
１０月　赤平市消防団条例改正により団員定数１１０名となる。
１０月　1989年式消防ポンプ自動車を購入し、茂尻分団に配備。昭和49年購入の1974年式消防車を老朽のため廃車とする。
１１月　元消防司令長　岩渕兼夫氏　勲五等瑞宝章を受章する。
２年　１月　若木町西1丁目　光生食品工業株式会社に一般市民消防協力者として消防長感謝状を贈呈する。
３月　平岸少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会会長より表彰盾を受賞する。
３月　元団長　菊島節男氏　勲六等瑞宝章を受章する。
４月　機構改革により消防本部5係、消防署3係、出張所2係、2分遣所となる。
４月　第5代消防団長　田中太郎氏　就任
４月　全国消防長会北海道支部道央地区協議会総会を開催
６月　6月13日、落雷、降ひょう、豪雨による被害発生。被害戸数３０８戸、損害額２７５，９１４千円
８月　赤平開基百年記念消防演習挙行
１１月　1990年式化学消防ポンプ自動車を購入し、消防署に配備。昭和50年購入の1975年式化学車を老朽のため廃車とする。
３年　１月　赤平、茂尻、文京、平岸少年消防クラブが赤平市青少年問題協議会より善行表彰を受賞する。

２月　　平成2年8月７日から平成3年2月８日まで186日間無火災連続記録樹立
３月　　元消防団長夫人　菊島美代子氏より赤平、茂尻、文京、平岸分団に分団旗の寄贈を受ける。
３月　　消防本部、消防団が消防庁長官より表彰旗を受賞する。
４月　　第七代消防長　川合隆安氏　就任
５月　　東大町4丁目　知里昭彦氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
６月　　消防本部発足30周年・消防庁長官表彰旗受賞記念赤平市消防演習挙行
９月　　元消防監　仁田力夫氏　従六位　勲五等瑞宝章を受章する。
１０月　　消防署、昭和50年日本損害保険協会より寄贈の1975年式消防ポンプ自動車を老朽のため廃車とする。
１１月　　昭和49年購入の1974年式消防ポンプ自動車を赤平分団から消防署に配備替
１１月　　元副分団長　橋邊冨五郎氏　勲六等瑞宝章を受章する。
１２月　　赤平市防火管理者協会創立25周年記念誌発行
４年　１月　　4週6休に伴う土曜閉庁を実施
３月　　女性消防団員8名を任命。消防団本部に配置
３月　　赤平少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会会長より表彰盾を受賞する。
４月　　第8代消防長　小野武志氏　就任
４月　　消防署茂尻出張所管理係を消防1係、指導係を消防2係に名称変更
９月　　赤平市消防創立70周年記念式典並びに記念演習挙行、記念誌発行
１１月　　北海道共済農業協同組合連合会より1992年式救急車2Ｂ型の寄贈を受け、消防署に配備
１１月　　昭和53年山之内製薬より寄贈の1978年式救急車を老朽のため廃車とする。
１１月　　消防署、赤平分団より移管の1974年式消防ポンプ自動車を老朽のため廃車とする。
１２月　　1992年式消防ポンプ自動車ＣＤ－Ⅱ型4WDを購入し、赤平分団に配備
５年　３月　　赤平市燃焼機器整備業協会創立20周年記念式典挙行並びに記念誌発行
６月　　自治体消防発足45周年記念赤平市消防演習挙行
７月　　赤平市防火管理者協会会長　竹俣紀一氏　消防庁長官表彰「消防関係安全功労者表彰」を受賞する。
８月　　平成5年2月23日から平成5年8月15日まで174日間無火災連続記録樹立
８月　　全国消防長会北海道支部警防事務研究会を開催
６年　１月　　4週8休に伴う完全週休2日制を実施
２月　　共和自警団解団
４月　　第9代消防長　林久貢氏　就任
４月　　消防署救急係を消防署救急救助係に名称変更
４月　　第6代消防団長　中村信男氏　就任
５月　　1994年式東洋ゴム工業㈱製手漕ぎ式ゴムボートを購入し、消防署に配備
６月　　住吉自警団解団
６月　　市制施行40周年記念赤平市消防演習挙行
９月　　幌岡自警団解団
７年　１月　　消防緊急通信指令装置Ⅰ型を購入し、消防本部通信指令室に配置。1月25日より運用開始する。
６月　　赤平中央婦人会防火クラブ創立される。
６月　　第41回北海道消防協会空知地方支部中空知支部連合演習挙行
７月　　第10代消防長　高橋正治氏　就任
９月　　赤平幼稚園幼年消防クラブ創立される。
９月　　いずみ幼稚園幼年消防クラブ創立される。
９月　　幼年消防クラブ、少年消防クラブ及び婦人防火クラブによる赤平市幼少年婦人防火委員会が創立される。
１０月　　文京分団、昭和52年購入の1977年式消防ポンプ自動車を老朽のため廃車とする。
１１月　　元団長　田中太郎氏　勲五等瑞宝章を受章する。

１１月　赤平市危険物安全協会創立30周年記念式典挙行並びに記念誌発行
８年　３月　1996年式消防ポンプ自動車ＣＤ－Ⅱ型低床式4WDを購入し、文京分団に配備
３月　平成7年2月７日から平成8年3月4日まで392日間無火災連続記録樹立
６月　消防本部発足35周年記念赤平市消防演習挙行
９月　赤平市防火管理者協会創立30周年記念式典挙行並びに記念誌発行
９月　日本損害協会より1996年式水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型4WDの寄贈を受け、消防署茂尻出張所に配備。昭和54年購入の1979年式水槽付消防ポンプ自動車を老朽のため廃車とする。
１０月　消防組織法の改正により消防職員委員会が創立される。
１１月　消防無線（基地局3基、固定局1基、移動局20基）を購入し、消防署に配備。昭和55年整備された消防無線を老朽のため廃棄とする。
救急波（複信方式）を増波
９年　５月　無線受令機15基購入し、職員に配備
５月　消防本部通信指令室に、北海道総合行政情報ネットワーク専用電話を設置
１１月　元消防司令　島畑信明氏　正七位　勲六等瑞宝章を受章する。
１０年　３月　1998年式救助工作車Ⅱ型4WDを購入し、消防署に配備。消防本部庁舎裏に救助工作車格納庫を建設
４月　機構改革により課制を導入。消防本部2課4係、消防署2課1出張所4係2分遣所となる。
４月　第11代消防長　久保田春夫氏　就任
４月　第7代消防団長　孫崎稔氏　就任
５月　無線受令機10基購入し、職員に配備
６月　自治体消防制度50周年記念赤平市消防演習挙行
９月　昭和59年財団法人日本消防協会より寄贈の1984年式広報車を老朽のため廃車とする。
１１月　1998年式防火広報車を購入し、消防本部に配備
１１月　元分団長　新山藤吉氏　勲六等瑞宝章を受章する。
１２月　消防本部通信指令室に、自動車電話及び携帯電話からの119番通報着信専用電話を設置
１２月　元団長　中村信男氏　勲五等瑞宝章を受章する。
１１年　１月　若木町北5丁目　佐藤秋太郎氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
４月　無線受令機10基購入し、職員に配備
６月　全国消防長会北海道支部道央地区協議会警防・救急事務研究会を開催
７月　北海道消防操法訓練大会に消防団選抜隊がポンプ車操法の部に参加
１２年　１月　コンピューター2000年問題により、消防職員が医療機関の警戒に当る。
２月　高規格救急車（トヨタハイメディック）を購入し、消防署に配備
２月　昭和62年消防科学総合センター「救急基金」より寄贈の1987年式救急車を老朽のため廃車とする。
３月　高規格救急車（トヨタハイメディック）運用開始
４月　第12代消防長　内田保氏　就任
４月　赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の全部改正により、事務分掌の一部変更並びに消防署警防課救急救助係を消防署警防課救急係に名称変更する。
７月　赤平市消防警防規程及び赤平市消防通信規程の全部改正
１０月　元団長　孫崎稔氏　勲五等瑞宝章を受章する。
１１月　第8代消防団長　鎌田恒彰氏　就任
１３年　２月　元消防司令長　松本秀男氏　勲五等双光旭日章を受章する。
３月　赤平市少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会会長より表彰旗を受賞する。
４月　赤平市消防団機構改革により、団本部に分団長、部長を配置し、女性消防団員2名を

増員する。
４月　赤平少年消防クラブ、茂尻少年消防クラブ、平岸少年消防クラブ、文京少年消防クラブを統合して赤平市少年消防クラブとなる。
７月　ハヤサカ自動車工業株式会社より、防火思想普及活動のためミニ消防車の寄贈を受け、消防署に配備。これに伴い代表取締役　早坂弘幸氏が赤平市長より善行表彰を受賞する。
９月　9月10日から13日まで集中豪雨による被害発生。被害戸数4戸、損害113,500千円
８月　消防本部通信指令室の改修工事を行う。
１０月　平成5年7月より、㈶北海道健康づくり財団に委託していた家庭用緊急通報システムの受信業務を消防本部通信指令室内に受信センターを設置し、運用開始
１１月　消防団活性化事業として、消防ホース、携帯無線機、空気呼吸器、防火衣及び2001年式指揮広報車を購入する。
１２月　昭和63年購入の1988年式無線指揮車を老朽のため廃車とする。
１４年　２月　昭和62年日本損害保険協会より寄贈の1987年式消防ポンプ自動車を老朽化により廃車とする。
４月　第13代消防長　大坂惇氏　就任
４月　赤平市消防署の組織に関する規程の一部改正により、消防署茂尻出張所消防一係及び消防二係を消防係に名称変更する。
４月　赤平市消防団機構改革により、団本部に副分団長を配置する。
４月　赤平市危険物安全協会と燃焼機器整備業協会が合併し、赤平市危険物安全協会となる。
９月　赤平市消防創立80周年記念式典並びに記念演習挙行、記念誌発行
１０月　消防団自立に伴い、赤平分団及び茂尻分団を業務移管する。
１０月　幸町4丁目4番地にシルバーハウジングが新築され、消防署通信指令室内にシルバーハウジング緊急通報受信センターを設置し、運用開始
１５年　３月　元消防監　高橋正治氏　正七位　勲五等瑞宝章を受章する。
４月　若木町東４丁目　戸澤寛氏に一般市民消防協力者（人命救助）として消防長感謝状を贈呈する。
７月　昭和54年購入の1979年式ボート・トレーラを老朽のため廃車とする。
８月　昭和58年購入の1983年式消防用特殊作業車を老朽のため廃車とする。
９月　赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の全部改正により、事務分掌の一部変更並びに消防本部総務課に企画係を新設、消防署警防課に警防係、施設係を配置、消防署指令課に指令係、救急係を配置、消防署茂尻出張所消防係を廃止し、消防本部2課5係、消防署2課4係1出張所となる。
１０月　消防団自立に伴い、平岸分団及び文京分団を業務移管する。
１１月　消防団活性化総合整備事業によりサイレン遠隔吹鳴装置導入
１１月　元消防司令長　樋郡勝司氏　瑞宝単光章を受章する。
１２月　昭和54年購入の1979年式救助艇を老朽のため廃艇とする。
１６年　３月　平岸分団詰所老朽により平岸新光町1丁目30番地4に新築し移転する。
４月　第１４代消防長　小塚芳嗣氏　就任
４月　赤平市消防団長　鎌田恒彰氏　北海道消防協会空知地方支部中空知分会長　就任
４月　元消防司令長　田村敦實氏　瑞宝単光章を受章する。
７月　2004年式アキレス社製船外機付ゴムボートを購入し、消防署に配備
１１月　元副団長　平瀬博氏　瑞宝単光章を受章する。
１７年　２月　若木町西6丁目　菅原保治、錦町1丁目　村上馨の両氏に一般市民消防協力者（人命救助）として市長感謝状を贈呈する。
３月　消防本部通信指令室内に、日本テレコム加入電話による１１９番通報受信装置を設置し、運用開始
４月　防災業務が市総務部総務課から消防本部へ移管
４月　赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の一部改正により、事務分掌の一部変更並びに消防本部総務課企画係を企画防災係、消防署指令課を指令救急課にそれぞれ名称変更し、消防署茂尻出張所を廃止する。
４月　赤平市危険物安全協会と赤平市防火管理者協会が合併し、赤平市防火安全協会となる。

４月　赤平幼稚園といずみ幼稚園の統合により、いずみ幼稚園幼年消防クラブが解散
４月　消防本部通信指令室内にＫＤＤＩ加入電話による１１９番通報受信装置を設置し、運用開始
４月　元分団長　堺正雪氏　瑞宝単光章を受章する。
６月　第５１回北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合演習挙行
８月　消防本部通信指令室内に、携帯電話からの１１９番直接受信装置を設置し、運用開始
９月　消防本部通信指令室内に、平成電電加入電話による１１９番通報受信装置を設置し、運用開始
９月　消防本部庁舎裏救助工作車格納庫に赤平分団車格納庫を増設
１１月　元消防司令　島﨑昭三氏　瑞宝単光章を受章する。
１１月　赤平市と株式会社ＦＭなかそらちとで『災害時における災害広報活動の協力に関する協定書』締結
１８年　２月　元副分団長　大田節氏　瑞宝単光章を受章する。
３月　消防署通信指令室内に日の出団地シルバーハウジング、青葉団地シルバーハウジング緊急通報受信装置を設置し、運用開始
４月　国民保護業務が市総務部総務課から消防本部へ移管
４月　赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の全部改正により、事務分掌の一部変更並びに消防本部総務課庶務係を総務係に名称変更、消防本部総務課企画防災係を廃止、消防本部防災課防災係を新設、消防署指令救急課及び消防署警防課施設係を廃止し、消防署警防課に指令係、救急係を配置、消防本部３課５係、消防署１課３係となる。
４月　消防組織法に基づく緊急消防援助隊に消火隊として登録
８月　赤平市と株式会社ニッショウマート赤平店、たきかわ農業協同組合とで『災害時における食糧等の供給に関する協定書』を締結
１１月　元消防司令長　阿部政利氏　瑞宝単光章を受章する。
１２月　赤平ライオンズクラブより創立４５周年記念事業の一環として消防査察車（ホンダライフ４WD）の寄贈を受け、消防署に配備。これに伴い赤平ライオンズクラブ会長　植村正義氏が赤平市長より善行表彰を受賞する。
１２月　赤平市国民保護計画を策定
１９年　４月　赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の全部改正により、事務分掌の一部変更並びに消防本部・署の課制を廃止し、消防本部６係体制とする。また、本部職員が消防署勤務を兼務する。
４月　第１５代消防長　中村高庸氏　就任
４月　第９代消防団長　吉成茂明氏　就任
４月　元消防司令長　木田勲氏　瑞宝単光章を受章する。
６月　赤平市と赤平建設業協会とで『災害時における応急措置に関する協定書』を締結
７月　元消防司令長　樋郡勝司氏　従七位を受章する。
７月　赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の一部改正により、事務分掌の一部変更並びに消防本部６係体制を廃止し、消防本部４係、消防署２係となる。
８月　元消防司令長　岩渕兼夫氏　正七位を受章する。
１０月　赤平市地域防災計画の全部修正に伴う北海道知事協議終了
１１月　元副団長　米田務氏　瑞宝単光章を受章する。
１１月　２００７年式小型動力ポンプ付水槽車Ⅱ型を購入し、消防署に配備。
昭和５９年購入の１９８４年式小型動力ポンプ付大型水槽車を老朽のため廃車とする。
１２月　赤平市水防計画の全部修正に伴う北海道知事協議終了
２０年　２月　元消防司令　島﨑昭三氏　従七位を受章する。
６月　赤平市と北海道とで『災害時等における北海道及び市町村相互の応援に関する協定』を締結
６月　赤平市と赤平市内郵便局とで『災害時における赤平市内郵便局と赤平市の協力に関する協定』を締結

１０月　特定小電力無線機（トランシーバー）５機購入し、１号車と指令車に配備
２１年　３月　休日・夜間の当番病院が市立赤平総合病院のみとなったことから、急病テレホンセンターを廃止とする。
４月　赤平市消防職員の勤務時間等に関する規程を一部改正し、休息時間を廃止とする。
４月　赤平市消防本部の組織に関する規則の一部改正により、事務分掌の一部変更並びに消防本部に総務課を配置し、総務係を総務課総務係、消防団係を総務課消防団係にそれぞれ名称変更し、１課４係となる。
４月　元消防司令　長町勝義氏　瑞宝単光章を受章する。
６月　全消防職員に新基準盛夏略衣を貸与
６月　特定小電力無線機（トランシーバー）５機購入し、１号車、２号車、３号車に配備
１１月　高規格救急自動車（トヨタハイメディックⅢ）を購入し、消防署に配備
平成４年に北海道共済農業協同組合連合会より寄贈を受けた１９９２年式救急車2B型を老朽のため廃車とする。
１２月　自動気象観測システムを購入し、消防署に配置
２２年　１月　災害時職・団員召集メール（マ・メール）を導入
３月　水防法に基づき、人的被害を防ぐことを目的とした「洪水ハザードマップ」を作成し、市内全世帯、各企業団体、防災関係機関等に配布した。
４月　元消防監　久保田春夫氏　瑞宝双光章を受章する。
４月　元副団長　小林勝男氏　瑞宝単光章を受章する。
４月　地域の防災体制の充実強化を目的として、赤平市消防団協力事業所表示制度実施要綱を制定した。
５月　赤平市と北海道開発局とで『北海道地方における災害時の応援に関する申合せ』を締結
７月　赤平市と北海道エルピーガス災害対策協議会とで『災害等の発生時における赤平市と北海道エルピーガス災害対策協議会の応急・復旧活動の支援に関する協定』を締結
１２月　２０１０年式消防ポンプ自動車ＣＤ－Ⅰ型4WDを購入し、平岸分団に配備
平岸分団に配備していた平成元年購入の１９８９年式消防ポンプ自動車を老朽のため廃車とする。
２３年　３月　北海道防災情報通信設備整備事業により全国瞬時警報システム（Ｊ－ＡＬＥＲＴ）を整備し、運用開始
３月　3月１１日に発生した東日本大震災に伴い消防庁長官の指示により、第６次北海道緊急消防援助隊として、３名の職員を被災地へ派遣
４月　3月１１日に発生した東日本大震災に伴い消防庁長官の指示により、第１２次北海道緊急消防援助隊として、救助工作車及び5名の職員を被災地へ派遣
４月　元副団長　渥美茂一氏　瑞宝単光章を受章する。
６月　赤平市と北海道コカ・コーラボトリング株式会社とで『災害対応型自動販売機による協働事業に関する協定』を締結
９月　２０１１年式消防ポンプ自動車ＣＤ－Ⅰ型4WDを購入し、茂尻分団に配備
１０月　茂尻分団に配備していた平成元年購入の１９８９年式消防ポンプ自動車を老朽のため廃車とする。
１１月　元消防監　内田保氏　瑞宝双光章を受章する。
１１月　元分団長　上野勲氏　瑞宝単光章を受章する。
２４年　４月　元消防司令長　三上静二氏　瑞宝単光章を受章する。
４月　元副団長　栗林貢氏　瑞宝単光章を受章する。
１０月　文京分団詰所老朽により新築
１１月　元消防司令　田野裕氏　瑞宝単光章を受章する。
１１月　元副分団長　戸田嘉喜氏　瑞宝単光章を受章する。
２５年　４月　防災業務が消防本部防災係から市総務課へ移管
４月　赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の一部改正により、事務分掌の一部変更並びに消防本部総務課を総務予防課に名称変更し、総務予防課に予防係を配置、消防本部防災係を廃止、消防署に警防課を配置し、警防係を警防

課警防係、救急係を警防課救急係にそれぞれ名称変更し、消防本部１課３係、消防署１課２係となる。

４月　第１６代消防長　浅井毅彦氏　就任

２５年　９月　赤平市議会第３回定例会で滝川地区広域消防事務組合への加入についての議案可決

１０月　赤平市、滝川市、芦別市、新十津川町、雨竜町の３市２町による滝川地区広域消防事務組合消防広域化協定調印式を挙行

１１月　消防団員等公務災害補償等共済基金からの消防団員安全装備品整備等助成事業助成金により、消防団員の水防活動用雨合羽上下９８着を購入する。

２６年　３月　平成２６年４月１日付け滝川地区広域消防事務組合との消防広域化に伴い、３月３１日付けをもって赤平市消防吏員全員の職を解く。

なお、４月１日付け赤平市職員に任命後、滝川地区広域消防事務組合に派遣、消防吏員を併任することとなる。

歴代消防長

区分 代別	氏名	就任年月日	退任年月日	備考
初代	望月松雄	S36. 5. 1	S40. 3. 31	
二代	松本秀男	S40. 4. 1	S50. 6. 22	
	松本秀男	S50. 6. 23	S52. 10. 31	事務取扱助役
三代	逢坂春政	S52. 11. 1	S57. 7. 1	
四代	岩渕兼夫	S57. 7. 2	S58. 9. 30	
五代	仁田力夫	S58. 10. 1	H元. 3. 31	
六代	東幸男	H元. 4. 1	H 3. 3. 31	
七代	川合隆安	H 3. 4. 1	H 4. 3. 31	
八代	小野武	H 4. 4. 1	H 6. 3. 31	
九代	林久貢	H 6. 4. 1	H 7. 7. 6	
十代	高橋正治	H 7. 7. 7	H10. 3. 31	
十一代	久保田春夫	H10. 4. 1	H12. 3. 31	
十二代	内田保	H12. 4. 1	H14. 3. 31	
十三代	大坂惇	H14. 4. 1	H16. 3. 31	
十四代	小塚芳嗣	H16. 4. 1	H19. 3. 31	
十五代	中村高庸	H19. 4. 1	H25. 3. 31	
十六代	浅井毅彦	H25. 4. 1	H26. 3. 31	

歴代消防団長

区分 代別	氏名	就任年月日	退任年月日	備考
組頭 初代	細野謙	T11. 9.	S 3. 5.	
〃 二代	森川利吉	S 3. 6.	S14. 3.	
警防団長 初代	河崎八郎	S14. 4.	S19. 7.	
〃 二代	森川利吉	S19. 8.	S20. 1.	
〃 三代	真鍋茂	S20. 2.	S20. 8.	
〃 四代	大沼徳治	S20. 9.	S21. 9.	
〃 五代	望月松雄	S21. 10.	S23. 2.	
消防団長 初代	望月松雄	S23. 3. 7	S36. 4. 30	
〃 二代	佐々木金太郎	S36. 5. 4	S38. 12. 31	
〃 三代	中川精作	S39. 1. 1	S54. 12. 31	
〃 四代	菊島節男	S55. 1. 1	H 2. 3. 26	
〃 五代	田中太郎	H 2. 4. 14	H 6. 4. 13	
〃 六代	中村信男	H 6. 4. 14	H10. 4. 13	
〃 七代	孫崎稔	H10. 4. 14	H12. 10. 13	
〃 八代	鎌田恒彰	H12. 11. 1	H19. 3. 31	
〃 九代	吉成茂明	H19. 4. 1		

叙位・叙勲受章者名簿

受章年月日	階級	氏名	位階・勲等
昭和47年　7月19日	元消防司令長	望月松雄	正七位　勲五等瑞宝章
昭和49年　4月29日	元副団長	小林弘	勲六等単光旭日章
昭和50年　4月29日	元班長	小倉吉蔵	勲七等瑞宝章
昭和51年　4月29日	元分団長	午角伝吉	勲七等瑞宝章
昭和53年　4月29日	元分団長	安原信治	勲七等青色桐葉章
昭和61年　4月29日	元団長	中川精作	勲五等瑞宝章
平成　元年11月　3日	元消防司令長	岩渕兼夫	勲五等瑞宝章
平成　2年　3月26日	元団長	菊島節男	勲六等瑞宝章
平成　3年　9月　9日	元消防監	仁田力夫	従六位　勲五等瑞宝章
平成　3年11月　3日	元副分団長	橋邊冨五郎	勲六等瑞宝章
平成　7年11月　3日	元団長	田中太郎	勲五等瑞宝章
平成　9年11月　2日	元消防司令	島畑信明	正七位　勲六等瑞宝章
平成10年11月　3日	元分団長	新山藤吉	勲六等瑞宝章
平成10年12月15日	元団長	中村信男	勲五等瑞宝章
平成12年10月13日	元団長	孫崎稔	勲五等瑞宝章
平成13年　2月　8日	元消防司令長	松本秀男	勲五等双光旭日章
平成15年　3月　2日	元消防監	高橋正治	正七位　勲五等瑞宝章
平成15年11月　4日	元消防司令長	樋郡勝司	瑞宝単光章
平成16年　4月29日	元消防司令長	田村敦實	瑞宝単光章
平成16年11月　3日	元副団長	平瀬博	瑞宝単光章
平成17年　4月29日	元分団長	堺正雪	瑞宝単光章
平成17年11月　3日	元消防司令	島﨑昭三	瑞宝単光章
平成18年　2月　1日	元副分団長	大田節	瑞宝単光章
平成18年11月　3日	元消防司令長	阿部政利	瑞宝単光章
平成19年　4月29日	元消防司令長	木田勲	瑞宝単光章
平成19年　7月　1日	元消防司令長	樋郡勝司	従七位
平成19年　8月23日	元消防司令長	岩渕兼夫	正七位
平成19年11月　3日	元副団長	米田務	瑞宝単光章
平成20年　2月　6日	元消防司令	島﨑昭三	従七位
平成21年　4月29日	元消防司令	長町勝義	瑞宝単光章
平成22年　4月29日	元消防監	久保田春夫	瑞宝双光章
平成22年　4月29日	元副団長	小林勝男	瑞宝単光章
平成23年　4月29日	元副団長	渥美茂一	瑞宝単光章
平成23年11月　3日	元消防監	内田保	瑞宝双光章
平成23年11月　3日	元分団長	上野勲	瑞宝単光章
平成24年　4月29日	元消防司令長	三上静二	瑞宝単光章
平成24年　4月29日	元副団長	栗林貢	瑞宝単光章
平成24年11月　3日	元消防司令	田野裕	瑞宝単光章
平成24年11月　3日	元副分団長	戸田嘉喜	瑞宝単光章
平成25年　4月29日	元消防司令	鈴木正勝	瑞宝単光章

消防庁長官表彰受章者名簿

１.功労章

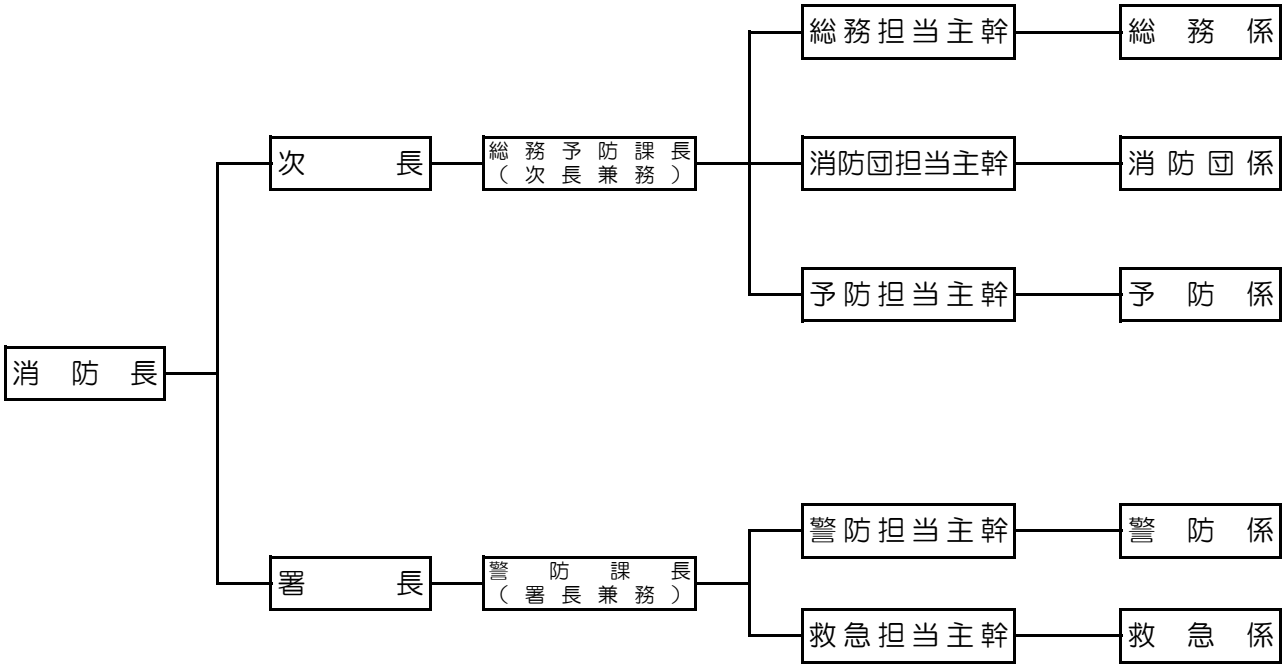
受章年月日	階　級	氏　名
昭和４９年　３月　１日	団　長	中　川　精　作
平成　２年　３月　８日	団　長	菊　島　節　男

２.永年勤続功労章

受章年月日	階　級	氏　名	受章年月日	階　級	氏　名
昭和４６年　３月　４日	班　長	大　田　節	平成１１年　３月　５日	消　防　監	久保田　春　夫
昭和５２年　３月　４日	分　団　長	酒　井　弥　吉	平成１１年　３月　５日	分　団　長	上　野　勲
昭和５８年　３月　２日	消防司令長	岩　渕　兼　夫	平成１３年　３月　８日	消　防　監	内　田　保
昭和６０年　３月　６日	消防司令長	仁　田　力　夫	平成１３年　３月　８日	団　長	鎌　田　恒　彰
昭和６０年　３月　６日	副　団　長	田　中　太　郎	平成１４年　３月　６日	分　団　長	栗　林　貢
昭和６１年　３月　５日	副　団　長	中　村　信　男	平成１５年　３月　５日	分　団　長	渥　美　茂　一
昭和６２年　３月　４日	副分団長	橋　邊　冨五郎	平成１６年　３月　４日	消　防　監	大　坂　惇
昭和６３年　３月　９日	分　団　長	孫　崎　稔	平成１６年　３月　４日	分　団　長	吉　成　茂　明
昭和６３年　３月　９日	分　団　長	平　瀬　博	平成１７年　３月　４日	消防司令	鈴　木　正　勝
昭和６３年　３月　９日	副分団長	堺　正　雪	平成１８年　３月　３日	副分団長	戸　田　嘉　喜
平成　元年　３月　６日	副分団長	新　山　藤　吉	平成１９年　３月　２日	消防司令長	小　塚　芳　嗣
平成　２年　３月　８日	消防司令長	樋　郡　勝　司	平成２０年　３月　７日	分　団　長	鵜　飼　良　城
平成　７年　３月　３日	分　団　長	米　田　務	平成２１年　３月　６日	分　団　長	渡　邉　忠　司
平成　８年　３月　６日	消　防　監	高　橋　正　治	平成２２年　３月　５日	分　団　長	中　村　隆　幸
平成　８年　３月　６日	分　団　長	小　林　勝　男	平成２３年　３月　３日	消防司令長	中　村　高　庸
平成　９年　３月　５日	消防司令長	田　村　敦　實	平成２４年　３月　８日	分　団　長	三　浦　日出男
平成　９年　３月　５日	分　団　長	佐　藤　吉　春	平成２５年　３月　６日	分　団　長	滝　本　守
平成１０年　３月　７日	副分団長	佐　藤　傳	平成２６年　３月　５日	分　団　長	石　野　功

消防機構
職団員

消防本部（署）組織図



消防職員階級別配置

（単位：人）

所属 ＼ 階級別			計	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士
消防本部	消防長		1	1					
	次長		1		1				
	総務予防課	総務課長（次長兼務）	0						
		総務担当主幹	1		1				
		総務係	5			1	4		
		消防団担当主幹	1		1				
		消防団係	2			1	1		
		予防担当主幹	1		1				
		予防係	9			2	6	1	
消防署	署長		1		1				
	警防課	警防課長（署長兼務）	0						
		警防担当主幹	1		1				
		警防係	8			2	5	1	
		救急担当主幹	1		1				
		救急係	4			1	2		1
合計			36	1	7	7	18	2	1

非常時の体制は別に組織する。

年齢区分別階級別消防職員数

（単位：人）

年齢区分＼階級	計	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士
２０歳未満							
２０歳以上３０歳未満	5				2	2	1
３０歳以上４０歳未満	23			7	16		
４０歳以上５０歳未満	5		5				
５０歳以上	3	1	2				
合計	36	1	7	7	18	2	1
平均年齢	３６．１歳						

消防職員階級別勤続年数

（単位：人）

年齢区分＼階級	計	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士
１０年未満	5				2	2	1
１０年以上２０年未満	22			6	16		
２０年以上３０年未満	6		5	1			
３０年以上	3	1	2				
合計	36	1	7	7	18	2	1

消防職員教育状況

（単位：人）

派遣先	教育課程別		平成２４年度まで	平成２５年度派遣	合計
北海道消防学校	初任教育		36		36
	専科教育	警防科	6	1	7
		無線通信課程	2		2
		予防査察科	11	1	12
		危険物科	8	1	9
		火災調査科	9	1	10
		救急課程（Ⅰ課程）	2		2
		救急Ⅱ課程	3		3
		救急科	22	1	23
		救助科	14	1	15
	幹部教育	幹部科	2	1	3
	特別教育	消防ポンプ操法指導員課程	1		1
		気管挿管講習	7		7
		薬剤投与講習	6	1	7
	道MC教育関係	気管挿管再認定講習	12	1	13
		ビデオ硬性喉頭鏡講習	1	2	3
救急救命九州研修所	薬剤投与追加講習		1		1
札幌市消防学校	現場指揮課程		1		1
北海道市町村職員研修センター	一般研修	指導能力研修	12	3	15
		地方自治法	7	1	8
		地方公務員法	1		1
	指導者養成研修	接遇研修指導者養成	1		1
		OJT指導者養成研修	1		1
	専門研修	法令実務（基礎）	2		2
	能力開発研修	プレゼンテーション研修	1		1
合計			169	15	184

消防職員の特殊技能資格

（単位：人）

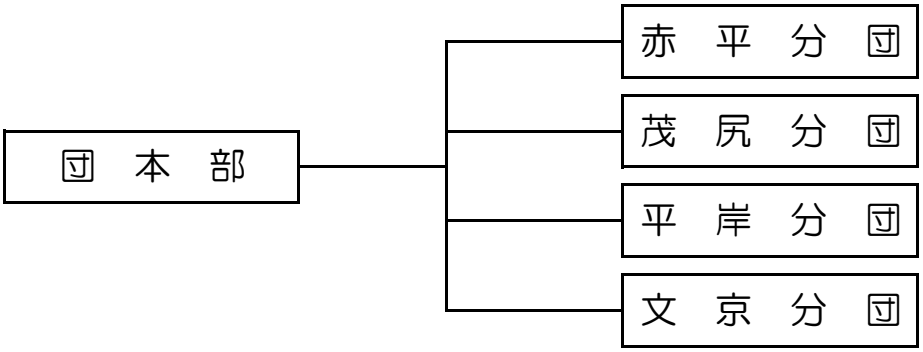
技能資格種別 ＼ 階級別		消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	合計
普通自動車第一種運転免許		1	7	7	18	2	1	36
大型自動車第一種運転免許		1	7	6	18	2	1	35
大型自動車第二種運転免許				1				1
牽引自動車第一種免許			1		1			2
大型特殊自動車第一種運転免許			7	2	2			11
車両系建設機械技能講習修了者			6		2			8
小型移動式クレーン技能講習修了者		1	7	6	7			21
玉掛技能講習修了者		1	7	6	7			21
一級小型船舶操縦士			2					2
二級小型船舶操縦士			3	2	1			6
消防設備士乙種四類		1			1			2
消防設備士乙種五類					1			1
消防設備士乙種六類		1	1	1	2			5
消防設備士乙種七類		1			1			2
危険物取扱者乙種一類				1				1
危険物取扱者乙種二類				1				1
危険物取扱者乙種三類				1				1
危険物取扱者乙種四類		1	2	4	4	1		12
危険物取扱者乙種五類				1	1			2
危険物取扱者乙種六類				1	1			2
危険物取扱者丙種				1				1
第二級陸上特殊無線技士			2	1	5			8
電話級アマチュア無線		1		1				2
二級ボイラー技士		1	2		1			4
酸素欠乏危険作業主任者		1		1				2
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者		1						1
ガス溶接技能講習修了者			1	1				2
衛生推進者			1					1
特定化学物質等作業主任者		1						1
防災士				2				2
予防技術資格者	防火査察専門員		6	2	4			12
	消防用設備等専門員		4	2	4			10
	危険物専門員		5	2	3			10

救急隊員資格内訳

（単位：人）

資格種別 ＼ 階級別		消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	合計
救急	救命士			2	6			8
	気管挿管認定			2	6			8
	薬剤投与認定			2	6			8
	ビデオ硬性挿管用喉頭鏡			2	1			3
救急隊員１３５時間講習修了者			2					2
救急隊員２５０時間講習修了者		1	5	5	12	2	1	26
応急手当指導員		1	2	2	8	1	1	15

消　防　団　組　織　図



消防団員階級別配置

（単位：人）

分団別＼階級	計	団　長	副団長	分団長	副分団長	部　長	班　長	団　員
団　本　部	17 (13)	1	2	1	1 (1)	1 (1)	2 (2)	9 (9)
赤平分団	24			1	1	2	6	14
茂尻分団	24			1	1	2	6	14
平岸分団	15			1	1	2	4	7
文京分団	20			1	1	2	5	11
合　　計	100 (13)	1	2	5	5 (1)	9 (1)	23 (2)	55 (9)

※　括弧内数字は女性消防団員うち数

年齢区分別階級別消防団員数

（単位：人）

分団別＼年齢	計	団　長	副団長	分団長	副分団長	部　長	班　長	団　員
20歳未満								
20歳以上30歳未満	6							6
30歳以上40歳未満	18					1	1	16
40歳以上50歳未満	33				1	3	9	20
50歳以上60歳未満	23			2	2		10	9
60歳以上	20	1	2	3	2	5	3	4
合　　計	100	1	2	5	5	9	23	55
平均年齢	47．5歳		男性消防団員平均年齢				46．9歳	
			女性消防団員平均年齢				51．8歳	

消防団員階級別勤続年数

（単位：人）

年齢区分＼階級	計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
１０年未満	43						4	39
１０年以上２０年未満	30				1	2	13	14
２０年以上３０年未満	8			1	2	3	2	
３０年以上	19	1	2	4	2	4	4	2
合計	100	1	2	5	5	9	23	55

過去５年間の分団別出動率

（１月～１２月）（単位：％）

年齢区分＼階級	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平均
団本部	83.3	81.0	76.9	82.7	76.2	80.0
赤平分団	62.9	66.9	67.8	67.4	69.2	66.8
茂尻分団	71.5	70.8	80.8	70.2	74.1	73.5
平岸分団	77.1	78.4	72.8	74.9	74.1	75.5
文京分団	76.3	83.4	74.6	71.5	73.2	75.8
平均	74.2	76.1	74.6	73.3	73.4	74.3

消防団員職業形態別団員数

（単位：人）

	職業構成				就業形態			
	公務員			その他				
業態	国家公務員	地方公務員	特殊法人等公務員に準ずる職員		被用者	自営業者	家族従事者	その他
人員		1	4	95	74	15	8	3

消　防　施　設

消防庁舎の概要

名称	所在地	構造	敷地面積㎡ 建物延面積㎡	竣工 年月	備考
消防本部（署） （団本部） （赤平分団）	大町１丁目 ５番地	鉄筋コンクリート ２階建	１，２６１．５２ ９２７．６３	Ｓ３６．６	Ｓ４４．６一部増改築 Ｓ５２．１０一部増改築
茂尻分団詰所 （茂尻分団）	茂尻中央町 北１丁目３番地	鉄筋コンクリート ２階建	１，３１７．９８ ４５０．２４	Ｓ４３．６	
平岸分団詰所 （平岸分団）	平岸新光町 １丁目３０番地	鉄骨造平屋	１，２１０．５５ １３６．０８	Ｈ１６．３	
文京分団詰所 （文京分団）	西文京町 ４丁目２番地	鉄骨造平屋	４２０．７８ １４８．５０	Ｈ２４．１１	
消防機械 器具倉庫	西文京町 ４丁目２番地	コンクリート ブロック２階建	--- ９３．２３	Ｓ５７．８	文京分団詰所 同一敷地内に建設
救助工作車 赤平分団車 格納庫	大町３丁目 ５番地	鉄骨造角波 カラー鉄板 平屋	２９９．４０ ９５．００	Ｈ９．１２	消防本部裏専用駐車場 敷地内に建設 Ｈ１７．９赤平分団車 格納庫増築

通信施設の状況

施設等			計	合計
無線電話（局）	基地局（３波）		1	1
	固定局		5	5
	移動局	車載用	13	27
		携帯用	14	
受令機（台）			36	36
専用回線（回線）	１１９番 通報専用	ＮＴＴ	3	7
		ＩＰ電話　※	2	
		携帯電話　※	2	
	携帯電話１１９番通報近隣市町転送用　※		1	1
	火災案内専用		2	2
	自動通報用		3	3
	関係機関連絡用		1	1
	緊急通報用 家庭用（３０世帯） シルバーハウジング（１３２世帯）		1	1
救急車積載携帯電話（台）			2	2
一般回線（回線）	一般加入 回線	本部・署　※	2	5
		分団詰所	3	
ＦＡＸ回線			2	2
サイレン吹鳴 装置（式）	サイレン吹鳴装置（制御装置）		1	1
	サイレン吹鳴子局装置		4	4
北海道総合行政情報ネットワーク（回線）			1	1

※はＩＳＤＮ回線

消防車両現勢

区分 所属	車両別（型式）	ﾒｰｶｰ名 型式番号	登録番号	総排気量 ポンプ級別	年式 （西暦）	水槽容量 (薬液量)	呼　称
消防本部 (消防団)	指揮広報車	トヨタ TA-JZS173W	札幌830 ほ 119	2.49	2001		指令車
	広報車	三　菱 R-CD2V	札幌800 た 143	1.46	1998		広報車
消防署	化学車(Ⅱ型)4WD	三　菱 U-FL417FZ改	札幌 88 た1233	7.54 Ａ－２	1990	1.3㎥ （0.5㎥）	１号車
	小型動力ポンプ付 水槽車（Ⅱ型）	日　野 BDG-FQ1ERYA改	札幌800 は2493	12.9 Ｂ－２	2007	9㎥	２号車
	水槽付消防ポンプ 自動車（Ⅱ型）４WD	日　野 KC-FT1JGBL改	札幌 88 た3361	7.96 Ａ－１	1996	2㎥	３号車
	救助工作車（Ⅱ型） ４WD	日　野 KC-FT1JHBA改	札幌 88 た3962	7.96	1998		救工車
	高規格救急自動車 ４WD	トヨタ CBF-TRH226S	札幌800 せ9485	2.69	2009		救急１号車
	高規格救急自動車 ４WD	トヨタ GE-VCH38S	札幌800 さ5089	3.37	1999		救急２号車
	搬送車　４WD	トヨタ S-CM60	札幌400 そ5645	1.97	1991		搬送車
	消防査察車	ホンダ ＣＢＡ-ＪＢ６	札幌580 く6655	0.65	2006		査察車
赤平分団	消防ポンプ自動車 （CDⅡ型）4WD	三　菱 U-FL417E改	札幌 88 て6081	7.54 Ａ－２	1992		赤平車
茂尻分団	消防ポンプ自動車 （CDⅠ型）4WD	いすゞ BDG-NMS85AN	札幌 800 そ1752	2.99 Ａ－２	2011		茂尻車
平岸分団	消防ポンプ自動車 （CDⅠ型）4WD	いすゞ BDG-NMS85AN	札幌 800 そ　995	2.99 Ａ－２	2010		平岸車
文京分団	消防ポンプ自動車 （CDⅡ型）低床式4WD	日　野 KC-FX1JGBA改	札幌 88 と2071	7.96 Ａ－２	1996		文京車

消防水利の状況

（単位：基）

区　分 水利種別	規　格		公　設	私　設	合　計
防火水槽	容　量	４０㎥以上	９２	１	９３
		４０㎥未満	２９	１	３０
	小　計		１２１	２	１２３
地上式消火栓	管　径	２００㎜	６		６
		１５０㎜	１８		１８
		１００㎜			
	小　計		２４		２４
合　計			１４５	２	１４７

主な消防資機材等保有状況

	器具名	数量	器具名	数量
一般救助・水難救助用器具	かぎ付はしご	1	救命索発射銃	1
	二連はしご	7	サバイバースリング	1
	三連はしご	3	平担架	1
	ワイヤーはしご	1	カラビナ	42
	空気式救助マット	1	滑車	8
	救命胴衣	13	バスケットストレッチャー	1
	救命浮環	4	救命ボート	1
重量物排除用器具	油圧ジャッキ	1	マンホール救助器具	1
	油圧スプレッター	1	マット型空気ジャッキ	1
	可搬ウィンチ	1	チェーンブロック	1
	ワイヤーロープ	19	牽引用スリング	1
測定用器具	可燃性ガス測定器	2	表面汚染検査計	1
	有毒ガス測定器	1	ガンマ及びエックス線用線量率計	1
	酸素濃度測定器	1	個人線量計	5
	張力計	1		
破壊・切断用器具	万能斧	2	削岩機	1
	ハンマー	3	ハンマドリル	1
	携帯用コンクリート破壊器具	1	空気鋸	1
	油圧切断機	1	チェーンソー	1
	エンジンカッター	2	鉄線カッター	5
	ガス溶断機	1	レシプロソー	1
消火・照明器具	消防用ホース（使用圧１６kg）	244	水管保護器	7
	消防用ホース（使用圧１３kg）	56	組立水槽	1
	消防用ホース（濡れホース）	6	山火用背負式消火器	10
	発電機	8	ゼロトルクターボノズル	2
	投光器	9	ガンタイプノズル	3
	携帯投光器	17	Vフォームガン	1
	第３種粉末	82.8kg	軽量アルミ管そう	2
	合成界面活性剤	1.08kℓ	ポンププロポーショナー	1
	クラスA消火薬剤	120ℓ		

		器　　具　　名	数量	器　　具　　名	数量
呼吸保護・隊員保護用器具		空気呼吸器	20	送排風機	1
		空気ボンベ	47	携帯警報器	11
		要救助者呼吸器具	6	防塵メガネ	5
		高圧用ゴム手袋	5	防塵マスク	45
		絶縁上衣	2	防毒マスク	3
		絶縁ズボン	2	全面マスク	5
		電気用ゴム長靴	2		
その他器具		携帯拡声器	4	ロープ登降機	2
		緩降機	1	トランシーバー	10
救急関係器具	救急1号車積載	患者監視装置	1	メインストレッチャー	1
		パルスオキシメータ	1	サブストレッチャー	1
		喉頭鏡セット	1	スクープストレッチャー	1
		血圧計	1	ターポリン担架	1
		バックマスク（各種）	3	エアーストレッチャー	1
		自動体外式除細動器	1	全背柱固定器具セット	1
		自動吸引器	1	救助用工具セット	1
		人工呼吸器	1	パルスＣＯオキシメータ	1
		ビデオ喉頭鏡	1		
	救急2号車積載	患者監視装置	1	メインストレッチャー	1
		パルスオキシメータ	1	サブストレッチャー	1
		喉頭鏡セット	1	スクープストレッチャー	1
		血圧計	1	ターポリン担架	1
		バックマスク（各種）	3	エアーストレッチャー	1
		自動体外式除細動器	1	全背柱固定器具セット	1
		自動吸引器	1	救助用工具セット	1
		ビデオ喉頭鏡	1		
	その他（共用・予備・訓練用）	パルスオキシメータ	1	車載用酸素ボンベ	6
		喉頭鏡セット	1	携帯用酸素ボンベ	4
		血圧計	1	自動心マッサージ器	1
		バックマスク	1	分娩セット	1
		スクープストレッチャー	1	救急訓練用人形（成人）	6
		全背柱固定器具セット	1	救急訓練用人形（小児・乳幼児）	9
		小児用全背柱固定器具セット	1	救急訓練用ＡＥＤ	2
		トリアージシート一式	1		

予防危険物

住宅用火災警報器を設置しましょう！

防火管理者の選任及び消防計画届出状況

法施行令別表第１の区分			選任義務対象物数（A）	選任済対象物数（B）	消防計画届出数（C）	選任率（B/A）	届出率（C/A）
1	イ	劇場、映画館、演芸場、観覧場					
	ロ	公会堂、集会場	40	40	40	100.0%	100.0%
2	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等	1	1	1	100.0%	100.0%
	ロ	遊技場、ダンスホール	1	1	1	100.0%	100.0%
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗					
	ニ	カラオケボックス等					
3	イ	待合、料理店等					
	ロ	飲食店	10	10	10	100.0%	100.0%
4		百貨店、マーケット、販売店舗等	14	13	12	92.9%	85.7%
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所					
	ロ	寄宿舎、下宿、共同住宅	26	16	16	61.5%	61.5%
6	イ	病院、診療所、助産院	1	1	1	100.0%	100.0%
	ロ	老人短期入所施設、重症心身障害児施設等	11	11	11	100.0%	100.0%
	ハ	老人デイサービス、児童養護施設等	7	7	7	100.0%	100.0%
	ニ	幼稚園、特別支援学校	1	1	1	100.0%	100.0%
7		小学校、中学校、各種学校等	7	7	7	100.0%	100.0%
8		図書館、博物館、美術館等	1	1	1	100.0%	100.0%
9	イ	公衆浴場のうち、蒸気浴場、熱気浴場等	1	1	1	100.0%	100.0%
	ロ	９イ以外の公衆浴場	2	2	2	100.0%	100.0%
10		車両の停車場又は船舶若しくは航空機の発着場					
11		神社、寺院、教会等	14	13	11	92.9%	78.6%
12	イ	工場、作業場	10	8	8	80.0%	80.0%
	ロ	映画スタジオ、テレビスタジオ					
13	イ	自動車車庫、駐車場					
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫					
14		倉庫					
15		前各号に該当しない事業場	15	15	15	100.0%	100.0%
16	イ	特定複合用途防火対象物	17	17	16	100.0%	94.1%
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	3	3	3	100.0%	100.0%
合計			182	168	164	92.3%	90.1%

月別各種届出状況

届出別／月別			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
消防法関係	危険物製造所等	設置許可申請				1									1
		変更許可申請	3						1	1					5
		完成検査前検査申請		1											1
		完成検査申請	2			2			1	1					6
		仮使用承認申請	2												2
		品名、数量又は指定数量の倍数変更届出				1									1
		廃止届出	4		1	1	1			1		1			9
		譲渡引渡届出								1					1
	予防規程制定・変更認可申請														
	危険物保安監督者選任・解任届出		4	9		1								1	15
	圧縮アセチレンガス等の貯蔵又は取扱いの開始(廃止)届出														
	完成検査済証再交付申請				1										1
	防火管理者選任・解任届出		5	4			1	1	3		1			1	16
	消防計画書作成(変更)届出			2		1			4	1	1				9
	工事整備対象設備等着工届出		2	1				1	1	1	1	3			10
	消防用設備等設置届出		7	2	2			2	4	1	4	4	1	3	30
	消防用設備等点検結果届出		5	19	15	2	15	6	49	23	10	16	19	6	185
	防火対象物点検報告特例認定申請							1	5						6
赤平市条例・規則関係	危険物仮貯蔵、仮取扱承認申請														
	危険物製造所等設置取り止め届出														
	危険物製造所等軽微な変更等届出			2	1	2	1				1		1		8
	火気使用工事届出														
	危険物製造所等の設置者等の住所等変更届出		4	1		1									6
	危険物製造所等使用休止・再開届出			1					1						2
	液体燃料を使用する燃焼機器の分解掃除及び整備業等届出														
	水圧・水張検査申請														
	裸火使用申請						1								1
	防火対象物使用等開始届出		1	1		1	1	1	2			1	1		9
	火を使用する設備等設置届出									1					1
	変電設備・燃料電池発電設備・発電設備・蓄電池設備の設置（変更)届出		1	1							1		1		4
	ネオン管灯設備等設置届出														
	消防訓練実施計画報告		21	10	14	5	8	16	27	8	3	1	1	5	119
	消防訓練実施結果報告		6	17	15	8	3	10	32	15	3	3		4	116
	火災と紛らわしい煙の届出		1	5	4	2		4	6	2		2			26
	煙火打ち上げ届出			6		2	1	1							10
	催物開催届出														
	道路工事届出			4	8	3	2	4	6	3	1			2	33
	消防設備業届出														
	煙突取付・掃除業等届出														
	少量危険物等貯蔵取扱届出					3	1				1	1	1		7
	少量危険物等貯蔵取扱廃止届出														
	水素ガスを充てんする気球の設置等届出														

用途及び工事別建築同意事務処理状況

用途別／工事別			合計	新築	増改築等
1	イ	劇場、映画館、演芸場、観覧場			
	ロ	公会堂、集会場			
2	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等			
	ロ	遊技場、ダンスホール			
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗			
	ニ	カラオケボックス等			
3	イ	待合、料理店等			
	ロ	飲食店			
4		百貨店、マーケット、販売店舗等	2	1	1
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所			
	ロ	寄宿舎、下宿、共同住宅	1	1	
6	イ	病院、診療所、助産院	1		1
	ロ	老人短期入所施設、重症心身障害児施設等			
	ハ	老人デイサービス、児童養護施設等	3	3	
	ニ	幼稚園、特別支援学校			
7		小学校、中学校、各種学校等			
8		図書館、博物館、美術館等			
9	イ	公衆浴場のうち、蒸気浴場、熱気浴場等			
	ロ	9イ以外の公衆浴場			
10		車両の停車場、船舶若しくは航空機の発着場			
11		神社、寺院、教会等	2		2
12	イ	工場、作業場			
	ロ	映画スタジオ、テレビスタジオ			
13	イ	自動車車庫、駐車場	1	1	
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫			
14		倉庫			
15		前各号に該当しない事業場	2	1	1
16	イ	特定複合用途防火対象物			
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物			
―		専用住宅	1（19）	1（15）	（4）
―		住宅用車庫・物置	1	1	
―		その他	1		1
合計			15（19）	9（15）	6（4）

括弧内数字は、建築通知事務処理件数

危険物施設の現況

施設別／区分		施設数	事務処理の状況			
			設置許可申請数	変更許可申請数	完成検査	廃止届
貯蔵所	屋内貯蔵所	4				
	屋外タンク貯蔵所	3				
	屋内タンク貯蔵所	6				
	地下タンク貯蔵所	36		1	1	5
	移動タンク貯蔵所	20		1	1	1
	屋外貯蔵所	1	1		1	1
	小計	70	1	2	3	7
取扱所	給油取扱所	14		3	3	
	自家用	6				
	一般取扱所	34				2
	小口詰替専用	1				
	小計	48		3	3	2
合計		118	1	5	6	9

危険物製造所等倍数別設置状況

区分	倍数	5倍以下	5倍を超え10倍以下	10倍を超え50倍以下	50倍を超え100倍以下	100倍を超え150倍以下	150倍以上	計
貯蔵所	屋内貯蔵所		2	2				4
	屋外タンク貯蔵所	1	2					3
	屋内タンク貯蔵所	4	2					6
	地下タンク貯蔵所	14	6	11	2	1	2	36
	移動タンク貯蔵所	20						20
	屋外貯蔵所	1						1
	小計	40	12	13	2	1	2	70
取扱所	給油取扱所（営業）			1	1	3	3	8
	給油取扱所（自家給）		1	5				6
	計		1	6	1	3	3	14
	一般取扱所	22	5	5	1			33
	小口詰替専用		1					1
	計	22	6	5	1			34
	小計	22	7	11	2	3	3	48
合計		62	19	24	4	4	5	118

防火・広報活動月別実施状況

月別 / 種別	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計	
	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員
通報訓練 避難訓練 消火訓練	7	171	18	827	16	635	5	330	4	41	14	754	29	714	9	209	3	50	2	412	1	70	4	240	112	4,453
防火教室 防火映画			2	93	1	20					1	23			1	22					1	20			6	178
防火広報	18	79											19	66			7	123							44	268
消防施設見学			2	44	1	15							2	6											5	65
防火管理者講習																									0	0
予防･危険物研修会							2	3					1	2			1	1	1	1					5	7
救急講習会			1	10					1	13	2	50	1	10	1	27							4	28	10	138

防　火　協　力　団　体

１　赤平市幼少年婦人防火委員会

設　　立　　平成７年９月７日
事　務　局　　消防本部予防係
目　　的　　幼年消防クラブ、少年消防クラブ及び婦人防火クラブの健全な育成発展に寄与する。

（１）　赤平市少年消防クラブ

設　　立　　昭和39年６月３日
クラブ員数　　３２名
事　務　局　　消防本部予防係
目　　的　　少年に対して明朗活発な気風を育成し、併せて火災予防の普及徹底及び一般防火思想の向上を図り、少年の教育に寄与する。

（２）　赤平幼稚園幼年消防クラブ

設　　立　　平成７年９月１日
クラブ員数　　８１名
事　務　局　　消防本部予防係
目　　的　　幼年に消防研修を行い、火に対する正しいしつけを見につけさせ、幼稚園及び各家庭からの火災の減少を図ると共に、将来人命を尊重し、財産の保全を図る社会人としての素地を育成する。

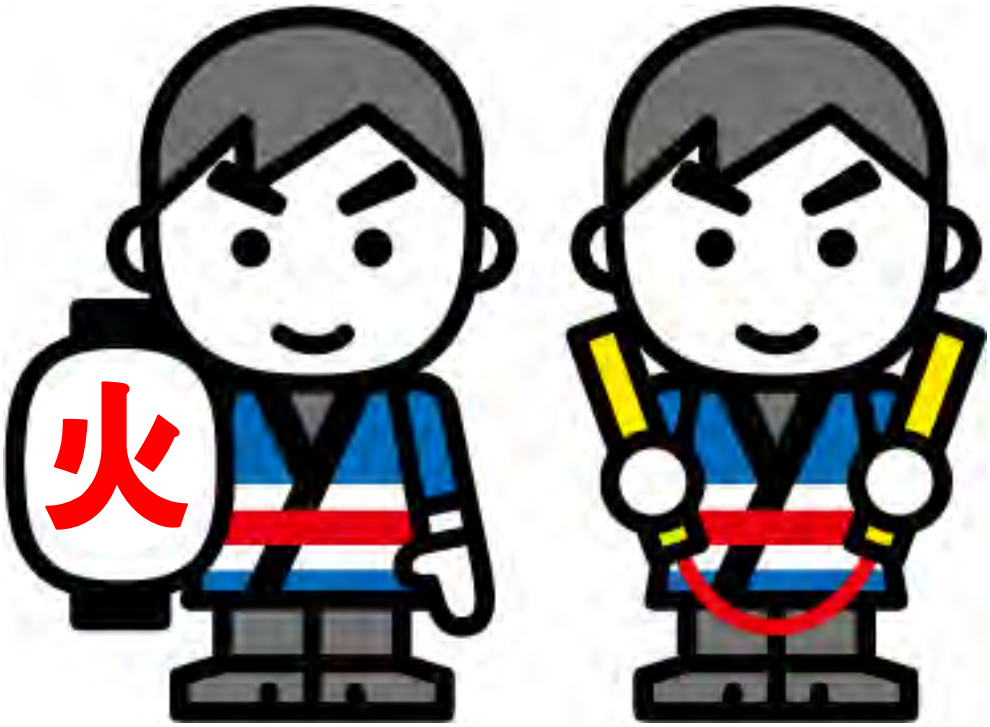
（３）　赤平婦人防火クラブ

設　　立　　平成７年６月５日
クラブ員数　　３０名
事　務　局　　消防本部予防係
目　　的　　家庭における火災予防の普及徹底並びに防火思想の向上を図り、併せて社会福祉の増進に寄与する。

２　赤平市防火安全協会

設　　立　　平成17年４月１日
会　員　数　　１５５事業所
事　務　局　　消防本部予防係
目　　的　　会員相互の連絡協調を図るとともに、防火対象物及び危険物施設並びに燃焼機器に起因する災害防止に努め、もって会員の健全な振興発展と社会公共の福祉の増進に寄与する。

火　災　統　計



火災の概要

（1月～12月）

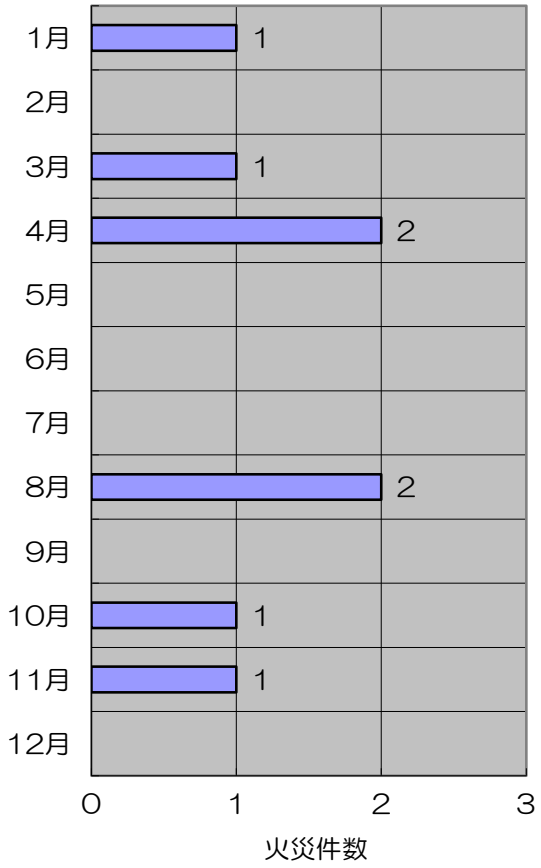
区分		単位	平成25年(A)	平成24年(B)	増減(A - B)
火災件数		件	8	5	3
	建物		5	1	4
	林野				
	車両				
	その他		3	4	△1
焼損棟数		棟	7	1	6
	全焼		2		2
	半焼				
	部分焼				
	ぼや		5	1	4
建物焼損床面積		㎡	52		52
建物焼損表面積		㎡			
林野焼損面積		a			
焼損車両台数		台	1		1
死者		人			
負傷者		人	1	1	0
罹災世帯数		世帯	2	1	1
	全損				
	半損				
	小損		2	1	1
罹災人員		人	2	2	0
損害額		千円	1,456	112	1,344
	建物		613	3	610
	林野				
	車両				
	その他		843	109	734

平成２５年火災記録

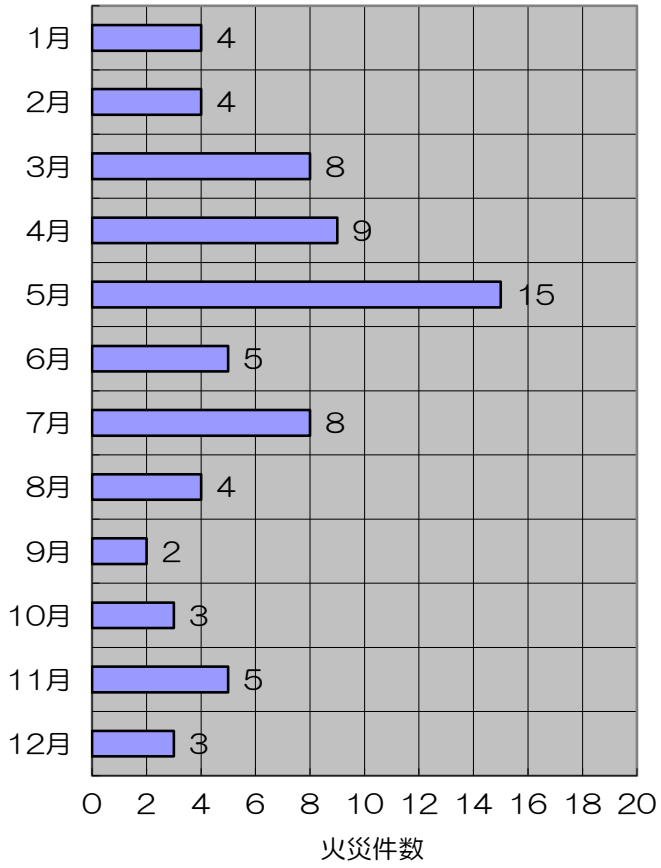
火災番号	出火時刻	覚知方法	火災種別	罹災世帯数				罹災人員	死傷者数		焼損棟数					焼損面積			焼損車両台数	損害額（千円）					
				全損	半損	小損	合計		死者	負傷者	全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計	建物床㎡	建物表㎡	林野a		建物		林野	車両	その他	合計
																				建築物	収容物				
1	3:15	119	建物											1	1						34				34
2	13:20	119	建物								2				2	52				230	347				577
3	12:15	119	その他											1	1				1					27	27
4	時分不明	事後聞知	建物			1	1	1		1				1	1										
5	20:50	119（携帯）	その他																						
6	時分不明	119（携帯）	その他																					816	816
7	9:03	事後聞知	建物			1	1	1						1	1						2				2
8	7:53	事後聞知	建物											1	1										
合計						2	2	2		1	2			5	7	52			1	230	383			843	1,456

月別及び曜日別火災件数

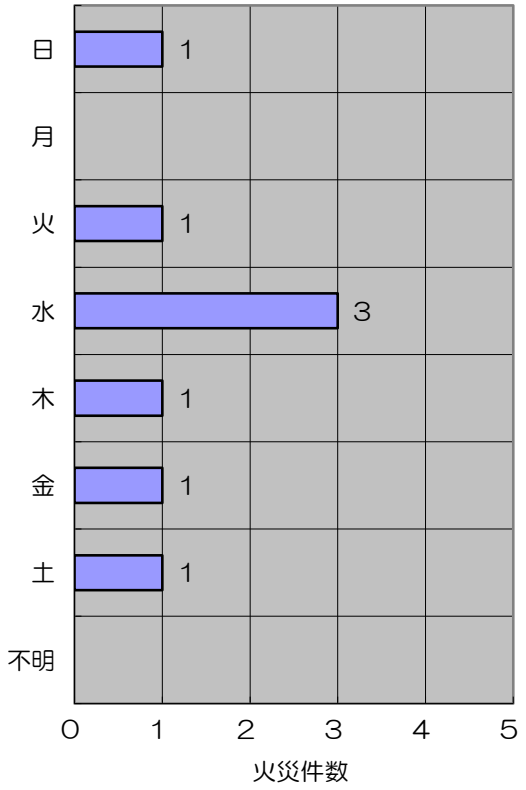
平成２５年 月別火災件数



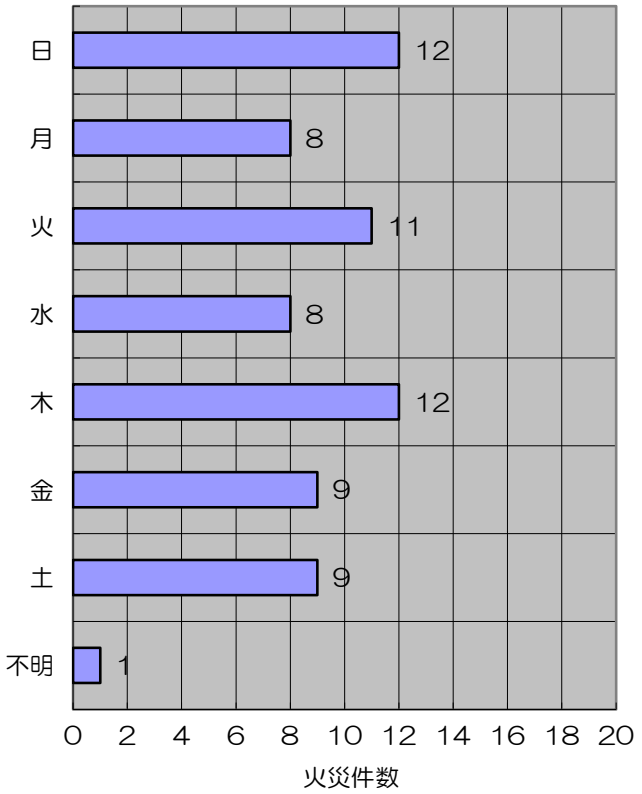
過去10年間 月別火災件数



平成２５年 曜日別火災件数

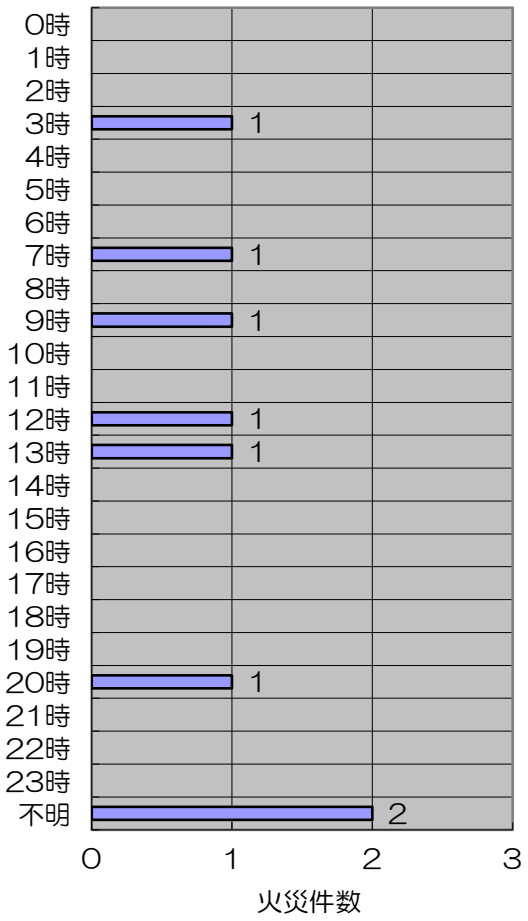


過去10年間 曜日別火災件数

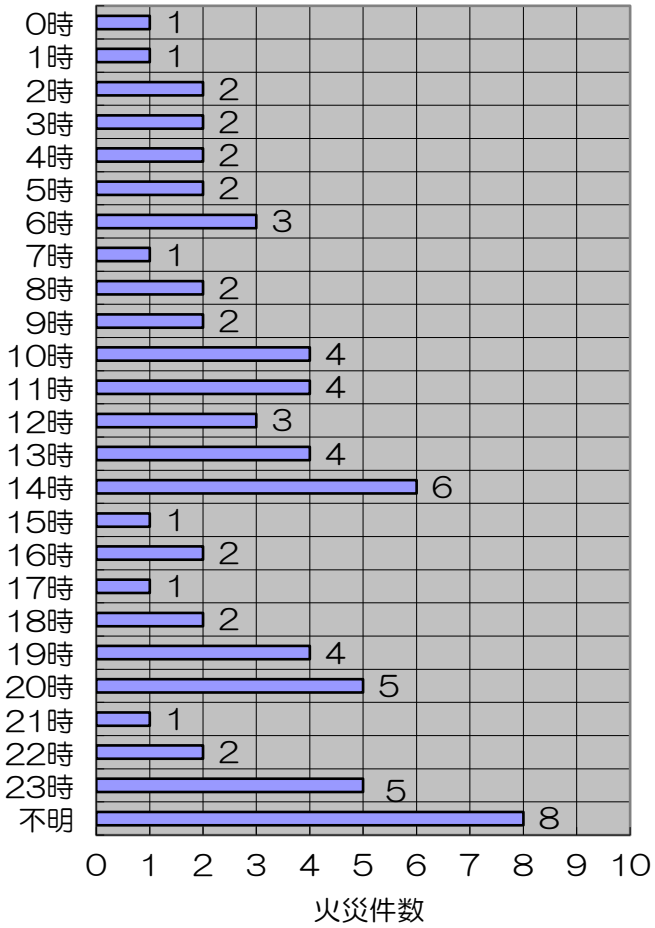


時間別及び季節別火災件数

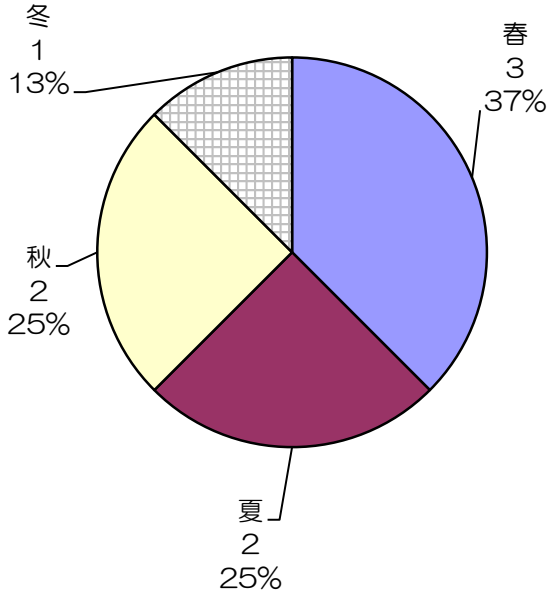
平成２５年 時間別火災件数



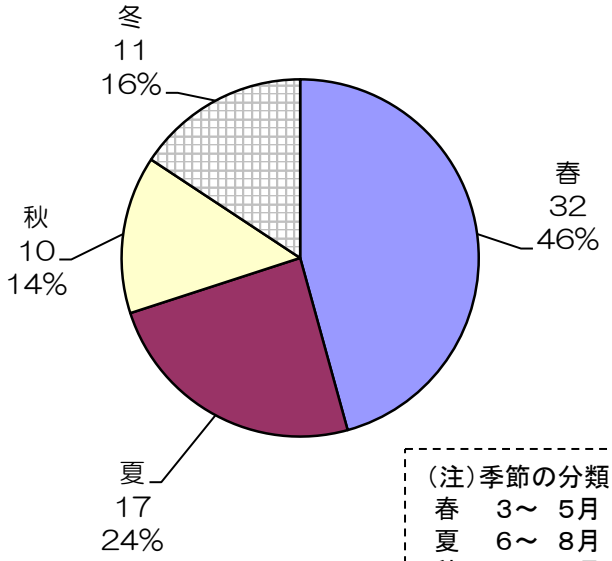
過去10年間 時間別火災件数



平成２５年　季節別火災件数



過去10年間 季節別火災件数



（注）季節の分類
春　3～ 5月
夏　6～ 8月
秋　9～11月
冬　12～ 2月

過去10年間出火原因別火災件数

年別 原因別	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	合計
たばこ	2					1					3
ストーブ				1	1		1	1			4
こんろ										2	2
火遊び		1					1	2		1	5
火入れ・たき火						2	1				3
放火の疑い	1						1				2
放火		1			2	2	1	2	1	1	10
煙突・煙道	2				1						3
風呂釜	1										1
マッチ・ライター											
取灰（すす含）	1										1
電灯・電話等の配線				1				1			2
電気機器									1	1	2
ガスの漏洩											
線香・ローソク							1		1		2
漏電	1									1	2
自動車構造不良											
鍋のかけ忘れ											
飛び火											
ガスバーナー				1			1				2
その他		2	1	2	1	2	1	1		2	12
不明・調査中	1	4	1	3	1	1		1	2		14
合計	9	8	2	8	6	8	8	8	5	8	70

過去１０年間の火災状況

区分 / 年	出火件数					焼損棟数					罹災		死傷者数		焼損面積			損害額（千円）			
	建物	林野	車両	その他	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計	世帯数	人員	死者	負傷者	建物床㎡	建物表㎡	林野a	建築物	収容物	林野車両その他	合計
平成16年	9				9	5		2	3	10	7	16	1	1	659			60,986	14,120		75,106
平成17年	5		2	1	8	3		1	1	5	4	12	2	3	303			4,113	2,372	544	7,029
平成18年	2				2	1		1		2	2	4			90	2		4,111	2,138		6,249
平成19年	8				8	4		2	3	9	4	4		1	466	2		17,927	1,025		18,952
平成20年	4		1	1	6	4		1	2	7	3	4		1	606	1		12,451	223	732	13,406
平成21年	2		2	4	8	2	1			3	1	2			102			1,184	373	267	1,824
平成22年	5		1	2	8	1		1	3	5	2	2			25			619	1,539	392	2,550
平成23年	7			1	8	3	3	1	2	9	7	15		2	422			23,460	38,384	162	62,006
平成24年	1			4	5				1	1	1	2		1					3	109	112
平成25年	5			3	8	2			5	7	2	2		1	52			230	383	843	1,456
合計	48		6	16	70	25	4	9	20	58	33	63	3	10	2,725	5		125,081	60,560	3,049	188,690

過去の主な火災

発生年	発生場所	業態	死者	負傷者	罹災人員	焼損面積(㎡)	損害額(千円)	発生原因
昭和３８年	赤平・住友地区	飲食店	2	2	22	247	10,000	石油ストーブ
〃	茂尻・平岸地区	共同住宅			116	1,662	16,141	煙突からの飛び火
〃	赤平・住友地区	共同住宅		2	307	4,899	36,309	煙突からの飛び火
〃	赤平・住友地区	遊技場	3		17	307	2,258	不明
昭和４０年	赤平・住友地区	共同住宅		1	43	601	12,013	火遊び
〃	茂尻・平岸地区	共同住宅		2	46	745	10,233	ガソリンの引火
〃	赤平・住友地区	共同住宅	1		27	337	6,402	ストーブの過熱
昭和４１年	赤平・住友地区	工場	1	2			800	石炭の自然発火
〃	文京・幌岡地区	公共施設		1		819	16,570	放火の疑い
〃	赤平・住友地区	工場		1		2,074	51,533	不明
昭和４２年	赤平・住友地区	共同住宅	2		27	337	4,141	たばこの不始末
昭和４４年	赤平・住友地区	共同住宅			43	1,240	18,240	不明
昭和４５年	茂尻・平岸地区	工場		1		1,435	16,844	不明
昭和５７年	文京・幌岡地区	住宅	1		1	31	1,092	石油ストーブ
昭和５８年	赤平・住友地区	住宅	1		1	46	3,343	石油ストーブ
〃	文京・幌岡地区	遊技場		2		943	27,774	サンダーの火花
〃	赤平・住友地区	共同住宅	1		4	41	2,918	子供の火遊び
昭和５９年	赤平・住友地区	衣料品店		1	12	461	57,163	不明
〃	茂尻・平岸地区	工場				108	8,907	薬品の混触
昭和６０年	茂尻・平岸地区	その他	1				0	放火
昭和６１年	赤平・住友地区	共同住宅		1		378	29,728	放火
〃	赤平・住友地区	共同住宅		2	3	１戸全壊	推定 3,500	LPG放出
〃	文京・幌岡地区	その他	1				6	放火
昭和６２年	文京・幌岡地区	工場				572	62,549	不明
〃	赤平・住友地区	共同住宅		5	17	５戸破損 42	4,075	LPG放出
平成１年	赤平・住友地区	工場				132	30,298	不明
平成２年	文京・幌岡地区	納屋				126	2,091	落雷
平成３年	赤平・住友地区	工場		2		347	13,922	漏洩したアセトンに引火
平成４年	茂尻・平岸地区	その他	1	1	1	130	5,102	放火
平成５年	赤平・住友地区	工場				2,344	903,844	繊維製品の自然発火
〃	赤平・住友地区	倉庫	1		4	172	21,807	たばこの不始末
平成６年	文京・幌岡地区	倉庫				1,130	9,304	不明
平成７年	文京・幌岡地区	工場		1		529	522,341	不明
平成８年	赤平・住友地区	住宅	1		1	55	3,287	不明
平成９年	赤平・住友地区	住宅	1	1	6	40	4,330	たばこの不始末
平成１６年	赤平・住友地区	飲食店				192	49,640	煙突・煙道
〃	文京・幌岡地区	共同住宅	1		1	46	7,694	たばこの不始末
平成１７年	文京・幌岡地区	共同住宅	1	1	6	60	1,000	不明
〃	茂尻・平岸地区	その他	1					不明
平成２３年	赤平・住友地区	婦人服小売業		1	8	202	45,699	ストーブ

（死者１名、負傷者５名、罹災人員３０名、焼損面積１，０００㎡、損害額３，０００万円以上、その他特異な原因によるものを登載）

消　防　活　動

出動状況

（1月～12月）

区分 / 出動種別		件数	出動人員 消防職員	出動人員 消防団員	出動人員 計	出動台数 消防本部署	出動台数 消防団	出動台数 計	放水車両	放水量 ㎥	ホース本数	使用水利数
火災	建物	2	35		35	9		9	1	12.0	21	
	車両											
	林野											
	その他	3	39		39	9		9	3	10.5	9	1
風水害		1	25		25	7		7				
救助活動		4	42		42	13		13				
応援		1	7		7	3		3				
捜索		3	34		34	10		10				
警戒												
誤報		1	10		10	2		2				
調査		14	29		29	16		16				
その他		25	82		82	33		33				
合計		54	303		303	102		102	4	22.5	30	1

月別出動状況

（単位：件）

月別 / 出動種別		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
火災	建物	1		1										2
	車両													
	林野													
	その他				1				2					3
風水害					1									1
救助活動				2	1		1							4
応援				1										1
捜索		1					1	1						3
警戒														
誤報											1			1
調査				1	2	3	1				5	2		14
その他		3	1	2		1	5	2	6		1	2	2	25
合計		5	1	7	5	4	8	3	8		7	4	2	54

過去5年間の出動状況

（1月～12月）

項目別／年別		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平均
出動件数		87	107	107	79	54	86.80
出動台数		143	190	189	122	102	149.20
出動人員	職員	387	574	500	333	303	419.40
	団員	64	41	153	0	0	51.60
出動件数	日平均	0.24	0.29	0.29	0.22	0.15	0.24
	月平均	7.25	8.92	8.92	6.58	4.50	7.23
月平均	出動台数	11.92	15.83	15.75	10.17	8.50	12.43
	出動人員	37.58	51.25	54.41	27.75	25.25	39.25

事故種別発生場所別救助出動状況

（1月～12月）

発生場所＼事故種別			火災 建物	火災 建物以外	交通事故	水難事故	自然災害事故	機械事故災害	建物事故災害	ガス・酸欠事故	爆発・破裂事故	その他	合計
屋内	住居											1	1
屋内	その他の屋内												
屋外	道路	高速自動車道											
屋外	道路	その他の道路											
屋外	水面	内水面				1							1
屋外	水面	外水面											
屋外	山岳											1	1
屋外	その他の屋外											1	1
地下													
その他													
要救助者数													
出動人員													
出動件数						1						3	4

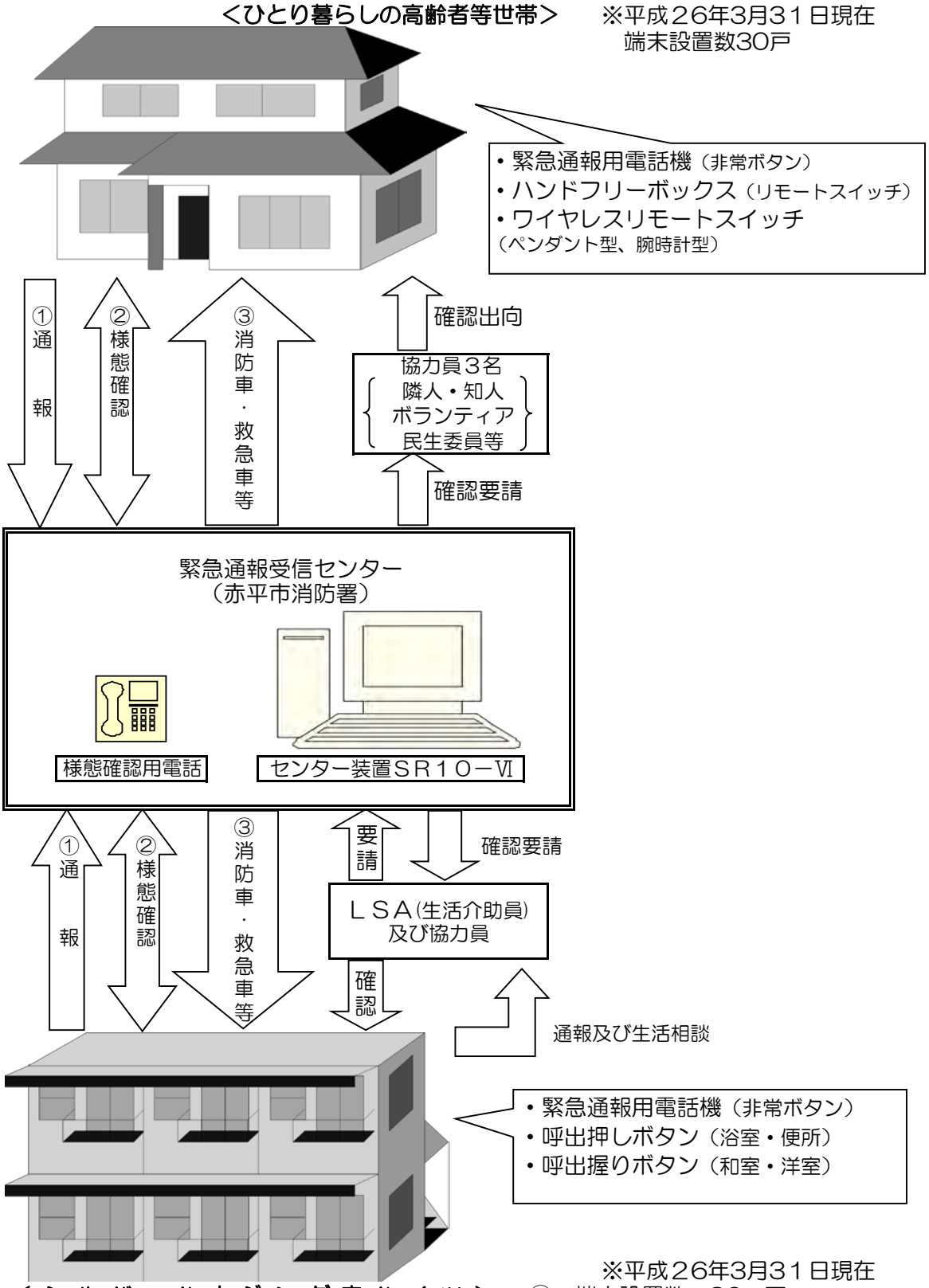
事故種別月別救助出動件数

（1月～12月）

月別＼事故種別	火災 建物	火災 建物以外	交通事故	水難事故	自然災害事故	機械事故災害	建物事故災害	ガス・酸欠事故	爆発・破裂事故	その他	要救助者数	出動人員	出動件数
1月													
2月													
3月										2	1	16	2
4月				1							1	11	1
5月													
6月										1	1	15	1
7月													
8月													
9月													
10月													
11月													
12月													
合計				1						3	3	42	4

赤平市家庭用緊急通報システム及びシルバーハウジング緊急通報概要図

①平成５年７月１日（財）北海道健康づくり財団へ受信業務を委託し、運用を開始
②平成１３年１０月１日受信センターを赤平市消防署内に設置し、運用を開始



※平成２６年3月３１日現在

＜シルバーハウジング幸ハイツ＞	①	端末設置数	36 戸
＜シルバーハウジング新光ハイツ＞	②	端末設置数	34 戸
＜シルバーハウジング日の出ハイツ＞	③	端末設置数	32 戸
＜シルバーハウジング青葉ハイツ＞	③	端末設置数	30 戸 合計132 台

①平成１４年１０月１日受信センターを赤平市消防署内に設置し、運用を開始
②平成１５年１０月１日受信センターを赤平市消防署内に設置し、運用を開始
③平成１８年３月受信センターを赤平市消防署内に設置し、運用を開始

家庭用緊急通報システム受信状況

（1月～12月）

種別＼月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
非常ボタン	1	1	1	2		1		1	1			1	9
ワイヤレス			1	1				2					4
リモート	2			1									3
熱センサー	1		1										2
煙センサー							1	5			1		7
ガスセンサー							1	4	1	1			7
その他	1				1	1		2			3		8
合計	5	1	3	4	1	2	2	14	2	1	4	1	40

家庭用緊急通報システム出動状況

（1月～12月）

区分＼月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
火災出動													
救急出動	2			2								1	5
その他出動	1							4			1		6
合計	3			2				4			1	1	11

シルバーハウジング緊急通報受信状況

（1月～12月）

種別＼月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
非常ボタン類	1	4	1	1	2	2	2	1	3	2	2	1	22
ワイヤレス	2	1	1		2	2				2	3	4	17
熱センサー													
水センサー	2	2	2		4	4	2	4	1	1		9	31
光センサー	8	4	7	13	2	5	6	4			1		50
その他				1									1
合計	13	11	11	15	10	13	10	9	4	5	6	14	121

シルバーハウジング緊急通報出動状況

（1月～12月）

区分＼月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
火災出動													
救急出動	2	4	1	1	1	2	3	1	2	1	1	5	24
その他出動					1	2							3
合計	2	4	1	1	2	4	3	1	2	1	1	5	27

救　急　統　計

事故種別月別救急出場件数

（1月～12月）

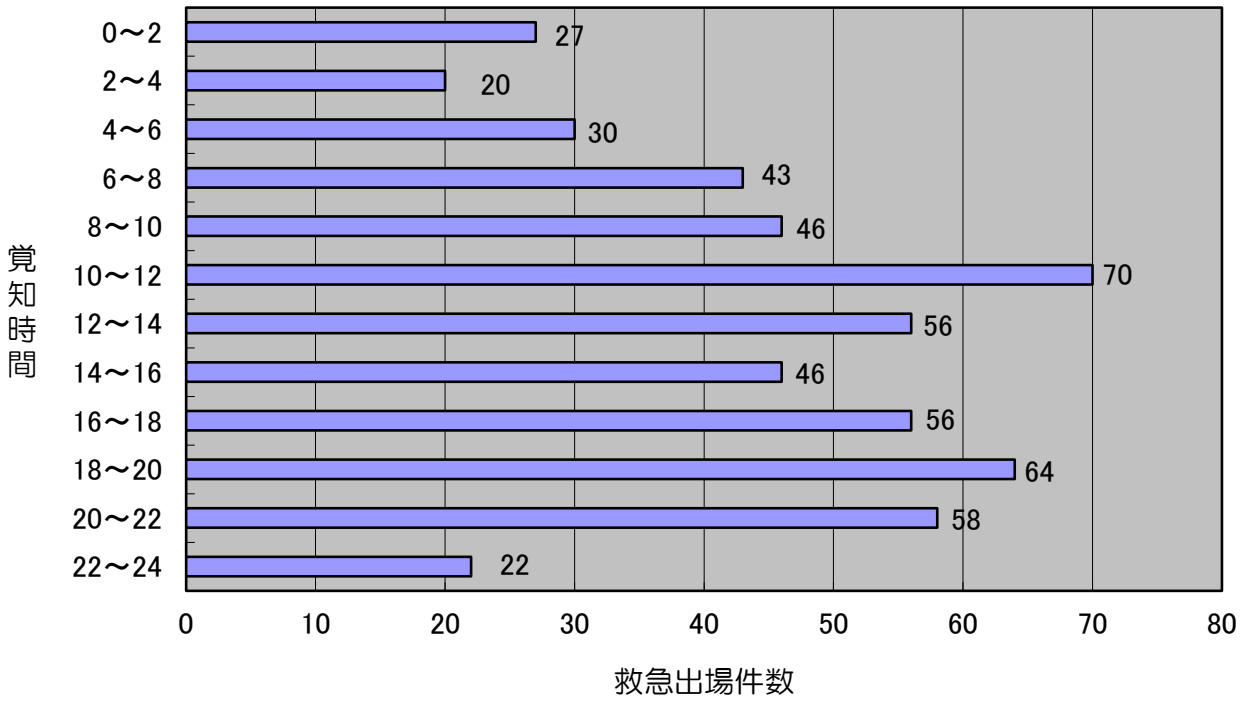
区分／月別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				出場件数	搬送人員数	不搬送件数
											転院搬送	医師搬送	資材搬送	その他			
1月					1		7	1		38	8			2	57	54	3
2月				1			7			39	4			4	55	50	5
3月				3			3		1	23	4			4	38	33	5
4月	1						3		1	27	3				35	35	
5月				2			6		2	17	6			1	34	31	3
6月				1			9			21	4			1	36	35	1
7月				1			11			30	6			2	50	48	2
8月				1	1		9			27	7			1	46	44	2
9月							10			30	3			1	44	43	1
10月				2			3			20	4			6	35	30	5
11月				2		1	6			30	4			1	44	44	1
12月				1	1		13	1	2	36	4			6	64	54	10
合計	1			14	3	1	87	2	6	338	57			29	538	501	38

管外搬送出場件数

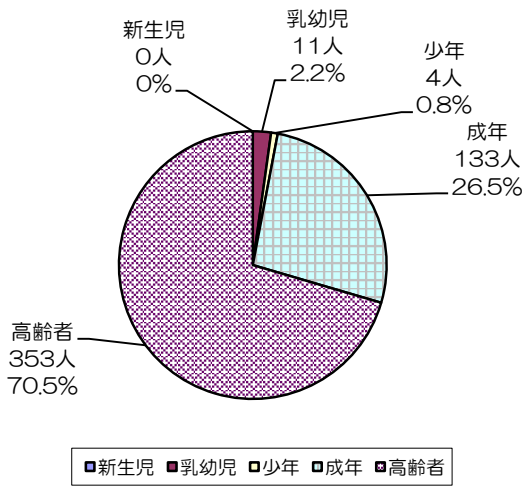
（1月～12月）

病院所在地		転院搬送	転　送	直接管外搬送	合　計
1	滝　川　市	16	1	26	43
2	砂　川　市	38	4	28	70
3	芦　別　市				
4	そ　の　他	1		1	2
合　計		55	5	55	115

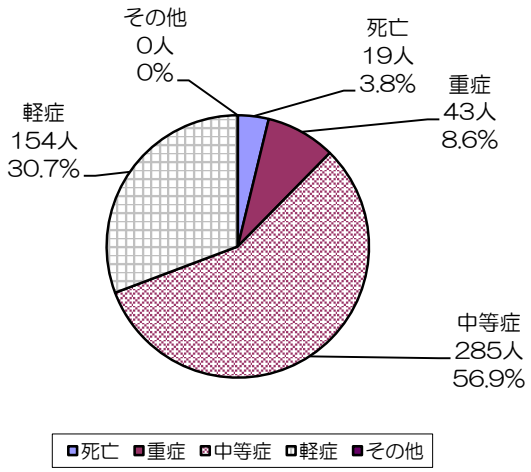
時間別救急出場件数



年齢区分別搬送人員数



傷病程度別搬送人員数



（注）　年齢区分の分類
新生児：生後28日未満
乳幼児：生後28日以上満7歳未満
少　年：満7歳以上満18歳未満
成　年：満18歳以上満65歳未満
高齢者：満65歳以上

（注）　傷病程度の分類
死　亡：初診時において死亡が確認
重　症：3週間以上入院加療を要するもの
中等症：重症又は軽症以外
軽　症：入院加療を必要としないもの
その他：医師の診断がない又は搬送先が
　　その他の場所へ搬送したもの

過去１０年間の救急出場件数

（１月～１２月）

区分／年別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				出場件数	搬送人員数	不搬送件数
											転院搬送	医師搬送	資材搬送	その他			
１６年	2	1		26	10	2	78	6	10	424	61	1		27	648	628	34
１７年	1		1	23	6		81	3	16	398	63			30	622	593	41
１８年			1	26	8	1	77	1	19	404	76			38	651	613	44
１９年				16	8	1	79	2	13	409	69			26	623	581	44
２０年	2			23	2	3	80	2	24	364	50			28	578	529	52
２１年				20	5	4	70	4	13	339	54			36	545	503	45
２２年				25	6	1	86	2	10	365	60	1		27	583	548	43
２３年	2			20	6		68	8	8	384	61			17	574	555	25
２４年			2	17	6		74	4	10	354	54			37	558	514	49
２５年	1			14	3	1	87	2	6	338	57			29	538	501	38

気　象　統　計

（参考記録）

平成２５年各別気象参考記録

（２４時間記録）

種別	月別	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	合計（平均）	最高 最低 最多
天候（午前９時）	晴(快晴含む)	12	11	14	8	10	13	17	12	14	15	6	9	141	17
	曇	15	9	9	15	15	14	12	14	9	11	16	13	152	16
	雨				6	6	3	2	5	7	5	4	2	40	7
	雪	4	8	8	1							4	7	32	8
風向・風速	最多風向	南東	南東	南東	南東	南東	南西	南西	南東	南東	南東	南東	南東		南東
	最大瞬間風速	17.4	17.8	18.3	24.5	14.3	12.1	11.1	14.6	16.1	14.1	17.4	13.1		24.5
	最大瞬間風向	南東	南東	南東	南東	南東	南南西	南西	南東	南東	南東	南東	南東		南東
	最大風速	6.0	7.5	8.5	10.1	5.8	5.9	5.0	6.4	7.0	5.8	8.1	6.1		10.1
	平均風速	1.9	2.3	2.5	2.4	2.0	1.9	1.8	1.6	1.8	2.1	1.8	1.8	2.0	
気温	最高気温	4.1	4.9	12.0	16.9	28.6	31.3	33.1	32.8	27.5	24.5	17.6	8.9		33.1
	最低気温	-19.3	-18.7	-17.1	-6.9	-1.1	7.5	13.5	11.3	2.1	0.1	-6.8	-13.9		-19.3
	平均気温	-8.3	-6.7	-2.1	4.3	10.4	17.8	22.0	22.0	16.5	10.6	3.4	-2.3	7.3	
	真冬日日数	28	23	7									10	68	
	真夏日日数						2	8	7					17	
湿度	最小実効湿度	82	86	80	74	75	75	79	82	85	83	84	85		74
	最小湿度	53	45	40	24	30	28	39	33	37	42	45	57		24
	平均湿度	89	87	85	82	84	85	85	90	90	88	90	93	87.3	
気圧	平均気圧	1007	1006	1002	1001	1005	1003	1002	998.6	1008	1011	1004	1002	1004.1	
降雪	降雪量	169	182	151	2							91	509	1,104	
	降雪日数	22	21	22	1							8	19	93	
積雪	最大積雪	75	84	105	68							20	96		105
降雨	降雨量	1.0	2.5	14.5	75.5	62.5	51.0	51.5	188.0	224.0	106.0	58.0	30.5	865.0	
	降雨日数	1	1	4	22	14	10	9	19	13	17	13	5	128	
降水量		25.5	40.5	79.0	80.5	62.5	51.0	51.5	188.0	224.0	106.0	121.5	173.5	1,203.5	

冬期間における降雪量

平成２４年１０月～平成２５年４月

項目	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	４月	合計
降雪量	0	106	312	169	182	151	2	922 cm

過去１０年間の気象参考記録

年別 / 種別	平成１６年	平成１７年	平成１８年	平成１９年	平成２０年	平成２１年	平成２２年	平成２３年	平成２４年	平成25年
最多風向	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	南東	南東	南東	南東
最大風速	9.0	14.0	8.3	8.2	7.6	7.0	9.0	8.4	11.0	10.1
平均風速	1.9	1.7	1.8	1.8	1.7	2.2	2.0	1.9	2.0	2.0
最高気温℃	33.0	32.0	34.0	36.0	33.0	33.0	34.3	33.4	33.7	33.1
最低気温℃	-19.0	-20.0	-18.0	-16.0	-22.0	-16.0	-16.4	-17.9	-19.3	-19.3
平均気温℃	7.7	6.9	7.4	7.9	7.8	7.7	8.0	7.4	7.4	7.3
最大湿度％	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
最小湿度％	23	29	19	24	27	17	19	17	17	24
平均湿度％	83	85	85	83	84	71	81	84	86	87
最小実効湿度％	66	60	65	68	64	65	60	67	69	74
降雨量㎜	664.0	627.0	789.0	731.5	607.5	829.0	1,059.0	1,212.0	961.5	865.0
降水量㎜	1,114.5	1,042.5	1,221.5	901.0	734.5	1,162.0	1,307.0	1,524.0	1,204.5	1,203.5
降雪量cm	1,121.0	1,357.0	1,524.0	1,244.0	1,078.0	1,051.0	1,149.0	1,496.0	1,021.0	1,104.0

※　降雪観測は１時間毎の観測。ただし、平成１６年のみ６時間毎の観測。

「もういいかい

火を消すまでは

まあだだよ」

平成２６年度「全国統一防火標語」

消太

全国消防イメージキャラクター「消太」は、より一層「親しまれる消防」をめざして、消防防災に係るさまざまな広報活動に使用することを目的に自治体消防制度６０周年を記念して作成した、消防共通のイメージキャラクターです。